

# 帝京平成の「知」 2026

## 帝京平成大学 研究シーズ集

医学	1
薬学	26
生物学・バイオテクノロジー	48
看護学	53
医療・リハビリテーション	60
健康・スポーツ科学	100
心理学	130
食品・生活科学	147
理工・情報・通信・メディア	155
教育学	163
人文科学	190
社会科学・環境学	197



帝京平成大学

## 研究シーズ集【帝京平成の知 2026】ご案内

本シーズ集には、本学に所属する教員・研究者の研究シーズを掲載しております。「医学」「薬学」をはじめとした医療系分野から、「教育学」を交えた人文社会系分野など、12種類のカテゴリーに分類して、幅広い分野の研究シーズを掲載しております。

研究シーズの各ページは、カテゴリーごとに、教員氏名の50音順に並べております。研究課題もしくは研究者をお探しの際には、冒頭の研究カテゴリーおよび研究課題名が掲載された目次、または巻末の教員氏名の索引をご活用ください。

本冊子に掲載されている教員情報は2026年4月1日時点での情報となります。  
最新版の研究シーズ集は下記 URL、または QR コードからご確認いただけます。

<https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/researchseeds>



帝京平成大学 産学官連携事業 お問い合わせ先

本学では、共同研究や受託研究、行政事業協力等、様々な産学官連携事業制度をご用意しております。ご提案いただいた内容に応じ、連携事業制度をご案内いたします。本学との産学官連携事業をご希望される場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

帝京平成大学 総務課 産学連携推進係（池袋キャンパス）

メールアドレス：tic-iac@thu.ac.jp

TEL：03-5843-3111

共同研究	受託研究	奨学寄附金
<b>【概要】</b> 研究経費及び研究者等を受け入れ、教職員が研究者と共通の課題について共同して行う研究	<b>【概要】</b> 外部からの委託を受けて業務として行う研究で、これに要する諸経費を委託者が負担する研究	<b>【概要】</b> 寄附申込書によって指定された研究者、学部・学科、研究科、講座等に対し、その研究目標達成のために寄附される研究資金
<b>【研究経費】</b> 本学との協議により決定	<b>【研究経費】</b> 本学との協議により決定	<b>【研究経費】</b> 寄附元のご判断による
<b>【税控除】</b> なし	<b>【税控除】</b> なし	<b>【税控除】</b> あり



## 建学の精神

実学の精神を基とし  
幅広い知識と  
専門分野における  
実践能力を身につけ  
創造力豊かな逞しい  
人間愛にあふれた  
人材を養成する

### 帝京平成大学基本理念

- ① 人文・社会科学と自然科学に均整のとれた教養教育を通して人間愛を培い、広聴心を涵養し、専門的能力を人類の幸福・福祉のために的確に適用できる健全な人格を養成する。
- ② 自立と不撓不屈の精神を養い、実学的に幅広く高度な専門知識と学際的な問題解決能力を備え、創造性に富む人材を育成する。
- ③ 専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する。

## 帝京平成大学キャンパス紹介

帝京平成大学は首都圏に三つのキャンパスを備えています。

<p>池袋キャンパス</p> 	健康メディカル学部	理学療法学科	
		作業療法学科	
		言語聴覚学科	
		心理学科	
		健康栄養学科	
		医療科学科	救急救命士コース 臨床工学コース スポーツサイエンスコース
<p>中野キャンパス</p> 	ヒューマンケア学部	鍼灸学科	
		柔道整復学科	
	共創学部	デジタル共創学科	
	臨床心理学研究科		
<p>千葉キャンパス</p> 	ヒューマンケア学部	看護学科	
	人文社会学部	人間文化学科	福祉コース
			メディア文化コース
			グローバルコミュニケーションコース
		経営学科	経営コース トレーナー・スポーツ経営コース 経営情報コース
	観光経営学科		
	教育学科	小学校・特別支援コース	
		保育・幼稚園コース	
健康医療スポーツ学部	リハビリテーション学科	作業療法コース	
		理学療法コース	
	柔道整復学科	トレーナー・柔道整復コース	
	医療スポーツ学科	救急救命士コース	
		トレーナー・スポーツコース	
アスリートコース			
	動物医療コース		
看護学科			
助産別科			
	<p>※千葉キャンパスは2027年4月より、ちはら台キャンパスに移転いたします。                  詳細は本学ホームページ（ちはら台キャンパス特設ページ）をご確認ください。                  （下記 URL もしくは右記 QR コードからご確認できます。）</p> <p>URL : <a href="#">帝京平成大学 ちはら台キャンパス特設ページ</a></p>		

# 目次

カテゴリー 所属 (下段: タイトル)

教員名 ページ数

## ■医学

薬学部 薬学科 IgEの架橋活性を指標とする新規アレルギー検査法の開発	秋山 晴代 …… 1
薬学部 薬学科 免疫チェックポイント阻害剤への応答性を予測するバイオマーカーの開発	雨宮 貴洋 …… 2
臨床心理学研究科 長期入院を生まない精神科病院への改革支援プラン	安西 信雄 …… 3
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 生理活性脂質の生体機能の解明	和泉 孝志 …… 4
健康メディカル学部 作業療学科 骨系難病の原因解明と治療法開発	江面 陽一 …… 5
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース レーザーをエネルギー源としたアクチュエータの開発	大森 繁 …… 6
健康メディカル学部 医療科学科 スーパー耐性菌を中心とした病原体の簡便迅速診断法の開発	斧 康雄 …… 7
健康メディカル学部 医療科学科 血液一滴を用いた宿主感染防御能の解析とバイオマーカーとしての臨床応用法の開発	斧 康雄 …… 8
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 足関節外側韌帯複合体の構造と制御機能の解明	掛川 晃 …… 9
薬学部 薬学科 唾液検体を用いた <i>In vitro</i> アレルギー試験法の確立	栗坂 知里 …… 10
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 認知症および軽度認知障害のスクリーニング技術の開発	後藤 哲史 …… 11
薬学部 薬学科 不安障害を発症させる小胞体アミノペプチダーゼの機能不全	後藤 芳邦 …… 12
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 人工呼吸器は自発呼吸にどこまで応えられるか〜呼吸シミュレータによる同調性能の可視化〜	柳田 真一 …… 13
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 成人用HFVの換気効率に関わる設定・デバイス要因の解析	柳田 真一 …… 14
臨床心理学研究科 精神障害者の就労支援	管 心 …… 15
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース 早期褥瘡の多循環障害説に基づく診断法の創出と診断デバイスの開発	番 炎 …… 16
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 環境負荷を低減する血液浄化・生体適合性と持続可能性の両立	東郷 好美 …… 17
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 体外式膜型人工肺における酸素化効率向上のためのカニューレの最適形状の解明	東郷 好美 …… 18
健康メディカル学部 言語聴覚学科 認知症患者の社会的遂行機能に関する神経心理学的研究	永井 知代子 …… 19
健康メディカル学部 医療科学科 スポーツサイエンスコース 腸内共生菌バランス失調による感染症とアレルギー反応の解析	永川 茂 …… 20
健康メディカル学部 医療科学科 スポーツサイエンスコース 肺炎マウスを用いた病態の解析	永川 茂 …… 21
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 救急救命士コース 救急現場における重症患者に対する末梢静脈路確保に関する研究	中村 秀明 …… 22
健康メディカル学部 健康栄養学科 低栄養診断の国際標準化 (GLIM基準の導入) に向けた筋量評価法の課題と展望	福島 亮治 …… 23
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 ひきこもりと地域共生: 持続可能な支援アプローチの探求	森川 由基 …… 24
薬学部 薬学科 NAD+ 消費酵素からアプローチしたマクロファージの機能解析	山本 伸一郎 …… 25

## ■薬学

薬学部 薬学科 消費者製品含有化学物質の健康リスク評価等に関する研究	伊佐間 和郎 …… 26
薬学部 薬学科 ナノマテリアルの安全性評価に関する研究	磯田 勝広 …… 27
薬学部 薬学科 飲み込みやすさを考慮した新規経口製剤の開発	伊東 育己 …… 28
薬学部 薬学科 グラム陰性菌に対する抗菌薬の感受性を高めるVHH抗体	大野 まき …… 29
薬学部 薬学科 唾液由来細胞外小胞の機能解析	小川 裕子 …… 30
薬学部 薬学科 地域包括ケアシステムにおける薬局の中間支援機能の解明と地域密着型支援モデルの構築 — 在宅医療・高齢者支援とヘルスケア製品活用視点から —	小原 道子 …… 31
薬学部 薬学科 医療と生活をつなぐ対話型コミュニティ「健康茶房」の実践研究 一産官学民連携による地域包括ケアモデルの構築—	小原 道子 …… 32
薬学部 薬学科 フェナントロピジン関連化合物の合成と活性評価	小松 俊哉・赤木 祐介・岩崎 絵理佳 …… 33
薬学部 薬学科 漢方医学の基礎理論に関する研究	鈴木 達彦 …… 34
薬学部 薬学科 ピフィズ菌をドラッグデリバリー担体に用いた固形がんに対する新規治療法の開発	平 裕一郎 …… 35
薬学部 薬学科 天然由来の抗老化物質の探索と評価	高松 智 …… 36

薬学部 薬学科	免疫応答性外来抗原を導入したがん細胞の活用	建部 卓也 …… 3 7
薬学部 薬学科	TRPチャネルの機能解析、阻害剤の探索・応用	戸田 雄大 …… 3 8
薬学部 薬学科	脂質性生理活性物質の産生機構に関する研究	中谷 良人 …… 3 9
薬学部 薬学科	肝細胞のストレス耐性因子としてのヘム合成・代謝系	中埜 貴文 …… 4 0
薬学部 薬学科	新たなオーラルケア戦略のための基礎検討	名取 威徳 …… 4 1
薬学部 薬学科	データ駆動型ミトコンドリアバイオロジーによる疾患制御および毒性評価の先見的技術創成	濱田 和真 …… 4 2
薬学部 薬学科	地域住民に対する薬育を推進するための研究	原田 美那 …… 4 3
健康メディカル学部 健康栄養学科	代替動物モデルを用いた植物精油の感染および炎症制御に関する研究	丸山 奈保 …… 4 4
薬学部 薬学科	生活習慣病に対する薬物療法と生活習慣の相互作用	山元 健太 …… 4 5
薬学部 薬学科	医療現場において発生する問題点に対する製剤学的研究	山本 佳久 …… 4 6
薬学部 薬学科	医薬品情報提供の制度と実態に関するレギュラトリーサイエンス研究	渡邊 伸一 …… 4 7
<b>■生物学・バイオテクノロジー</b>		
薬学部 薬学科	疾病関連遺伝の転写後制御機構の解明	青木 一真 …… 4 8
薬学部 薬学科	M1アミノペプチダーゼの酵素的特性と体内機能の解明	大西 敦 …… 4 9
薬学部 薬学科	中心体タンパク質が関わるプロテオスタシスの分子基盤の解明	金 憲誠 …… 5 0
健康メディカル学部 健康栄養学科	健康の維持増進に寄与する新規天然由来成分の探索	長谷川 和哉 …… 5 1
健康メディカル学部 健康栄養学科	化学物質の極微量曝露による生体恒常性への影響を調べる	藤本 哲也 …… 5 2
<b>■看護学</b>		
ヒューマンケア学部 看護学科	労働者の歯科口腔保健に着目した生活習慣病予防のための保健指導プログラムの開発	猪股 久美 …… 5 3
ヒューマンケア学部 看護学科	看護師のわざ	河合 桃代 …… 5 4
ヒューマンケア学部 看護学科	看護実践能力の向上に向けた技術習得のモデル化と教育プログラムの構築	河合 桃代 …… 5 5
ヒューマンケア学部 看護学科	小児がん経験者の復学後教育機関で生じる問題の明確化と支援プログラムの開発	下山 京子 …… 5 6
健康医療スポーツ学部 看護学科	新卒看護師を指導する実地指導者へのサポートプログラムの開発	田辺 幸子 …… 5 7
共創学部 デジタル共創学科	高齢患者への薬物療法に関する一般病院看護師の実践力と知識力を向上させるための教育プログラムの開発	照屋 健作 …… 5 8
健康医療スポーツ学部 看護学科	当事者の主観的QOLと安楽死に関する研究	吉澤 千登勢 …… 5 9
<b>■医療・リハビリテーション</b>		
健康メディカル学部 理学療法学科	ハイテクノロジーとリハビリテーションの融合の研究	飯田 修平 …… 6 0
健康メディカル学部 理学療法学科	障がい者における健康増進、二次的障害の予防における取組	泉 美帆子 …… 6 1
健康メディカル学部 言語聴覚学科	原発性進行性失語症患者への標準的な介入法のモデル化とタブレット端末を用いた長期支援	植田 恵 …… 6 2
健康メディカル学部 健康栄養学科	高齢者の健康とライフイベントに関する研究	岡田 亜紀子 …… 6 3
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科	高齢者のケアプログラム作成	小野澤 大輔 …… 6 4
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース	統合失調症に対するオンライン認知行動療法 (CBTp) の社会実装に向けて	勝嶋 雅之 …… 6 5
健康メディカル学部 理学療法学科	スポーツクライミング世界制覇に向け「心理学 (運動) 療法」の飽くなき追及へ	加藤 勝行 …… 6 6
健康メディカル学部 作業療法学科	作業分析に基づきペットケア負担を可視化する評価指標の開発	菊池 和美 …… 6 7
ヒューマンケア学部 鍼灸学科	鍼刺激が免疫応答を制御するメカニズム解明	小峰 昇一 …… 6 8
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース	大学生と地域住民の協働による地域連携実践とその教育的可能性	齊藤 一実 …… 6 9
健康メディカル学部 理学療法学科	フレイル予防で人生百歳まで元気	阪井 康友 …… 7 0
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科	軟性素材の固定について	佐々木 重昭 …… 7 1
健康メディカル学部 言語聴覚学科	鼻咽腔閉鎖機能不全を客観的に評価する幼児用の検査課題と重症度別指標の作成	佐藤 亜紀子 …… 7 2
ヒューマンケア学部 柔道整復学科	頸部機能に関する研究 (頸部回旋可動域測定装置)	佐藤 皓亮 …… 7 3

ヒューマンケア学部 柔道整復学科 立ち上がり動作時に足関節可動域が及ぼす影響	佐藤 裕二 …… 7 4
健康メディカル学部 言語聴覚学科 自閉症スペクトラム児の語りの発達と支援	重森 知奈 …… 7 5
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース 嗅覚の活性化を目的としたリハビリのアプローチの実践～意識して香りを嗅ぐ習慣化に向けて～	関 一彦 …… 7 6
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 パレーボールでおこる外傷のリハビリテーションと予防について	武田 真由子 …… 7 7
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 血流変化の解析	玉井 清志 …… 7 8
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 鍼刺激の抗ストレス効果における前頭前野神経基盤の検討 eNIRSと右偏指数を用いた神経科学的解析	玉井 秀明 …… 7 9
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 安全で有用な鍼灸施術の技法の構築に関する研究	恒松 美香子 …… 8 0
健康メディカル学部 理学療法学科 高齢化対応の各種座椅子に関する生体工学的研究	徳田 良英 …… 8 1
健康メディカル学部 理学療法学科 健康的で心身に負担の少ないデスクワークの方策とその普及に関する研究	徳田 良英 …… 8 2
健康メディカル学部 作業療法学科 高次脳機能障害の診断を受けている方の社会参加について	中本 久之 …… 8 3
健康メディカル学部 作業療法学科 上肢による物品の操作に関する研究	根本 悟子 …… 8 4
健康メディカル学部 言語聴覚学科 難聴児の言語発達と他者感情の推測能力の検討	野原 信 …… 8 5
健康メディカル学部 作業療法学科 精神科作業療法に従事する作業療法士のコンピテンシー	原口 晋一 …… 8 6
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 体幹機能に関する研究（座位体幹回旋可動域測定装置）	原口 力也 …… 8 7
健康メディカル学部 言語聴覚学科 認知予備力に関する研究～脳卒中症例の機能改善と認知予備力の関連に関する研究～	原田 円 …… 8 8
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 前頭前野の血流と機能を変調させる経頭蓋低周波鍼通電刺激	久島 達也 …… 8 9
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 肩こりや腰痛に対するトリガーポイント療法の可能性	皆川 陽一 …… 9 0
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 伝統医学（はり、あん摩マッサージ指圧）を活用したPresenteeism（プレゼンティーズム）対策に関する研究	宮崎 彰吾 …… 9 1
健康メディカル学部 理学療法学科 メンタルプラクティスおよびVR介入が柔軟性と脳活動に与える影響 — 臨床応用を見据えた基礎的検討 —	宮崎 学 …… 9 2
健康メディカル学部 理学療法学科 『運動器理学療法』の臨床疑問』を解剖研究で解決したい—『未固定凍結遺体（新鮮な遺体）を用いる生体工学研究』と『固定遺体を用いる解剖学的検討』	宮本 浩樹 …… 9 3
健康メディカル学部 理学療法学科 日本人とタイ人の解剖学的破格の比較調査：3大学国際共同研究	宮本 浩樹 …… 9 4
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 学習障害（聴覚障害や識字障害）を有する学生に対する柔道整復学教育の学習効果向上、国家試験合格率向上を目指して	安田 秀喜 …… 9 5
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース 精神障がい者を対象とした競技性スポーツの実施・普及に関する研究	鶴田 英樹 …… 9 6
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 柔道整復師の史的研究（近・現代）	湯浅 有希子 …… 9 7
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース 人間生活工学的視点から作業療法に切り込むヒトとモノとの関係性から～	吉野 智佳子 …… 9 8
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 精神や睡眠に有効なセルフケアの検討	脇 英彰 …… 9 9

■健康・スポーツ科学

ヒューマンケア学部 鍼灸学科 運動実践やセルフケアを継続するサイトレス指導システムの基盤構築	池宗 佐知子 …… 10 0
健康メディカル学部 医療科学科 スポーツサイエンスコース 野球の投能力向上と上肢投球障害予防に関する研究	伊藤 博一 …… 10 1
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース アスリートの身体計測値およびソマトタイプを用いた体型評価	岩澤 茉莉子 …… 10 2
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース 増量を目的としたスポーツ栄養マネジメントの検討	岩澤 茉莉子 …… 10 3
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 ダンスの動作解析	大内 佳奈江 …… 10 4
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 運動直後の血液検査による発症性筋痛(DOMS)レベルの早期予測	大園 貴三 …… 10 5
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 運動と健康の関わり	片桐 亮 …… 10 6
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース モルックを通じたこころからの健康プログラムに関する研究	勝嶋 雅之 …… 10 7
人文社会学部 経営学科 経営コース 身体形態および機能の発育発達と加齢変化	加藤 浩人 …… 10 8
健康メディカル学部 作業療法学科 学生主体の発想で拓く世代間交流型の地域支援活動	菊池 和美 …… 10 9
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース 若年競技者のコンディショニングに関する研究	齊藤 訓英 …… 11 0
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 理学療法コース 高齢者のこころの健康に関する社会疫学研究	佐藤 正司 …… 11 1

健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 理学療法コース 地域課題解決に向けた「総合型地域スポーツクラブ」の可能性	佐藤 正司 …… 1 1 2
健康メディカル学部 医療科学科 スポーツサイエンスコース 伸張性収縮（エキセントリック）運動によるジャンプパフォーマンスならびに骨格筋機能・形態の応答と適応に関する研究	清水 貴司 …… 1 1 3
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース アスリートのストレス対処力についての研究	園部 豊 …… 1 1 4
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 理学療法コース 野球肘からの段階的復帰プログラムの開発	田中 直樹 …… 1 1 5
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース 仮眠が日中のパフォーマンスおよび生体リズムに及ぼす影響	田邊 弘祐 …… 1 1 6
ヒューマンケア学部 鍼灸学科 脳科学に基づくストレス対処法のセルフモニタリングシステムの開発	玉井 秀明 …… 1 1 7
健康メディカル学部 理学療法学科 地域在住高齢者の介護予防に関する研究—ジェンダーの視点を踏まえた取り組み—	知脇 希 …… 1 1 8
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース 聴覚障がい者に対するスポーツ医科学支援	津賀 裕喜 …… 1 1 9
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 理学療法コース 足の痛みに妨げられないSuccessful Agingを目指して —Disabling Foot Pain予防を実践する—	仲 貴子 …… 1 2 0
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース アスレティックトレーナー教育に関する研究	西山 朋 …… 1 2 1
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 運動療法による健康の維持・増進と高齢者の生きがいづくり	野上 順子 …… 1 2 2
健康メディカル学部 健康栄養学科 脱水による急性腎障害発症機序の解明と新規リカバリ飲料の開発	長谷川 和哉 …… 1 2 3
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース スポーツ指導者の資格と制度の分析に関する研究	馬場 宏輝 …… 1 2 4
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース 安全なスポーツ環境の構築に向けた調査研究	原田 長 …… 1 2 5
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース 足圧分布を活用した基本動作等の評価方法の構築	眞瀬垣 啓 …… 1 2 6
健康メディカル学部 理学療法学科 月経周期におけるリコンディショニングを目的としたストレッチング法の開発	宮崎 学 …… 1 2 7
共創学部 デジタル共創学科 データ駆動型の競技力向上と健康増進の施策設計	吉岡 剛志 …… 1 2 8
健康メディカル学部 理学療法学科 成長期野球選手のスポーツ障害予防	吉本 真純 …… 1 2 9

## ■心理学

臨床心理学研究科 発達障害当事者の大学適応に関する研究	江口 聡 …… 1 3 0
臨床心理学研究科 感情体験過程に関する研究	大久保 智紗 …… 1 3 1
健康メディカル学部 心理学科 映像コンテンツを快適に利用し続けるために	川島 尊之 …… 1 3 2
健康メディカル学部 心理学科 ひとの感情を予測する	川島 尊之 …… 1 3 3
臨床心理センター 認識論的信頼を基盤とした対人援助職業養成教育の効果研究	久野 晶子 …… 1 3 4
健康メディカル学部 心理学科 認知行動療法／マインドフルネスの諸技法の効果に関する研究	島津 直実 …… 1 3 5
健康メディカル学部 心理学科 多様な性を生きたる人々への発達の観点からの支援	荘島 幸子 …… 1 3 6
臨床心理学研究科 保育士養成 主任保育士によるサポート	杉浦 貴代子 …… 1 3 7
健康メディカル学部 心理学科 学校におけるスクールカウンセラーの有効な活用に関する研究	鈴木 明美 …… 1 3 8
健康メディカル学部 心理学科 女性の就業継続および職業的キャリア構築に関する研究	瀬戸山 聡子 …… 1 3 9
健康メディカル学部 心理学科 大学生および若者の職業的キャリア構築に関する研究	瀬戸山 聡子 …… 1 4 0
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 保育現場における保育者と心理臨床家の連携について	土永 葉子 …… 1 4 1
健康メディカル学部 心理学科 傍観行動の低減からいじめ防止を目指す心理教育的プログラムの開発と効果検証	中村 玲子 …… 1 4 2
臨床心理学研究科 再休職を防ぐための「ライフ・キャリア」の視点を取り入れたリワークプログラムの策定	馬場 洋介 …… 1 4 3
健康メディカル学部 心理学科 学校危機における緊急支援の支援者のための研修プログラム	松浦 正一 …… 1 4 4
健康メディカル学部 心理学科 心理支援職のキャリア形成	百瀬 良 …… 1 4 5
臨床心理学研究科 メール相談による心理支援	谷田 征子 …… 1 4 6

## ■食品・生活科学

健康メディカル学部 健康栄養学科 若年女性の月経周期に関する研究	近藤 渚 …… 1 4 7
健康メディカル学部 健康栄養学科 ICT技術を活用した栄養管理システムの構築	高橋 寛子 …… 1 4 8
健康メディカル学部 健康栄養学科 調理技術の向上を目指すための動画教材の活用	手島 陽子 …… 1 4 9

健康メディカル学部 健康栄養学科 尿中ナトリウム比 (Na/K)、推定Na摂取量、推定K摂取量を用いた減塩に関する研究	野口 律奈 …… 150
健康メディカル学部 健康栄養学科 給食施設における適切な栄養管理を目的とした食事の品質評価	野原 健吾 …… 151
健康メディカル学部 健康栄養学科 ハーブサプリメントの安全性	端田 寛子 …… 152
健康メディカル学部 健康栄養学科 ノンターゲットVOCオミクスによる食品分野・医療分野におけるVOC代謝物のプロファイル解明と新規化合物探索	前田 竜郎 …… 153
健康メディカル学部 健康栄養学科 癌化学療法と栄養	牟田 真理子 …… 154

■理工・情報・通信・メディア

共創学部 デジタル共創学部 デジタルコンテンツ間の多様な関係を可視化するMoSaIC (Museum of Shared and Interactive Cataloguing)の研究開発	石川 専代 …… 155
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース カーボンナノチューブによる抗酸化物質 (ポリフェノールなど) の還元反応のその場・高速検出	伊藤 雅浩 …… 156
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 二周波駆動液品を用いた調光素子の白濁時間の短縮化	伊藤 雅浩 …… 157
共創学部 デジタル共創学部 劣化のある画像の認識に関する研究	遠藤 和紀 …… 158
健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース ミリ波レダによるヒューマンセンシングに関する基礎的研究	鈴木 昭浩 …… 159
人文社会学部 経営学科 経営コース 民間放送局におけるCM・番組考査業務と広告倫理に関する研究	鈴木 克実 …… 160
人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 産学連携によるSDGsサービスUXデザイン	山本 暢 …… 161
人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 産学連携によるイベント企画制作 (温泉施設×プロジェクトマッピング)	山本 暢 …… 162

■教育学

人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 関東地方の保育士養成校における学生の自己肯定感の向上をめざす実習の取り組みと課題に関する研究	浅見 優哉 …… 163
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 子どもの発達に合わせた安全教育・防災教育の開発	植田 真理子 …… 164
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 環境整備によるQOLの向上に関する研究	牛込 彰彦 …… 165
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 価値ある学校経営の推進における「生徒・進路指導」の役割	榎並 隆博 …… 166
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 架け橋期の子どもの切れ目のない発達支援をおこなう保育者・教員の職能成長に係る実証的研究	川越 孝洋 …… 167
健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース 学校組織・学校文化に関する研究	楠田 進 …… 168
健康メディカル学部 言語聴覚学科 聴覚障がい者・盲ろう者のWell-being (健康で幸福な生活) と補聴 (聴覚活用) の意義、コミュニケーション支援のあり方についての研究	黒田 生子 …… 169
人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース 学校現場から再構築するLGBTQ+教育～理論と実践をつなぐ実証的研究～	郡 吉範 …… 170
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 子供の「生きる力」獲得・向上のための教師力の獲得・向上	佐瀬 一生 …… 171
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 地域学の視点を生かした学校教育・生涯学習	佐瀬 一生 …… 172
健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 適切なワークライフバランスと教育効果を実現できる学校教育の展開	佐瀬 一生 …… 173
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 認知発達の特性が要因となる学びの困難に対する就学後早期段階における予防的アプローチ	佐藤 かほり …… 174
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース インクルーシブ教育の中で視覚障害教育を効果的に進めるための研究	左振 恵子 …… 175
健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コース ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業の実践的研究	庄司 一也 …… 176
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 小学校音楽でのよこ笛導入の社会実装モデル 一器楽教育の多様化と地域文化継承の両立	新保 江美 …… 177
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース レクリエーションの教育・保育・福祉での活用	鈴木 邦明 …… 178
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 聴覚障害教育の専門性向上に向けた教員養成の在り方	鶴田 敦司 …… 179
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 発達障害児への実態把握にもとづく効果的支援研究	鶴田 敦司 …… 180
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 「一次的ことば」から「二次のことば」への円滑な接続～言語環境を中心としたスタートカリキュラムの作成を通して～	寺岡 聡志 …… 181
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 国語教育における主体性の育成に関する一考察	寺岡 聡志 …… 182
ヒューマンケア学部 柔道整復学科 対話力 (話し合う力) が身につく授業	冨田 晴生 …… 183
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース パネルシアターに関する研究	松田 聖子 …… 184
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 保育者養成校における実務家教員の担い役割	松田 聖子 …… 185
人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース AI時代の遊びと学び～遊戯性に着目した幼児教育におけるデジタルとの適切な出会いの在り方～	村山 大樹 …… 186

健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 トレーナー・スポーツコース 生成AIや仮想空間を活用した道徳科授業の開発	矢作 信行 ……187
人文社会学部 経営学科 経営コース 中国総合実践活動におけるコンピテンシー育成	元 笑子 ……188
人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 初等教育における異文化理解の学習方法	吉藤 玲子 ……189

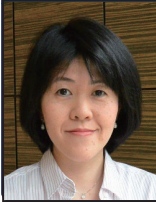
■人文科学

人文社会学部 人間文化学科 グローバルコミュニケーションコース 日本留学経験が現在の職務に与える影響	黄 美蘭 ……190
人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 学外連携広報啓発活動「地域安全安心プロジェクト」	鷲山 啓輔 ……191
人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 短編映画『芋穴のささやき』“Whispering of the Natural Refrigeration Hole”	鷲山 啓輔 ……192
人文社会学部 経営学科 経営コース タイにおけるイスラームの複雑性と共生	柴山 信二郎 ……193
人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 公益財団法人委託 「芸術劇場 アーツプロジェクト」	新井田 宇謙 ……194
ヒューマンケア学部 看護学科 地域医療の視点からみた明治期の近代医療システム構築過程の解明	松村 紀明 ……195
人文社会学部 経営学科 経営コース 住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルの検討	間部 豊 ……196

■社会科学・環境学

人文社会学部 経営学科 経営コース 大学の教育力の計測と比較分析に関する研究	阿部 廉 ……197
人文社会学部 経営学科 経営コース 地域金融機関経営における効率性と公共性に関する研究	阿部 廉 ……198
人文社会学部 経営学科 経営コース ソフトデータとハードデータの相互関係から見た景気実態の構造的理解の研究	阿部 廉 ……199
人文社会学部 経営学科 経営コース 阿部 廉ゼミ有志チーム(森山颯太〔受賞時4年生〕・山本渉太〔受賞時3年生〕)「第21回 日銀グランプリ」優秀賞 (準優勝)・「審査委員長賞」受賞	阿部 廉 ……200
共創学部 デジタル共創学科 IT投資評価/IT統制について	磯部 大 ……201
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース NIPTを受けた妊婦に対するソーシャルワークの必要性	井上 美和 ……202
人文社会学部 経営学科 経営コース スタートアップなどの創造事業の成功確率を高めるためのプロジェクトマネジメント研究	植村 眞司 ……203
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 犯罪被害者等支援のための多機関連携に関する調査	大塚 淳子 ……204
人文社会学部 人間文化学科 グローバルコミュニケーションコース 経営倫理と技術者倫理の統合教育プログラムの構築	岡部 幸徳 ……205
人文社会学部 観光経営学科 レジリエントな空間と観光：世界遺産エリアの防災計画	狩野 朋子 ……206
人文社会学部 観光経営学科 場所の固有性に関する研究	狩野 朋子 ……207
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 長期入院精神障害者の退院支援におけるソーシャルワーカーの「かかわり」	園重 智宏 ……208
人文社会学部 観光経営学科 航空運輸産業視点からの戦後アメリカ占領政策の考察	栗山 俊久 ……209
人文社会学部 観光経営学科 航空産業史からみた公共政策	栗山 俊久 ……210
人文社会学部 経営学科 経営コース 日本のCFO(最高財務責任者)による企業価値向上への貢献	小林 俊之 ……211
人文社会学部 経営学科 経営コース 地球温暖化ともなう急激な山岳雪氷環境の変化の把握	小森 次郎 ……212
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 児童虐待死亡事例の裁判記録から子どものアドボカシーを考える	齋藤 知子 ……213
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 児童虐待に関わる専門職の人材育成について	齋藤 知子 ……214
人文社会学部 経営学科 経営コース 国内スキー産業における技術革新と発展の歴史	鈴木 克実 ……215
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 子どもの権利擁護とソーシャルワーク	田澤 茂之 ……216
人文社会学部 観光経営学科 SNS普及による準拠集団影響での「共感型顕示的消費」としての海外旅行購買	田中 剛 ……217
共創学部 デジタル共創学科 歴史的建造物・近代産業遺産のデジタルアーカイブに関する研究、製品イノベーションに関する研究、地域ブランディング・地域プロモーションに関する研究	内藤 旭憲 ……218
人文社会学部 人間文化学科 グローバルコミュニケーションコース 「エンパワーメント」と就業との関係の要因分析	新村 恵美 ……219
人文社会学部 経営学科 経営コース 日本のコーポレートガバナンス改革の企業不正発覚促進効果の検証	橋本 武敏 ……220
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 障害者の学習権保障	村山 佳代 ……221
人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 障害者就労支援の課題共有のための就労移行支援事業の役割の検討	森川 洋 ……222
共創学部 デジタル共創学科 無形固定資産の高精度評価に向けた人工知能技術の応用	吉岡 剛志 ……223

# IgE の架橋活性を指標とする新規アレルギー検査法の開発



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

秋山 晴代 Akiyama Haruyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](http://www.teikyo-u.ac.jp/~aikiyama/)

キーワード : マスト細胞・アレルギー診断・アレルギー特異的 IgE・

高親和性 IgE 受容体・EXiLE 法

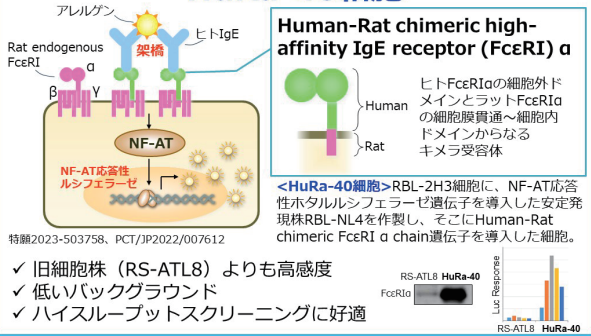


SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

臨床で広く用いられている血清中抗原特異的 IgE 測定は、IgE と抗原の「結合」のみを評価する検査であり、実際の症状と一致しない擬陽性が生じることがあります。こうした課題を克服するため、生体内反応をより反映した機能的アレルギー評価法が求められてきました。私たちが開発してきた IgE crosslinking-induced luciferase expression (EXiLE) 法は、抗原と IgE の結合だけでなく、IgE の架橋によるマスト細胞活性化を指標とする点を特徴としています。ヒト高親和性 IgE 受容体 (FcεRI) を発現させた培養マスト細胞株 (RS-ATL8 細胞) を患者血清中の IgE で感作し、抗原刺激による細胞活性化をルシフェラーゼアッセイにより高感度に検出します。さらに EXiLE 法の高感度化を目的として、ヒト-ラットキメラ FcεRIα を発現する新規培養マスト細胞株 HuRa-40 を構築しました(特許第 7587745 号、*J Immunol Methods*, 2024)。HuRa-40 細胞ではヒト FcεRIα 鎖の発現が大幅に増強されており、抗原特異的応答は RS-ATL8 細胞と比較して約 10 倍に増強されました。この高感度化により、微弱な IgE 機能活性の検出や、広いダイナミックレンジでの定量評価が可能となっています。また、本法を用いることで、抗 IgE 抗体であるオマリズマブによる IgE 中和活性を機能的に評価できることが示されており、抗アレルギー薬の作用機序解析や薬効評価への応用も期待されます。加えて、HuRa-40 細胞を用いた臨床応用例も既に報告されています(*J Immunotoxicol*, 2024, *Antibodies*, 2025)。高い再現性と感度を兼ね備えた EXiLE 法は、従来のアレルギー検査を補完・高度化するのみならず、抗アレルギー薬のハイスループットスクリーニングや創薬研究の基盤技術としての展開も期待される革新的なアレルギー評価プラットフォームです。

## EXiLE 検査用の新規レポーター細胞株 HuRa-40 細胞



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

HuRa-40 細胞を用いた EXiLE 法は、血清中 IgE の架橋活性を指標としてアレルギー反応を機能的に評価できる高感度検査技術です。従来の細胞株と比べ、高い再現性と広いダイナミックレンジを有し、微弱な IgE 機能活性の検出も可能です。アレルギー評価のみならず、創薬研究や薬効評価への応用が期待されています。共同研究や商用利用を見据えた技術検証・評価系構築について柔軟に対応可能です。

【応用例】 ●抗アレルギー薬・抗 IgE 関連製剤の薬効評価および作用機序解析、●候補化合物のハイスループットスクリーニング、●血清 IgE の二次スクリーニング (生物学的意義評価、IgE 中和活性・交差反応性の検証) 等

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【特許】第 7587745 号、国際出願番号 : PCT/JP2022/007612 【JSPS 科研費】(課題番号 20K08782, 23K07896)

「キメラ FcεRIα 鎖遺伝子、キメラ FcεRIα 鎖タンパク質、細胞、分析用キット、及び分析方法」

# 免疫チェックポイント阻害剤への応答性を予測するバイオマーカーの開発



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授  
**雨宮 貴洋 Amemiya Takahiro**

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

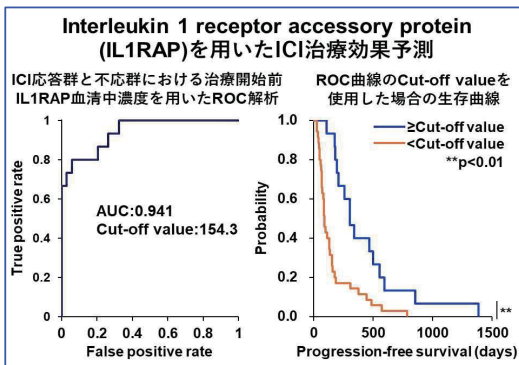
キーワード : 癌・免疫チェックポイント阻害剤・治療応答性・バイオマーカー・個別化医療



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) は抗癌薬療法の中心的な柱となりつつあるが、ICI の使用実績が蓄積するにつれて、ICI 治療応答性は個人差が大きいことが明らかとなってきた。臨床現場においては、治療開始後の ICI 治療応答性と相関する腫瘍側の予測因子として、腫瘍構成細胞の Programmed cell death ligand 1 (PD-L1) 陽性率や Microsatellite instability (MSI) high の有無が使用されているが、これら既知の予測因子を用いて患者選別をおこなっていても、なお半数程度の患者は ICI 不応であるという現状がある。ICI は腫瘍に対する免疫応答を増強させることで腫瘍増殖を抑制するため、ICI 応答性は PD-L1 陽性率に代表される腫瘍組織の状態のみならず、宿主である患者の免疫状態にも影響を受けるであろうことが想定されるが、宿主の免疫能を反映する予測指標は未だ確立されていない。本研究で見出された Interleukin-1 (IL-1)  $\beta$  経路関連因子群の血清中濃度を組み合わせた指標は、宿主の免疫能を反映する可能性のあるバイオマーカー候補として、PD-L1 陽性率などの腫瘍評価因子と組み合わせることで、ICI 治療効果予測の精度をより高めることに繋がると期待される。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、医師が ICI による治療の開始を検討している患者に関して、使用の可否を判断する際のサポートとなる情報を提供する。また、ICI による治療を実施中の患者に関して、医師が治療継続の可否を判断する際のサポートとなる情報を提供する。これらの情報を提供することで、ICI による治療の奏効率は大きく向上し、また治療抵抗性の患者に関しては有効性の期待できる他の治療薬を早期に開始できるようになるため、抗癌薬療法の治療成績向上に全体的に貢献するものと期待できる。さらに、採血のみの比較的軽微な侵襲で検査が可能のため、治療を開始した後に薬剤投与コース毎に測定をおこなうことも可能である。加えて、ELISA あるいはそれに類似した免疫学的手法で測定が可能であり、汎用されている臨床検査機器で自動測定をおこなうためのキットとして製品化できる。そのため、測定の省力化および測定コスト、測定時間の点でも既存技術に比べて有利である。

本研究では、ICI の投与をおこなう際に事前に使用する体外診断薬としての実用化を目指している。ICI が適応となる癌種は広範囲であり、対象とする癌種の幅を広げるため、様々な医療施設と連携して本研究のパリテーション実施を希望している。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【知的財産】・(PCT/JP2022/031229)免疫チェックポイント阻害剤に対する応答性の予測用バイオマーカー

【科研費】・(若手研究 19K16945)免疫チェックポイント阻害剤に対する治療応答性予測バイオマーカーの確立

・(基盤研究(C) 21K07360)免疫チェックポイント阻害剤に対する治療応答性を規定する分子機構の解明

# 長期在院を生まない精神科病院への改革支援プラン



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 教授

安西 信雄 Anzai Nobuo

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 精神障害・長期在院・退院支援・地域生活支援・好事例要因



SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

厚生労働省は「入院医療中心から地域生活支援中心」への転換を謳っているが、精神病床入院患者約28万人のうち1年以上の患者が約2/3を占める状況が続いている。入院患者数を確保しないと病院経営が成り立たないという考えもあるが、山梨県立北病院のように1年以上の在院患者を174人から100人減らし、300床から200床にダウンサイジングして、高単価の救急入院料を取得して経営を安定させた病院もある。図1(宮田量治:3. 県立北病院の退院促進:10年間の結果報告。山梨県立北病院60周年記念誌。pp.82-97, 2015)は当時の藤井康男院長によるベッド利用の考え方である。下段では1ベッドを6人の患者が使って単価が高くなった。

筆者らは厚生労働科学研究費により、在院長期化を防ぎ退院支援がうまくいっている「好事例」病院ではどのような治療を行っているかを調査した。全国の民間および国公立の315病院に調査票を送り協力を依頼し、52病院(16.5%)から回答を得た。図2のように精神病床回転率は好事例病院では1.5以上の病院が多かった。

好事例病院の70~80%で実施されていた「好事例要因」

1. 病院としての組織的な退院支援: ①医療の高度化(クロザピンやmECT導入など)と退院促進の目標、②患者の意向確認や意欲喚起、③退院会議など。
2. 第二世代抗精神病薬の単剤治療と持続性注射製剤(LAI)、効果判定・改善しない場合の対応手順の明確化。
3. クロザピンで薬物治療抵抗性に対応
4. 心理社会的治療: 「医師による定期的な個人面接」、作業療法やSST、心理教育で対人技能の向上など。
5. チームによる危機管理と地域ケア: ①地域支援者との顔の見える関係づくりと情報共有、②クライシスプランに基づく支援など。

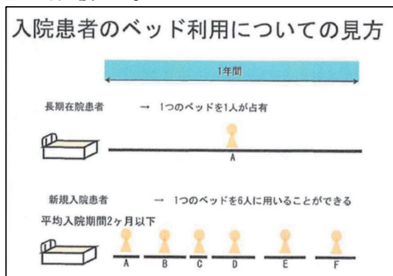


図1 入院患者のベッド利用についての見方

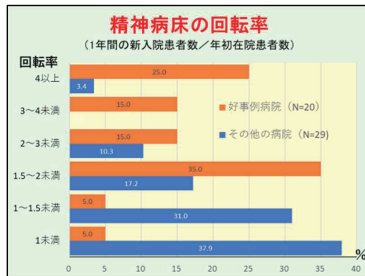


図2 精神病床の回転率

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

好事例要因の実践により、長期在院を生まない・長期在院患者も退院できる入院治療に近づくことができ、地域に必要とされ、患者に選ばれる精神科病院に改革していく目安を得ることができる。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

【科研費】(障害者政策総合研究事業)

「重度かつ慢性の精神障害者に対する包括的支援に関する政策研究—関連研究班の統括・調整研究班」

【論文】「重度かつ慢性」患者への包括支援実践ガイド

# 生理活性脂質の生体機能の解明



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授

和泉 孝志 Izumi Takashi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 生理活性脂質・代謝酵素・受容体・シグナル伝達



医学

## 研究の概要

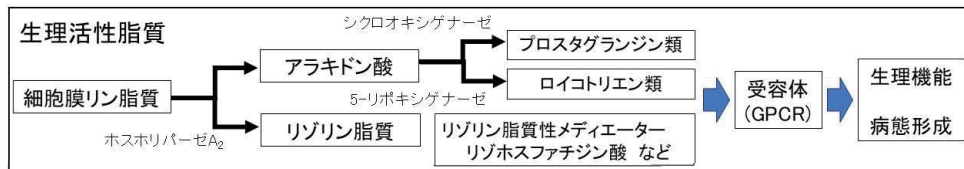
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

**生理活性脂質**は生体内で様々な重要な役割を果たしています。細胞膜の主成分であるリン脂質は膜の流動性や細胞の形状・機能を維持していますが、刺激に応じて分解され、様々な生理活性脂質の産生に繋がります。

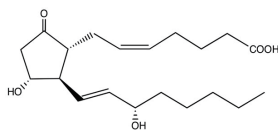
中でも、**エイコサノイド**と呼ばれるアラキドン由来の生理活性脂質は、炎症調節や血圧制御、血小板の凝集など、免疫応答や血液凝固などの生理的プロセスに関与しています。**プロスタグランジン**や**ロイコトリエン**などがその代表例であり、これらは細胞が外部からの刺激に応じて生成され、局所的な生理反応を引き起こします。エイコサノイド以外にも、膜の構成成分であるグリセロリン脂質やスフィンゴ脂質からも**リゾリン脂質性メディエーター**などの様々な生理活性脂質が産生されます。

これらの生理活性脂質は細胞の受容体を通じて、細胞内にシグナルを伝えます。

私は長年、生理活性脂質の**産生酵素**、**Gタンパク質共役受容体 (GPCR)**、**シグナル伝達**の研究をおこなってきました。また、群馬大学との共同研究で、**質量分析を用いた脂質の網羅的解析**もおこなっています。

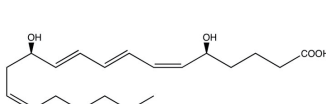


プロスタグランジン E2 (PGE2)



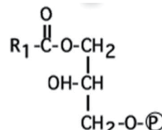
発熱・痛み

ロイコトリエン B4 (LTB4)



好中球遊走・脱顆粒

リゾホスファチジン酸 (LPA)



細胞増殖・腫瘍転移・創傷治癒

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

生理活性脂質は、巧妙な調節を通じて生体内の様々なプロセスを制御し、健康な生命維持に不可欠です。一方で異常な生理活性脂質の産生は、炎症・アレルギー・免疫異常などを引き起こし、様々な疾患の原因となります。私達の研究は、生理活性脂質の生体機能を解明すると同時に、様々な疾患の治療に繋がる可能性があります。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Leukotriene receptors: Classification, gene expression, and signal transduction.」

### 【科研費】

- ・(基盤研究(B) 24390069)細胞周期および幹細胞性を制御するGタンパク質共役受容体に関する研究
- ・(学術創成研究費 13GS0012)新規生理活性脂質の生体機能

# 骨系難病の原因解明と治療法開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 教授

江面 陽一 Ezura Yoichi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 骨系統疾患・溶骨症・破骨細胞・希少疾患・難病



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

私たちは骨系難病の原因と病態解明および治療法開発を目指していますが、ここでは「非定型的ゴーハム病」の原因遺伝子変異を同定した経緯を紹介します。「ゴーハム病」は骨消失病変を特徴とする希少疾患（指定難病 277）で、遺伝的要因は関与しないとされています。ところが私たちのグループが 2014 年に「ゴーハム病」と診断した症例は、発症年齢やリンパ管腫合併などの特徴が典型例とはやや異なり、家族歴聴取により遺伝子変異の関与が想定されました。そして本人および兄弟の全エクソン配列解析によって、Gasdermin D (GSDMD) 遺伝子内にホモ接合性の遺伝子変異を同定しました。GSDMD 蛋白質は、病原体などに応答したマクロファージなどの細胞内で酵素切断されて機能を発揮する特殊な細胞死蛋白質です。私たちが治療した症例ではこの切断部位のアミノ酸が置換変異されており、酵素切断が実際に起きませんでした。この研究成果と前後して海外の研究者はマウス GSDMD 蛋白質の切断断片が破骨細胞の骨吸収活性を抑制することを報告しました。私たちの研究は、ヒト GSDMD 遺伝子変異が骨消失病変を生じさせることを初めて示したことに意義があります。現在は他学との共同研究で分子メカニズム解明を進めています（科研費基盤 C : 新規遺伝性「非定型的ゴーハム病」発症に関わるガスダーミンD 遺伝子の分子機能）。また細胞骨格制御分子プロフィリン 1 の遺伝子欠損による破骨細胞の骨吸収制御破綻についても研究しています。成長期から四肢体幹骨に溶骨性病変を生じて骨変形を来す骨バジェット病と類似した病態を示す遺伝子改変マウスを解析しています。

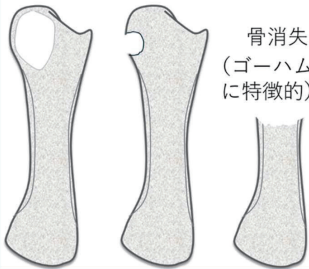
医学

### 溶骨性病変の種類と特殊性

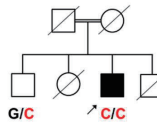
空洞化

骨びらん

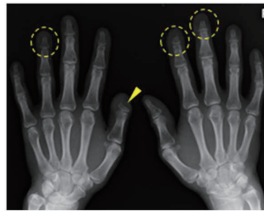
骨消失  
(ゴーハム病に特徴的)



### 発端者家系図



指尖溶骨症 (単純X線像)



### 細胞死誘導蛋白質GSDMDの遺伝子変異を同定した。

**GSDMD**

c.823G>C, p.Asp275His

ホモ接合性のアミノ酸置換はガスダーミンD蛋白質の細胞内切断に抵抗性を与える

N-末端断片が細胞内に生じず、細胞死が誘導されない

2段階目の切断 (Asp88) が起らない

**破骨細胞の活性化抑制不全**

⇒骨喪失病変

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

先天性骨系統疾患には沢山の難治性骨疾患が含まれます。特に私たちが注目する溶骨症性疾患の多くには、病態に即した有効な治療法が確立されていません。私たちは新規遺伝性難病の存在を指摘し、その発症機構を解明することで、新しい視点から、関連する難治性疾患を含めた治療法開発に役立てることを考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「Identification of a Biallelic Missense Variant in GasderminD (c.823G > C, p.Asp275His) in a Patient of Atypical Gorham-Stout Disease in a Consanguineous Family」

# レーザーをエネルギー源としたアクチュエータの開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 教授

大森 繁 Omori Shigeru

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : レーザー・光ファイバ・レーザー誘起バブル・アクチュエータ・モータ・エンコーダ・MRI



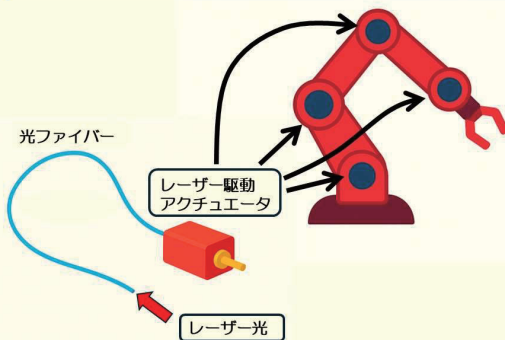
## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

レーザーは光通信やディスプレイ等で幅広く利用され、医療分野においても治療機器として組み込まれ、主として眼科や形成外科、がん治療等で使用されている。紫外線の高い光エネルギーで生体の組織表面を分解除去したり、光のエネルギーを熱に変えて用いたり、また薬剤と組み合わせて化学反応を起こさせたりするのが一般的な使い方となっている。いずれのケースでもレーザー光自体を生体に直接作用させる利用方法となるが、エネルギー伝送という観点からみると、電気を用いることなく光ファイバーで所定の場所まで送り届けられる有効な手段となっていることに気づく。この特徴は、例えば医療分野ではMRI 診断装置等で高磁場環境のなかでも利用できることを意味している。本研究は、電気配線を用いることなく駆動できるアクチュエータ（モーター等）の開発を目標としている。高出力の半導体レーザーを用いて光ファイバーでレーザー光を伝送し、その先端部で液体に照射して蒸気（レーザー誘起バブル）を発生させ、その力でアクチュエータを駆動する。アクチュエータの動きは別途光エンコーダで検知させることで、最終的には光だけで駆動できるサーボモータを構成できる可能性があると考えている。これが実現できれば、将来的には図に示したようにロボットアームが光エネルギーだけで制御可能になることを期待できる。

### レーザー光だけで駆動するロボットアームの実現イメージ



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

MRI 装置内でも駆動可能なロボットアームの実現等、医療の進歩に貢献できる技術を目指しています。  
知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

・（挑戦的萌芽研究（16K12914））「高磁場MRI 下で機能するレーザー駆動モータの開発」

#### 【学会発表】

・「レーザー誘起バブルを用いたアクチュエータの基本構成とその応答特性」

# スーパー耐性菌を中心とした病原体の簡便迅速診断法の開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 教授

斧 康雄 Ono Yasuo

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スーパー耐性菌・疥癬・迅速診断・POCT



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

ベッドサイドで簡便かつ迅速にスーパー耐性菌を検出できる検査試薬や機器の開発が望まれている。特に、カルバペネマーゼ産生グラム陰性腸内細菌科細菌(CPE)である KPC 型肺炎桿菌や NDM 型大腸菌、多剤耐性アシネトバクター (MDRA) などが問題となる。PCR、LAMP などの遺伝子診断や MALDI-TOF-MS、次世代シーケンサーなどが検討されているが、特別な高額機器が必要である。

尿や便、創部拭い液などを用いて、直接的に**イムノクロマト法**などを利用した、いつでも、どこでも、誰でも**感度よく簡単・短時間に耐性菌や疥癬の病原体などを検出できる検出系(POCT)の開発**を目指します。



イムノクロマト法



LAMP法



MALDI-TOF-MS法

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

抗菌薬が全く効かないスーパー耐性菌による敗血症や肺炎は有効な抗菌薬が少なく極めて予後不良である。国際交流が盛んな近年においては、本邦でも蔓延が懸念される。早期に耐性菌を検出し、感染制御や治療に役立てる必要がある。

世界中でスーパー耐性菌による感染症が問題となっているが、**簡便・迅速に実施できる早期診断法の1つとして期待できる。**

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Rapid detection of the *Klebsiella pneumoniae* carbapenemase (KPC) gene by loop-mediated isothermal amplification (LAMP)」
- ・「Development of a rapid scabies immunodiagnostic assay based on transcriptomic analysis of *Sarcoptes scabiei* var *nyctereutis*」
- ・「A rabbit monoclonal antibody-mediated lateral flow immunoassay for rapid detection of CTX-M extended-spectrum  $\beta$ -lactamase-producing Enterobacterales」



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 教授  
**斧 康雄 Ono Yasuo**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：好中球、遊走能、殺菌能、易感染性宿主、敗血症

## 研究の概要

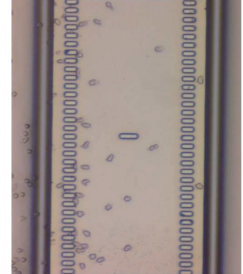
近年、免疫不全を呈する患者数は、移植医療の進歩、多数の生物学的製剤や免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬の開発や高齢化社会の到来に伴って増加している。このような免疫不全宿主においては、感染リスクの増大だけでなく、敗血症や肺炎などの重篤な感染症の発症率も高くなる。日和見感染症の早期発見や予防、さらには治療に際して、宿主感染防御能を的確に評価する必要がある。免疫不全宿主 (Immunocompromised hosts) の細菌/真菌に対する易感染性の評価や敗血症などの重症感染症の重症度評価/予後判定のために、好中球機能や血清オプソニン活性を少量の血液で測定可能な装置を用いて簡便・短時間にコンピュータ解析し、臨床応用することを目的としています。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
 SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

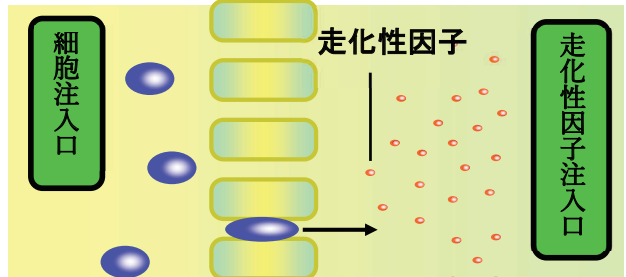
### 全血化学発光 (CL) 測定装置



### CCD カメラ撮影動画



### TAXIScan 遊走能測定装置



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

免疫不全宿主では、肝硬変、重症熱傷、糖尿病、AIDS、高齢者などで好中球の活性酸素産生能の低下や血清オプソニン活性の低下を報告している。治療経過をモニターすると CRP などの炎症のマーカーと相関して動き、治療効果の判定や一部の疾患で予後予測に利用できることを報告している。糖尿病患者や重症肺炎や敗血症で好中球遊走活性が低下することや、その低下のメカニズムも受容体、シグナル伝達、遺伝子レベルで明らかにしている。好中球に対する薬剤耐性菌のビルレンス解析や各種薬剤、細菌毒素などの好中球機能に及ぼす影響なども良好な再現性を持って評価できる。

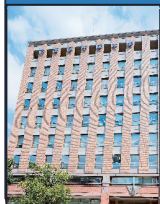
知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

本研究に関連し特許は申請していない。機器自体は製造メーカーが特許出願している。

### 【主な学会発表】

- ・好中球と敗血症
- ・熱傷患者の易感染性と多剤耐性菌対策
- ・糖尿病と好中球機能

# 足関節外側靭帯複合体の構造と制御機能の解明



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 教授

掛川 晃 Kakegawa Akira

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 機能解剖学・足関節不安定症・足関節外側靭帯複合体・距骨下関節



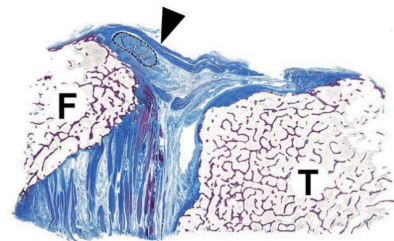
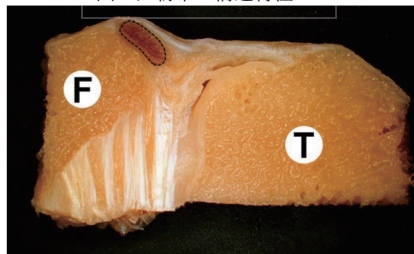
## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

足関節捻挫後に約 20-40%の方が何度も捻挫を繰り返す慢性足関節不安定症(CAI: Chronic Ankle Instability)に移行し、スポーツ活動や日常生活に影響を及ぼします。しかし、CAIの病態メカニズムは未だ解明されていません。CAIの解明には、足関節外側靭帯複合体や距骨下関節を制御する靭帯の構造特性および靭帯の制御機能の解明が必要です。本研究の目的は以下の2点です。

①解剖実習体の足部を対象として、距腿関節・距骨下関節を制御する靭帯のバリエーションや構造特性を肉眼解剖および組織学的視点から明らかにすること。(図1)

図1. 靭帯の構造特性



②Thiel固定された足部を対象として、距腿関節・距骨下関節を制御する靭帯の切断損傷モデルを作成し、距腿関節・距骨下関節の不安定性を定量化し、靭帯の制御機能を解明すること。(図2)

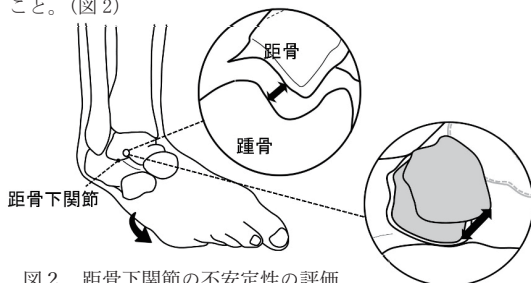


図2. 距骨下関節の不安定性の評価

本研究で得られる足関節外側靭帯や距骨下関節制御靭帯の構造特性と制御機能の知見から、超音波画像装置などを用いて、CAIに対する評価法の確立を目指しています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

足関節不安定症のメカニズムを解明するために、足関節・距骨下関節の制御靭帯の構造特性と制御機能の解明に取り組んでいます。研究で得られた知見を講義内で説明することが、実学教育につながると考えています。また、靭帯の制御機能の解明につながるような汎用性があり安価な計測機器の開発を目指しています。

### 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- ・「Difference in the fibular attachment structure between the superior and inferior fascicles of the anterior talofibular ligament using ultrasonography and histological examinations」
- ・「Relationship between inferior fascicle of anterior talofibular ligament and articular capsule in lateral ankle ligament complex」
- ・「Continuous and connective fibers of the lateral ankle ligament complex」

# 唾液検体を用いた *in vitro* アレルギー試験法の確立



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

栗坂 知里 Kurisaka Chisato

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : アレルギー試験法・EXiLE法・IgE・唾液



## 研究の概要

一般的なアレルギー試験法は血清を使用するため簡便であるが、擬陽性が多いことが知られている。また、採血を必要とするため、注射針による疼痛を生じ、特に食物アレルギー患者の多くを占めている乳幼児や小児や採血が困難な高齢者への負担が大きいことが問題視されている。唾液は自己採取が可能な非侵襲性検体であり、血液

### 【一般的なアレルギー試験法】

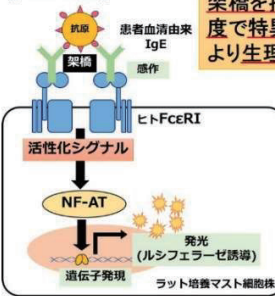
#### ImmunoCAP法

(血清特異的IgE抗体検査)

- ・簡便で高感度であるが、偽陽性が多い。
- ・血清を用いるため、侵襲性がある。特に乳幼児や高齢者には負担が大きい。

1アレルゲン当たり  
0.3mLの血清を使用

### 【EXiLE法】



架橋を指標とするため、高感度で特異性の高い測定ができ、より生理的な解析が可能

ヒトFcεRIとNF-AT依存性的ルシフェラーゼのレポーター遺伝子が組み込まれた細胞株(RS-ATL8またはHuRa-40)を血清中IgEで受動感作して抗原刺激することで細胞の活性化を測定できる。

微量血清での測定が可能。  
(96wellプレートの測定では0.5μL/well)

非侵襲性の検体として**唾液**に着目

## EXiLE法を用いた唾液検体を対象とするアレルギー試験法の確立を目指す



検査に比べ安全性も高いという特徴があり、唾液検体を用いた簡便かつ信頼性の高いアレルギー試験法を確立することで、患者および医療従事者の負担軽減が期待できる。in vitro 超高感度 I 型アレルギー検査法 IgE Crosslinking-IgE Crosslinking-induced Luciferase Expression (EXiLE) 法は従来のアレルギー試験法よりも少量の血清で測定することが可能であり、血清よりも含有量が少ないとされる唾液中 IgE の測定にも応用可能と考えられる。本研究では、非侵襲性かつ高感度なアレルギー試験法の作成を目指し、唾液を用いた EXiLE 法の確立を目的としている。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新型コロナウイルス感染症をはじめ、簡便かつ非侵襲的に採取できる唾液を用いた様々な検査法が開発されているが、唾液を用いたアレルギー試験法は現時点で確立されていない。本研究により、唾液検体による新規アレルギー検査法の実用化が望める。

- より簡便かつ非侵襲性のアレルギー検査法の提供
- 自己採取可能な唾液を用いることにより医療従事者の負担軽減
- 唾液中 IgE の機能解析

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【特許】第 7587745 号、国際出願番号：PCT/JP2022/007612

【科研費】・課題番号 23K14417 「唾液検体を用いた *in vitro* アレルギー試験法の確立」

【学会発表】・「唾液を用いた *in vitro* アレルギー検査法の開発」

# 認知症および軽度認知障害のスクリーニング技術の開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 教授

後藤 哲史 Goto Tetsuji

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 認知症・軽度認知障害・自然言語処理・ニューラルネットワーク



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

認知症の初期段階や軽度認知障害 (MCI) においては、早期発見と緩和措置により、症状の進行を遅らせることが期待される。認知症のスクリーニングでは、精神機能短縮検査 (MMSE) や長谷川式認知症スケール (HDS-R) 等が用いられるが、これらの方法には、身体拘束、精神的圧迫等がみられ、専門医等による実施も必要となる。

我々は、ニューラルネットワークを用いた自然言語処理により、MCI や初期段階の認知症の判定ができるスクリーニング技術の開発を目標に、ネットワークアーキテクチャや言語特性の究明等の研究を実施している。

例えば、話構造の特徴を効率よく学習するため、話の階層構造を反映させた LSTM 双方向ニューラルネットワークを開発し、従来の事前の特徴量抽出による方法に近い精度を出すことに成功した。また、畳み込み技術他を転用し、ニューラルネットワークの内部を可視化することで、患者と健常者の言語特性、話の構造の特徴を抽出する試みをおこなっている。今までに、例えば、使用する単語群、文長・話長他に有意な差があることや、文頭の品詞群、各語が他の単語に及ぼす影響の範囲等に患者特有の傾向があることが判明している。

更には、BERT 等の大規模言語モデルを使用し、感情の動きを言語から推察することで、軽度認知障害者と高齢健常者においてどのような差が見られるか調査を開始している。軽度認知障害者は、感情の起伏やその周期について特徴的な点が幾つかあることが判っている。

本研究では、これらの知見の蓄積により、スクリーニング技術の高度化を目指している。

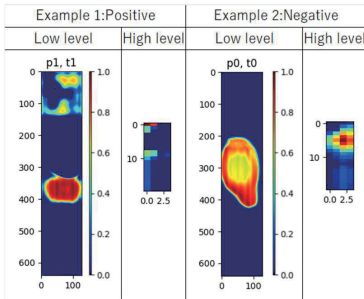


図1 階層別構造可視化の例

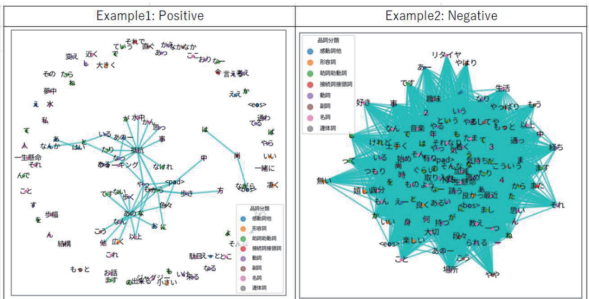


図2 関係ネットワーク可視化の例

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

軽度認知障害、初期の認知症について、自身もしくは家族等介護者が、簡易にスクリーニングを実施することで、早期発見につながる事が期待される。軽度認知障害、初期の認知症の発見から、症状進行の抑制策のケアを連続的に提供できるようになる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「A Hierarchical Neural Network Model for Japanese toward Detecting Mild Cognitive Impairment」

・「軽度認知障害のスクリーニングに向けた階層型ニューラルネットワークモデルの提案」

【学会発表】「MCI スクリーニングを可能とする話構造からの特徴抽出方法の提案」

# 不安障害を発症させる小胞体アミノペプチダーゼの機能不全



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

後藤 芳邦 Goto Yoshikuni

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : アミノペプチダーゼ・セロトニン・不安障害・抗原提示



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

小胞体アミノペプチダーゼ (ERAP1) 遺伝子上には、同遺伝子から発現される ERAP1 のタンパク質分解活性を 70%程度低下させる一塩基多型が見出されている。この変異のマイナーアレル頻度は国や人種を問わず 0.4 を超えることから、本変異が高頻度でいたるところに分布していることが分かっている。そして、いくつかの HLA 疾患の患者では、この遺伝子変異を有する者が多いことも明らかにされている。

私たちは最近、マウスレベルで ERAP1 の遺伝子欠損が不安行動を惹起させることを明らかにした。この結果は、不安障害も HLA 疾患同様、ERAP1 の機能不全によって引き起こされる可能性を示す。したがって、本研究では、ERAP1 の機能不全が引き起こす不安障害発症機構を分子レベルで解き明かすことを目指す。

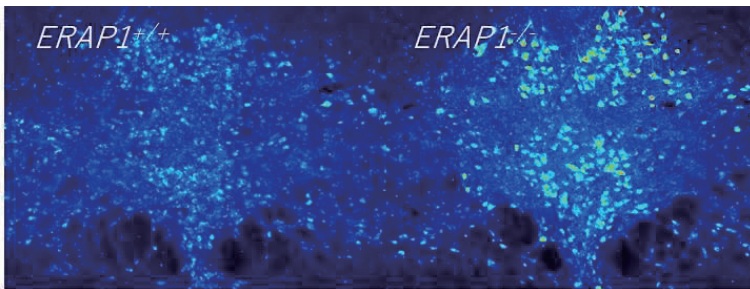


図. ERAP1遺伝子欠損に伴う縫線核5HTの増加  
*ERAP1*<sup>+/+</sup>および*ERAP1*<sup>-/-</sup>マウスの縫線核5HTを免疫染色により検出した。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

不安障害を含めた精神障害の発症機構について、仮説は存在するものの、詳細に明らかにされていない。不安障害やうつ病、双極性障害、統合失調症など各疾患発症の分子機構が明確になれば、これまでの対症療法から原因療法への切り替えが可能になりうる。したがって、本研究は、精神障害に対する新しい創薬や診断技術各確立に向けた技術基盤の構築を実現する可能性を秘めている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Reciprocal Expression Patterns of Placental Leucine Aminopeptidase/Insulin-Regulated Aminopeptidase and Vasopressin in the Murine Brain.」
- ・「Acute-phase protein-like properties of endoplasmic reticulum aminopeptidase 1」
- ・「Contribution of the exosome-associated form of secreted endoplasmic reticulum aminopeptidase 1 to exosome-mediated macrophage activation」



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 講師

榊田 真一 Sakakida Shinichi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 人工呼吸器・人工呼吸器評価・自発呼吸シミュレータ・臨床工学



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

本学は、**高機能呼吸シミュレータ ASL5000** を学内に常設しており、大学としては国内でも限られた高度な検証環境を有しています。

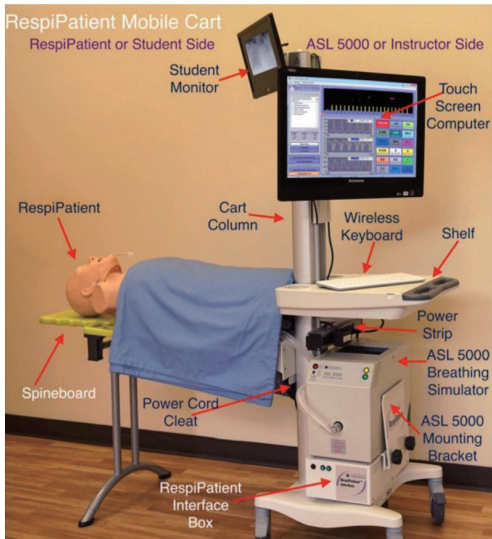
ASL5000 を自由に使用できることは、本研究の最大の強みであり、人工呼吸器の同調性能を精密に評価できる数少ない教育・研究拠点として大きな価値を持ちます。

ASL5000 は肺コンプライアンス・気道抵抗・呼吸努力を精密に設定でき、正常呼吸から喘息、ARDS、COPD など**多様な病態を再現可能**です。これにより、臨床では再現が難しい病的自発呼吸に対する人工呼吸器の応答性を、統一条件下で定量的に比較できます。

人工呼吸器は、患者の自発呼吸と適切に同調することで初めて安全かつ快適な呼吸管理が成立します。しかし、機種ごとに搭載されている制御アルゴリズムやトリガー感度、流量制御方式は大きく異なり、自発呼吸との同調性能には差が生じます。臨床現場では同調不良が患者負担や治療成績に影響する一方、事前比較・評価する手段は限られています。

本研究では、複数の人工呼吸器を対象に、トリガー一遅延、圧上昇時間、吸気同期性、呼気切り替え精度などの指標を測定し、機種間の性能差を可視化します。また、呼吸努力の強弱や病態条件を変化させ、どのような状況で同調不良が生じやすいかを解析します。

得られた知見は、人工呼吸器の選定指針や設定最適化に活用できるだけでなく、メーカーにとっては制御アルゴリズム改良の基礎データとなります。さらに、ASL5000 を用いた実践的な**呼吸管理教育**により、学生や医療従事者が人工呼吸器と自発呼吸の相互作用を体験的に理解することも可能です。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

研究代表者は臨床工学技士として人工呼吸器管理に従事した経験を持ち、現在は大学で人工呼吸器に関する研究をおこなっています。ASL5000 を用いた高度な検証環境を学内に有する点は、本研究の大きな強みです。

企業との連携では、以下のような協力が可能です。

- ・ ASL5000 を用いた人工呼吸器・関連デバイスの性能評価
- ・ 病態条件を変化させた比較試験
- ・ トリガー性能・制御アルゴリズムの検証
- ・ 試作品の評価や共同研究

# 成人用 HF0V の換気効率に関わる設定・デバイス要因の解析



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 講師

榊田 真一 Sakakida Shinichi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 人工呼吸器・肺保護換気・高頻度振動換気・HF0V・HF0・臨床工学・呼吸器デバイス評価



## 研究の概要

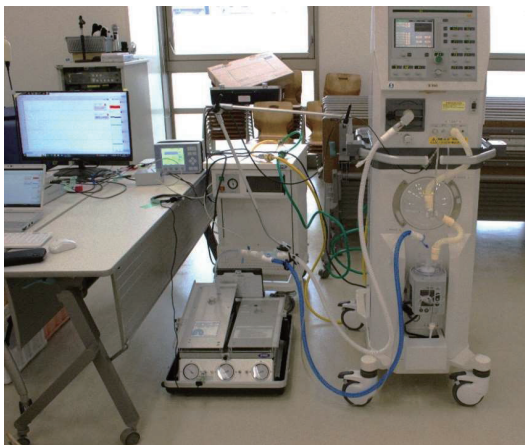
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

人工呼吸器における**高頻度振動換気 (HF0V : High-Frequency Oscillatory Ventilation)** は、肺を大きく動かさずにガス交換を維持できる人工呼吸モードであり、**重症呼吸不全に対する肺保護換気**として期待されています。小児、特に新生児領域では一般的に使用されている一方、成人領域では ECMO が優先される傾向が強く、HF0V の有効性が十分に評価・活用されていないことが課題となっています。その背景には、**設定項目が独特であることや気管チューブなどデバイス選択の影響が大ききことが挙げられ、成人領域での普及を妨げる要因**となっています。

本研究では、成人用 HF0V 人工呼吸器とテスト肺を用い、**設定・デバイス・肺特性が換気効率に与える影響を定量的に明らかにすること**を目的としています。各条件を系統的に調整し、換気量や回路内・モデル肺内の圧力減衰を測定することで、減衰が生じる条件や臨床使用に適した範囲を示す指標を作成します。

得られた成果は、HF0V 管理の煩雑さを軽減し、成人領域における HF0V の適切な導入・普及に寄与するだけでなく、医療機器メーカーにおける制御アルゴリズムの改良やデバイス開発にも応用可能であると期待されます。



医学

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### ■ 提供できる価値

本研究は、HF0V における**設定と実際の換気効率のズレを可視化し、成人領域での HF0V 導入や臨床判断の精度向上に貢献**します。

### ■ 実験環境の強み

本研究では、気管チューブや人工呼吸器回路、センサー類の性能評価が可能な実験環境を有しており、臨床現場を模擬した条件下での高精度な測定を行います。

### ■ 協力可能事項

- ・ 設定、気管チューブサイズ、肺コンプライアンスを変化させた換気量・圧力・流量波形の高精度測定
- ・ 人工呼吸器・関連デバイスの性能評価・比較試験
- ・ 回路設計や制御アルゴリズム改善に向けた基礎データ提供

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【科研費】

（基盤研究(C) 23K11982) 「成人用 HF0V 人工呼吸器の設定条件と換気効率の検討」

# 精神障害者の就労支援



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 教授

管 心 Suga Motomu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 精神疾患・就労・定着支援



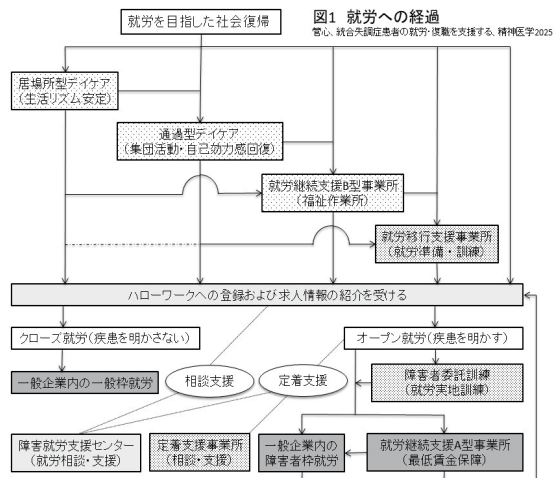
## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

日本の精神障害者への医療は、精神科病院を中心に社会から隔離して収容するという社会防衛の色彩が強かった。しかし、国際条約である障害者権利条約への批准や障害者雇用促進法などの国内法の整備により、社会参加支援が拡充しつつある。精神・知的・身体の三障害の中では精神障害は最も後れを取っていたが、精神障害者の雇用義務化を契機に就労件数が伸びつつある。福祉の観点では、特に地域活動での生活の場でもある雇用へつなぐための就労移行支援やハローワークでの職業紹介などの就労支援が充実しつつある。

一方、一度就労しても、短期で離職する障害者が多いため定着支援の重要性が課題となっており、また有病率が高く就労後の中途発症も多い気分障害患者と比較して、就労前の若年期に発症することが多い統合失調症患者や、児童期から特性を持ち続ける発達障害患者に対する理解や受け入れは不十分であることが現実である。

精神障害を持ちながら就労している患者や、支援機関、雇用主（企業）へのインタビューをおこなうことで、就労定着支援に有効な要因を抽出したい。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国際的にも国内的にも多様性を認める社会が求められている。その中で従来から様々な偏見・バイアスに晒され、社会の中で活躍する場が限られてきた精神障害患者も、医療の援助や合理的な配慮や支援を受けながら、就労することが増加してきた。一方で、知・情・意（認知・感情・意欲）の様々な面において特性・特徴を持つため、適切な理解と支援が求められる。具体的に効果的な支援や障害特性理解の仕組みを検討することで、精神障害患者の社会での活躍につながる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「統合失調症を持つ当事者へ就労準備支援から定着支援までの一貫した支援を提供する」

【所属学会】・日本精神神経学会

・日本統合失調症学会

# 早期褥瘡の多循環障害説に基づく診断法の創出と診断デバイスの開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 教授

喬 炎 Takashi En

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 早期褥瘡・多循環障害説・早期診断・検出デバイス・人工知能の応用



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

最も早期の褥瘡である stage 1 (早期褥瘡) の病態として、皮膚の出血と充血が知られているが、近年の我々の研究によってうっ血や虚血などの混在が明らかになり、「多循環障害説」を創出した (図1)。これらにより、病変の表出症状は不安定となり、既存の臨床検査で判別することは難しいこと: ガラス板圧診法では消褪しない発赤が早期褥瘡とされるが、消褪する発赤でも悪化することが分かった。また、超音波や SEM スキャナーなどの機器でもこれらの複雑な病変を評価することは困難であり、現行の検査機器で診断するには限界があり、より精度の高い診断指標の探索と機器開発が喫緊の課題となっている。

われわれは圧診法に、毛細血管再充満時間テスト (CRTT) を併せ、さらに皮膚の血行動態を敏感に探知できる紫外光撮影の総合観察法で、多循環障害の個別評価を可能とした (図2)。その中でも、圧診法の消褪指数と CRTT の再充満指数による総合的な解析と紫外光画像の併用によって正診率を高めた。これで多循環障害の総合的な解析から早期褥瘡の全過程を正確に把握することができ、従来の検査法より診断に有用であることが示唆された。また、診断デバイスもこの新しい多循環障害説の機序に基づき開発したもので、早期褥瘡の診断に大きく貢献できると考えられる。

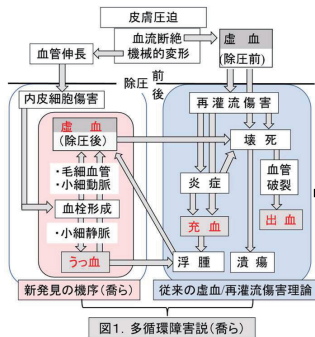


図1. 多循環障害説 (喬ら)

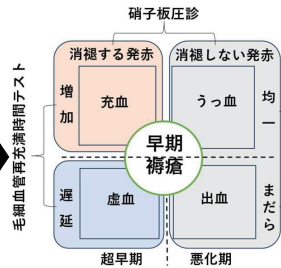


図2. 多循環障害の総合検査法と所見

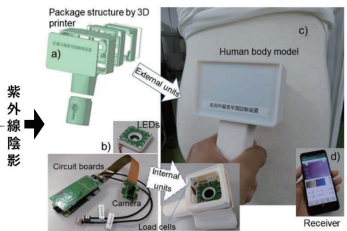


図3. 新機序に基づいて開発したデバイス

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国立研究開発法人産業技術総合研究所の共同研究者の協力によって早期診断機器の単体機が完成した (図3)。臨床応用のできる機器の共同開発と市販に向けたコンサルティングの協力パートナーを期待している。

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

### 【科研費】

- ・ (基盤研究 (B) (25K02950)) 「人工知能を活用した褥瘡早期自動診断機の製品開発と臨床検証」
- ・ (基盤研究 (B) (23K21568)) 「最先端の AI 認証とセンシング技術を活用した褥瘡早期診断システムの開発」

### 【特許】

(第 724823 号) 「皮膚内傷害検査装置, 皮膚内傷害検査システム」

# 環境負荷を低減する血液浄化：生体適合性と持続可能性の両立



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 教授

東郷 好美 Togo Konomi

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：血液浄化・生体適合性・Green Nephrology

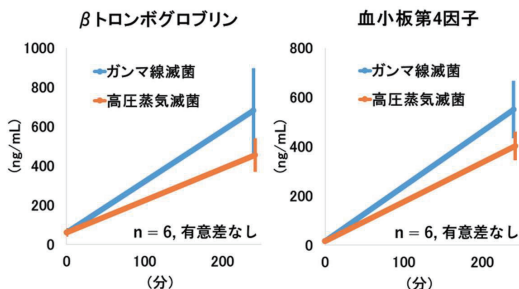


## 研究の概要

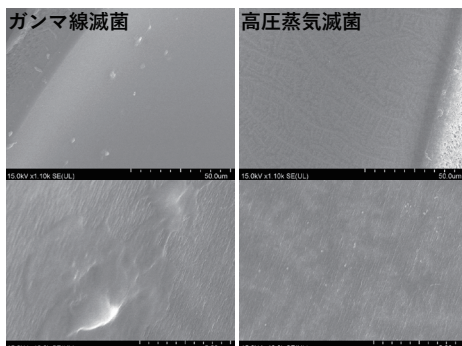
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

透析膜の生体適合性について、多角的な視点から検証をおこなっています。これまで、素材の異なる透析膜（ポリスルホン vs ポリメチルメタクリレート）、表面構造の異なる透析膜（均質 vs 非対称セルロースアセテート膜）、滅菌方法の異なる透析膜（ガンマ線 vs 高圧蒸気）など、様々な条件下での透析膜の特性を比較評価してきました。これらの研究を通じて、ポリスルホン素材の優れた生体適合性を実証し、親水化剤（ポリビニルピロリドン）の添加量と生体適合性の相関関係を明らかにしました。また、セルロースアセテート膜については構造の違いによらず生体適合性が同等であること、現行の滅菌方法が透析膜の生体適合性に与える影響は軽微であることを確認しました。最近では、Green Nephrology の概念を取り入れ、環境負荷低減と生体適合性の両立を目指した研究にも取り組んでいます。

下記は滅菌方法の異なる透析膜における研究結果です。



β トロンボグロブリン・血小板第四因子：  
血小板が活性化された際に放出される因子で、数値が高いほど、血小板が活性化されたことを示します。



中空糸内部を走査型電子顕微鏡で撮影した写真：  
ガンマ線滅菌の透析膜に若干のフィブリンの粘着が認められました。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

これまで蓄積してきた透析膜の生体適合性に関するデータは、新しい材料の選定、薬事戦略の立案など、製造プロセスの最適化を検討する際に重要な判断材料として活用できます。結果として、試作回数の削減や開発期間の短縮など、医療機器開発における負担軽減が見込まれます。また、本研究で培った透析膜の生体適合性評価技術を活用し、医療の質を維持しながら、環境に配慮した透析膜の開発を支援します。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ダイアライザの基本特性と選択の考え方」
- ・「ヘモダイアフィルタの生体適合性」
- ・「Blood compatibility in various hemodialysis membrane materials」

# 体外式膜型人工肺における酸素化効率向上のためのカニューレの最適形状の解明



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 教授

東郷 好美 Togo Konomi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

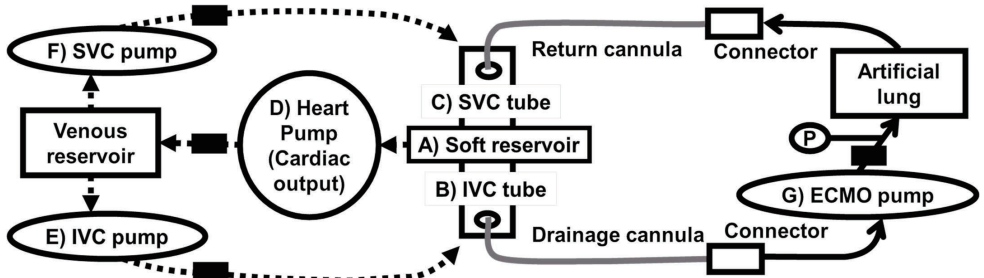
キーワード : 呼吸不全・体外式膜型人工肺・体外循環・VV ECMO・カニューレ



SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

重症呼吸不全に対して、静脈脱血-静脈送血方式の膜型人工肺 (VV ECMO) が用いられることがあります。しかし、ECMO で十分な酸素化が得られない場合、血液ポンプ流量や酸素流量を増加させるだけでなく、人工肺で酸素化された血液が再び脱血される「再循環」を減らすことが重要です。これまで、再循環に影響を与える因子としてカニューレに着目し、最良の酸素化が得られるカニューレ留置部位を明らかにしました。その過程で、カニューレのサイドホール形状によって、再循環率に差が生じることを確認しました。現在は、ECMO 用カニューレにおける最適なサイドホール形状を、酸素化の観点から解明する研究を進めています。動物実験に加え、下記のような模擬回路を用いた実験もおこなっています。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、重症呼吸不全患者の ECMO 離脱率向上に直結する、社会的に意義のある研究です。得られた成果は、ECMO 用カニューレの製造業者にとって、再循環率を抑制する新しい形状のカニューレ開発に活用でき、製品の差別化や新たな市場創出につながります。また、ECMO 治療に携わる医療機関にとっては、本研究成果を基に、最適なカニューレを選択することで、ECMO 治療の成功率を高めることができます。さらに、自治体においては、ECMO 治療の普及に向けた施策を検討する際の科学的根拠として活用でき、重症呼吸不全患者の QOL 向上に貢献します。

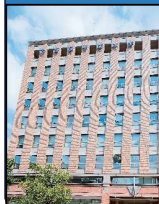
今後は、カニューレ設計に関する共同研究や、臨床現場での適用に向けた実証試験、ECMO 治療の普及に関する政策立案支援など、産業界・医療機関・行政との幅広い協力が可能です。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Investigating optimal drainage cannula for venovenous extracorporeal membrane oxygenation: impact of side holes on blood oxygenation - an in vitro study」
- ・「Optimal drainage cannula position in dual cannulation for veno-venous extracorporeal membrane oxygenation.」
- ・「Impact of bypass flow rate and catheter position in veno-venous extracorporeal membrane oxygenation on gas exchange in vivo.」

医学

# 認知症患者の社会的遂行機能に関する神経心理学的研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授

永井 知代子 Nagai Chiyoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 認知症・社会的認知・遂行機能・視線計測・共同注意



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

認知症患者は増加の一途をたどっており、特定の施設だけでなく、一般社会の中で健常者と関わって暮らしているのが現状である。ノーマライゼーションという観点からは、認知症患者が周囲の環境をどのように誤って理解し、なぜ問題行動（認知症に伴う行動心理学的症状、BPSD）を起こしているのかに関する知識を、医療従事者のみならず一般社会が共有していく必要がある。

社会的認知の障害は認知症患者によくみられ、暴言・暴力や介護への抵抗を生む原因となる重要な障害だが、他の認知機能に比較して有効な検査法が確立していない。そこで本研究では、社会的認知の中でも原初的な機能である共同注意に関して、視線移動パターンが健常者とのように異なるのかを調べた。この視線移動には遂行機能が関わっており、いわば社会的遂行機能の低下が周囲の把握を誤ったものにし、ひいては行動障害を起こしていると考えられる。社会的遂行機能という新たな概念を提唱し、共同注意以外の社会的遂行機能も調べて、包括的な知識を社会に提供していく。

具体的には、社会的コミュニケーションに必要な基礎的な能力を調べ、認知症患者・軽度認知障害者(MCI)・健常者と比較する。たとえば、指示語(あれ・それ・これ)や矢印が、正しく理解され使用されているか、誤りがあればその特徴を知り、社会生活における相互理解に役立てたい。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

認知症では物忘れが症状として取り上げられやすいが、実際にはBPSDで困る場合が多い。BPSDがどのようなきっかけで生じるのかを知ることにより、家族も対策が立てやすくなる。また、社会的遂行機能の研究は、認知症ケア技法であるユマニチュードに科学的基盤を与えるものともなり、適切な関わり方を確立する上でも重要である。さらに、視線計測を簡易におこなえるツールにより、認知症外来における診療もより精度を上げることができる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Detecting joint attention deficits in patients with Alzheimer's disease: An eye-tracking study.」
- ・「共同注意の脳内機構」
- ・「Eye movements during a scene description task: A pilot study of healthy subjects.」

# 腸内共生菌バランス失調による感染症とアレルギー反応の解析



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科  
スポーツサイエンスコース 教授

永川 茂 Nagakawa Shigeru

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 腸内共生菌バランス失調・感染免疫・アレルギー反応・疾患モデル動物実験



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

### 【研究目的】

腸内共生菌のバランス失調 (Dysbiosis) は、感染症治療に使用される抗菌薬の影響によりしばしば生じる現象である。近年、この Dysbiosis がさまざまな疾患の発症や重症化に関与することが明らかとなっている。本研究では、Dysbiosis によって増殖したカンジダがアレルギー疾患を誘発するメカニズムに焦点を当て、その病態形成に関する解明を目的とする。

### 【研究の背景】

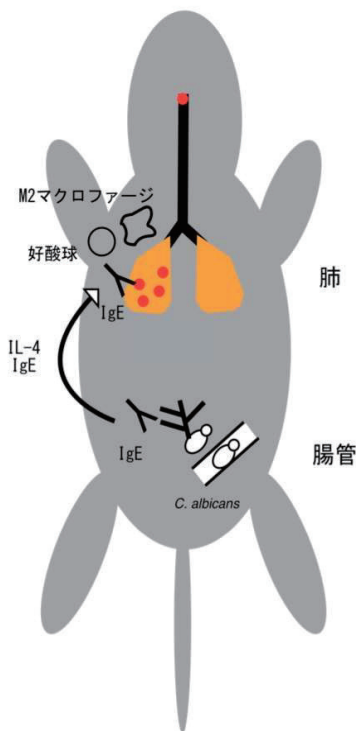
Dysbiosis は腸管の炎症のみならず、アレルギー、肥満、糖尿病など腸外の疾患にも影響を及ぼすことが示唆されている。しかし、腸管外で引き起こされる菌由来炎症に関しては十分な解析がおこなわれていない。特に、ステロイドや抗がん剤の投与によって免疫抑制状態に陥ると、腸内に定着したカンジダが腸管からトランスロケーション (移行) し、全身性の感染症やアレルギー反応を誘発することが報告されている。

### 【研究の概要】

本研究グループでは、腸管内に定着させたカンジダがステロイド投与により腸管外へトランスロケーションすることを確認している。また、その際に血清中でカンジダ特異的 IgE 抗体が誘導されることも明らかにしている。さらに、肺では Th2 型免疫応答が優位になることが示されている。本マウスモデルを用いることで、即時型アレルギー反応やアトピー性皮膚炎の発症機序を解析でき、Dysbiosis を介したカンジダの役割について新たな知見が得られると期待される。

### 【主な研究微生物】

*Candida albicans*, *Aspergillus fumigatus*



医学

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

検体の生化学的検査、遺伝子解析、免疫染色を用いた病理解析も実施可能である。特に、食細胞の各種機能 (接着・遊走・食食・殺菌) を評価するための解析機器を多数備えており、感染症やアレルギー発症機序の詳細な解析をおこなうことができる。

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

### 【論文】

- Production of anti-*Candida* antibodies in mice with gut colonization of *Candida albicans*.
- Histopathological Analysis of *Acinetobacter baumannii* Lung Infection in a Mouse Mod.

# 肺炎マウスを用いた病態の解析



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科  
スポーツサイエンスコース 教授

永川 茂 Nagakawa Shigeru

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 感染免疫・肺炎・疾患モデル動物実験



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

### 【研究の目的】

本研究では、マウスの肺感染モデルを用い、感染症に対する治療薬の有効性を評価することを目的とする。さらに、遺伝子欠損マウスなどヒト疾患を模倣したモデルを活用し、治療法の効果をより詳細に検証する。近年、新たな感染防御機構が次々と明らかになっていることから、感染組織の病態を解析し、治療薬が生体に及ぼす影響を病理学的・免疫学的手法により明らかにする。

### 【研究の背景】

肺炎は依然として主要な死亡原因の一つであり、とくに高齢者では重症化しやすく難治化する問題が指摘されている。また、近年増加している薬剤耐性菌（AMR）は世界的な課題であり、多くの研究機関がその克服に向け研究を進めている。しかし、新規抗菌薬の開発は十分に進んでおらず、解決のめどは立っていないのが現状である。こうした背景から、新規抗菌薬やワクチンの開発が強く求められている。

### 【研究の概要】

本研究では、微生物を気管内へ接種することで肺感染マウスモデルを確立している。このモデルを用いて、感染肺組織から生菌数の測定や病理組織の作製をおこない、病巣の病態を詳細に解析する。また、感染組織および採取した検体における免疫担当細胞の変化も評価可能である。これらの手法を組み合わせることで、新規治療薬やワクチンによる感染防御効果をマウスモデルで検証することができる。

### 【主な研究微生物】

- ・ *Acinetobacter baumannii* ・ *Pseudomonas aeruginosa*
- ・ *Aspergillus fumigatus* ・ *Candida albicans*



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新規治療薬は、臨床試験に先立ち、動物を用いた予備試験により有効性と安全性が評価される。我々は、治療薬の臨床試験前に必要となる動物実験を実施してきた。新規治療薬は、さまざまな動物疾患モデルを用いることでヒト疾患に対する有効性を解析することが可能である。

また、検体を用いた生化学的検査、遺伝子解析、免疫染色などの病理学的解析も実施できる。特に、食細胞の各種機能（接着・遊走・貪食・殺菌）を評価する解析機器を多数備えており、詳細な免疫機能解析が可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・ Efficacy of intravenous itraconazole against invasive pulmonary aspergillosis in neutropenic mice.
- ・ Histopathological Analysis of *Acinetobacter baumannii* Lung Infection in a Mouse Mod.

## 救急現場における重症患者に対する末梢静脈路確保に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
救急救命士コース 講師

中村 秀明 Nakamura Hideaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 静脈路確保・自動心臓マッサージ機・救急救命士



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

救急救命士には、救急救命士法（1991年法律第36号）第44条第1項、救急救命士行規則（1991年厚生省令第44号）第21条等の規定に基づき、医師の具体的な指示を受けておこなう救急救命処置が定められています。1991年の救急救命士制度発足以来、乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保（Peripheral intravenous cannulation 以下、PIVC）のための輸液は、心肺停止（Cardiopulmonary arrest 以下、CPA）傷病者に限定されてきました。2014年4月1日より「救急救命士法施行規則の一部を改正する省令」が適用され、心肺機能停止前の重度傷病者に対する乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保および輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与が新たに救急救命処置に加えられました。この処置拡大により、救急救命士がおこなう PIVC の対象は CPA 傷病者だけでなく、心肺停止前の重度傷病者にまで対象が広がったことで、救急救命士の PIVC 実施機会は増加しました。

しかし、PIVC の成功率は 60% 前後と、病院内で実施する静脈路確保の成功率に比して低い値です。成功率の上昇に必要な不可欠である病院前における PIVC 成否因子に関する報告は少なく、救急救命士の PIVC 成否因子を包括的に調査した研究は少ないのが現状です。病院前におこなわれる PIVC の成功率向上には、その成否因子を明らかにすることが必要不可欠であり、これに基づいた技術講習方法の開発によって、PIVC 成功率の向上が期待できる研究をおこなっています。さらに、自動心臓マッサージ機が静脈路確保に及ぼす影響についても研究をしており、救急現場における静脈路確保技術の向上に寄与する論文を投稿しています。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

救急救命士が実施する静脈路確保の成功は傷病者の血管の性状に依存しているのが現状です。成功率を向上させるためには、傷病者の血管状態に左右されるのではなく、救急救命士の技術的な能力に重点を置いた取り組みが必要です。そのためには、静脈路確保に関する新たな教育方法を模索する研究が不可欠です。静脈路確保の技術向上が実現すれば、救急現場でのアドレナリン投与を迅速に実施することができ、心肺停止傷病者の脳機能予後の改善につながる可能性があります。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

- ・「救急救命士の静脈路確保成否因子に基づく講習会の効果」
- ・「救急救命士の静脈路確保成否因子に関する検討」
- ・「自動胸骨圧迫装置が救急救命士の静脈路確保に及ぼす影響」

## 低栄養診断の国際標準化（GLIM 基準の導入）に向けた筋量評価法の課題と展望



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 教授

福島 亮治 Fukushima Ryoji

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 栄養不良・低栄養・GLIM (Global Leadership Initiative on Malnutrition)

基準・筋肉量測定・BIA (Bioelectrical impedance analysis)・CT・大腰筋体積



### 研究の概要

SDGs 目標 2 : 飢餓をゼロに

SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

栄養不良は、周術期医療、がん医療、高齢者医療など、幅広い領域において予後や治療成績に影響を及ぼす重要な因子である。近年、国際的に栄養不良の診断概念が整理され、GLIM (Global Leadership Initiative on Malnutrition) 基準による低栄養の診断枠組みが標準化されつつある。同基準は、表現型基準と病因基準を組み合わせるが、表現型基準として筋肉量低下が明確に位置づけられた点が特筆される。さらに GLIM 基準の概念は、2027 年より ICD-11 の低栄養の診断として記載されることが決定しており (5B72)、多方面における低栄養評価の国際的整合性が求められる状況にある。

筋肉量評価には CT 法、DXA 法、BIA 法など複数の手段が存在するが、測定原理や生体水分量の変動に対する感受性の差異により、測定値の乖離や変化量の解釈に不確実性が生じうる。特にがん患者や術後患者では炎症や浮腫を背景とした体水分変動が生じ、BIA 法では筋量の過大評価が生じる可能性も指摘されている。

我々は、胃癌および食道癌術後患者を手始めに、術後経時的に BIA 法と CT 法 (大腰筋体積) を比較し、その有用性と課題を検討している。BIA 法は簡便性・反復性・非侵襲性に優れるが、術後患者では、BIA 法の筋量が CT 法に対し約 10% 程度過大に評価されることが示唆され、今後水分補正アルゴリズムや換算係数の開発、あるいは複合指標構築により精度向上を目指している。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国際的な低栄養診断に筋量低下が組み込まれ、筋量評価の標準化は栄養治療、サルコペニア・フレイル対策、周術期管理、がん治療、介護領域において重要となる。BIA 法は簡便性と反復性に優れている一方、水分量で誤差が生じやすい側面がある。機器メーカーと協力して、補正アルゴリズム・換算係数・複合指標を開発するといった技術革新を目指す。

また ICD-11 導入により、低栄養の定義が確立されれば、保険制度、疫学研究、多施設データベース、および AI を用いた解析などが国際的に展開できる可能性が高い。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「The GLIM consensus approach to diagnosis of malnutrition: A 5-year update.」
- ・「Guidance for assessment of the muscle mass phenotypic criterion for the Global Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM) diagnosis of malnutrition.」
- ・「BIA 法は上部消化管癌手術患者の術後 6 ヶ月の筋肉量を正確に測定できるか? -CT 法との比較による検討-」

# ひきこもりと地域共生：持続可能な支援アプローチの探求



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 講師

森川 由基 Morikawa Yoshiki

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：ひきこもり・不登校・孤立・孤独・抑うつ

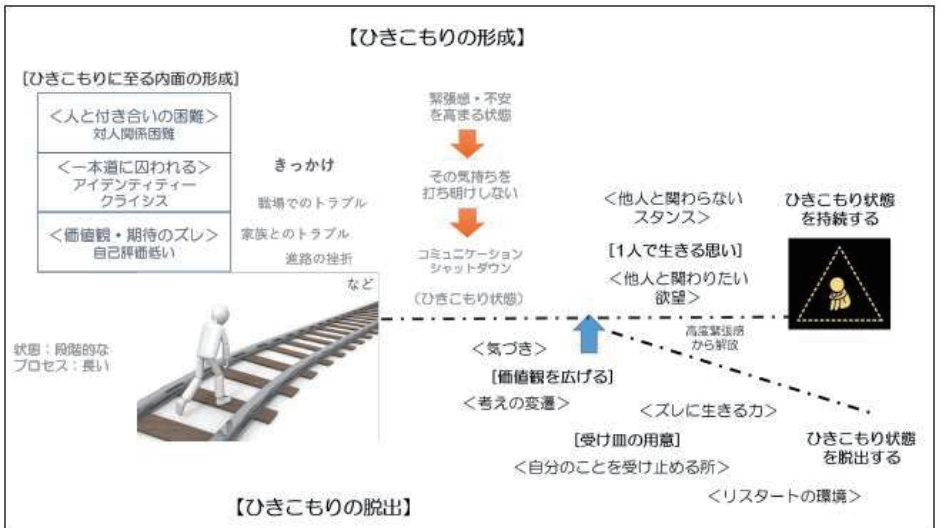


## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

ひきこもり当事者数は増加傾向にあり、15歳～64歳の生産年齢人口において、約146万人がひきこもり状態であるという調査（2023年 内閣府）より、この数は過去の調査と比較しても大幅に増加しており、深刻さが増していることが示唆されます。

ひきこもり問題に及ぼす影響を理解し、ひきこもりの背景に合わせた新しいアプローチを開発する必要がありますが、既存の研究や支援にとらわれず、ひきこもり当事者が地域に根付いて社会参加を実現するプロセスの新たな可能性を探求し、地域特性を考慮したうえで、ひきこもりの背景に合わせた新しいアプローチ法の開発を目指します。ひきこもりに及ぼす影響を学際的かつ創造的に検討し、ひきこもり当事者が地域に根付いた社会参加を実現できるよう、新たな可能性を探求します。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、11兆円の経済的損失を生み出しているとも試算されている「ひきこもり」や「不登校」を解決へと導き、教育現場のみならず、経済活動をおこなう産業界全体に影響を及ぼすことが期待される。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ひきこもり(Hikikomori)当事者に対する在宅医療の介入とその重要性」
- ・「COVID-19による人工的ひきこもりとフレイルとの関連」

【科研費】 基盤B「地域共生におけるひきこもり問題の画期的研究：共感から共生への新たな道」

# NAD<sup>+</sup> 消費酵素からアプローチしたマクロファージの機能解析



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

山本 伸一郎 Yamamoto Shinichiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: NAD<sup>+</sup>・NAD<sup>+</sup> 消費酵素・マクロファージ



## 研究の概要

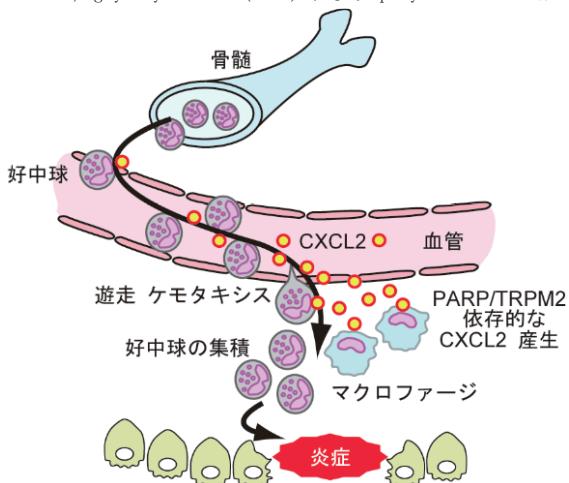
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

Nicotinamide adenine dinucleotide (NAD<sup>+</sup>) は、ATP 産生や様々な反応における補酵素として必須の役割を担っており、その低下は細胞機能の低下を引き起こす。細胞内の NAD<sup>+</sup> 量は、NAD<sup>+</sup> の合成と消費のバランスによって影響を受ける。NAD<sup>+</sup> 消費酵素として、Poly (ADP-ribose) polymerase (PARP)、及び CD38 などが挙げられる。PARP は、自身を含む他の分子などに NAD<sup>+</sup> を基質として ADP-ribose を付加し、poly ADP-ribose 化を引き起こす。その後、Poly (ADP-ribose) glycohydrolase (PARG) により poly ADP-ribose から ADP-ribose が遊離される。TRPM2 は、ADP-ribose により活性化される Ca<sup>2+</sup> チャネルである。

これまでマクロファージにおける PARP/PARG により NAD<sup>+</sup> 消費を伴った ADP-ribose 産生による TRPM2 活性化の生理的役割について研究に携わり、マクロファージにおけるこの経路の活性化がサイトカイン産生に関与していることを明らかにした。

CD38 は、NAD<sup>+</sup> を TRPM2 の活性化を引き起こす ADP-ribose に変換する酵素である。

現在は、マクロファージにおける CD38 の生理的役割の解明に焦点をあてて、研究を進めている。



医学

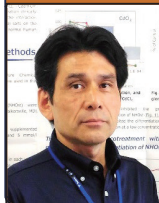
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

マクロファージは、様々な炎症性サイトカインを産生することで、免疫細胞などの活性化を引き起こし、炎症反応におけるエフェクター細胞として中心的な役割を担っている。しかしマクロファージの暴走は、サイトカインストームといった、炎症性サイトカインの過剰産生による炎症性疾患の増悪をもたらす。つまり炎症時のマクロファージの抑制的制御は、炎症性疾患の症状の改善につながる。NAD<sup>+</sup> 消費酵素からマクロファージの機能にアプローチすることで、炎症性疾患の新たな治療戦略につなげたいと考えている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「TRPM2-mediated Ca<sup>2+</sup> influx induces chemokine production in monocytes that aggravates inflammatory neutrophil infiltration.」
- ・「Tyrphostin AG-related compounds attenuate H2O2-induced TRPM2-dependent and -independent cellular responses.」
- ・「Short TRPM2 prevents the targeting of full-length TRPM2 to the surface transmembrane by hijacking to ER associated degradation. Biochemical and Biophysical Research Communications」

# 消費者製品含有化学物質の健康リスク評価等に関する研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

伊佐間 和郎 Isama Kazuo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 消費者製品・化学物質・曝露評価・有害性評価・健康リスク評価



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

消費者製品（家庭用品、化粧品、医薬部外品等）に用いられる材料及び添加剤並びにそれらの不純物の中にはヒトの健康に影響を及ぼす化学物質があります。しかし、それらの化学物質の健康リスクを科学的に評価して適切に管理すれば、それらを含む消費者製品を安全に使用することができます。そこで、高速液体クロマトグラフィー質量分析法、ガスクロマトグラフィー質量分析法、キャピラリー電気泳動法、蛍光 X 線分析法等による消費者製品に含まれる化学物質の分析法を確立し、市販製品における対象化学物質の含有量、溶出量又は放散量を調査します。また、消費者製品の使用に伴う対象化学物質の曝露量を評価します。さらに、必要に応じて、*in vitro* 細胞毒性試験、*in chemico* 感作性試験等を実施し、消費者製品に含まれる化学物質の有害性を評価します。曝露評価及び有害性評価から得られたデータ並びに文献調査等から得られた情報に基づいて、消費者製品の使用に伴う対象化学物質の健康リスク評価をおこないます。

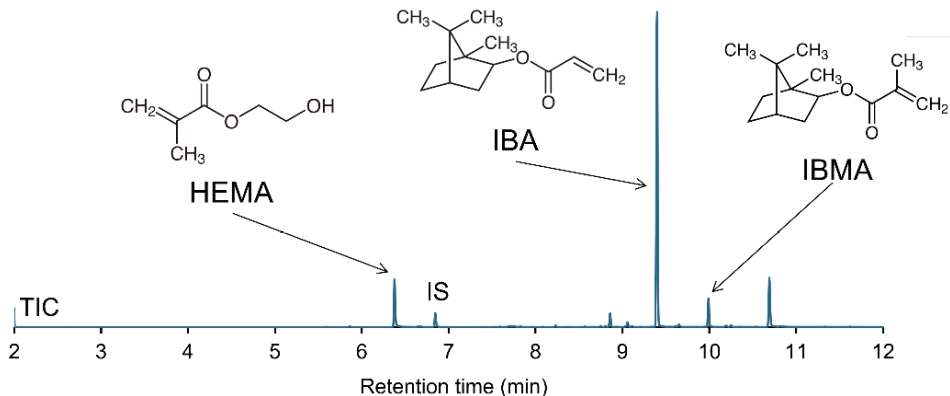


図 ジェルニール中残留モノマーのヘッドスペース固相マイクロ抽出/ガスクロマトグラフ質量分析の一例

HEMA : 弱い細胞毒性、IBA : 中程度の細胞毒性と皮膚感作性、IBMA : 中程度の細胞毒性

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

消費者製品に含まれる化学物質の分析調査や有害性試験等をおこないます。それらの結果から、消費者製品の使用に伴う化学物質の健康リスク評価をおこないます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Quantitative comparison of anticancer drug dispersal before and after introducing appropriate preparation procedures during anticancer drug preparation.」
- ・「Investigation and improvement of techniques that affect the amount of dispersal during preparation of anticancer drugs.」
- ・「Effect of secondary particle size of nickel oxide nanoparticles on cytotoxicity in A549 cells.」

# ナノ材料の安全性評価に関する研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

磯田 勝広 Isoda Katsuhiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : ナノ粒子・薬物相互作用・肝臓



## 研究の概要

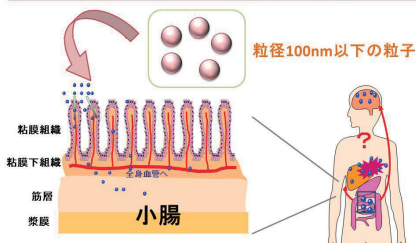
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 12 : つくる責任 つかう責任

ナノ材料の安全性評価研究は、電化製品や医薬品、食品などに応用されているナノテクノロジーに用いられているナノ材料着目し、安全性評価の基礎的知見と、薬物とナノ材料の薬物相互作用を検討している。ナノ材料に関して国民に安全・安心を確保することで社会面・安全行政面での貢献を目的としている。

実際、食品添加物と包装材に使用されるナノ材料の安全性評価は、法規制と製造業界の自主規制により、一般毒性試験の科学的データに基づき審議されている。しかし、日常使用されている薬物との相互作用解析は皆無である。現在までのナノ材料研究は万能素材としての機能面に焦点が当てられてきたが、最近マクロ材料では毒性を示さない素材がナノ化に伴い組織傷害性を発揮することが示されている。これまでに世界に先駆けてシリカ、ナノクレイ、リボソーム、白金および鉄などのナノ材料の解析をこない、肝傷害性と腎傷害性、さらに薬物による傷害性があることを発見した。そこで現在は、ナノ材料傷害性の知見を基にいち早く発見するためのバイオマーカーを探索している。本研究は実用化されているナノ材料の安全性評価の知見集積と、日常で使用される薬物と予想できない副作用を未然防止し、安心・安全な健康生活をまもるためのテーマである。

### 吸収されたナノ材料の危険性(食品を例として)



### ナノ粒子の全身レベルでの安全性解析

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究により新規製造されるナノ材料とナノ粒子の安全性が明らかとなり、安全性が確保できる。ナノ材料やナノ粒子は生体に対し、未知の傷害性や薬物相互作用などが存在することを実験的に明らかにしている。本研究の実験系では公平に安全性を評価し、ナノ材料が生体に安全であることを担保することが出来る。さらにナノ材料と薬物の相互作用における肝傷害と腎傷害などのバイオマーカーを検討することで未知の傷害性を検出でき、安全・安心な材料であることをアピールすることができる。安全・安心な材料の創生することで人と環境への貢献が期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

1. Nishimori H., Kondoh M., Isoda K., Tsunoda S., Tsutsumi Y., Yagi K., Silica nanoparticles as hepatotoxicants., Eur. J. Pharm. Biopharm., 72, 496-501. 2009. (査読有)
2. Isoda K., Tetsuka E., Shimizu Y., Saitoh K., Ishida I., Tezuka M., Liver injury induced by thirty- and fifty-nanometer-diameter silica nanoparticles., Biol. Pharm. Bull., 36, 370-375. 2013. (査読有 Corresponding author)
3. Isoda K., Daibo T., Yushina K., Yoshioka Y., Tsutsumi Y., Akimoto Y., Kawakami H., Taira Y., Taira I., Yanoshita

# 飲み込みやすさを考慮した新規経口製剤の開発



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

伊東 育己 Ito Ikumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：嚥下困難・ゲル化錠剤・高分子・アルギン酸ナトリウム・カラギーナン



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

薬物治療で汎用されている錠剤は、嚥下に問題を抱えた患者では服薬アドヒアランスの低下により、十分な治療効果が得られない場合がある。特に高齢者や神経疾患患者、在宅医療を受ける患者においては、錠剤の服用が困難であることが治療継続の大きな障壁となり、結果としてQOLの低下を招く可能性がある。

嚥下困難のある患者に適用されることの多い口腔内崩壊錠は、服用時の水を必要としない利点を有する一方で、製剤の持つ附着性による口腔・咽頭内での残存が報告されている。また、一部の有効成分ではゲル化製剤が開発されているものの、使用頻度の低い成分や在宅医療など個別対応が求められる場面では、簡便に最適な製剤を調製できる手法が望まれる。さらに、院内製剤や薬局製剤として報告されている中で、嚥下性を主要な設計・評価項目として検討した錠剤の報告は限られている。

高分子は水分を吸収して膨潤し、ゲル状に変化する性質を有する。口腔内において柔らかくまとまり、適度な水分を保持することで、咽頭・口腔内奥への移送が容易になると考えられる。病院や薬局においても調製可能で、様々な有効成分に応用できる製剤設計を目指し、服用時の水分により製剤表面が速やかに吸水膨潤し、口腔内でまとまる高分子配合製剤について検討してきた。

一方で、製剤のゲル化は主薬の溶出遅延を招く可能性があり、嚥下補助を目的としたとろみ剤においても、製剤の崩壊遅延が報告されている。そこで種々の高分子および賦形剤を用い、速やかな吸水膨潤性に加え、附着性が小さく口腔内や咽頭内に残留しにくい性質と、消化管内における適切な崩壊性を併せ持つ製剤の調製を検討する。

主薬＋ゲル化材料



服用時の水分



表面が膨潤・ゲル化



附着性が小さく、口腔内でまとまることで、嚥下を容易にする

薬学

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

個別化医療は提供される治療そのものだけでなく、治療薬の製剤にも求められると考えます。個々の患者さんの状態に合わせた製剤を病院や薬局でも簡易的に調製が可能で、様々な成分に対応できれば、使用頻度の低い成分や、在宅医療など個別に対応が必要となる場合にも最適な製剤を提供することができます。さらに、市販化につながれば広く薬物治療の向上に寄与できるものと考えます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Preparation and evaluation of gelling granules to improve oral administration.」
- ・「服用性の向上を目的とした経口製剤の検討～アルギン酸ナトリウムを用いたゲル化錠剤の調製と評価～」
- ・「Preparation and evaluation of water-absorbing swollen mini-tablet aimed at improving ingestion.」

# グラム陰性菌に対する抗菌薬の感受性を高める VHH 抗体



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

大野 まき Ohno Maki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 薬剤耐性・コリスチン・VHH 抗体



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

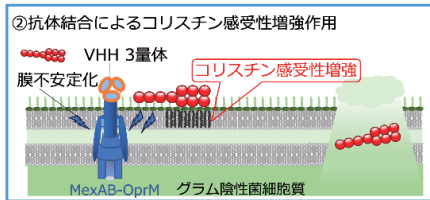
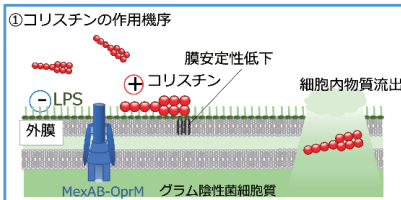
【研究目的】薬剤耐性菌の増加は世界的な問題であるが、新規抗菌薬の開発数は年々減少している。薬剤耐性化の原因の1つに、薬剤排出ポンプの過剰発現がある。そこで、抗菌薬の感受性を高めることを目的として、薬剤排出ポンプの薬剤排出口のループに結合するアルパカ由来一本鎖重鎖小分子抗体 (VHH 抗体) を作製した。

【研究概要】緑膿菌薬剤排出ポンプ MexAB-OprM の OprM 細胞外突出ループ 1 またはループ 2 に結合する VHH 抗体は、多剤耐性緑膿菌、大腸菌やアシネトバクター・バウマニに対するコリスチンとポリミキシン B の最小発育阻止濃度 (MIC) を 1/4 に低下させた (表参照)。

### コリスチン最小発育阻止濃度 (μg/ml)

	抗体濃度 (μg/ml)	緑膿菌 OCR1	緑膿菌 PAO1	緑膿菌 TNP0721 ΔOprM	アシネトバクター・バウマニ ATCC 15308	大腸菌 ATCC 25922	黄色ブドウ球菌 ATCC 25923
抗ループ2 VHH 3量体	0	1	1	1	1	0.5	>128
	10	0.5	0.5	0.25	0.25	0.125	>128

FACS 解析により、本抗体は緑膿菌以外に欠損緑膿菌、アシネトバクター・バウマニ、大腸菌と結合することを確認した。カイコ緑膿菌感染症モデルにおけるコリスチン治療有効量は、抗体併用群においてコリスチン単独投与群より低減した。また、膜電位感受性物質を用いた検討により、本抗体は緑膿菌の外膜を不安定化することがわかった。本抗体は細菌外膜を不安定化し、外膜に作用するコリスチンやポリミキシン B の感受性を増強すると考えられた (図参照)。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

コリスチンは多剤耐性グラム陰性桿菌に対する「切り札」であり、点滴静注用製剤オールドレブが 2015 年に日本で承認された。しかし、用量依存的な腎毒性が報告されており、安全域が狭く十分な効果を得るのが難しい。本抗体の併用でコリスチンの投与量を低減できれば、より安全な治療戦略を開発できると考えている。

薬剤排出ポンプを架橋する VHH 3量体である本抗体を改良し、より抗菌薬感受性増強効果の高い抗体の開発を目指している。本研究のような技術開発により、既存の抗菌薬が多剤耐性菌に対して再度有効となれば、将来的に大きな経済効果をもたらすと考える。

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【特許】特願 2021-203699、PCT 国際出願/JP2022/46069

【学会発表】薬剤排出ポンプに結合する VHH 抗体の作製と抗菌薬感受性増強効果

# 唾液由来細胞外小胞の機能解析



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授  
小川 裕子 Ogawa Yuko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 細胞外小胞・exosome・唾液・免疫



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

細胞外小胞 (EVs) は RNA などを含む膜小胞で、様々な細胞から分泌される。EVs の中で最も知られている exosome は、標的細胞に取り込まれて遺伝子発現の調節をすることが明らかとなつて以来、特に、がん研究の分野で盛んに研究がおこなわれている。当研究グループは、ヒト唾液に EVs が存在することを、世界に先駆けて報告した。さらに、唾液 EVs には2種類の EVs (EV-I および EV-II) が存在することを明らかにし、タンパク質・RNA 構成成分の網羅的解析、体内条件での安定性の検討、免疫関連細胞への作用の検討をおこなってきた。特に、ジペプチジルペプチダーゼ IV (DPP IV) を表面に有する exosome 様の EV-II は、口腔および消化管内の条件で安定に存在していること、マクロファージを活性化させることを明らかにしている。また、DPP IV は中東呼吸器症候群 (MERS) の受容体であることが知られているが、EV-II も DPP IV に結合し、口腔内でデコイ受容体として、感染防御に寄与している可能性が示唆された。

以上のことから、唾液 EVs は口腔内衛生を維持する作用および口腔から腸管に至る免疫賦活化作用を有する可能性が考えられる。

本研究の目的は、①標的細胞に対する影響の解析、②感染防御作用の検討、③唾液 EVs を利用した生体防御機能を高める口腔ケアの可能性の探索である。

共同研究者 : 薬学部 薬学科

薬学部 薬学科 教授 矢ノ下 良平

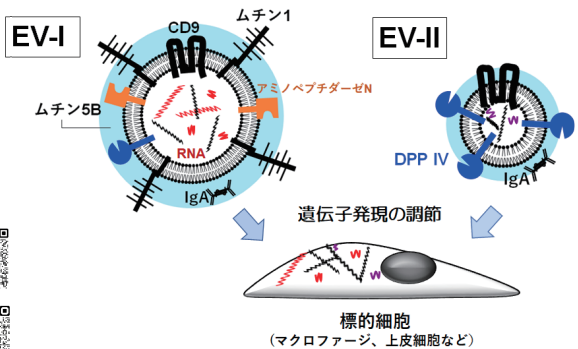
[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

薬学部 薬学科 准教授 池本 守

[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



## 唾液由来EVs



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の発展により、唾液の新たな機能が明らかになる可能性がある。現在は本 EVs を少量の唾液から抽出する方法を検討しているので、疾患バイオマーカーの探索につながる可能性がある。さらに、将来的には、唾液由来EVs を添加した口腔ケア製品の開発および本 EVs (またはその構成成分) を利用した DDS への応用が期待される。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「Stability of human salivary extracellular vesicles containing dipeptidyl peptidase IV under simulated gastrointestinal tract condition」
- ・「Small RNA transcriptomes of two types of exosomes in human whole saliva determined by next generation sequencing」
- ・「Proteomic analysis of two types of exosomes in human whole saliva.」

地域包括ケアシステムにおける薬局の中間支援機能の解明と地域密着型支援モデルの構築  
— 在宅医療・高齢者支援とヘルスケア製品活用の視点から —



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

小原 道子 Obara Michiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 地域包括ケアシステム・薬局機能・中間支援機能・在宅医療・服薬支援・ヘルスケア製品活用

## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

我が国では急速な高齢化と人口構造の変化に伴い、医療・介護・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの深化が求められている。その中で薬局は、従来の処方箋調剤を中心とした機能に加え、住民の日常生活に最も近い医療資源として、健康相談や生活支援を含む多面的な役割を担うことが期待されている。また薬局は、医薬品のみならず、服薬補助製品や衛生材料、栄養関連製品など生活に密接に関わるヘルスケア製品の適切な使用方法を助言する拠点でもあり、医療と生活をつなぐ重要な接点となり得る。

本研究は、地域包括ケアシステムにおいて薬局が果たしうる社会的役割と機能を明らかにすることを目的とし、地域住民調査、薬局利用実態調査、事例分析などの実証的研究を通じて検討をおこなうものである。特に、孤独感や社会的孤立、服薬困難、受診控えなどの「医療と生活の狭間」に存在する課題に着目し、薬局がそれらを早期に把握し、医療・介護・福祉へとつなぐ「中間支援機能」としてどのように機能し得るかを明らかにする。

さらに、在宅医療や高齢者支援の現場における服薬支援の実態や、地域住民との日常的接点を活かした健康支援活動、行政や多職種との連携の在り方を分析するとともに、在宅療養や高齢者の生活課題を踏まえたヘルスケア製品の適切な活用や、現場ニーズに基づく生活支援製品の開発可能性についても検討する。これらの成果を通じて、薬局を核とした地域密着型支援モデルを提示し、地域特性を踏まえた薬局機能の再定義と持続可能な地域包括ケアの実装に寄与することを目指す。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### ○実学へのつながり・社会的意義

薬局は地域住民の日常生活に最も近い医療資源の一つであり、医療機関の受診や介護サービスの利用に至る以前の「病気になる前」の生活段階において生じる課題を把握し、必要な対策や支援へとつなぐ役割を担うことが期待されている。本研究では、地域住民の健康課題や生活課題の実態を明らかにするとともに、薬局が地域において果たし得る支援機能を整理し、地域包括ケアシステムの実践に資するモデルの構築を目指す。また、在宅療養や高齢者支援の現場から得られるニーズを踏まえ、服薬支援製品や生活支援製品などヘルスケア製品の適切な活用および開発の可能性についても検討し、医療・福祉・産業分野を横断した実践的研究として展開する。

### ○産業界・自治体へのアピールポイント

地域住民の生活課題や健康課題の実態調査を基に、薬局を核とした地域支援モデルを提案する研究であり、自治体の地域包括ケア政策や健康づくり施策への活用が期待される。また、在宅療養や高齢者支援の現場におけるニーズを踏まえたヘルスケア製品の活用・開発に関する知見を提供することにより、医療・介護分野と連携した製品開発やサービス創出への応用が可能である。

### ○協力可能事項

- ・地域住民を対象とした健康、生活実態調査のサポート
- ・薬局を拠点とした地域健康支援活動の企画、評価
- ・在宅医療、服薬支援に関する実践研究
- ・高齢者、在宅療養者の生活課題を踏まえたヘルスケア製品の評価および活用研究
- ・産官学連携による地域健康支援モデルの構築

### ○協力希望事項

- ・自治体との連携による地域住民調査および健康支援活動の実施
- ・共同研究による在宅医療、高齢者支援に関する製品開発
- ・地域薬局や医療機関との連携による実践研究フィールドの構築



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

小原 道子 Obara Michiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 地域包括ケアシステム・健康茶房・産官学民連携・孤独・孤立対策・セルフメディケーション・地域健康支援

## 研究の概要

我が国では高齢化や社会構造の変化に伴い、医療・介護・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの深化が求められている。

一方で、孤独・孤立や健康不安、服薬困難などの生活課題は、医療機関受診以前の段階で生じることが多く、既存の制度のみでは把握されにくい。

本研究は、産官学民が連携して展開する地域交流の場を学内及び学外で「健康茶房」として開催している。

「健康茶房」は地域住民が気軽に立ち寄れる環境の中で健康不安や生活課題を早期に把握し、医療・介護・福祉等の支援へつなぐ実践フィールドとし、地域支援モデルの構築と検証を目的とする。

薬剤師・薬学生による健康相談や服薬支援を通じて、地域包括ケアの実践に資する新たな地域支援モデルとしての社会実装を目指すとともに、地域連携の仕組みや薬学生教育プログラムの体系化を図る。

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### ○実学へのつながり・社会的意義

健康茶房は、地域住民が気軽に集える交流の場を通じて健康不安や生活課題を早期に把握し、医療・介護・福祉等の専門的支援へつなぐ地域支援モデルである。

本研究では、その運営方法や評価指標を整理し、地域包括ケアシステムの実践に資する地域健康支援モデルの確立を目指す。また、薬学生の地域活動教育の実践フィールドとして活用できる点にも特徴がある。

### ○産業界・自治体へのアピールポイント

地域住民との継続的な交流を通じて健康課題や生活ニーズを把握できる実践的研究であり、自治体の健康づくり施策や地域包括ケア政策への応用が期待される。企業にとっても、地域貢献活動の実践やヘルスケア製品・サービス開発の実証フィールドとして活用可能である。

### ○協力可能事項

- ・地域住民を対象とした健康、生活実態調査
- ・地域交流型健康支援活動の企画、評価
- ・薬学生の地域活動教育プログラムの開発
- ・ヘルスケア製品、サービスの実証研究

### ○協力希望事項

- ・自治体との連携による地域健康支援活動の実施
- ・企業との共同研究によるヘルスケア製品開発
- ・地域薬局、医療機関との連携による実践研究フィールドの構築

# フェナントロビリジン関連化合物の合成と活性評価



【中野キャンパス】薬学部 薬学科

教授 小松 俊哉 Komatsu Toshiya

講師 赤木 祐介 Akagi Yusuke

助教 岩崎 絵理佳 Iwasaki Erika

URL : [帝京平成大学 医薬有機化学ユニット紹介ページ](#)

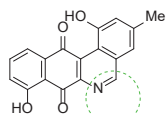


キーワード：ジャドマイシン・直接的アリール化反応・脳腫瘍細胞・神経膠腫

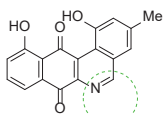
## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

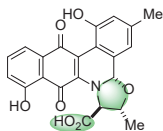
ベンゾ[b]フェナントリジンアルカロイドであるジャドマイシン類は、抗菌活性や抗腫瘍活性を示すことが知られている。当研究室では、ジュグロンの直接的アリール化反応を鍵工程としたジャドマイシン類及び類縁体の全合成を達成し、数種の腫瘍細胞を用いて細胞傷害活性の評価をおこなった。その結果、評価した化合物は、配糖体よりアグリコンの方が強い細胞傷害活性を示す傾向にあった。また、天然に存在するフェナントロビリジンアグリコンとフェノール性水酸基の位置が異なる非天然型の異性体では、天然型の方が強い細胞傷害活性を示すなど、構造活性相関に関する情報も得た。さらに、神経膠腫由来の脳腫瘍細胞 A172 に対して強い細胞傷害活性を示す化合物も見出し、血液脳関門の透過性等の検討は必要だが、ジャドマイシン類及び類縁体が、難治性で治療選択肢が限られる脳腫瘍治療薬のリード化合物となる可能性が示唆された。



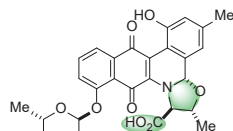
phenanthroviridin aglycon  
 $IC_{50}$  = 0.88  $\mu$ M (A172)  
 $IC_{50}$  = 0.45  $\mu$ M (HepG2)  
 $IC_{50}$  = 1.94  $\mu$ M (MKN74)



isomer of phenanthroviridin aglycon  
 $IC_{50}$  = 1.23  $\mu$ M (A172)  
 $IC_{50}$  = 0.61  $\mu$ M (HepG2)  
 $IC_{50}$  = 1.21  $\mu$ M (MKN74)



jadomycin T aglycon  
 $IC_{50}$  = 0.92  $\mu$ M (A172)  
 $IC_{50}$  = 1.30  $\mu$ M (HepG2)  
 $IC_{50}$  = 1.57  $\mu$ M (MKN74)



jadomycin T  
 $IC_{50}$  = 1.96  $\mu$ M (A172)  
 $IC_{50}$  = 3.29  $\mu$ M (HepG2)  
 $IC_{50}$  = 0.63  $\mu$ M (MKN74)

- 【論文】
- Yusuke Akagi, Yuta Mori, Yudai Sato, Erika Iwasaki, Toshiya Komatsu “Total synthesis of jadomycins A, B, and L-digitoxosyl-phenanthroviridin” *Tetrahedron Lett.* **2022**, 101, 153919. doi: 10.1016/j.tetlet.2022.153919 (Editor’s Choice Collection)
  - Erika Iwasaki, Yoshimi Shimizu, Yusuke Akagi, Toshiya Komatsu “Synthesis and *in Vitro* Cytotoxicity Evaluation of Jadomycins” *Chem. Pharm. Bull.* **2023**, 71, 730-733. doi: 10.1248/cpb.c23-00351 (Featured Article)
- 【学会発表】
- 清水皓基、岩崎絵理佳、清水芳実、赤木祐介、小松俊哉 『L-Digitoxosyl-phenanthroviridin の全合成と活性評価』 第 67 回日本薬学会関東支部大会 (2023 年 9 月・東京)
  - 岩崎絵理佳、清水芳実、赤木祐介、小松俊哉 『ベンゾ[b]フェナントリジンアルカロイドの合成と活性評価』 第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム (2024 年 10 月・神戸)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新規の抗悪性腫瘍薬の開発は、近年注目される研究分野のひとつである。なかでも脳腫瘍の一種である神経膠腫は進行性に致死性が高い疾患である。しかし、脳疾患に対する医学的治療は依然として課題があり、特に神経膠腫組織は不透透性であるため、治療薬は限定的である。そのため、神経膠腫組織に浸透可能な薬剤の開発や脳を標的とする DDS 技術の高度化など、新たな治療戦略の創出が求められている。本研究はその基盤となる知見を提供するものであり、今後の発展的研究の進展とともに有効な治療法の確立が期待される。

# 漢方医学の基礎理論に関する研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

鈴木 達彦 Suzuki Tatsuhiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 傷寒論・田代三喜・曲直瀬道三・能毒・察証弁治



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

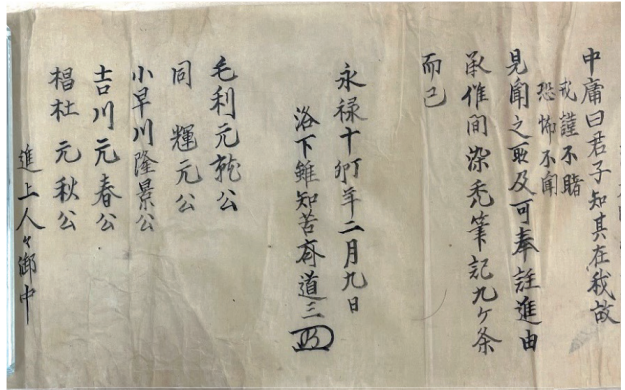
江戸時代は我が国独自の医学体系が築かれたことで知られており、この時代の漢方医学を研究することは現代における漢方治療を考え、またその発展を図る上で重要です。

江戸時代における医学の発展の要因となった室町後期から安土桃山時代に活躍した田代三喜(たしろさんき)と曲直瀬道三(まなせどうさん)による「能毒」(薬物書)は日本漢方の薬物理論の根底となったはずですが、今日のものとは大きく異なります。三喜と道三は、既存の処方を用いずに、その都度患者の状態に合わせて、1つ1つ生薬を選んで処方を組み立てていく察証弁治という治療体系をとっており、この治療においては薬物理論が取り分け重要であったはずですが、薬物理論と臨床の場における運用法との関係が明らかになることは、伝統医学における文献の研究の意義を高め、今日の臨床においても大きな示唆を与えるでしょう。

また、伝統医学における教育体系を理解する上で、曲直瀬道三が門人に授与した『切紙(きりがみ)』の研究は極めて重要です。『切紙』は、道三が門人の習熟段階に応じて授けた医術の秘訣であり、当時の段階的な教育課程を象徴する資料です。切紙の研究により伝統医術継承のシステムが明らかになり、日本漢方の教育史における新たな知見を提示できます。

漢方医学の研究では、生理論や治療論に立ち返った考察も必要です。

『傷寒論』、『金匱要略』は今日でも重要な医学書です。これらの研究は盛んでありましたが、定着した解釈には達していません。基礎理論に立ち返り、『傷寒論』『金匱要略』を追求することは漢方治療の発展につながると考えます。



曲直瀬道三が毛利元就らに送った書翰 (1567年)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本の漢方医学は、中国から多くの影響を受けたことは間違いありませんが、独自の発展を遂げたことも確かです。日本漢方を理解することは、自国の文化や風土を理解することにつながり、尊厳を与えるものになります。国際疾病分類第11回改訂版(ICD-11)においては、東アジアの伝統医学の分類も設けられ、中韓に対して日本漢方独自のものも採用されています。本研究によって伝統医学的な治療において具体的な運用法を広げていくという実学につながる面があります。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- ・「生薬とからだをつなぐー自然との調和を目指した生薬の使い方」
- ・「『腹証奇覧』の版種の異同とその要因について 和久田叔虎による『腹証奇覧』の校正の可能性」

## ビフィズス菌をドラッグデリバリー担体に用いた固形がんに対する新規治療法の開発



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

平 裕一郎 Taira Yuichiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 嫌気性菌・DDS・抗腫瘍薬



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

#### がん組織と低酸素環境

がん組織の周りには血管がたくさん分布している傾向にあり、その血管からがんが栄養や酸素が供給されています。しかし、がん組織の細胞によって酸素が消費されるため、がん組織の中央部までは酸素が届きにくく、低酸素状態になっています。血液中のビフィズス菌は、この低酸素環境に集まる性質があります。

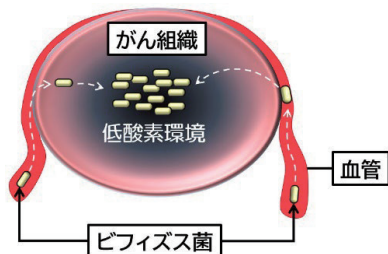
#### ビフィズス菌と低酸素環境

口から入った酸素は、小腸内の腸内細菌が消費します。そのため大腸内は酸素がほとんどありません(低酸素環境)。大腸の腸内細菌の99%以上は酸素がなくとも生きていける嫌気性細菌です。嫌気性細菌であるビフィズス菌は低酸素状態と相性が良く、がん組織の中で増えることができます。

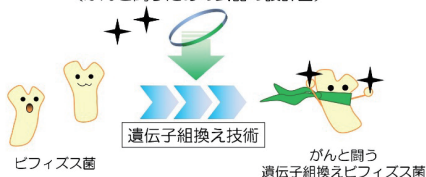
#### 遺伝子組換えビフィズス菌

がん組織に集まったビフィズス菌ががん細胞を倒せるように、遺伝子工学によって武器となるタンパク質を作らせます。このような武器を作り出すビフィズス菌で、がん組織の中からがん細胞を攻撃します。

(共同研究者 : 薬学部 斎藤浩美・平郁子・西川毅)



抗がんタンパク質の遺伝子  
(がんと闘うための武器の設計図)



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医薬品は製薬企業が多額の投資をおこなって開発しますが、副作用や効果不十分といった理由から開発や販売が中止されることがあります。我々はビフィズス菌等を応用し、このような放棄された医薬品候補の安全性と効力を高めることで医薬資源として掘り起こし、効果の高い医薬品としてリバイバルさせる技術開発を目指しています。本技術により、抗腫瘍効果を有するタンパク質製剤を腫瘍局所内に直接的に発現させ、がん治療が可能となります。

#### 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

##### 【学術論文】

・「Anti-tumor effect of a recombinant Bifidobacterium strain secreting a claudin-targeting molecule in a mouse breast cancer model.」

##### 【知的財産権】

- ・「組換え偏性嫌気性グラム陽性菌」 “Recombinant obligate anaerobic gram-positive bacteria”  
特許第 6176683 号/ US-B2-010882912/ EP-B1-003093338
- ・「抗腫瘍剤、腫瘍検出用マーカー及び経口ワクチン剤」  
“Anti-tumor agent, marker for tumor detection, and oral vaccine agent”  
特許第 6025127 号/ EP-B1-002873726

# 天然由来の抗老化物質の探索と評価



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

高松 智 Takamatsu Satoshi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 老化・線虫・活性酸素・天然物・漢方



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

日本人の平均寿命と健康寿命の差は平行を保っている。高齢者の死亡要因の9割は、がん、心疾患、肺炎、脳血管疾患で占められており、老衰は全体の3%に過ぎない。それゆえ、**健康寿命の延伸には、病気を未然に防ぎ、健康を保つこと、即ち予防が最も重要**である。このことは「未病」という独特の概念を重視する漢方学の考え方と合致している。

以前より老化や各種疾患に深く関わる**酸素ストレス**が**健康寿命の延伸に重要な鍵**であると考えられてきた。そこで、汎用されている漢方薬に着目し、その中に健康寿命の延伸に寄与するものがあるのかを網羅的に解析している。その評価は、線虫に対する寿命延伸効果と細胞内の抗酸化活性評価系を組み合わせで実施している(図1)。

一例として、ストレスの軽減に使用される漢方エキスに寿命延長効果が認められた例を示した(図2)。

特に全身状態の改善を目的とした処方に、線虫の寿命延伸が認められた。

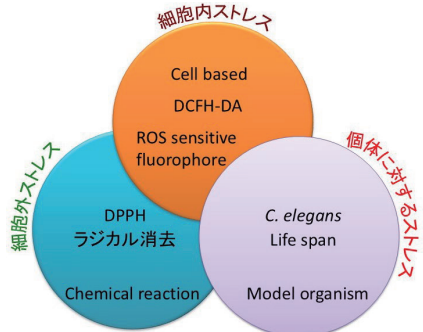


図1. 天然由来物質の寿命延伸及び抗酸化ストレスの評価方法

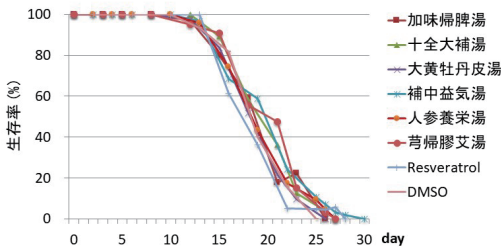


図2. 漢方エキス添加時の線虫の寿命曲線と寿命延長率

漢方試料	最大寿命	延長率 (%)
補中益気湯	30	20
人參養栄湯	27	8.0
十全大補湯	25	0
加味帰脾湯	26	4.0
大黃牡丹皮湯	26	4.0
苧綿膠艾湯	26	4.0
Resveratrol	28	12
control (DMSO)	25	-

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

天然由来の漢方薬やその構成生薬には、まだ明らかになっていない薬効や用途も数多く存在すると考えられている。本研究により、生薬・漢方薬利用の新たな道を開き、高齢者のQOLの向上に役立つ発展性のある研究であると考えている。また、その他の天然由来物質の探索と抗老化評価も併せておこなっている。得られた成果は予防という観点から、高齢者のフレイル対策に寄与できるものと期待できる。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

【科研費】15K08002「抗老化を目指した天然資源の探索研究」

- ・「抗酸化活性を示す漢方薬の抗老化評価」
- ・「健康寿命の延伸を目指した生薬及び漢方薬の評価」

# 免疫応答性外来抗原を導入したがん細胞の活用



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師  
建部 卓也 Tatebe Takuya



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

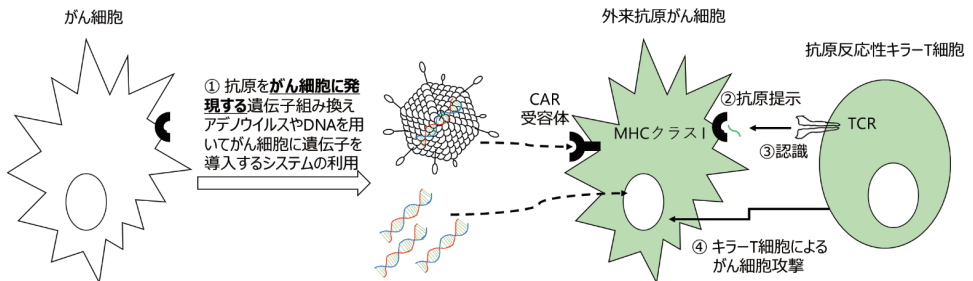
キーワード : 免疫活性化・T細胞免疫・細胞傷害性T細胞・がんワクチン

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

2014年にPD-1抗体オプジーボ（ニボルマブ）が悪性黒色腫に対するがん治療薬として日本で承認されて以降、免疫チェックポイント阻害剤はがん治療に革新的な進展をもたらしてきた。一方で、その治療効果は症例によって大きく異なり、十分な治療効果が得られない患者も少なくないことから、免疫応答をさらに増強する新たな治療戦略の開発が世界的に活発に進められている。このような背景のもと、我々はがん細胞そのものに細胞性免疫を強力に誘導可能な外来抗原を新たに発現させることで、宿主免疫によるがん細胞認識と排除を飛躍的に高める手法の確立を目指した。本研究では、免疫誘導抗原を発現させた改変がん細胞を用いることで、がん細胞に対する抗原特異的な細胞性免疫が強力に賦活化され、既存のがん細胞が完全に消失することを確認した。さらに、この免疫応答は一過性にとどまらず、同一がん細胞の再移植に対しても完全な拒絶を示す免疫記憶が誘導され、ワクチン様効果が獲得されることを明らかにした。これらの結果は、改変がん細胞が単なる治療手段にとどまらず、がんの再発予防を含む長期的免疫防御の誘導にも寄与し得ることを示唆している。本研究成果により、我々はがんの治療および予防の両面に応用可能な、免疫原性を高めた改変がん細胞技術を提供できる可能性を示した。本技術は、免疫チェックポイント阻害剤との併用を含め、次世代がん免疫療法の基盤技術として発展することが期待される。

薬学



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

強力に免疫誘導を引き起こす外来抗原をがん細胞に発現させ、ネオ抗原由来ペプチドに対する感作細胞傷害性T細胞を誘導し、がん細胞への攻撃を引き起こす技術を提供できます。本技術は、抗PD-1抗体の効果増強、十分な細胞傷害性免疫が誘導されないタイプのがんに対する治療法の開発や新たなタイプのがんワクチンの創出をできる可能性があります。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

・「GPR120 signaling controls amyloid- $\beta$  degrading activity of matrix metalloproteinases.」

【特許】

・国際出願番号 PCT/JP2025/016891

「改変がん細胞及びそれを含むがんワクチン組成物」

# TRP チャネルの機能解析、阻害剤の探索・応用



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

戸田 雄大 Toda Takahiro



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: cerebral ischemia reperfusion injury・oxidative stress・drug repositioning・antidepressants・TRPM2・TRP channels

## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

Transient receptor potential (TRP) チャネルは、温度や化学物質、浸透圧などのさまざまな刺激により、Ca<sup>2+</sup>などのイオンを透過させることにより、細胞内の情報伝達を担っている。哺乳動物細胞において、現在までに6つのサブファミリーからなる、少なくとも29分子種より構成されていることが示されている。TRPは温度、化学物質および浸透圧など様々な刺激により活性化され、Ca<sup>2+</sup>などを透過させることで細胞内への情報伝達を担っている。

筆者らはこれまでに、チロシンリン酸化酵素阻害薬である数種の Tyrphostin AG 関連化合物が TRPM2 阻害作用を有していることを明らかにした。また、抗うつ薬である duloxetine が TRPM2 阻害作用により脳虚血後再灌流障害を抑制することを見出している。TRPM2 は酸化ストレスにより活性化される Ca<sup>2+</sup>透過性イオンチャネルであり、これまでの研究で、種々な疾患に関与することが示されている。特に、TRPM2 は脳・心虚血後再灌流障害、神経障害性疼痛、アセトアミノフェン誘発性肝障害およびデキストラン硫酸ナトリウム誘発性潰瘍性大腸炎の増悪に関与することが報告されている。また、TRPA1、TRPV1 および TRPM8 は、疼痛やかゆみに関与することが報告されている。本研究は、主に TRPM2 を中心として、各 TRP チャネルの機能解析および TRP 阻害剤の探索・応用を目的とする。

今年度は、主に脳虚血後再灌流障害と TRP チャネルを介した組織障害に関与する細胞の解明、および TRP チャネル阻害剤の作用点について重点的に検討する。また、TRP チャネルと精神疾患、主としてうつ病・不安神経症との関連についても検討する。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

TRPM2 は酸化ストレスにより活性化される Ca<sup>2+</sup>透過性イオンチャネルであり、これまでの研究で、種々な疾患に関与することが示されている。特に、TRPM2 は脳・心虚血後再灌流障害、神経障害性疼痛、アセトアミノフェン誘発性肝障害およびデキストラン硫酸ナトリウム誘発性潰瘍性大腸炎の増悪に関与することが報告されている。

TRPM2 の研究が発展した暁には、脳・心虚血後再灌流障害、神経障害性疼痛、アセトアミノフェン誘発性肝障害およびデキストラン硫酸ナトリウム誘発性潰瘍性大腸炎等の関連疾患の治療の一助となると考えている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 【論文】・「Inhibitory effects of Tyrphostin AG-related compounds on oxidative stress-sensitive transient receptor potential channel activation」
- ・「Protective Effects of Duloxetine against Cerebral Ischemia-Reperfusion Injury via Transient Receptor Potential Melastatin 2 Inhibition」

【科研費】課題番号: 21K09081

# 脂質性生理活性物質の産生機構に関する研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

中谷 良人 Nakatani Yoshihito

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : プロスタグランジン・炎症・ストレス応答

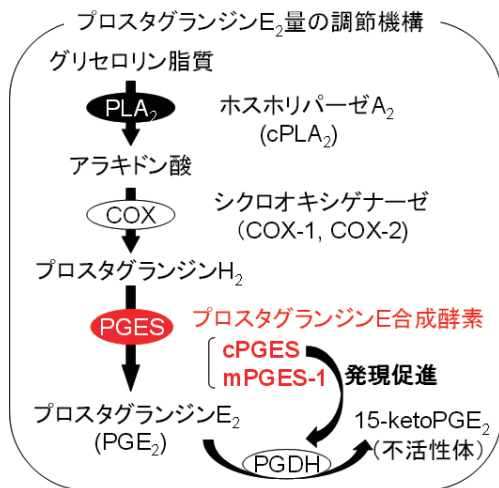


## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

プロスタグランジン E<sub>2</sub> (PGE<sub>2</sub>)は多彩な生理活性を有する脂質性生理活性物質であり、その生合成の最終段階を担うPGE合成酵素には細胞質型のcPGESと膜結合型のmPGES-1が存在する。前者は主に構成的に発現し、後者は主に炎症刺激により誘導されることが明らかにしてきた。

また、遺伝子欠損マウスを用いた解析により、cPGES欠損マウスは周産期で死に至ることから生命の維持に必須のタンパク質であることが分かった。一方、mPGES-1欠損マウスは正常に発育するが、炎症反応の悪化、急性疼痛の増強、がんの発生や転移の悪化などの表現型を示した。したがって、cPGESは生体のホメオスタシスを維持するための恒常的なPGE<sub>2</sub>産生に、mPGES-1は病態下での過剰なPGE<sub>2</sub>産生に主に寄与することが考えられた。さらに、cPGESはPGE<sub>2</sub>不活性化酵素(15-PGDH)や前初期遺伝子 *c-fos* などの様々な遺伝子の発現を調節することやアポトーシス誘導物質などの細胞外からのストレスを軽減することを見いだしている。



### PGESの性状

	分布	分子量	GSH 依存性	CDNB 感受性	発現様式	機能連関する COX分子種
<b>cPGES</b>	細胞質	23 kDa	有	有	恒常的	COX-1
<b>mPGES-1</b>	膜面分	15 kDa	有	無	誘導的	COX-2

GSH:グルタチオン、CDNB:1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン

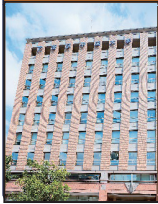
## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

cPGESの活性を抑制する低分子化合物を探索することにより、細胞外ストレスに対する抵抗性を低下することが可能になると想定される。本研究の進展により、新たな作用機序を有した抗がん剤などの治療薬の開発につながる可能性がある。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Cytosolic prostaglandin E synthase is involved in c-Fos expression in rat fibroblastic 3Y1 cells」
- ・「Involvement of the constitutive prostaglandin E synthase cPGES/p23 in expression of an initial prostaglandin E2 inactivating enzyme」
- ・「Knockout mice lacking cPGES/p23, a constitutively-expressed PGE2 synthetic enzyme, are peri-natally lethal」

# 肝細胞のストレス耐性因子としてのヘム合成・代謝系



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

中埜 貴文 Nakano Takafumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

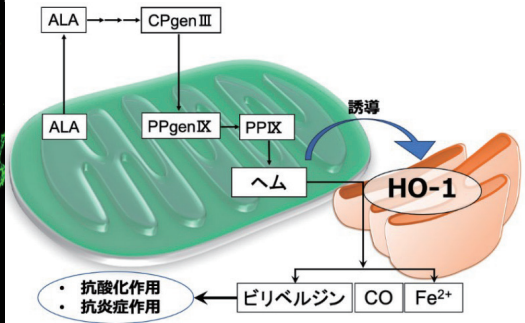
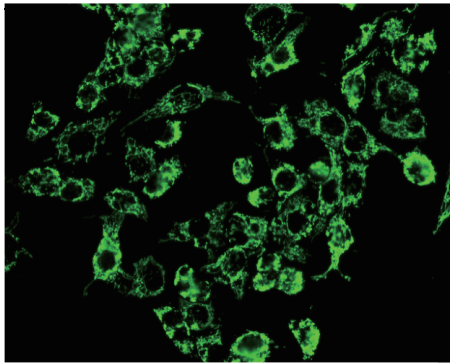


キーワード：酸化ストレス・ヘム代謝・ミトコンドリア・薬剤性肝障害・非アルコール性脂肪性肝炎

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

臓は生体の代謝を担う中心臓器であり、肝細胞内ではミクロソームやミトコンドリアなどの種々の小器官で様々な酵素反応がおこなわれ、それに伴って多量の活性酸素種が産生される。その結果、肝臓は生体の中で大きな酸化ストレスにさらされる臓器の一つとなっている。一方で肝細胞には、酸化ストレスに対する防御システムが高度に発達している。その一つがヘムオキシゲナーゼ (HO-1) であり、酸化ストレスに曝された肝細胞では細胞内ヘム分解の律速酵素である HO-1 が鋭敏に誘導される。HO-1 はヘムを分解することで、抗酸化、抗炎症作用を持つビリベルジンや一酸化炭素を産生し、これらの分解産物の作用を介して細胞保護的に機能すると考えられている。この細胞保護機能は、ヘムの生合成と分解という代謝回転により効率よく発揮されることから、ヘム合成・代謝系は肝細胞に対してストレス耐性を付与する因子と考えられる。そこで本研究では、非アルコール性脂肪性肝炎や薬剤性肝障害などの発症、病態進展に関連する因子として、肝細胞内でのヘム合成・代謝系に着目し、その変動と肝障害との関連について研究を進めている。



薬学

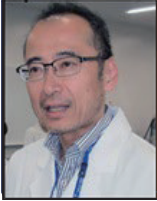
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

ヘム代謝系の中心酵素の一つである HO-1 は、ヘム分解酵素としての働き以外にも様々な機能を有することがわかってきた。臨床応用可能な HO-1 誘導手法の開発は魅力ある試みであるが、一方で無制御に過剰な HO-1 を発現させることで、かえって細胞障害が進捗する可能性も指摘されている。このことは、HO-1 の治療応用のためには細胞保護作用の詳細なメカニズムの解明が必須の事項であることを示している。ヘム代謝系による酸化ストレスなどの各種ストレスに対する細胞保護機構を明らかにすることで、非アルコール性脂肪性肝炎などの肝疾患に対する治療戦略上の新たな治療ターゲットを見出したいと考えている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Hepatitis C virus core protein triggers abnormal porphyrin metabolism in human hepatocellular carcinoma cells」
- ・「Mitochondrial iron accumulation exacerbates hepatic toxicity caused by hepatitis C virus core protein」

# 新たなオーラルケア戦略のための基礎検討



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

名取 威徳 Natori Takenori

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : オーラルケア・PDT・光線力学療法・歯根治療・殺菌



## 研究の概要

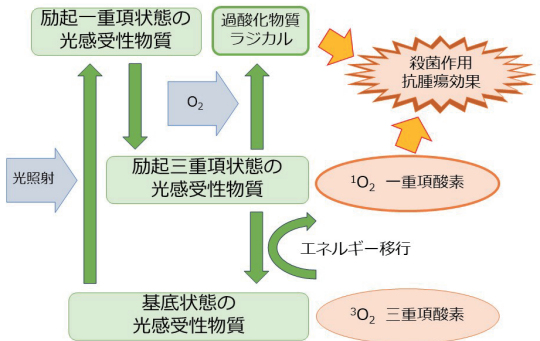
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

医薬品の多くは依然として低分子有機化合物であり、生理活性物質の創出とその薬理作用の理解のためには有機化学を基盤とした知見が欠かせません。我々は、有機合成化学と天然物化学の手法を用いて新たな生理活性物質を見出し、医療に貢献することを目標としています。

う蝕（いわゆる虫歯）が悪化して、根管に細菌感染が起こると、感染組織の除去や根管内を無菌化する治療がおこなわれ、感染根管処置後には、根管を薬剤で封鎖（根管充填）します。根管治療における機械的・化学的洗浄による無菌化において、安全で効果的な治療法や治療薬が求められており、本研究では、根管治療に有効な治療法とその補助剤をとしてオーラルケアに適用可能な有機化合物を見出すことを目指すとともに、実際の治療に適応可能な薬剤や製品としての形態の試作を検討しています。近年では抗菌的光線力学療法（Anti-microbial Photodynamic therapy: a-PDT）に着目し、a-PDTのための補助剤として、これまでにクマザサのアルカリ抽出液に顕著な効果を認め、特許化するなどの成果を上げてきています。



探索源とする自然素材



PDTにおける光毒性のメカニズム

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

歯科領域の発展に寄与するとともに、歯痛等による生産性の低下を最小限に抑制することで産業界に寄与できる技術と考えます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【知的財産】

- ・特許第 7212229 号「光線力学療法に用いるための殺菌剤」

### 【学会発表】

- ・「Na:YAG レーザーとキサントフォームを用いた *Enterococcus faecalis* に対する光線力学療法の抗菌効果について」
- ・「ホップ成分 xanthohumol の酸化誘導体の構造と生成に関する一考察」



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授  
濱田 和真 Hamada Kazuma



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：脂肪性肝疾患・薬物性肝障害・ミトコンドリア・オミクス解析・  
バイオインフォマティクス

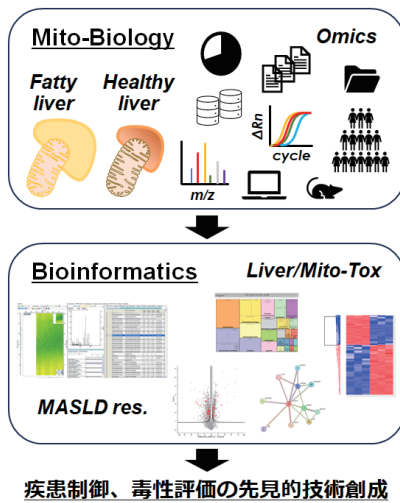
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

## 研究の概要

エネルギー産生の中核として知られるミトコンドリアは、代謝反応や細胞死制御のみならず、免疫・ストレス応答など生命活動に必須の多彩な機能を有している。したがって、その機能変容の理解は細胞活動の恒常性破綻として顕在化する疾患形成の中核を同定し、その制御に資する技術創出の基盤となる。この知見は、神経変性・炎症性疾患、がん、糖尿病をはじめとする多様な疾患との関連を示すエビデンスの蓄積により支持される。さらに、発生・成長・老化、ならびに薬物毒性機構においても、ミトコンドリアは密接に関わっている。

本研究では、ミトコンドリア、脂肪肝、薬物性肝障害 (DILI) を三位一体とする独自研究軸のもと、疾患制御と毒性評価の両面で技術創出を目指す。すなわち、脂肪肝におけるミトコンドリア機能変容の分子機構を基盤に疾患制御法を開発し、同機能変容を軸とした DILI の理解により新薬開発を飛躍させる毒性評価技術を創成する。具体的には、データ駆動型解析により顕在化したミトコンドリア関連分子の動態やプロテオーム制御に関する知見を統合して、先見的技術へと昇華させる。

## Graphical abstract



薬学

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究ではミトコンドリアの機能変容を起点として、細胞活動の恒常性変容および破綻として顕在化する代謝異常関連脂肪性肝疾患の病態を統合的に理解し、その予測・評価・制御法の開発を目指す。併せて、ミトコンドリアの状態、応答性に基づき、有望な候補化合物に対する DILI リスクを予測する技術を創出することで、新薬開発の成功率向上に貢献する。オミクスデータ、バイオインフォマティクス手法を活用したデータ駆動型の解析を展開し、ミトコンドリア機能変容を軸に疾患・病態を動的かつ包括的に捉えることで医療および創薬分野への実装可能な技術基盤の構築を図る。本研究は、ミトコンドリア、脂肪肝、DILI を三位一体として捉える独自の研究軸に基づき、疾患制御と毒性評価を同時に革新する技術基盤を確立する。

1. 脂肪肝の治療標的・制御法の創出および病態、治療効果を予測、評価するバイオマーカーの開発
2. *in vitro* / *ex vivo* 候補化合物 DILI 評価技術、新規 DILI バイオマーカーの創出

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「免疫・炎症のハブとしてのミトコンドリア膜透過性遷移：薬物性肝毒性と新規制御機構」
- ・「マウス-ヒトオミクス統合アプローチによる脂肪肝分子病態を規定する肝ミトコンドリア機能変容の解明」

【所属学会】 毒性学会、プロテオーム学会、ミトコンドリア学会、バイオインフォマティクス学会等

## 地域住民に対する薬育を推進するための研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 助教

原田 美那 Harada Mina

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 薬育・くすり教育・健康教育・薬学教育・地域医療



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

現在、薬剤師は、地域住民の疾病予防や啓発活動に貢献することが求められている。薬学教育においても「住民・児童生徒に向けた保健知識の普及指導・啓発活動を実践して、住民・児童生徒の公衆衛生意識を向上し、生活環境の向上に積極的に寄与する。」と令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムに明記されている。

本学では薬学部の学生を中心に、部活動の一環として、「薬育」をおこなっている。「薬育」とは、薬学生が小中学校や高齢者施設等へ赴き、医薬品の適正使用や薬物乱用防止、フレイル予防など健康な身体をつくるための教育活動と定義している。

これまで薬剤師がおこなうくすり教育や薬物乱用防止教室の効果等について検証した研究は多くあるが、薬学生が実施した薬育に関する研究は少ない。そこで、薬育の経験が薬学生や地域住民にどのような影響があるのか、また保健知識の普及指導・啓発活動ができる薬剤師を養成するためにどのようなプログラムが必要か検討する。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

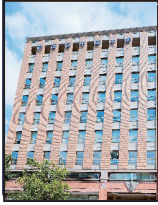
本研究は地域住民の薬を含めた健康意識の向上、健康行動の実践、将来的には健康寿命の延長、医療費の削減に繋がる可能性が期待できる。また、保健知識の普及指導・啓発活動など健康サポートを積極的におこなうことができる薬剤師の養成に繋がる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【学会発表】

- ・「地域に貢献する薬剤師を養成するための取り組み—薬学生による薬育教育の実践—202109」
- ・「将来の薬剤師がプライマリケアを行うための薬育教育—薬学生による中学校保健体育の授業での薬育の実施—202208」
- ・「薬学生が地域住民に対して「薬育」を行うことによる教育効果」

# 代替動物モデルを用いた植物精油の感染および炎症制御に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 教授  
丸山 奈保 Maruyama Naho



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 植物精油・感染症・炎症・自然免疫

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

植物精油は古くから抗菌作用や抗炎症作用、免疫調整作用を持つものとして広く利用されてきた。私は、植物精油が自然免疫担当細胞（好中球・マクロファージ）の活性化を抑制することで、様々な炎症反応を緩和させる可能性を報告している。一方、植物精油が炎症を引き起こすケースも知られており、適切な条件下で自然免疫担当細胞の機能を増強あるいは抑制しうることが期待される。そこで、自然免疫システム、特に自然免疫担当細胞を標的とし、機能増強による感染予防あるいは機能抑制による炎症抑制に応用可能な植物精油を探し作用メカニズムを明らかにすることにより、既存の療法を補完する新たな感染制御あるいは炎症制御への方策を提案できると考える。

機能を研究する上では、*in vitro* 実験だけでなく動物個体レベルでの検証が重要であるが、近年、哺乳動物を用いた実験実施が難しくなり、哺乳動物に代わる代替動物モデルとして関心を集めているのが、法令上の実験動物に該当しない無脊椎動物（昆虫など）である。昆虫であるカイコは獲得免疫システムを欠き、自然免疫システムに依存した生体防御の仕組みを構築しており、細菌・真菌感染症モデルが作製され新規の抗菌作用や感染抵抗性を有する新規化合物の探索に用いられている。

現在、自然免疫担当細胞としてヒトマクロファージ様細胞を、モデル動物としてカイコを用い、感染予防効果、炎症抑制効果を示す精油の探索に取り組んでいる。



## カイコモデルを用いた薬効評価系

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

感染予防・抗菌などの感染制御、炎症症状の緩和などに対し、既存の治療薬を補完するものとして、精油の利用法の提案が可能となる。さらに、食材やサプリメント、外用材（化粧品など）として、精油を含む製品の開発も期待できる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

- ・「A human-relevant alternative infection model for mucormycosis using the silkworm *Bombyx mori*」
- ・「Inhibitory Activity to Neutrophil Adhesion and Antimicrobial Activity of Diluted Hydrosol Prepared from *Rosa damascena*」
- ・「Suppression of Inflammatory Reactions by Terpinen-4-ol, a Main Constituent of Tea Tree Oil, in a Murine Model of Oral Candidiasis and Its Suppressive Activity to Cytokine Production of Macrophages *in Vitro*」

# 生活習慣病に対する薬物療法と生活習慣の相互作用



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 准教授

山元 健太 Yamamoto Kenta

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 生活習慣・薬物療法・身体活動・運動・睡眠



SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症の薬物療法を受けている患者の中で、血圧、血糖、血中脂質の管理目標を達成している患者は約50%にとどまっています。そこで、薬物療法を受けているにもかかわらず、管理目標を達成できていない患者の特徴を健康診断および診療レセプトデータの情報から抽出し、生活習慣をどのように改善すれば管理目標を達成する確率を上げることができるのか検討しています。さらに、どのような生活習慣と薬物療法との組み合わせが脳卒中や心疾患の予防に効果的なのかについて検討しています。

健康診断データ



検査値、肥満、運動習慣、  
身体活動、喫煙、飲酒等

運動と薬物療法の  
併用効果解析

レセプトデータ



服薬履歴、診断履歴

24,830人の2型糖尿病の患者を調べたところ、体を動かすこと（身体活動）と一部の糖尿病治療薬を組み合わせると、血糖値の管理がより良くなることが分かりました。特に、SGLT2阻害薬やDPP-4阻害薬を服用している人では、薬だけの場合よりも、日常的に体を動かしている人のほうが血糖コントロールが良好でした。一方で、メトホルミンという別の薬では、体を動かしていても、薬だけの場合と比べて大きな違いは見られませんでした。この結果から、身体活動の効果は、使っている糖尿病の薬の種類によって異なる可能性があることが示唆されます。Yamamoto et al. *Scientific Reports. In press.*

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現在、薬局では「健康サポート薬局」として、患者に処方薬を提供するだけでなく、患者の健康に関するサポートをおこなう社会的な役割が求められています。本研究テーマは薬物療法を受けている患者の健康指導に役立つ科学的知見を提供することを目的としていますが、生活習慣に合わせた効果的な薬物の選択にも貢献する可能性があります。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

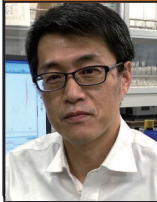
### 【科研費】

- ・基盤研究 (C) 「糖尿病患者の心不全予防に対する運動とSGLT2阻害薬の併用効果」
- ・基盤研究 (C) 「糖尿病患者の血糖管理に対する運動とSGLT2阻害薬の併用効果」

### 【論文】

- ・「Breakfast Skipping and Steroid Withdrawal in Ulcerative Colitis: A Population-Based Study in Japan.」

# 医療現場において発生する問題点に対する製剤学的研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

山本 佳久 Yamamoto Yoshihisa

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 半固形製剤・混合物安定性・酸化マグネシウム製剤・吸湿・懸濁・イメージング



## 研究の概要

SDGs 目標 12: つくる責任 つかう責任

医薬品は様々な厳しい品質基準をクリアすることで、初めて医療現場で用いられる。しかしながら医療現場や患者宅における保管条件によっては、入荷後の医薬品の品質が必ずしも保たれていない可能性がある。このような状況を鑑み、近年では、医薬品の品質保証の観点の一つとして「医薬品使用時の安定性 (in-use stability)」という概念が提唱されている。本研究室では、この概念に基づき、医薬品同士の混合や高温多湿環境での保管など、医療現場における規定外の使用や保管が医薬品の品質に与える影響について、様々な剤型について理化学的手法による検証を実施している。

## Levofloxacin OD Tablet Microscopic LF Raman spectroscopy

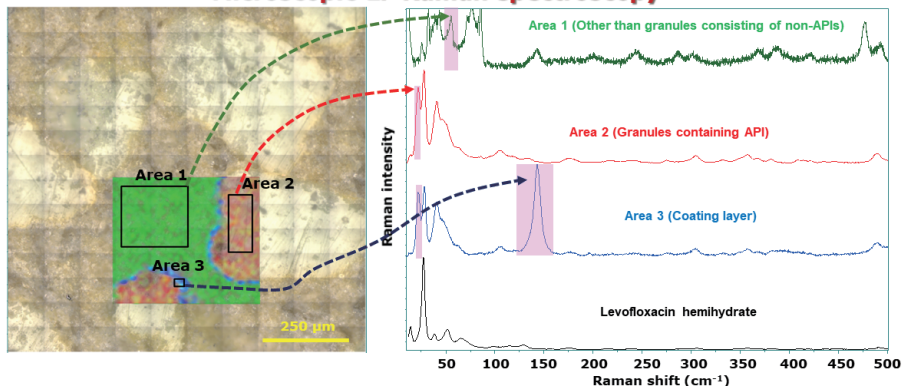


Fig. 顕微低波数ラマン分光法によるレボフロキサシンOD錠のイメージング解析

Yamamoto Y. et al., *Pharmaceutics*, 15, 2041, 2023より抜粋

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

テーマ自体は医療現場で発生する問題を対象にしているため、本研究室で研究に携わった学生は、その検証結果自体をエビデンスとして現場で活用することができる。また、後発医薬品の新たな品質評価法の構築などに関して、分析機器メーカー等と協力することも可能である。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Evaluation of the Film-Forming Ability for Heparinoid Cream Formulations」
- ・「Pharmaceutical Evaluation of Magnesium Oxide Fine Granule Formulation for Conversion to Magnesium Hydroxide owing to Humidification by Near-Infrared Spectroscopy」
- ・「Pharmaceutical Evaluation of Levofloxacin Orally Disintegrating Tablet Formulation Using Low Frequency Raman Spectroscopy」

## 医薬品情報提供の制度と実態に関するレギュラトリーサイエンス研究



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

渡邊 伸一 Watanabe Shinichi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 医薬品・情報提供・医薬行政・安全対策



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

医薬品に関する情報は、患者さんが安心して医薬品を使うための大切な“道しるべ”です。しかし現場では、法規制が複雑であったり、行政からのガイドラインの解釈が難しかったり、企業側にとってどこまで情報を提供してよいか判断しにくいといった理由から、必要な情報が十分に届かないことがあります。

私は、厚生労働省及び PMDA での実務経験を踏まえ、こうした制度と現場のあいだに生じる“見えにくい壁”に注目しています。医療従事者や製薬企業が感じる「やりにくさ」を調査し、その背景にある制度的・運用上の課題を整理することで、問題の所在を明らかにすることを目指しています。

また、患者さんにとって本当に必要な情報が、分かりやすい形で提供される仕組みを整えることも重要です。制度の意図と現場の実情を踏まえながら、行政・医療現場・製薬企業の三者が協力できる情報提供のあり方を検討し、より安心して治療を受けられる環境づくりにつなげていきます。

これまでの研究成果の一部は、厚生労働省の検討会資料にも引用され、制度運用の議論にも活用されています。

薬学

#### ■ 研究の強み (行政経験 × 学術研究)

行政制度の意図と、現場の実情の両方を理解している立場から、「問題がどこで生じているか」を精緻に分析し、制度改善につながる現実的な提案まで踏み込める点が大きな特徴です。

#### ■ 期待される社会的効果

行政: 規制と運用の改善、わかりやすい制度の整備  
製薬企業: 患者に役立つ情報を適切に提供しやすくなる  
医療者: 必要な情報にアクセスしやすくなり、説明が充実  
患者: 安心して治療を受けられる環境づくりにつながる

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医薬品情報の提供に関しては、制度解釈の難しさや情報提供の方法に関する課題が、製薬企業・医療機関・自治体の現場で生じることがあります。本研究で得られた知見は、こうした現場の疑問や課題を整理し、改善策を検討する際に活用できます。産業界・自治体との協働では、次のような取り組みが可能です。

- ・ 情報提供に関する課題整理や実態調査の実施
- ・ 制度やガイドラインの運用に関する専門的分析と改善提案
- ・ 患者への情報提供を分かりやすくする仕組みづくりの支援
- ・ 行政・企業・医療機関の連携を促進するためのアドバイザー

こうした協働を通じて、患者が安心して薬を利用できる環境づくりに貢献したいと考えています。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】・患者の処方薬に関する情報源の実態と入手情報の満足度およびニーズ調査

【学会発表】・販売情報提供活動ガイドライン Q&A 発出後の製薬企業の対応方針

- ・ 不適切な OTC 医薬品広告の誘引性の調査

# 疾病関連遺伝の転写後制御機構の解明



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師

青木 一真 Aoki Kazuma

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : RNA・遺伝子発現調節・p53・mTOR



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

遺伝子発現調節は生体の機能制御や恒常性の維持において、最も基盤的かつ重要なステップであり、この異常・破綻は重篤な疾病の発症に直結する。

本研究は疾病の発症に関与する遺伝子について、その転写後制御、すなわち RNA レベルで生じる遺伝子発現制御の分子機構を解明する事を目的としている。具体的な研究対象として現在は癌細胞の悪性化との関与が指摘されている La-related RNA binding protein 1 (LARP1) に着目して研究を進めている。LARP1 は mTOR の下流において細胞増殖促進の一端を担っていると考えられており、またがん抑制遺伝子 p53 の分解促進への関与も指摘されている。

近年においては癌細胞の栄養応答は治療薬開発の重要な標的となっており、細胞の栄養応答と細胞増殖制御の双方に関与する LARP1 が関わる転写後制御機構の解明は、癌の悪性化の予測・抑制に繋がる知見となる事が期待できる。そこで p53 の分解促進を指標に LARP1 が RNA と共に形成する複合体の役割を明らかにしたいと考え、研究をおこなっている。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は基礎研究に類する内容である為実用化を直接的には意図していないが、研究成果については癌の悪性化診断、あるいは新規創薬標的の提示という観点から、医学・薬学的発展に寄与するものである。

本研究の対象が癌の治療薬開発における新規標的となる事が期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「LARP1 specifically recognizes the 3' terminus of poly(A) mRNA.」

# M1 アミノペプチダーゼの酵素学的特性と生体内機能の解明



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 教授

大西 敦 Ohnishi Atsushi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: M1 アミノペプチダーゼ・酵素学的特性・基質異性性・

Arginyl aminopeptidase like 1/aminopeptidase Z・Aminopeptidase B

## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

M1 アミノペプチダーゼは、亜鉛を補因子として利用する金属依存性アミノペプチダーゼに属する酵素群であり、ペプチドやタンパク質のN末端アミノ酸を一残基ずつ加水分解する機能を有する。この作用を通じて、細胞内外に存在するオリゴペプチドの分解や成熟過程に関与すると考えられている。

本酵素群は特定のアミノ酸配列に対する基質異性を示し、免疫応答や血圧調節など、多様な生理機能に関与することが報告されている。M1 アミノペプチダーゼに含まれる ERAP1 および P-LAP/IRAP については、自己免疫疾患との関連が示されており、これらの遺伝子多型や酵素機能の変化が疾患発症に関与する可能性が指摘されている。一方、同じ M1 ファミリーに属する RNPEPL1/APZ および APB については、生体内における機能や疾患との関連に関する知見が乏しく、その生理的意義は十分に解明されていないのが現状である。

特にヒト RNPEPL1/APZ は、遺伝子発現データベースにおいて、骨髄、脾臓、マクロファージ、単球などの組織・細胞での発現が示されている。さらに近年の酵素学的研究から、ヒト RNPEPL1/APZ はN末端にAla、Arg、Lysを有するペプチドに対して加水分解活性を示し、なかでもAlaに対して最も高い酵素活性を示すことが明らかとなっており、機能的観点からも注目される酵素である。

本研究では、RNPEPL1/APZ および APB を対象とし、これらの酵素の基礎的な酵素学的性質の解明ならびに、生体内における機能の理解を目的としている。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

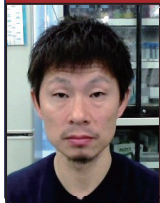
RNPEPL1 /APZ の生体内での役割や疾患との関連については現時点では不明であるが、遺伝子発現解析の結果から、免疫系に関与する組織や細胞において特徴的な発現が認められている。このことから、本酵素が免疫応答の制御や炎症関連機構に関与している可能性が示唆される。本研究により RNPEPL1 /APZ の基礎的な酵素学的性質や生理機能が明らかになれば、免疫関連疾患の分子基盤の理解が進むことが期待される。これらの知見は、将来的には免疫機能評価指標の開発や、創薬標的候補分子の探索といった実学的・応用的研究への発展可能性を視野に入れている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Characterization of the enzymatic properties of human RNPEPL1/aminopeptidase Z」
- ・「Molecular and functional diversity of the oxytocinase subfamily of M1 aminopeptidases」
- ・「Importance of Tyr409 and Tyr414 in constructing the substrate pocket of human aminopeptidase B」

# 中心体タンパク質が関わるプロテオスタシスの分子基盤の解明



【中野キャンパス】薬学部 薬学科 講師  
**金 憲誠 Kim Hon-Song**

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 神経変性疾患・中心体・PCM

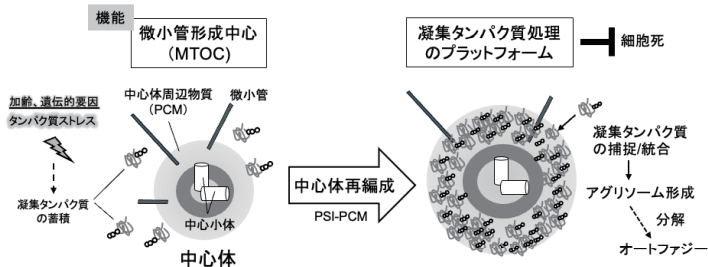


SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

アルツハイマー病やパーキンソン病をはじめとする神経変性疾患は、神経細胞の不可逆な変性・脱落を特徴とし、共通の病理としてユビキチン化異常タンパク質の蓄積と神経細胞死を伴う。通常、細胞内で生じた異常タンパク質はユビキチン・プロテアソーム系やオートファジーにより分解されるが、加齢や遺伝的要因等によりこれらの分解系活性が低下すると、凝集タンパク質の毒性が顕在化し細胞死に至る。したがって、凝集タンパク質を隔離し、効率的に分解・除去する仕組みの解明は極めて重要である。

細胞は異常タンパク質の氾濫・拡散を防ぐため、微小管依存的輸送によりそれらを中心体周辺物質 (PCM) 上に集積させ、アグリソームと呼ばれる大きな凝集体として隔離する。これまで PCM は単なる輸送の終着点と考えられ、この過程での役割はほとんど注目されてこなかった。本研究ではタンパク質ストレス下で PCM が分裂期中心体とは異なる構造拡大を示す現象を見出し、「**プロテオトキシックストレス依存的 PCM 再編成 (PSI-PCM)**」と命名した。PSI-PCM は p38MAPK 経路を介して誘導され、アグリソーム形成と細胞生存に寄与することを示唆する結果が得られた。本研究では、PSI-PCM の分子機構と生理的意義を明らかにし、PCM をプロテオスタシスの基盤として再定義することで、神経変性疾患の病態理解と創薬基盤の拡張へつなげる。



【作業仮説】

加齢などのタンパク質ストレスを受けた細胞では、細胞質中にユビキチン化された凝集タンパク質が蓄積する。凝集タンパク質は微小管依存的に中心体周辺物質 (PCM) 上へ輸送され、捕捉、結合しアグリソームを形成する。アグリソームはオートファジーにより分解されることで細胞は細胞死を回避する。このとき、中心体は PCM 構造が再編成され、凝集タンパク質を効率的に捕捉し、隔離や分解へと連結できる構造へと変換される。このように、タンパク質ストレス下で PCM は MTOC から「凝集タンパク質処理のプラットフォーム」へと機能変換を遂げる。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

超高齢化社会における平均寿命の上昇に伴い、アルツハイマー病やハンチントン病などの神経変性疾患の患者数は増加の一途を辿っている。この疾患の発症に関わる分子、遺伝子、細胞の共通性を見出すことこそが、この難治性の神経変性疾患や老化現象の解明と根本的治療法への開発に繋がる糸口になると言える。本研究は神経変性疾患の有効な治療法開発への模索に繋げる成果の創出を目指す。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

「タンパク質ストレスに応答する中心体周辺物質 (PCM) の構造変化とそのプロテオスタシス制御における役割について (Proteotoxic stress-induced remodeling of the pericentriolar material and its contribution to proteostasis.)」

# 健康の維持増進に寄与する新規天然由来成分の探索



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 准教授

長谷川 和哉 Hasegawa Kazuya

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 天然資源・植物由来成分・骨格筋・炎症



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

植物を中心とした天然資源から健康の維持増進に寄与する有用成分を培養細胞や実験動物を用いて探索している。特に最近では東南アジア産の熱帯植物、およびブドウやリンゴの「搾りかす（パミス）」などの廃棄処理物から有効成分の同定を進めている。

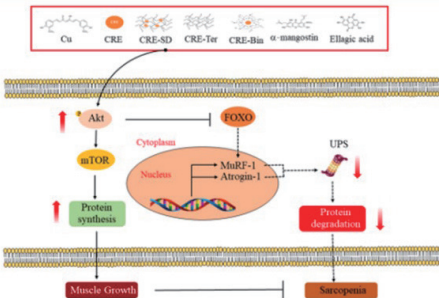
### ○骨格筋委縮を抑制する成分の探索

ターメリックの主成分である curcumin、東南アジア原産の果物であるマンゴスチンの果皮に含まれているキサントン誘導体である  $\alpha$ -mangostin が骨格筋委縮を抑制することを見出した。

### ○ミクログリア（脳内免疫細胞）の炎症を抑制する成分の探索

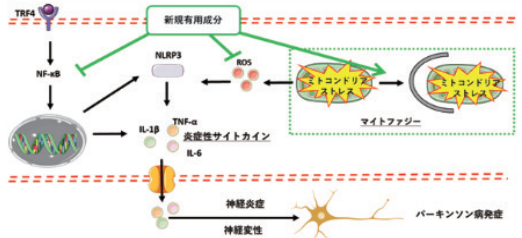
ルリマツリ属植物の二次代謝産物の plumbagin が、パーキンソン病やアルツハイマー病などの加齢性脳疾患の発症・進展の大きな要因となるミクログリア（中枢神経系特異的免疫細胞）の炎症誘発性表現型への形質転換を予防することを見出した。

## 骨格筋委縮を抑制する成分の探索



東南アジア産植物から、筋肉特異的E3ユビキチンリガーゼ発現を抑制し、骨格筋委縮を抑制する成分を同定した。

## ミクログリア（脳内免疫細胞）の炎症を抑制する成分の探索



ミクログリア細胞の炎症反応伝達経路の抑制を介して、炎症誘発性表現型への形質転換を抑制する成分を同定している。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・健康維持を目的とした健康食品やサプリメントの創出、医薬品開発に寄与します。
- ・これまでに廃棄されていた未利用資源の有効利用に貢献します。
- ・上記に示した成分だけでなく、新たな有用成分の探索支援が可能です。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

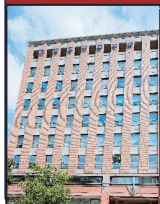
### 【科研費】

- ・（若手研究）「ホルモンに着目したサルコペニア予防に有効な食品成分の探索」

### 【論文】

- ・「Study the effects of Asian herbal medicines for the treatment of sarcopenia patient.」
- ・「Inhibitory effects of curcuminoids on dexamethasone-induced muscle atrophy in differentiation of C2C12 cells」

# 化学物質の極微量曝露による生体恒常性への影響を調べる



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 准教授

藤本 哲也 Fujimoto Tetsuya

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

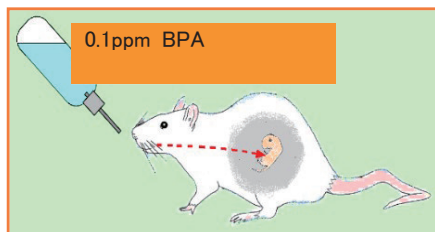
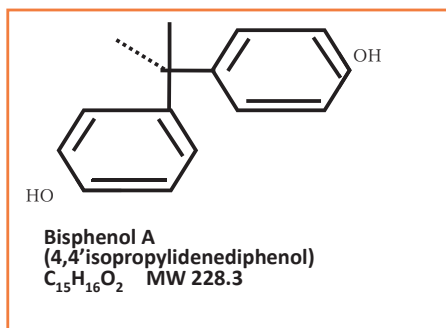
キーワード : 環境ホルモン・周産期曝露・行動試験・中枢毒性



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

化学物質の体内摂取基準は、最大無毒性量およびそれを安全係数で除した基準値（耐用1日摂取量）が定められている。基準値以下の極低濃度曝露に関しては、主に脳と行動への影響が近年の研究対象である。環境ホルモンの1つであるビスフェノールA（BPA）の摂取基準は生殖毒性試験などのデータを元に最大無毒性量が決められ、それをさらに1/1000にした基準値が設定されている。その基準値以下の曝露量においても、BPAが中枢への多面的な影響を引き起こすことを報告してきた。BPAの胎児期および新生児期曝露により仔ラットの成熟後の試験において、性的二型核、性的二型行動の性差を変動させ、さらにうつ様反応を増強させる。また、捕食者のニオイ（キツネ由来；TMT）に対する避避行動増強がBPA依存的に認められ、その脳内責任部位を検討して、嗅覚経路の1つである扁桃体の機能への影響が示唆された。しかし不明な点も多く、長期的な影響、ヒトへの影響など、未解明な課題も残る。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現所属の健康栄養学科においては、上記研究で培った行動試験のスキルと知識を応用し、より栄養学の分野にマッチしたアプローチを目指す。例えば、特定の栄養成分がホルモンバランスに与える影響、環境ホルモンとの相互作用、特定の栄養成分の不足と認知学習機能、うつ、不安に及ぼす影響との関連などが考えられるが、今後調査を継続し研究計画を具体化していく。

将来的には、新しい側面から栄養と健康に関する知見を深めたり、パーソナライズドな栄養療法の可能性を探ったり、実学へのつながりを模索する。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Pre-weaning behavioral manners in prenatal bisphenol A treated rats」
- ・「Postnatal exposure to low-dose bisphenol A influences various emotional conditions」
- ・「Alterations of the avoidance response to predator odor and amygdalar olfactory responses induced by prenatal exposure to bisphenol A in rats」

## 労働者の歯科口腔保健に着目した生活習慣病予防のための保健指導プログラムの開発



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 准教授

猪股 久美 Inomata Kumi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 産業保健、産業看護、労働者、歯科口腔保健、生活習慣病



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

口腔内の健康と全身の健康状態の関連性は広く知られるようになり、看護においても、周術期における誤嚥性肺炎の予防、老年看護における嚥下力や咀嚼力の維持に対して、支援がおこなわれている。

一方で、青年期・成人期は、比較的口腔内の問題が顕在化されない年代であることもあり、着目されない傾向がある。また、歯周病や歯等の問題は、生活習慣病との関連が大きいことについて、労働者が意識していないという課題がある。

青年期・成人期の人々に対して、継続的にかかわることが可能であるのが産業看護職であるため、特に、産業保健の分野で問題となる生活習慣病予防の保健指導で、歯科口腔保健についての指導も、おこなえるようになったらよいのではないかと考えた。

産業看護職が活用できるような、生活習慣病に関する保健指導において、歯科口腔保健の問題を扱うためのガイドの作成を目指している。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

作成しているガイドは、産業看護職がおこなう生活習慣病保健指導の中に、無理なく歯科口腔保健の視点を取り入れるためのポイントとして活用していただくことを目指している。今後は、実装可能性の検証を検討しており、そのためにもガイドの試作へのご意見をいただき、よりよいガイドの作成にご協力いただきたい。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

- ・「労働者の歯科口腔保健に着目した生活習慣病予防のための保健指導プログラムの開発」

#### 【学会発表】

- ・「労働者の生活習慣病対策としての歯科口腔保健指導実施の阻害要因」
- ・「Awareness of the Relationship Between Oral and Lifestyle-Related Diseases Among Young Workers」

# 看護師のわざ



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

河合 桃代 Kawai Momoyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 看護師・わざ・看護技術・熟達・エキスパート



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

看護実践における看護師のわざについて、手術看護、嚥下障害を伴う方への食事介助、胃内視鏡検査を受ける患者や熱傷患者への看護実践などを焦点にあてて研究した。手術看護や食事介助では、看護実践場面をビデオカメラで撮影し、後で場面を当該看護師と視聴しながら振り返り、場面を思い起こしながら研究者と語り合うことで言語化を促す方法を用いた。胃内視鏡検査や熱傷では、研究者自身が体験したことを研究者の視点で分析する一人称研究の方法を用いたことも、オリジナリティがあった。急性期領域における専門看護師やクリティカルケア領域における認定看護師という熟練者に焦点を当て、コンピテンシーについて研究を実施した（共同研究）。現在は、手術看護認定看護師のコンピテンシーに焦点を当てて研究中である。

看護師のわざとして共通していたことは、「待つ」ということも選択肢の一つにあることであった。さらに、看護師は、常に予防に重点を置いたり、患者の機能を補完しながらかわっていたり、気持ちよさをもたらすケアをほどこすことで苦痛を緩和するケアをおこなっていた。

## 今まで～現在、注目している看護のわざ



手術看護・周術期看護



クリティカルケア看護



嚥下障害を伴う患者への食事介助

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

看護実践における看護師のわざは、個人の経験のみにとどめるのではなく、看護技術として知識として形式化されれば、伝承や教育もでき、ひいては、看護の質の向上につながる研究である。看護技術教育、継続教育、わざの伝承、看護技術の習得などに役立つことが期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【学会発表】

- ・「嚥下障害者への食事介助における看護師のわざの研究—身体を介した相互作用に焦点をあてて—」
- ・「急性期領域における専門看護師のコンピテンシーを形成する要素と構造」



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

河合 桃代 Kawai Momoyo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 技術習得・看護実践能力・技術教育・ワークショップ・追跡調査



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

看護技術を授業で学び始める看護系大学2年生を対象に、新人看護師となるまでの4年間を追跡する縦断調査をおこなった。看護技術を習得するための機会としてワークショップを開催し、繰り返し看護技術を練習することで、どのように習得していくのかを研究とした。この研究により看護技術の教育の在り方を考え、教育モデルを考案できる。

教育DXが進む中、学生が考えた看護を、遠隔にいる看護師役(アバター)がその場で実演した。結果として、学生の頭の中の「考え」を、実際の「行動」として「見える化」することで、実習前にじっくり考える時間が生まれた。看護技術の練習は、対面だけでなくオンラインでも可能であることが見えてきた。具体的には、観察力やコミュニケーション力を、繰り返し考え、試すことで、学生の看護の選択肢は着実に広がることがわかっている。

## 繰り返すことで 技術を身につけていく



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究により、看護基礎教育での看護技術教育についての基盤研究になりえることや、継続教育において基礎教育とのつながりを示すことにもなりえる。看護師のモチベーションの一つに、看護技術が捉えられることもあり、看護技術教育は看護師の専門性の一つであることから、基礎教育での看護技術教育の在り方を考える研究である。看護師になったときに看護技術の一つでも習得していれば、どの患者に対しても自信をもってケアを提供できることが期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

### 【学会発表】

- ・「看護学生の観察技術教育におけるアバターの有用性 —大学横断任意参加型ワークショップを通して—」
- ・「看護学生の「動きの援助」技術習得過程 —大学横断任意参加型の看護技術ワークショップを通して—」
- ・「熟布バックケアを体感する反復練習により編み出された看護学生の工夫」

## 小児がん経験者の復学後教育機関で生じる問題の明確化と支援プログラムの開発



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 教授

下山 京子 Shimoyama Kyouko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 小児がん経験者・復学・連携・支援プログラム



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

この研究は、小児がん経験者が最も困難として捉えていた復学後の問題に焦点をあてる。現状での教育機関で生じている小児がん経験者を取り巻く問題を明らかにし、小児がん経験者が復学後、生活しやすい環境を整えることが可能になる教育機関への支援プログラムの開発をおこなう。多くの実態を明らかにするために、教育機関の教員・小児がん経験者・その母親に復学後の問題状況についてアンケート調査を実施し、その後インタビュー調査を実施し問題状況を明確化する。それぞれの研究結果を基に、効果的な支援プログラムの開発及び評価をおこなう。

2025 年度に、小学校・中学校・高校教員および養護教員 516 名を対象に全国 Web 調査を実施した。その結果、多くの教員が、小児がん経験者を含む復学する子どもたちの学校生活に配慮し、子どもに対してより良い環境を整えようとしていた。一方で、教員が得られる情報は、保護者や復学した子ども本人からの疾患に関する概要、今後の外来受診予定、体育の授業への参加可否などに限られていた。教員からは、疾患情報、学校における配慮内容、退院後の児童生徒の状況などについて、医師とダイレクトな情報交換をおこないたいという要望が多く示された。また、教員は、個人情報の制限から、保護者や子どもに対して、今までの治療や今後の疾患の治療等どこまで教員として介入して良いのか、少ない情報の中でどのような関わりを自分が提供できるのか戸惑う様子がうかがえた。

復学する子どもにとって、学校生活は生活の中心になる。また、病気の治療を経た子どもは、復学後の生活の中で自分自身と向き合いながら、新たな日常を築いていく必要がある。その支えとなるのは、身近にいる教員や友人である。医療者は、治療が終了した子どものその後の生活を支える役割を持つと考える。教員が望むように、医療者とのより良い連携が実現すれば、子どもの復学後の生活の質向上につながると考える。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

小児がん治療後の課題は、大変大きく、医療者、教育者、家族が連携し、成長・発達を見守っていくことが重要になる。子どもを取り巻く環境に対して、他職者・家族が連携することにより、多くの課題が軽減されるのではないかと考える。今回の研究では、小児がん経験者を受け入れる教育界ではどのような問題が出現しているのか、教育者の困難感を明確化することを目的としている。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

- ・「Problems in the Various Stages of Childhood Cancer Survivors' Lives and their Self-Care Processes」
- ・「Rethinking Support for Pediatric Cancer Survivors Provided by Pediatric Specialty Hospital Outpatient Nurse」
- ・「Problems Faced by Mothers of whose Children have Survived Cancer that Appeared During the Life Stages of the Children and the Process and Guidance for Self-Care」

# 新卒看護師を指導する実地指導者へのサポートプログラムの開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 看護学科 講師

田辺 幸子 Tanabe Sachiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 実地指導者・困難感・尺度開発・バーンアウト



## 研究の概要

SDGs 目標 8 : 働きがいも 経済成長も

新卒看護師を教育する実地指導者は、学生から看護師への移行期における継続教育を担う重要な存在であり、新卒看護師の職業的発達や職場適応に大きな影響を与える役割を果たしている。一方で、実地指導者は新卒看護師の教育に加え、リーダー業務や医療チームの一員としての役割など、多様な業務を同時に担っている。このような状況の中で、多様化する価値観や学習背景をもつ新卒看護師を指導することは、実地指導者にとって大きな負担となり、指導上の困難感を抱くことが少なくないと考えられる。

本研究は、質的帰納的研究「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感」で得られた結果を基盤として、作成した「実地指導者の困難感尺度」を用いて、実地指導者の困難感がバーンアウトに及ぼす影響について検討をおこなう。具体的には、困難感を構成する因子とバーンアウトとの関連性を明らかにする因果モデルを構築し、共分散構造分析等の統計的手法を用いてその妥当性を検証する予定である。さらに、検証された因果モデルをもとに、実地指導者の困難感を軽減し、バーンアウトを予防するための支援の在り方について検討する。具体的には、困難感の高い側面に応じたサポートの内容を整理し、実地指導者を対象とした支援プログラムの構成要素を提示することを目指す。本研究を通して、実地指導者が継続的に役割を果たすための教育的・組織的支援の基盤となる知見を提供することを目的とする。

新卒看護師を指導する実地指導者の困難感尺度信頼性・妥当性の検証  
(3因子20項目の尺度完成)



実地指導者の困難感とバーンアウトの因果モデルの検証  
NIOSHの職業性ストレスモデルを参考に概念枠組みを作成し、実施する。



実地指導者に対する支援プログラムの内容の検討

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新卒看護師に関する研究は積み重ねられており、支援も充実してきている。しかし、指導する立場の実地指導者に対する先行研究は少なく、実地指導者への支援については、充実していないのではないかと考える。新卒看護師の指導上の困難感を乗り越えることで、実地指導者の成長につながるかと考える。実地指導者としての役割に自信を持ち、新卒看護師と対峙できることで、新卒看護師の指導も充実し、新卒看護師の成長にもつながると考える。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

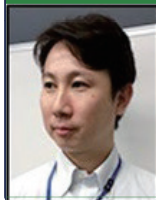
### 【論文】

- ・「Difficulties in Instructing Novice Nurses as Perceived by Preceptors」

### 【学会発表】

- ・「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感を評価する尺度の開発」

## 高齢患者への薬物療法に関する一般病院看護師の実践力と知識力を向上させるための教育プログラムの開発



【池袋キャンパス】 共創学部 デジタル共創学科 准教授

照屋 健作 Teruya Kensaku

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 高齢者看護・ポリファーマシー・看護職のための教育プログラム・有害事象に対するアセスメント



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

本研究は、高齢患者の薬物療法における看護師の実践力と知識力の向上を目指す教育プログラムの開発に焦点を当てています。その中で、高齢者の加齢に伴う薬物動態の変化や多剤服用によるリスク増加を考慮し、看護師が薬剤の反応や有害事象を正確に評価し、適切な介入をおこなうための能力を強化します。また、ポリファーマシーに関連する看護介入の重要性を考慮し、急性期病院や高齢者施設、在宅ケアにおける看護師の役割強化を目指しています。

本研究での教育プログラムでは、看護師が高齢患者の薬物療法において包括的なアセスメントと実践をおこなえるようになっていきます。そして、臨床での具体的な課題に基づき、事例研究や概念分析を取り入れた実践的な学びを提供することで、質の高いケアの提供を可能になると考えています。また、医師や薬剤師との協働を促進し、患者の安全と健康管理への総合的アプローチを推進することも目的です。

- ・ **オリジナリティ** : 看護師主導の薬物療法教育プログラムの開発による多職種間協働の促進と看護師独自の包括的アセスメントの強化
- ・ **新規性** : 高齢者の薬物療法に特化した看護教育プログラムは珍しく、看護師の専門性と実践力の向上に寄与

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・ **臨床実践への直接的応用** : 本教育プログラムは、看護師が働く臨床現場での具体的な課題に基づいて開発され、高齢患者の薬物療法に関する実践力と深い理解を提供
- ・ **医療品質と協働の強化** : 効果的な多職種協働を促進し、薬物療法における患者安全と医療品質の向上に寄与
- ・ **社会的貢献と産学連携** : 高齢化社会における医療コスト削減と医療人材の育成に貢献し、大学と医療機関・自治体間の協力関係を強化する機会を提供

これにより、以下のニーズが見込まれます。

- ・ **医療品質の向上** : 効果的な薬物療法による患者ケアの質の向上、病院評価と地域医療の質の向上
- ・ **医療コストの削減** : 精度の高い薬物療法による不必要な入院や薬剤関連有害事象の減少、医療コストの削減
- ・ **医療従事者間の協働強化** : 看護師専門性の向上による医師、薬剤師との効果的協働、チーム医療の効率と効果の向上

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

- ・ (基盤研究(C)) 「急性期病院における看護師のエイジング・センシティブ・ケア向上教育プログラムの開発」
- ・ (基盤研究(C)) 「高齢者ポリファーマシーに関連した看護教育プログラムの検討」

#### 【示説発表】

- ・ 「急性期病院における高齢者看護アセスメント教育プログラムの検討 ～薬剤に関する自己学習 DVD の開発～」

# 当事者の主観的 QOL と安楽死に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 看護学科 教授

吉澤 千登勢 Yoshizawa Chitose

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 主観的 QOL ・ 死を選ぶ自己決定権 ・ 医師/看護職 ・ 積極的安楽死



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

### 〔研究目的〕

本研究の目的は、臨床現場の医師や看護職が「主観的 QOL」・「死を選ぶ自己決定権」・「積極的安楽死」についていかなる視座をもち、臨床現場でどのような倫理実践(意思決定支援)をしているのかについて明らかにすることである。

### 〔研究背景〕

「安楽死」は、ギリシャ語で「良い死、苦しみのない安らかな死」を意味するが、「積極的安楽死」は人工的に人を死に至らしめる行為に他ならない。「積極的安楽死」の倫理的正当性は、時代や民族・文化などによりその価値判断が異なるであろうが、昨今、世界では「安楽死法(自殺補助)」を容認する国が増えている。日本でも、2019年に多系統萎縮症患者が「安楽死法」のあるスイスで安楽死を実行し、その患者が死を遂げるまでのプロセスがNHKの番組で放映された。刻下、日本は超高齢社会による多死社会が眼前にあり、「積極的安楽死法」に関する議論は、もはや避けては通れない現況にある。

### <引用文献>

- 1) 立山龍彦: 自己決定と死ぬ権利
- 2) 児玉真美: 死の自己決定権のゆくえ〜尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植
- 3) 宮下洋一: 安楽死を遂げた日本人
- 4) 藤和彦: 「多死社会」の到来は日本に何をもたらすか

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

諸外国では、医師による自殺補助を「尊厳死」とみなし、「積極的安楽死」と「尊厳死」を区別していない国もあるが、いずれにしても、社会の中で議論を重ね、法整備に至っている。日本でも、これまでに「東海大学安楽死事件」や「射水市民病院(人工呼吸器取り外し死亡事件)」、現在裁判中の「京都 ALS 患者: 医師による囑託殺人事件」などが発生している。多死社会を迎える今だからこそ、社会的議論を深める必要性のある「死を選ぶ自己決定権」の倫理的正当性について、現場の医師や看護職の「現状認識」、「倫理実践(意思決定支援)」を明らかにし、今後、「積極的安楽死」を検討する際の基礎資料に、また医療職の「倫理実践」の質的向上の一助にしていきたい。これにより、医療職の院内倫理研修や意思決定支援等に活用することができる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【科研費】主観的 QOL と死を選ぶ自己決定権の倫理的正当性-医師/看護職の積極的安楽死への視座

【論文】・多職種(医師, 看護師, 理学・作業療法士, 社会福祉士)倫理連携研修プログラムの開発, 地域ケアリング  
・多職種(医師, 看護師, 理学・作業療法士, 社会福祉士)倫理連携研修プログラムの開発  
～資格のための養成カリキュラムに焦点をあてて

# ハイテクノロジーとリハビリテーションの融合の研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 准教授

飯田 修平 Iida Shuhei

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : ロボット・VR・AI 動作分析・脳卒中・健康増進



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

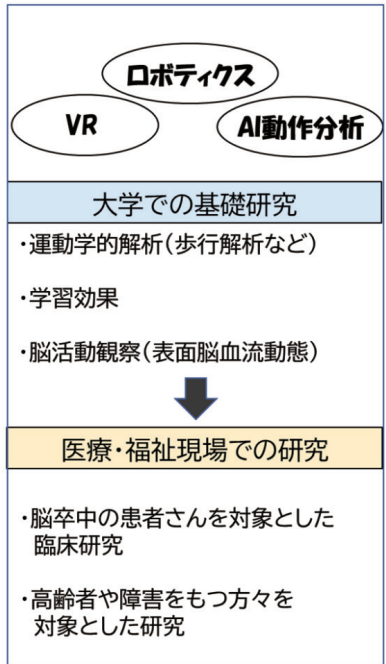
私はロボティクス、VR、AI などのハイテクノロジーを活用したリハビリテーション研究をおこなっており、大学での基礎研究と医療現場での臨床研究を通じて、高齢者や障がい者の生活の質の向上を目指しています。

「ロボティクス」：歩行支援型ロボットを使用し、歩行能力や関節運動などの運動学的効果の検証、および運動・認知機能領域の脳血流動態の観察をおこなっています。これまでに片脚型歩行支援ロボットを使用した基礎研究、臨床研究を実施してきました。昨今では上肢運動支援ロボットやコミュニケーション支援ロボットにも着目しています。

「VR」：スポーツ場面や屋内では実現困難なリハビリのシーンを撮影した 3D 動画を使用し、VR ゴーグルを着用してイメージトレーニングをおこなっています。これらの運動学習効果を検証することで、VR を用いた特異的なリハビリ・スポーツトレーニング方法を模索しています。

「AI」：歩行などの動作を 2 次元・3 次元で AI 解析し、その信頼性を検証しています。3 次元での AI 動作解析が可能になると、医療や福祉の現場でのリハビリテーション効果の判定を、より円滑に、客観的におこなえるようになると考えています。

## ハイテクノロジーとリハビリテーション



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医療・福祉分野での AI やロボティクスの活用が進む中、理学療法士や作業療法士などの専門家は、評価・治療・精神的サポートなど、ハイテクノロジー機器では代替できない部分に強みを持っています。ハイテクノロジーの効果的な使用は、医療の効率や質を向上させる重要な要素ですが、費用対効果やエビデンス不足などに課題があります。これらの課題の解決をすることにより、高齢者や障がい者の生活の質を向上させ、豊かな生活を支援することを目指しています。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「脳血管障害片麻痺患者に対するロボット型短下肢装具のリハビリテーション介入効果の検討」
- ・「ロボット型膝装具のリハビリテーション介入効果の検討」
- ・【科研費】「歩行支援型ロボット(単脚・局所型)の臨床的・脳科学的有効性の検討と機器の分類化」

# 障がい者における健康増進、二次的障害の予防における取組



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

泉 美帆子 Izumi Mihoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：障がい者・健康増進・二次的障害・パラスポーツ

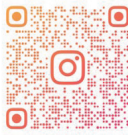


## 研究の概要

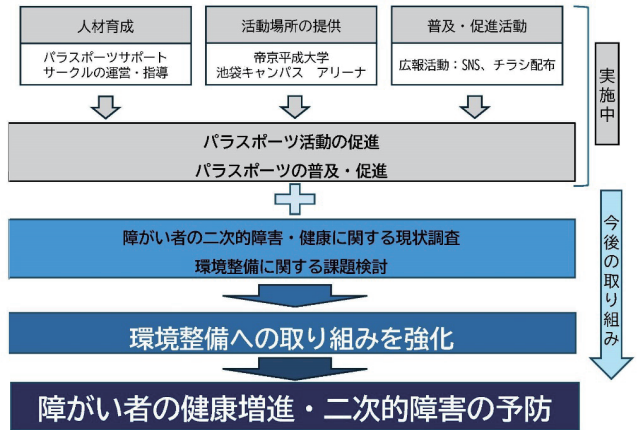
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

障がい者は、障害に起因する一次的な機能障害・活動制限以外に、障害があることで褥瘡や易骨折性、耐糖能異常といった健康上の問題が発生しやすいことが判っています。この二次的に発生する健康問題は、理論的には適切な対処をすることで予防できるとされていますが、予防できず健康を害し、社会生活の継続が困難になることが多く見受けられます。

現在、健常者への健康増進は発展・浸透してきています。しかし、障害があると、環境、特に人的環境の整備が必要なため、健常者と同様に気軽に健康増進活動を行うことが困難です。現在、障がい者が健康増進のために、運動をしやすい環境づくりから取り組んでいます。今後は、障がい者の二次的障害・健康に関する現状を調査し、健康増進に必要な環境整備について検討・提案していく予定です。このような取り組みにより、障がい者が社会から置き去りにならないことを目標としています。



@THU\_PARASPORTS  
人材育成の場である  
本学公認サークル  
ENJ∞では、活動を  
Instagram (QR コード)  
で報告しています。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

共生社会の実現に向けては、障がい者への取り組みをおこなうことが必須です。障がい者は、人間ドックや運動などの健康増進活動から「置き去り」にされやすいです。本取り組みは、すでに活動（実装）を開始しており、共生社会の実現・SDGs へのつながり、障がい者の健康増進・介護予防への取り組みになると考えています。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ポリオ罹患者の等尺性収縮運動における Borg CR-10 (Category ratio Scale) の妥当性と信頼性」
- ・「脊柱に変形を有した脊髄損傷症例へのシーティングの一考察」

【科研費】脊髄損傷者における座位姿勢と臀部のずれ力―座面傾斜と背もたれ傾斜の影響―



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授

植田 恵 Ueda Megumi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 原発性進行性失語・リハビリテーション・タブレット端末・言語聴覚士



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

アルツハイマー型認知症などと同じ神経変性疾患を原因とする原発性進行性失語症 (PPA; Primary Progressive Aphasia) は数年から十数年をかけてゆっくり進行するため、長期経過を見据えた支援が必要である。PPA の主症状はコミュニケーション障害であり、言語聴覚士 (ST) の専門的な介入が必須だが、適切な介入法もサービス提供のための手段も確立しておらず十分なサービスが提供されているとは言いがたい。また PPA の場合は、疾患の進行に伴い認知症に移行するため、医療・介護の多職種が関与することになる。ゆえに関わる人や場が変わっても継続したサービスを受けられる体制作りが必要であり、これまでの研究から患者自身の情報や学習ツールを搭載したタブレット端末を使うことが有益ではないかと考えている。

そこで本研究では、ST の PPA への関わりの実態調査と本人・家族を対象としたインタビュー調査によって現状の問題点と必要とされるサービスを明らかにし、PPA 患者のための標準的な介入法をモデル化して、タブレット端末を用いて提供することを試みる。



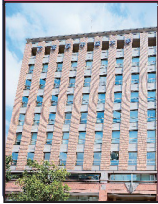
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の成果は、同じく長期経過を辿る認知症や進行性難病の方への支援にも汎用できる可能性がある。また今後、日常的に IT 機器を使う世代が高齢者になっていく社会においては、特別な福祉機器ではなく、使い慣れたツールを患者の日常生活支援やリハビリテーションの手段として柔軟に使用していくことを提案できる。これにより、高齢になっても認知症になっても継続して使えるやさしい IT 機器の開発に繋がるのが期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 1) 植田恵, 高山豊: 意味型原発性進行性失語 (svPPA) 患者の長期呼称訓練の有用性と限界の検討. 高次脳機能研究, 43: 40, 2023
- 2) 飯千紀代子, 植田恵, 黒川容輔ほか: 認知症に対する言語聴覚士のかかわりに関するアンケート (第 1 報) 評価と介入の現状. 言語聴覚研究, 17: 162-170, 2020
- 3) 植田恵: 認知症 原発性進行性失語の臨床. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 55: 特別号, S384, 2018

# 高齢者の健康とライフイベントに関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 講師  
岡田 亜紀子 Okada Akiko



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 高齢者・ライフイベント・健康

## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10: 人や国の不平等をなくそう

日本の高齢化率は29.1% (2023) であり、世界で最高水準にある。わが国では、健康日本21 (第3次) が2024年から施行される。これまでに引き続き、健康寿命の延伸、健康格差の縮小が掲げられており、目標を達成するための方策の提示が急務とされている。

Homes らの研究 (1967) では、配偶者の死、離婚、結婚などのライフイベントが不健康や疾病の発症に関連することを明らかにしている。生存時間の長い高齢者において、経験したライフイベントの種類や数は多いことが想定される一方で、長生きを達成している日本の高齢者において、ライフイベントが健康に与える影響を緩和する要因が何かについて検討された研究は少ない。

これまで、JAGES (日本老年学的評価研究) で蓄積されてきた日本人の高齢者データを用い、要介護認定に影響するライフイベントとその緩和要因について明らかにし、健康寿命の延伸を支える一助としたい。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

JAGES に参加していただいている自治体には、地域別の結果をフィードバックする予定です。また、県・市町村の健康増進計画を立案の際には結果をご利用いただき、高齢者の要介護認定を下げるための地域づくりや環境づくり、ポピュレーションアプローチの一助としていただけましたら幸いです。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【研究報告】・「千葉県民における習慣的栄養素摂取量の分布推定の試み」

【所属学会】・日本栄養士会  
・日本栄養改善学会

# 高齢者のケアプログラム作成



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

小野澤 大輔 Onozawa Daisuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：高齢者治療・介護予防・柔道整復・ケアプログラム



## 研究の概要

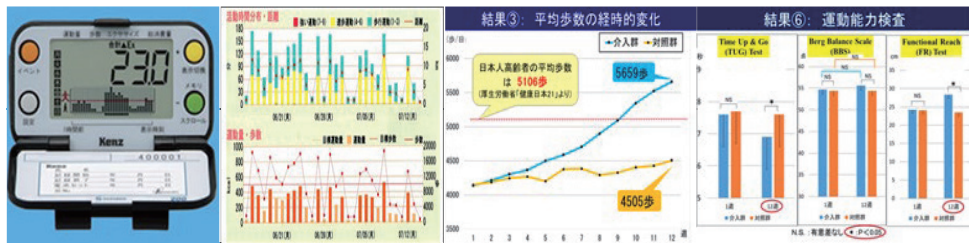
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

【背景】高齢者人口が国民の4分の1以上を占める超高齢社会のわが国では、高齢者が自立した日常生活を送れる期間（健康寿命）の延伸が重要課題になっている。介護を必要とする人を社会全体で支える仕組みである介護保険制度が2000年に導入され、制度の改正や変更を重ねて現在に至っているものの、今後さらに高齢化率が上昇していく状況を考えると、介護予防に役立つ方策の検討が急がれる。

【目的】通所介護施設利用中の高齢者が、自立した生活を継続するために必要な運動能力や運動継続力を、維持・増進するために役立つケアプログラムの作成を目標に、研究を実施する。

【研究の意義】通所介護施設では、サービス提供時間の決まりはあるが、内容についての規定はない。また、効果があると報告された運動療法を試そうとしても、業務内容や施設の状況によっては実施できない場合もある。そこで、一般的におこなわれている通所サービスの範囲内で、運動に対する意識や意欲を向上させる事ができれば、通所日だけでなく自宅での運動量増加も期待でき、高齢者における運動能力の増加や維持、運動習慣の継続に結びつく可能性が考えられる。

【現在の研究状況】生活習慣記録器を用いて、運動の見える化に努めていく。（運動強度、歩数、など）



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

通所介護（デイサービス）の役割は、利用者の日常生活能力の維持向上が中心であるが、利用者家族や施設の従業員も負担が少ないようにケアプログラムを作成する。

効果的なケアプログラムは、高齢者の運動能力維持や自立・健康寿命低下のリスクを抑え・高齢者の社会参加の増加につながる。施設に適したケアプログラムの提供は、魅力的なデイサービスを運営に貢献できる。

現在、埼玉県内の5つの介護施設と提携してケアプログラムを作成している。今後も介護施設のスタッフと話し合いをしながら、転倒予防、運動習慣向上、などのプログラムを作成する。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「生活習慣記録機データのフィードバックを用いた運動指導の効果」
- ・「介護施設における運動介入研究」
- ・「通所介護施設の運動プログラム」

## 統合失調症に対するオンライン認知行動療法 (CBTp) の社会実装に向けて



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 准教授

勝嶋 雅之 Katsushima Masayuki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 統合失調症・リモート・認知行動療法・アクセシビリティ



### 研究の概要

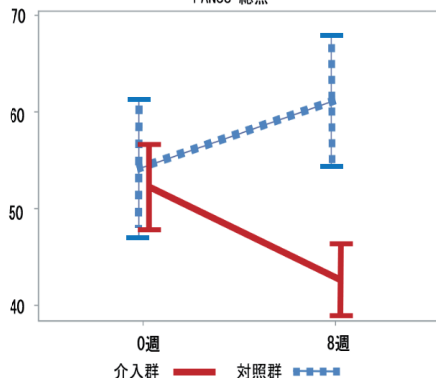
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

本邦では統合失調症に対する臨床治療は薬物療法中心であり、欧米と比較して統合失調症に対する認知行動療法 (Cognitive Behavioral Therapy for Psychosis: CBTp) の国内の研究エビデンスは少ない (Katsushima et al. 2024)。CBTp により疾病理解や服薬認識の改善および、ストレス対処能力の向上の可能性も示唆されている (Tarrrier et al. 1993) が、国内では CBTp のセラピスト養成の体制や受療できる施設が乏しい状況であるため、統合失調症の患者が CBTp の受療にたどり着くことが現状、困難である。また遠隔地や過疎地域に居住する患者ほど身体的・精神的・経済的なアクセス負担を伴うことも推察される。今回、患者宅と病院のセラピストをオンライン接続して遠隔 CBTp の介入をおこなうことで、精神症状に改善が見られるかどうかをパイロット RCT で検証した。

本研究 (UMIN000043396) では千葉県の基幹病院と連携して、外来で薬物療法を受けていて、なおかつ、陽性症状が存在する統合失調症の患者に毎週 1 回 50 分で 7 回のオンラインでの遠隔個人認知行動療法を実施する群と、外来通常治療のみの 2 群間を比較した。アウトカムは統合失調症の世界標準の評価尺度である陽性・陰性症状評価尺度 (Positive and Negative Syndrome Scale: PANSS) のベースラインから 8 週時点の変化量とした。PANSS は陽性症状を 7 項目で、陰性症状を 7 項目で、また、その他に、不安や抑うつなどの総合的な精神病理を 16 項目で評価する合計 30 項目からなる総合的に統合失調症を評価する尺度である。

今回の RCT で介入群では試験開始時の平均 52 点から 8 週間には平均 43 点まで改善するなどいずれの領域でも有意な差がみられた。

PANSS 総点



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

今回の研究では遠隔での CBTp により症状への改善効果や、外出が困難な患者でもオンラインで CBTp を受療する安全性が確認できた。しかし統合失調症の症状は患者によって多様であり、CBTp がどのような症状の患者に効果があるのか、という点までは明らかになっていない。そこで筆者らは、統合失調症の患者に社交不安症の併存が多いことや、対人ストレスが陽性症状を強める契機となることから、発展研究として社交不安を持つ統合失調症の患者へのオンライン CBTp を開発中であり、社交不安を標的とした CBTp を研究予定である。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

#### 【論文】

「Effectiveness of a Videoconference-Based Cognitive Behavioral Therapy Program for Patients with Schizophrenia: Pilot Randomized Controlled Trial」

#### 【科研費】

(基盤研究 C) : 「統合失調症の外来患者に対する遠隔認知行動療法プログラムの開発とその有効性の検証」

(基盤研究 C) : 「社交不安を持つ外来統合失調症患者に対する遠隔認知行動療法プログラムの開発と検証」



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 教授

加藤 勝行 kato katuyuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：運動療法(ファシリテーションテクニック)・敏捷性・反応定位(軌道)・持続的時間効果



## 研究の概要

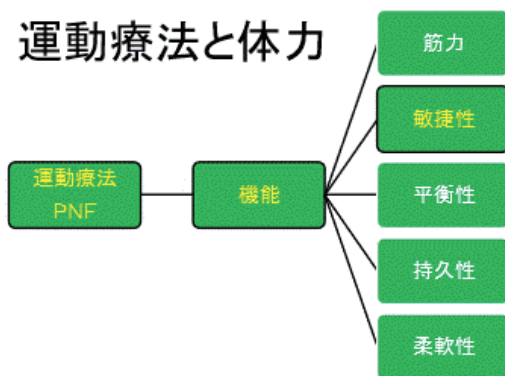
運動技能評価については、筋電図、反応時間、エネルギー、運動軌跡、視覚的運動分析等の指標により多角的評価が可能となります。特に、敏捷性は構成要因として筋の収縮速度、筋を支配する運動ニューロンのインパルス発射様式、酸素消費能力、反応定位(軌道)などの組み合わせにより、種々の敏捷な動作様式が成り立つものであるとされています。関節運動から敏捷性を体力の要素の一因子としてとらえて、刺激に対して反応動作が起こるまでの反応時間の短縮が持続するならば、すなわち、動作反応の準備態勢を整えていることを示し、素早い動作能力としての敏捷性という機能的向上がもたらされると考えました。

理学療法士として学べる運動療法の機能に特化した効果を目指していることから、動作画像による反応軌道の解析、筋力、敏捷性の向上、ROMといった筋の柔軟性の拡大を目的とした運動学習に重きを置き、その効果(結果)が導き出すことは実践的質の向上教育につながるものと考えています。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

## 運動療法と体力



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

長年の臨床経験から、Facilitation 技術の提供とその運動学習がアスリートには最も重視するべきとの知見にたどり着きました。現在は JMSCA 医科学委員に所属する傍ら、スポーツクライミング選手を主に 25 年診ています。その間、東京 2020 以外でもリードとボルダー競技において世界年間チャンピオン達成に男 2 名女 1 名の育成に携わって来ました。特にボルダーでは 2 年連続を 2 回と 4 度立たせることに貢献させて頂きました。現在 2028 年ロサンゼルスオリンピックに向けた若手選手育成にも携わっていますが、さらに全国に居る有望選手にも培ってきた知識と技術を提供したいと考えています。相反神経強化を用いたテクニックの有用性にご理解を頂けるなら、一緒に日本選手の体力・技能向上にご支援いただけますと幸いです。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「A study on the lasting effects of PNF stretching in terms of reaction time.」
- ・「慢性疼痛に対する理学療法の有効性」
- ・アスリートクライマーへの学習強化の必要性について-The need for Learning enhancements to athletes climber.-」

# 作業分析に基づきペットケア負担を可視化する評価指標の開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 教授

菊池 和美 Kikuchi Kazumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：高齢者・犬・猫・ペットケア・IADL・作業療法・愛玩動物看護師・介護予防・地域包括ケア・ワンヘルス・飼育負担

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

飼い主にとって犬や猫は、単なるペットではなく家族の一員です。特に、高齢者にとっては、生活リズムや運動機能の維持、精神的安定を支える大切な存在です。しかし、加齢に伴う体力や認知機能の低下、住環境の制約などにより、日常的な飼育作業が負担となり、飼育を続けることが難しくなる場面もあります。

本研究では、飼い主の生活関連活動（IADL）の一つとして、このペットケアの作業内容を収集し、作業分析を通して、ペットとともに安全に暮らし続けるために必要な作業遂行能力を明らかにします。これらの作業を通して、高齢者のみならず多世代に応用可能な、ペットケア遂行力の評価指標の開発を目指しています。

“犬”に関しては既に、レビューを経て（ICP2024）、犬の飼い主らより 302 の飼育作業を網羅的に収集し、作業の煩雑さや継続不安を（ヒトと動物の関係学会 2025）、また、我が国ならではの多様な作業負担の存在を示しました（IAHAI02025）。これらの知見から、飼育が困難になる以前より、人とペット双方への予防的な介入が必要であることを指摘しました。現在は、“猫”についても同様の検討を並行して進めています。

人を対象とした高齢者支援では、作業療法をはじめとした介護・看護・リハビリテーションが「予防的支援」や「生活環境整備」等が充実しつつあります。ペットに関しては、動物の健康と暮らしを支える愛玩動物看護師の役割は極めて重要ですが、現状では医療的なケアが中心で、ペットと飼育者の生活像の把握や支援は十分とは言えません。高齢者とペット、双方の生活を支えるという本研究の視点は、学際的かつ国際的に注目されるワンヘルス（One Health）の理念にも合致します。

今後は犬と猫の研究成果を統合し、ペットケアを生活に関連する活動（IADL）のひとつとして評価し、ヘルスプロモーションとの関連性を検討していきます。将来的には、飼育継続の難しさを早期に捉える枠組み（PetCare-IADL）の構築を目指し、多職種が協働する支援モデルとして、飼育者・高齢者の支援・地域包括ケア・ワンヘルスの実践に貢献できる可能性があります。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の成果は、作業療法教育における実践的な学びに直結し、生活行為分析や環境調整を学ぶ教材として活用できます。また、愛玩動物看護師との協働など、多職種連携教育（IPE）にも広がりをもたせ、高齢者支援の新しいモデルを理解する機会となります。本研究が明らかにする「ペットケアに必要な作業遂行能力」は、産業界における新たなサービス開発や製品設計、ペット保険のリスク評価、見守り ICT の開発などにも応用可能な基盤情報となります。自治体にとっても、フレイル予防・孤立防止・在宅支援といった施策に直結し、地域包括ケアの枠組みに新たな視点を提供できる点が大きな強みです。また、ワンヘルスの理念にも合致し、住民の健康と動物福祉の双方に資する研究として実践的価値があります。

今後は、産官学および専門職との協働を進め、ペットケア負担の軽減につながるサービスや支援策の開発、実証フィールドの構築、大規模調査の実施を目指します。犬猫の飼育作業に関するデータ提供、負担分析、環境評価に基づく助言、多職種と連携した支援モデルの検討など、共同研究として展開できる幅は広く、教育・研修・啓発活動にも貢献できます。また、自治体や企業との継続的な連携を通じて、PetCare-IADL の社会実装を進め、高齢者とペットが安心して暮らせる地域づくりを、ともに推進していきたいと考えています。

# 鍼刺激が免疫応答を制御するメカニズム解明



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 講師

小峰 昇一 Komine Shoichi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 東洋医学・鍼灸・疾病予防・概日リズム・免疫応答



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

東洋医学には歴史的に積みあがった疾病予防効果の知識「経験知」は豊富にあるが、西洋医学と比較すると効果が未検証なために治療として使いこなせていないのが課題である。東洋医学のなかでも鍼治療については、「健康度を高める」ための効果を期待して治療がなされるが、その科学的根拠は十分とは言えない現状である。鍼治療効果の誘導機序を科学的に検証して研究分野における「科学知」とすることで、現代医療の治療補完・補助が可能になることが期待される。しかし、その治療機序は未だ不明であるため、解明が急務である。この現状の中で、現在、当研究室で扱っている主なテーマは次の二つである。

【臨床研究】 ヒト足三里（ツボ）への鍼通電刺激は血球エンドトキシン耐性に影響を与えるか？（図1）

【基礎研究】 マウスにおける鍼通電刺激は生体概日リズム位相を変化させるか？（図2）

二つのテーマを中心に研究を展開し、鍼治療が疾病予防効果を誘導するメカニズム解析を進展させる。

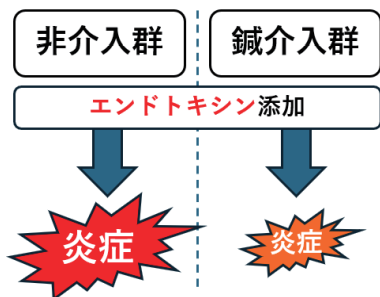


図1. 鍼刺激はエンドトキシン耐性を増大し、血球炎症応答を抑制する？

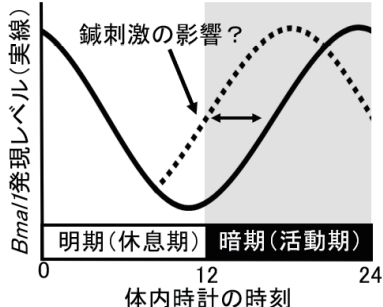


図2. 鍼刺激は時計遺伝子(Bmal1)発現量を前進させる？

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

当研究室に属する学生は研究活動を通じて鍼治療の本質を探究し、臨床に応用できる「実学」を実践している。この「実学」により、知識や治療スキルを持ち、アンメット・メディカル・ニーズへの対応もできる鍼灸師を輩出することにつながる事が期待される。

当研究テーマの特徴として次の点が挙げられる。①鍼刺激の介入効果について基礎研究を基盤に解明する点。②エンドトキシン刺激に由来する疾患（生活習慣病、アレルギー疾患、COVID-19後遺症）等に対する有用性を検証できる点。③鍼治療による症状緩和により投薬量の減少を目指す点。④他大学と連携して鍼刺激の効果を多面的に検証・研究展開している点。

当研究は基盤研究であり、鍼治療が誘導する「未病治」の解明が期待できる。また、臨床研究は鍼灸師の業の範囲内でおこなっており、安全性は担保されているため、健康作りを目指す社会に、即座に当研究の知見を実装可能であることを意味する。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】（**基盤研究B**）「鍼通電刺激がオープンウィンドウ現象に与える影響と随伴する上気道感染の予防効果検証」

【論文】・「Effect of Electroacupuncture on Delayed-Onset Muscle Soreness Induced by Eccentric Exercise in Young Untrained Men」

## 大学生と地域住民の協働による地域連携実践とその教育的可能性



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 講師

齊藤 一実 Saito Hitomi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域連携・地域課題理解・作業療法教育・大学生・地域住民・  
孤独孤立対策・高齢者・予防・多世代交流



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを

本研究は、大学生と地域住民をつなぐ地域連携の実践を通して、地域課題への気づきを促し、地域共生社会の実現に向けた可能性を探るものである。

市原市の集合住宅地をフィールドに、作業療法学生が地域を訪問し、住民とともに地域課題を考える授業を展開している。地区踏査や住民との対話、地域イベントへの参加などを通して、学生は「人の暮らしを知ること」や「地域コミュニティの大切さを理解すること」を体感的に学んでいる。

これらの体験を通じて、学生は、生活環境、孤独・孤立、交通の不便さ等のさまざまな地域課題を「自分ごと」として捉える視点を獲得する。また、地域住民にとっても、若い世代との交流が新たな気づきや社会的つながりの再構築につながっている。

本研究は、地域連携教育および作業療法教育の一つの実践例として、地域課題理解を促進する学習環境のデザインとその効果の検証を目的とする。今後は、自治体との協働による孤独・孤立対策や地域包括ケアの推進、地域住民の健康観の変化など、地域社会への実装可能性をさらに検討していく。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、地域住民と大学生が協働して地域課題を考える実践を通じて、地域の孤独・孤立、交通、生活環境などの課題を可視化し、地域共生社会の実現に向けたアプローチを検討するものである。地域をフィールドとした学びは、学生が将来、医療・福祉領域で働く専門職として地域を理解し支えるための基盤づくりにも寄与している。

自治体にとっては、地域課題の把握や住民の声の収集、若い世代との交流機会の創出につながり、孤独・孤立対策や地域包括ケアの推進に寄与する。企業にとっても、地域貢献活動やコミュニティ支援の取り組みとして連携しやすいテーマである。

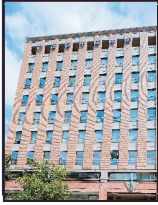
協力可能事項として、地域調査、住民との対話の場づくり、地域イベントの企画・運営支援、学生による地域課題の整理・提案などが挙げられる。協力希望事項として、自治体・企業との共同プロジェクトの実施、地域住民との交流機会の提供、地域課題に関する情報共有、孤独・孤立対策やコミュニティ支援に関する連携を求めている。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【学会発表】

- ・「継続的地域訪問を組み込んだ地域作業療法実習の試み」
- ・「The Community as a Treasure Trove of Learning - Efforts of Occupational Therapy Students in Understanding the Local Area -」

# フレイル予防で人生百歳まで元気



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 教授

阪井 康友 Sakai Yasutomo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：フレイル予防・サルコペニア・ダイナペニア・筋輝度・  
生体電気インピーダンス法



SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

人生 100 年時代、100 歳以上の高齢者は、医療の進歩や生活習慣の改善により、特に女性を中心に増加傾向にあります。政府や企業もこの課題に対応するための取り組みを進めています。

「健康寿命」を維持し、いつまでも元気に過ごすためには、要介護のリスクとなる「フレイル（虚弱/心身の衰え）」の予防が大切です。

私は理学療法士として、転倒や骨折のリスクとなる「サルコペニア（筋肉の衰え）」に注目しています。さらに、普通に日常生活を送る「中・高齢者」のサルコペニア予備軍である「ダイナペニア」の把握（チェック）と予防がフレイル予防カギになると考えております。このダイナペニアは 40 歳以降で発症リスクが高まる「2 型糖尿病」の管理も影響するものと予測しております。

ダイナペニアの把握のためには、

- ① サルコペニアの診断基準[AWSG:Asian Working Group for Sarcopenia 2019/Chen LK 等]、筋輝度（超音波エコー）
- ② 筋細胞外液比（生体電気インピーダンス法/BIS） があります。

40 歳以降で普通に日常生活を送る「中・高齢者」を対象にダイナペニアの把握を模索しております。また、女性フィットネスジムで、運動を開始した、または継続（頻度も検討）している「中・高齢者」のダイナペニアの回復を検討しております。

この模索は、数千円の「体重計（体組成計）」では把握できません。将来的には、健康チェック（血糖値など）に挑戦している「スマートウォッチ」のような簡単なデバイスでダイナペニアを把握し、フレイル予防、そして、100 歳までの「健康寿命」を維持するための手助けになればと考えています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、フレイル予防のために次の様な効果や期待につながると考えております。

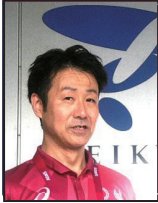
- 1) 2 型糖尿病のリスク（慢性的な高血糖値、食生活（高糖質/高 GI 食品、タンパク質摂取）、運動と肥満（特に内臓脂肪型）、その他）との関係から①簡易的な血糖値把握の根拠、②低糖質/低 GI 食品・高タンパク質食品の開発、③フィットネスジムや運動プログラムアプリ等の開発
- 2) ダイナペニアを把握する「スマートウォッチ」のような簡単なデバイス開発

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「地域の介護予防事業における運動プログラム参加者の体力向上効果」
- ・「サルコペニア（加齢性筋肉減弱症）と筋力強化/筋再生と理学療法」
- ・「介護予防事業の運動プログラムが地域高齢者の呼吸機能に及ぼす効果」

## 軟性素材の固定について



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 講師

佐々木 重昭 Sasaki Shigeaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 軟性素材・固定・スポーツ



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

近年、学校教育の現場や趣味などでおこなう社会人のスポーツコミュニティ、生涯スポーツ競技、障がい者スポーツ競技など、様々なスポーツシーンに関わる人が多く見られる。

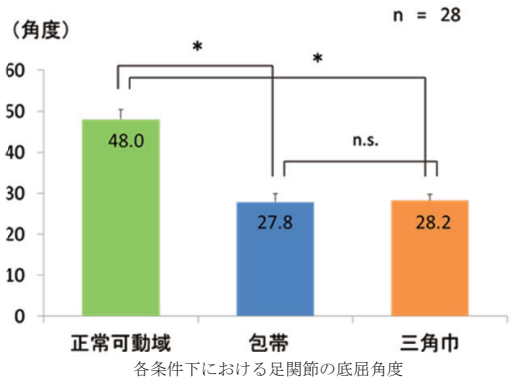
スポーツ安全協会や日本スポーツ振興センターなどがおこなっているスポーツや災害時の外傷の統計で、足関節の捻挫は特に多いとされている。全スポーツ外傷のなかで捻挫が36%と、骨折30%よりも多く、足関節捻挫は10~15%を占めるといわれている。

その足関節の捻挫の固定の応急処置として、接骨院や整形外科のHP、災害対策のHPや応急手当の教材書物で三角巾を用いた固定が紹介されている。その一例として、三角巾固定が実用性に近いものであることの報告がなされており、捻挫を想定した応急処置として信頼できる材料としている。

足関節捻挫の固定では、歩行動作の足関節底屈制限をかけることが重要とされている。足関節捻挫を想定した場合、仮説として包帯固定と三角巾の固定が有効であるか、包帯固定やその他の軟性材料との比較を実施し、固定時の可動域に差がみられなければ、あらゆる固定材料での可能性を見出すことができる。

計測方法は既往歴のない成人男女、28名(男性18名、女性10名)足関節の底屈角度をみる。

1. 正常可動域 : 背臥位でベッドから足関節を出した状態で足関節の可動域(底屈角度)を計測
2. 包帯固定 : 5裂包帯を良肢位で固定、足関節底屈角度を計測
3. 三角巾固定 : 三角巾を八つ折り帯状(緊急処置法)を良肢位で2周ほど施し底屈角度を計測



### 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

スポーツ安全協会や日本スポーツ振興センターなどがおこなっている、スポーツや災害時の外傷の統計で足関節の捻挫は特に多いとされている。全スポーツ外傷のなかで、骨折は30%だが、それよりも捻挫が36%と多い。足関節捻挫は10~15%を占めるといわれている。その足関節の捻挫の固定の応急処置として接骨院や整形外科のHP、災害対策のHPや応急手当の教材書物では必ずしも硬性素材や硬質材料を使った治療方法ではなく、身体に負担がかからない、軟性素材や身体にフィットした材料を用いた固定が紹介されている。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

#### 【論文】

- ・「足関節捻挫の包帯固定と三角巾固定の違い」

# 鼻咽腔閉鎖機能不全を客観的に評価する幼児用の検査課題と重症度別指標の作成



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 准教授

佐藤 亜紀子 Sato Akiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 鼻咽腔閉鎖機能・口蓋裂・幼児・言語

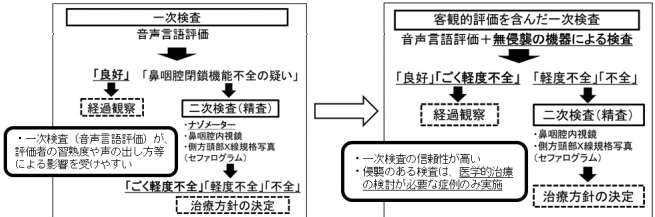


## SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

### 研究の概要

鼻咽腔閉鎖機能は、発声時や嚥下時、軟口蓋と咽頭側壁・後壁が協調運動し、呼吸や飲食物が鼻から漏れないように口腔と鼻腔を遮断する機能です。口蓋裂やその関連疾患（粘膜炎口蓋裂や先天性鼻咽腔閉鎖不全症）により、鼻咽腔閉鎖機能不全が疑われる場合、複数の検査を実施して鼻咽腔閉鎖機能の総合判定をおこない、治療方針が決定されます。口蓋裂術後患者に対しては、適正なスピーチの獲得を促進させるために、幼児期から鼻咽腔閉鎖機能評価を実施します。幼児の鼻咽腔閉鎖機能評価は、言語聴覚士による音声言語評価が中心となります。音声言語評価は非侵襲的で幼児にも容易に実施できる反面、専門的な臨床経験を要し、経験が少ないと正確な判定に難渋することがあります。本研究では、音声言語評価を補完できる侵襲のない機器を用いた検査の小児用検査課題を作成し、重症度別の指標を作成して小児の検査への負担が少ない評価システムの構築を目指します。

現在、鼻咽腔閉鎖機能に問題のない幼児のデータと、口蓋裂やその関連疾患のある幼児のデータの収集・分析中です。口蓋裂術後は成人に至るまで経年的な治療が必要になるため、今後は学齢児についても研究を進めていく必要があると考えています。



幼児の負担を軽減した鼻咽腔閉鎖機能評価システムの構築

写真上：ナゾメーター6500 PENTAX MEDICAL

写真下：ヘッドセット（ハンドルタイプ）装着の様子

医療・リハビリテーション

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・鼻咽腔閉鎖機能不全の重症度別の指標を設定することで、小児の検査に対する心身の負担が少ない評価システムの構築が期待できます。
- ・幼児だけでなく、発達の遅れなどで検査協力を得るのが難しい患者に対しても、信頼性の高い鼻咽腔閉鎖機能評価を非侵襲的に実施できることが期待されます。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 【学会発表】・ナゾメーター検査における健常幼児向けの発話課題作成と鼻音化率基準範囲設定の試み
- ・ナゾメーター検査による鼻咽腔閉鎖機能評価に用いる日本語発話課題の長さに関する検討
- 【論文】・口蓋裂言語検査による鼻咽腔閉鎖機能の評価—内視鏡検査、側方頭部 X 線規格写真との関連—

# 頸部機能に関する研究（頸部回旋可動域測定装置）



【池袋キャンパス】 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 助教

佐藤 皓亮 Sato Kosuke

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

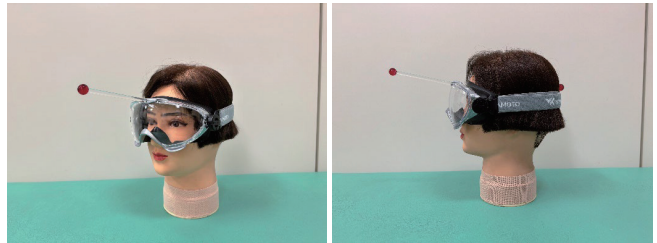
キーワード：頸部・回旋・関節可動域



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

従来頸部回旋の可動域測定には三次元動作解析・分析装置やゴニオメーターを用いた測定が多くみられる。三次元動作解析・分析装置は高価な機器で測定環境に制限があり頻りに測定をおこなうことは困難であるため、臨床現場においてはゴニオメーターを用いた従来の可動域測定法がおこなわれてきた。しかし頸部回旋の可動域測定にはランドマークの特定が他の関節可動域測定より困難であり、ランドマークを分かりやすく明確にした測定法・測定装置はこれまで見られなかった。本装置はこれらの事実を解決し、装置の製作を簡易で、なおかつ安価とした。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【課題を解決するための手段】

ゴーグルの前方正中部に支柱を矢状面上になるよう接着剤・ネジで取り付け、ゴーグルゴムバンドの後方正中部にマーカーを設置する。ゴーグルを緩みのないよう装着する。後頭結節部にマーカーを設置し、頸部回旋関節可動域を測定する。

### 【考案の効果】

安価・簡便なおかつランドマークの特定しやすい頸部回旋可動域測定をおこなうことができ、規定に則り測定をおこなえば、経験等に左右されずに再現性の高い計測ができる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【知的財産】

・実用新案登録第 3243488 号 「頸部回旋可動域測定装置」

### 【論文】

・「本邦での頸部・頸椎回旋可動域における研究動向・傾向・課題の調査分析-2003~2022 の文献に着目して-」  
・「Survey and Analysis of Cervical Rotation Joint Range of Motion Measurement Methods for Patients with Neck Diseases in Japan and Overseas —A Systematic Review —」

## 立ち上がり動作時に足関節可動域が及ぼす影響



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 准教授

佐藤 裕二 Sato Yuji

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 立ち上がり・しゃがみ込み・sit-to-stand



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

日常生活において、かなり多くの時間を椅子に座った状態で過ごします。その状態から次の動作に移る第一段階として椅子からの立ち上がり動作が重要となります。例えば、椅子に座った状態から、トイレに行くなど移動する際、前段階で立ち上がる必要性があります。

立ち上がりに与える影響はいくつもの要素がありますが、関節の可動域に着目し、特に足関節の可動域が立ち上がりに与える影響についての解明を進めています。現在、若い人の中にはしゃがみ込んだ姿勢を維持できない人が多く見られます。このような人は足関節の可動域に制限があり、これが立ち上がりにも影響を与えている可能性があると考えています。

立ち上がりのためのトレーニングを実施し、立ち上がりの能力を向上させることはもちろん、トレーニングなしでも立ち上がりがらくになり、次の行動につながるための工夫や機器の開発につなげていくことを考えています。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究計画は、高齢化社会の日本の将来につながる研究となり、日常生活における機能の解明につながる。自分で立ち上がり移動動作の初期の段階が改善されれば介護予防にもつながる要素となる。また、安定した立ち上がり動作につながる機器の開発につなげることが期待される。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「Analysis of Research Trends in Sit-to-Stand Studies」

立ち上がり動作における研究の動向分析

【学会発表】・国際エクササイズサイエンス学会

# 自閉症スペクトラム児の語りの発達と支援



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 講師

重森 知奈 Shigemori China

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 自閉症スペクトラム障害・ナラティブ・言語発達



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

ナラティブとは、出来事を結び付け、筋道をつけて他者に語ることである。語り手が経験した出来事を人に語る場合、事実を伝えるだけではなく、感じたことや考えを加えて述べる。そこには、おのずと語り手のこれまでの経験と認識を通した意味づけが反映される。他者への語りには、経験した出来事のほか、目撃したことがらや想像や空想した内容等があり、さまざまである。ナラティブの発達は、幼児期後期には語彙、文法などの表現形式のもとに、基本的な語りの形を形成していく。そして、児童期には、他者に向けて、より分かりやすく、必要な情報を正確に伝えたり、起承転結やオチをつけて話したりなど、語り全体を組織化させ、語り方の面もあわせ精緻化させていく。また、幼児期のナラティブは児童期の学業成績や読み書きと関連することが指摘され、語る力はその後の知識の習得にも影響するといわれている。

自閉症スペクトラム障害(Autism Spectrum disorder : 以下 ASD)のある子どもは、言語コミュニケーションにおける対人交流場面の行動特徴を背景として、ナラティブにも困難を示す。知的発達や言語発達に遅れはない場合であっても、人に分かりやすく伝える工夫など、語る場面においては語用論的な課題を示すとされる。児童期における学びや友人関係を育むためにも、語りの発達とその支援は重要であるといえる。

本研究では、ASD 児のナラティブにおける言語の分析を通して、語られた単語や文などの表現形式と、ストーリー構成の面について、発達の特徴を明らかにする。得られた知見は、ASD 児の言語発達に関して、語る力の発達の道筋を示すとともに、ASD 児への言語発達の支援における示唆を得られると考えている。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

ASD 児・者はコミュニケーションに困難を示す。具体的な場面として、説明がわかりにくい、要点を得ない、どうしてこうなったのか等を適切に説明することが難しいなどが挙げられる。こうした困難さは、大人の ASD でも仕事や私生活などでも、コミュニケーションの行き違いによるトラブルの原因になることもある。子どもにおける語りの特徴に関する知見を積み重ねることで、発達のな支援の手立てにつなげたいと考えている。そして、より円滑で心地よいコミュニケーションをとれる環境を整えていきたいと考えている。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「自閉症スペクトラム児のフィクショナルナラティブにおける発話特徴」
- ・「自閉症スペクトラム障害児におけるナラティブ発話の内容分析」

### 【科研費】

- ・研究活動スタート支援「自閉症スペクトラム障害におけるフィクショナルナラティブの発達に関する研究」

## 嗅覚の活性化を目的としたリハビリ的アプローチの実践

～意識して香りを嗅ぐ習慣化に向けて～



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科

作業療法コース 教授

関 一彦 Seki Kazuhiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：嗅覚障害・嗅神経細胞・高齢者・アルツハイマー病（AD）・パーキンソン病（PD）



### 研究の概要

人を含む自然界の多種多様な生物において、嗅覚は重要な機能、感覚器官の一つである。人の嗅覚は、先行研究やわれわれの研究からもADやPDに限らず前期高齢者となる前から段階的に低下することが分かった。ほとんどは低下を自覚しておらず、適切な対応のないまま放置される傾向にある。これは、機能低下をメガネや補聴器といった代替品で対応される視覚や聴覚との差をみれば明らかである。理由としては、表面的には困っていないからと言える。一方、Hummelの嗅覚刺激法(2009)に代表される様に、嗅神経細胞の再生や改善には意識して香りを嗅ぐ行為が重要であることを多くの研究者が報告している。

しかし、研究者自身の臨床経験から、言葉による働きかけなどでは意識して香りを嗅ぐことの習慣化や生活の中での自然な行為・継続性には結びつきにくいことが分かってきた。本研究では、意識して香りを嗅ぐ活動として遊びの要素を伴った「香カルタ」を導入し、普段の生活の中での自然に香りを嗅ぐ行為の定着を目指している。現在、研究先の複数の病院で、一部の利用者や患者を対象に、治療・訓練の空いた時間を利用する形で無理なく継続的にこなされている。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 12：つくる責任 つかう責任

香カルタ（香りカードのマッチング）

～意識して嗅ぐ遊びを通した嗅覚のトレーニング～

回復期リハ

通所リハ



香カルタ  
(手製カード)

調味料入れ(ステンレス容器)&3Dprinter作成カード



調味料入れ (ステンレス容器)



※図は第59回日本OT学会発表演題から転用

### 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

生活関連動作に深く関わる作業療法(士)は、嗅覚の低下が単なる機能低下に収まらず、人の生活や行動に対して想像以上に深刻な問題を引き起こす可能性があることを理解しなければならない。しかし、養成教育や臨床現場での具体的な取り組みは乏しく、引き続き学会や研究会、論文投稿を通して粘り強く啓発し是正したい。一方、作業療法は、遊びの要素も多く嗅神経細胞の再生促進につながる治療活動の構築が比較的容易な特徴を持っている。これまで柳川市、旭市、市原市、帝京平成スポーツアカデミーなどでの公開講座や、東京都北区及び世田谷区の認知症カフェ計7施設において嗅覚障害に対する啓発的講演や簡単な調査を継続してきた。今後は、「香カルタ」の実践施設を増やす努力とともに自治体での講演やデモの体験のもとその普及活動につなげたい。そうした活動が、日頃から意識して香りを嗅ぐ習慣化や健康意識の向上に寄与し高齢者の医療費削減に貢献できる可能性がある。それに賛同する病院や施設、自治体の参加や協力をお願いしたい。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「嗅覚を意識したリハビリアプローチの現状と課題及び必要性」
- ・「養成教育での嗅覚関連教育強化による臨床実践への効果と期待」
- ・「Awareness and reality of decreased sense of smell in the elderly - Towards the problem and rehabilitation approach -」

## バレーボールでおこる外傷のリハビリテーションと予防について



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 助教

武田 真由子 Takeda Mayuko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : バレーボール・外傷・リハビリテーション・予防



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

バレーボールにおける外傷は、選手が常に激しい身体的な活動をおこなうことから発生しやすい。ジャンプの着地や急制動の反復が、下肢や上肢に慢性的な疾患を引き起こす原因となる。これには関節への負担や筋肉の不均衡が含まれ、適切な治療やリハビリテーションが必要となる。

急性外傷では、ネット際での相手との接触やボールとの強い接触が挙げられ、これにより捻挫や骨折などが発生し、迅速な治療が求められる。

外傷の治療やリハビリテーションに加え、予防の観点から各部位に身体的機能評価をおこない、特に慢性的な疾患のリスク因子抽出することで、要因を特定し適切なリハビリテーションをおこなうことで、再発のリスクを低減することができる。競技者の健康とパフォーマンスの両面を向上させるためのアプローチが必要であると考ええる。



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

クラブ活動や中学・高校・大学などのバレーボールチームにおける外傷予防となる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・日本柔道整復接骨医学会所属

#### 【学会発表】

・「柔道整復師を目指す女子大学生の現状と課題」

#### 【書籍】

・柔道整復師 Clinical Text (P.8,P.70~87)

# 血流変化の解析



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

玉井 清志 Tamai Kiyoshi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 自律神経・鍼・血流



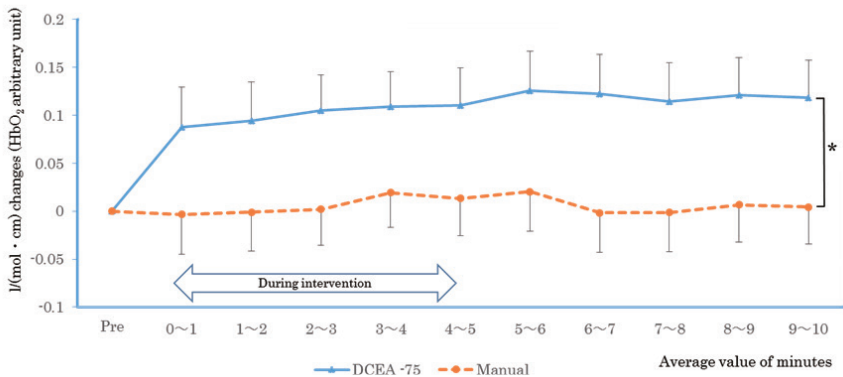
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

血流の変化を、近赤外分光法 (NIRS) を用いて調査解析している。下記は鍼刺激による血流応答を調査した結果である。刺激以外にも環境などによる血流応答に関する調査解析をしている。

鍼刺激は刺激部位近位と経絡上遠位の血流を上昇させるといわれていた。先行研究により近位は血流が上昇するメカニズムは明らかとなったが、遠位の血流が上昇するメカニズムは不明のままだった。2020年、本研究により鍼通電刺激により通電刺激量を上げれば遠位の血流量はデルマトーム域内限定で上昇することが明らかとなった。この反応は下肢、坐骨神経域では明らかとなったが、その他の領域では不明なままである。

そこで、鍼刺激、鍼通電刺激を用い、全身の血流変化を、近赤外分光法 (NIRS) を用いて調査解析した。



この図は下腿への鍼刺激で離れた部位、腰部の血流が上昇したことを示している。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

血流変化の解析は健康の指標となる自律神経反射を理解するうえで重要なデータです。このデータは医学や老化をあきらかにし、人々の健康に寄与します。また、以下の効果が期待できます。

- ・血流が悪い部位を改善することで、疾患の治療や老化の予防が期待できる。
- ・刺激ができない部位でも血流の改善が期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「The analysis in overtime about the autonomic nervous activities by Direct current electroacupuncture stimulation.」
- ・「Effects of active hexose correlated compound on nose symptom and autonomic nervous system in a clinical trial.」
- ・「Effect of direct current electric-acupuncture on the blood flow of lower back.」

## 鍼刺激の抗ストレス効果における前頭前野神経基盤の検討

fNIRS と右偏指数を用いた神経科学的解析



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授

玉井 秀明 Tamai Hideaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：ストレス・鍼治療・fNIRS・前頭前野・右偏指数



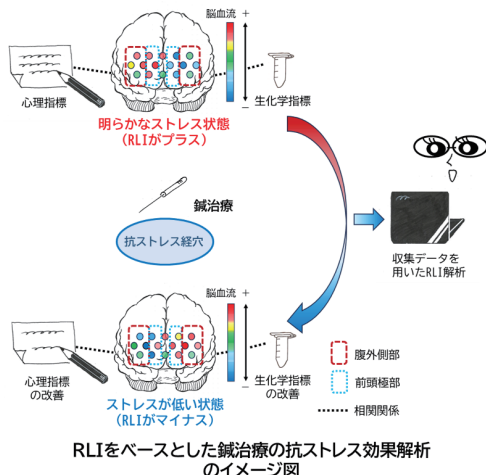
### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

これまで、鍼治療により精神・神経症状が改善したとする報告は数多く存在しますが、その神経科学的機序は十分に解明されていません。そこで、われわれは、ストレスの抑制や改善に関して臨床的に用いられてきた頭部の「百会（ひゃくえ）穴」への鍼治療の抗ストレス効果と、その前頭前野神経基盤について検討しています。

これまでの研究成果として、ヒトを対象とした計算課題による急性ストレス下で「前頭前野腹外側部の活動が右優位に傾く状態」が、百会への鍼刺激後に左優位方向へ変化し、主観的なストレス指標の改善と相関することを示唆しました。これは、ストレス神経科学の観点から鍼刺激の作用を説明する新たな知見と考えられます。

従来の fNIRS による脳血流の相対値評価には、個体差の影響が大きいという課題がありました。そのため、われわれは脳活動の左右差に基づく新しい神経科学的バイオマーカー「右偏指数 (Right laterality index: RLI)」を用いて、個人差の影響を受けにくい定量評価を試みています。この新手法と、ストレスに関する従来の心理・生化学指標（唾液アミラーゼ、唾液コルチゾールなど）を統合的に解析することで、鍼治療の抗ストレス効果における前頭前野神経基盤の検討を進め、将来的な臨床評価指標への応用を目指します。



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

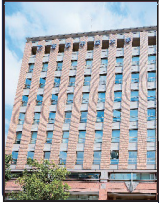
- ・本研究では、fNIRS 測定に RLI などを用いて、鍼治療による抗ストレス効果の神経科学的定量評価を試みます。これは、将来的な臨床評価指標の基盤技術となる可能性があります。
- ・fNIRS は、他の脳機能計測装置と比較して可搬性・安全性に優れ、臨床現場においても比較的容易に導入可能です。この特性により、鍼灸治療院や医療施設など、実環境での応用展開が期待されます。
- ・鍼治療の抗ストレス効果の可視化と、患者および各種医療職間におけるデータ共有を可能にし、鍼治療の信頼性向上と医療現場での導入促進が期待されます。
- ・各患者のストレス状態に応じた最適な抗ストレス経穴の組合せを提案する臨床支援システムの開発も視野に入れています。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「Exploring feasibility of fNIRS to assess delayed inhibition effect of prefrontal cortex for acute stress by acupuncture on GV20: a pilot study.」

【学会発表】・「ストレス関連神経生理学的バイオマーカーの探索」

# 安全で有用な鍼灸施術の技法の構築に関する研究



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 准教授

恒松 美香子 Tsunematsu Mikako

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 安全性・消毒・手指衛生・運動器・身体活動



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

鍼灸施術は1000年以上前に大陸から日本に伝えられ、その後、日本独自にも発展した伝統医学です。日本の鍼灸術は、細い鍼灸針を痛み無く安全に刺入するため、その鍼灸針自体に触らざるを得ない手技を多くの鍼灸師がおこなっています。そのため、手指の衛生管理が重要となります。また、日本の鍼灸師の国家資格は視覚障害者も取得することが可能であり、視力に障害があっても安全に施術をおこなえる工夫が必要となります。そこで、視力に関わらず、安全におこなうことができる鍼灸施術について検討を進めています。これまでは、鍼灸術の衛生面について検討をおこなってきました。手洗い、消毒、また、医療用手袋着用など、適切な衛生操作をおこなった場合、鍼灸針は鍼灸師の視力に関わらず衛生的に保たれることを確認しています。近年では、鍼灸施術は治療室以外にも、災害被災地やスポーツ現場など屋外において、災害被災者やスポーツ選手のケアに用いられることがあります。そこで、屋外でも適切な衛生操作をおこなった場合、施術に用いる鍼の衛生状態は保たれることも確認しています。今後は、鍼の衛生状態のみならず、その他の鍼灸関連の安全性の向上に寄与できるような調査研究、機器の開発、教育システムの開発についての研究を進めていきたいと考えています。

一方、本邦における鍼灸施術の受療率は、2022年では5.7%であり、その受療率は高くありません。鍼灸施術は運動器の症状（腰痛、膝痛など）の軽減に有用であり、今後、鍼灸施術が運動器の症状の軽減に貢献できることを示すことができるような検討を進めていきたいと思っています。

これまでに、運動器の症状を訴える中高齢者を対象に、鍼灸術をおこなった場合の身体活動の変化について検討をおこないました。その結果、鍼灸術を活用した介入をおこなった場合、身体活動量が増加しやすいことが示唆されました。さらに、高齢者に限らず、幅広い年齢層を対象として、運動器症状の改善やQOLの向上を目的とした鍼灸術の有用な活用方法についても検討を進めています。

今後も、伝統医学である鍼灸施術を安全に実施するとともに、運動器症状の改善や健康増進に有効に活用できるエビデンスの構築を目指した研究を継続していきたいと考えています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

安全な鍼灸施術の提供が期待されます。また、運動器の症状の改善を通じて、生活上のQOLの改善、また、高齢者については介護予防にもつながりうるものが期待されます。さらに、視覚障害を有する鍼灸師であっても晴眼者と同じレベルの安全な鍼灸施術行為が可能となり、視覚障害者の社会参加促進も期待できます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「The Influence of Different Hand Hygiene Operations on the Hygiene of Acupuncture Needles: Including a Comparison of the Influence of Acupuncturist's Eyesight.」
- ・「鍼灸術を活用した高齢者の身体活動量増大の取り組み 腰痛を有する高齢者における一例」

# 高齢化対応の各種座椅子に関する生体工学的研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 教授

徳田 良英 Tokuda Yoshihide

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

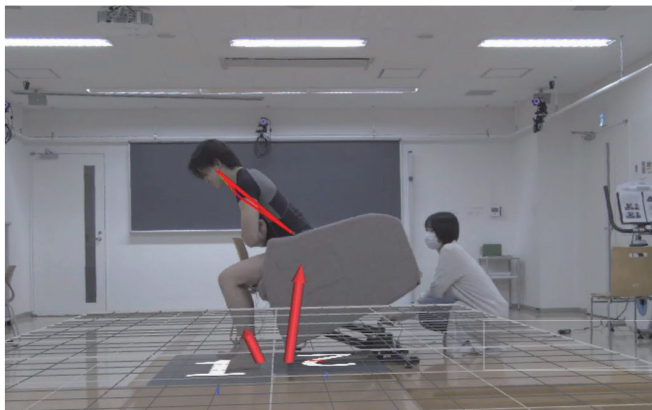
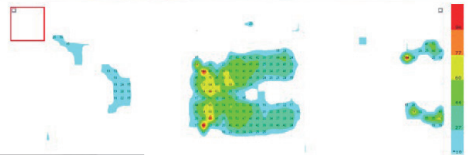
キーワード : 円背・座位姿勢・立ち上がり



## 研究の概要

高齢期に表れやすい円背姿勢に対してのサポート機能、脚力やバランスの低下に対する立ち上がり補助機能など有する座椅子に関してそれぞれ生体力学的な評価分析をおこなう。これらの評価分析により、これら効果を客観的に明らかにし、製品開発、製品購入の際の一助とすることを目的とする。

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を



↑ 円背サポート機能付き椅子使用時の姿勢、座圧の評価の様子  
(日本インテリア学会第37回大会, 2025にて報告)

← 立ち上がり動作を補助する動力機構を有する座椅子に関する運動学的評価の様子  
(日本支援工学理学療法学会大会第14回学術大会, 2025にて報告)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、国内ベッド製造販売会社の協力で自社製品を貸与してもらい、本学の動作解析室で実施しました。計測環境、計測機器が整備されているため、家具、インテリア、福祉機器などの製品使用に関する生体力学的な評価が可能です。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- ・「円背サポート機能付き椅子の座位姿勢に関する実験研究」
- ・「立ち上がり動作を補助する動力機構を有する座椅子に関する運動学的評価」

## 健康的で心身に負担の少ないデスクワークの方策とその普及に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 教授

徳田 良英 Tokuda Yoshihide

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 座位・筋活動量・筋疲労

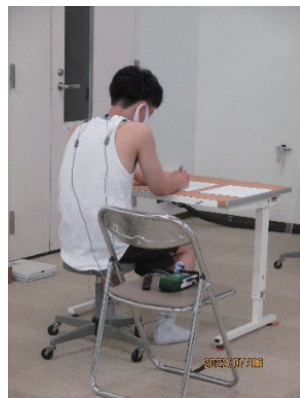


### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

昨今、ICTの技術革新やコロナ禍からの在宅勤務の普及などに伴い、長時間の座位行動（座り過ぎ）を採るライフスタイルがごく一般的になった。座位は安楽な姿勢であるが、長時間の座位は寿命の短縮、肥満度の上昇、2 類糖尿病や心疾患の罹患率の上昇が示されている。また、日本人の座位時間は中央値で約 7 時間と推定され、諸外国に比べ長いことが報告されており、国民の疾病予防の観点で座り過ぎの生活習慣の改善は重要である。これに対し、立位でのデスクワークを促すスタンディングデスクが注目され、米国などではオフィスのほか小学校でも児童用に導入する例も多く見られる。一方、日本では、スタンディングデスクの認知度はまだ低く、普及は初期段階といえる。

我々は座位と立位での軽作業での身体負担についての調査研究に着手している。若年健康者を対象とした 30 分間の座位及び立位での軽作業課題は官能的に許容範囲内であることを第 34 回日本インテリア学会（2022 年）で報告した。座位及び立位の表面筋電計を用いて筋活動量や筋疲労を客観的に評価し、作業姿勢の注意点を明らかにし、第 6 回産業理学療法研究会（2023 年）で報告した。健康的で心身に負担の少ないデスクワークの方策とその普及をテーマとする。



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

デスクワークによる座り過ぎの生活習慣の改善は、疾病予防、予防理学療法の観点から重要です。これを実現するためには、長時間座位による健康リスクについて一般の多くの方々考えを共有し、人々の暮らし方全般を見直すために、教育や啓発、さらに環境整備（例えば、学校・オフィス等の机・椅子の変更、建築計画の変更、働き方の改革に至る様々な場面で環境整備）が必要です。教育や啓発は、行動変移による疾病リスクの軽減させることで、これにより国民医療費の高騰を抑制することも期待できます。自治体等と協働することで実現できます。環境整備を実現するには、産業界との協働が不可欠です。

2025年度 としまコミュニティ大学 「健康的で心身に負担の少ないデスクワーク」講師担当

●受講された区民の多くが、ご自身の座り過ぎのライフスタイルに気づき、日常生活の改善のきっかけになりました。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「座位および立位での軽作業における主観的疲労感と筋活動量・筋疲労に関する実験研究」
- ・「スタンディングデスク使用における主観的疲労感、座りがちな日常生活の観点からの身体影響評価のパイロット研究」

## 高次脳機能障害の診断を受けている方の社会参加について



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 講師

中本 久之 Nakamoto Hisayuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 高次脳機能障害 ・ 作業療法 ・ 社会参加 ・ 就労支援



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 8 : 働きがいも 経済成長も

厚生労働省では、2001 年度に高次脳機能障害支援モデル事業を開始し、支援策が検討されている。2006 年 4 月には障害者自立支援法（現障害者総合支援法）が施行され、都道府県の地域生活支援事業として高次脳機能障害支援普及事業が位置付けられている（東京都保健福祉局）。東京都では 2006 年に高次脳機能障害者支援ニーズ調査を実施し、都内に在住する高次脳機能障害者のニーズが明らかにされた。当事者からは、医療機関と行政との連携促進や、事業所の充足、就労支援の重要性など、公的な支援に関する希望の他にも、日常的な外出や家族のレスパイトのための、ボランティアなどによる制度外のニーズも挙げられた。これまでの取り組みを受け、公的な支援に加え、それだけでは賄いきれないニーズを調査するとともに、そのニーズを充足する支援策を検討する。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究では、公的な支援では賄いきれないニーズを明らかにし、それらのニーズを充足することを目的としている。ニーズ充足の方法としてはボランティアが一つの手段となり得る。地域生活を送る当事者に対して、学生ボランティアが機能することで、本学の学生にとっても当事者と関わる機会を増やすことができ、当事者にとっても公的支援で賄えないニーズを充足することに繋がると考えている。地域包括ケアシステムにおいても、公助・共助だけでなく、自助・互助が求められている。ボランティアが定着していくことは「互助」の促進に繋がると考えている。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

学部生が研究の一部を卒業研究にて 2022 年度にまとめている。また 2024 年 11 月の第 8 回アジア太平洋作業療法学会にて演題発表をおこなった。

# 上肢による物品の操作に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 教授

根本 悟子 Nemoto Satoko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 上肢機能・巧緻性・力の調節・動作解析



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉

人は日常生活において、さまざまな物品を上肢で操作しながら作業（日常生活活動、家事、仕事、遊び、対人交流など）をおこなっている。しかし、例えば、脳卒中により上肢が麻痺した場合には、麻痺側上肢で物品を操作する能力が低下したり失われたりするため、対象者が望む作業をおこなうことが困難となる。そのような場合、作業療法士は麻痺した上肢が実用手や補助手となるよう、麻痺側の上肢機能訓練を実施している。本研究は、このような上肢機能訓練プログラムのための基礎的知見を得るために、上肢がどのように物品を操作し、また操作される物品の運動特性を、赤外線反射マーカース3次元動作解析装置および画像データとIMU（IMU: Inertial Measurement Unit）搭載ペグを用い、運動学的分析から明らかにする。具体的には以下の内容を含む。

### 1) 手指の動きの解析方法の構築:

3次元動作解析装置 Vicon で測定し分析する方法では、4 mmの赤外線反射マーカを用いた手指への設置方法、相対的関節角度算出のためのセグメントとその座標系の設定、測定するパラメータを検証する。

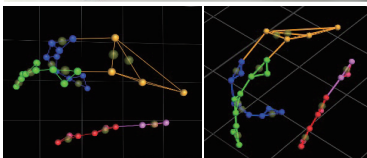
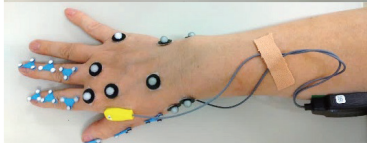
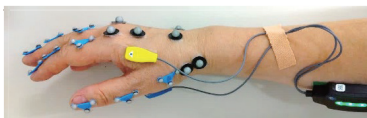
MediaPipe Hands を活用した画像解析で分析する方法では、手のかたちと手の動きを、画像解析ソフトを用い分析する手法を構築し、作業療法の臨床での応用を目指す。

### 2) 実用手を目指すための手指の巧緻性の評価:

手指の巧緻性向上を目的として用いられる「ペグ動作」について、ペグの大きさや操作内容、操作速度などの条件を設定し、手の動きを検証するとともに、IMU ペグを用いて手の動きおよび操作物体の運動特性を運動学的に解析し、巧緻性評価手法の構築を目指す。

### 3) 補助手を目指すための物品固定に必要な上肢機能:

左右の上肢の協調性の観点から、種々の作業において通常非利き手が果たす補助手としての機能「物品の固定」の際の上肢の運動学的分析、力の調節能力の分析をおこなう。



医療・リハビリテーション

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

得られた基礎的知見から、上肢機能訓練の為のプログラムの構築、上肢機能のための評価と訓練機器の開発を目指す。

運動学的分析方法の構築とともに、力の調節の測定および分析をおこなうにあたり、物品操作時の力の調節を測定するための、手指の先に直接に装着できる圧センサーや、利き手で書字動作をする際の非利き手の手指が個別に「押さえ」をおこなっている時の、力の変化を捉えることができる圧センサー付きの平面ボードの開発を目指したい。これらを活用した上肢機能訓練で用いられる評価や訓練機器を開発し、その実用化を目指す。

# 難聴児の言語発達と他者感情の推測能力の検討



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 准教授

野原 信 Nohara Akira

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：聴覚障害児・言語発達・他者理解



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

学童期は、集団でのやりとりが活発化し、他者の発言や行為の意図を状況文脈の中でとらえ判断する能力の獲得が重要な時期です。特に、他者の意図理解に、他者自身の特性（嗜好など）からの判断（例：Aが飴を貰って困ったのは、飴が嫌いだから）だけでなく、社会的知識（対人的な配慮など）を用いて集団との関係性からも判断（例：Aが困ったのは、周りに友だちがいるのに自分だけが飴をもらったから）できることが、よりよい対人関係を築く上で重要です。

筆者ら（野原・廣田 2018）は学童期の難聴児を対象に、会話時の他者の意図理解について、同年齢の聴児と比較し検討をしました。その結果、難聴児では社会的知識の文脈ありの場面課題、とくに集団での対人的な配慮を背景とした場面で、他者の意図理解に難しい傾向を示しました。難聴児は、聴覚情報の制限により言語発達に課題を呈するため、適切な支援が求められますが、社会的知識を用いた他者の意図理解の能力は、簡単な会話に支障がない場合にも、言語発達の課題として、指導の適用を検討する必要があると考えられます。

現在は、幼児期後期から学童期の難聴児を対象に、次の3つの研究テーマに取り組んでいます。

- ① 社会的知識を用いた集団場面における他者の行為意図理解の特徴を明らかにする。
- ② 第三者との関係性を考慮した他者の行為意図理解の獲得過程を明らかにする。
- ③ 集団場面での聴覚補償や教育環境といった環境要因、言語能力や心理社会的側面を含めた個人要因が関与するメカニズムを明らかにする。

表 3課題の図版説明文：分与

図版	説明文：状況文脈なし条件	図版	説明文：状況文脈あり条件
1	Aは1人で遊んでいます	1	Cは友達と2人で話しています
2	BはAに話しかけます	2	DはCに話しかけます
3	BはAに飴をあげました	3	DはCにだけ飴をあげました
4	でも、Aは喜びませんでした	4	でも、Cは喜びませんでした

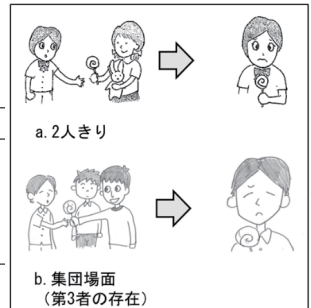


図 課題場面の例  
(アメを貰って困る場面)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究で得られた知見は、難聴児が日常のやりとりで示す言語コミュニケーションの問題の発生機序の解明および言語指導プログラム立案に寄与すると考えています。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「就学前後期における軽中等度難聴児の言語発達と他者感情の推測能力の検討」
- ・「聴覚障害児における会話時の感情認知・感情説明の発達と、関連要因の検討」
- ・「E-3 コミュニケーション指導の展開②. 廣田栄子 編著. シリーズきこえとことばの発達と支援 特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援」

# 精神科作業療法に従事する作業療法士のコンピテンシー



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 講師

原口 晋一 Haraguchi Shinichi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 精神科作業療法・精神障害・コンピテンシー



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

本研究は、精神科領域で作業療法士に求められるコンピテンシーを整理・構造化し、概念モデルおよび自己評価尺度として提示することを目指す。

作業療法士は、対象者の日常生活や社会生活の能力向上、就労支援・復職支援を実施していく職種であるが、実態としては就労や就学支援、社会参加促進といった活動への介入頻度は低い。その背景としては、作業療法士自身の専門性や役割の理解不足、精神科医療の中で作業療法の理解不足、診療報酬制度の構造上、集団による作業療法が中心となることなど、複合的要因が指摘されている。

コンピテンシーとは、行動によって見極められる職務を効果的に遂行するために、必要な行動・思考・判断など総合的な能力の概念を指す。精神科作業療法に従事する作業療法士においても、自らの専門性を発揮し、地域や臨床現場でより効果的な実践を展開するためには、必要とされる知識・技能・態度を体系化し、実践基準を示す「コンピテンシー」の明確化が不可欠である。作業療法士のコンピテンシーについては、世界作業療法士連盟において、各国で独自の作業療法士のコンピテンシーを開発することを推奨している。

本研究がもたらす価値は、精神科作業療法の「専門性の中身」と「到達すべき水準」を見える形にし、関係者間で共有できるようにする点にある。これにより、作業療法士の育成を体系的に進める土台ができる。また、研修設計や到達度の確認、育成計画の立案にも応用でき、組織的な人材育成と質保証の取り組みを支える。さらに、他職種連携や地域支援の場面で作業療法の役割を説明しやすくなり、協働の質向上にもつながる。

これらを通して、精神科作業療法の専門性の可視化と人材育成の体系化を進め、当事者の生活とリハビリを支える支援の質向上に貢献することを目指したい。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究で作成する精神科作業療法士のコンピテンシーモデルと自己評価尺度は、臨床現場での自己点検・スーパービジョン・OJTの共通言語として活用できます。さらに、養成教育や臨床実習における到達目標の明確化と、育成・評価の体系化に役立てることができます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「臨床実習施設訪問における教員の役割:実習施設訪問記録の分析から-The role of teachers in visiting clinical training facilities :Based on analysis of visitor records in practical facilities」
- ・作業療法士の人事考課に関する実態と課題:東京都における調査から -A study of personal rating system of occupational therapists in Tokyo

### 【学会発表】

- ・「医療福祉職のコンピテンシー研究に関する文献レビュー」

# 体幹機能に関する研究（座位体幹回旋可動域測定装置）



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 准教授

原口 力也 Haraguchi Rikiya

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：トランクローターション (Trunk Rotation) ・体幹・腰回り



## 研究の概要

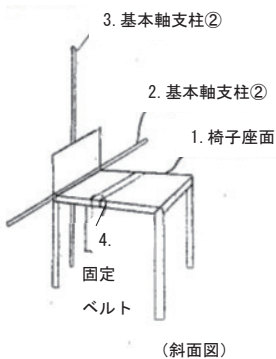
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も

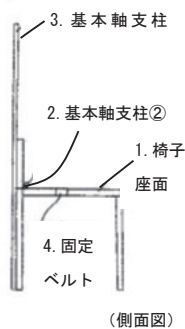
体幹機能は、身体機能における貢献度が高く歩行動作やスポーツ活動にも大きな影響を与える。体幹機能の評価には様々あるが、脊椎、胸腰椎部の可動域についての研究にあたり、測定装置の考案と作成をおこなった。

本考案は『**座位体幹回旋可動域測定装置**』として、実用新案登録している。

【図1】



【図2】



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【課題】

椅子本体に座面支柱、背部支柱、固定ベルトを設け測定時に生じる代償動作を除外し、座位での正確な体幹回旋可動域測定を実施できる体幹回旋可動域計測装置を提供する。

### 【解決手段】

椅子座面1上に地面と水平な支柱2と背もたれ3の中央部に地面と垂直な支柱を固定したものであり、椅子と身体を固定ベルト4にて固定する。支柱に沿って身体を合わせて椅子に座り、支柱から身体が離れないよう指示し、椅子と身体（骨盤）を固定し代償動作が起きないように測定を行う。測定時、上方から撮影を行い画像上に線を引くことで角度を計測する。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

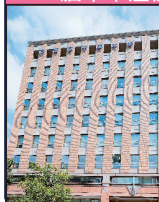
### 【考案の名称】

座位体幹回旋可動域測定装置

（登録番号）実用新案登録第 3241687 号 (U3241687)

## 認知予備力に関する研究

～脳卒中症例の機能改善と認知予備力の関連に関する研究～



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 講師

原田 円 Harada Madoka

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 認知予備力・余暇活動・脳卒中・機能改善・リハビリテーション



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

令和4年の「国民生活基礎調査」の調査によると、要介護の原因の第2位は脳卒中（19.0%）です。脳卒中発症後に行う日常生活動作（ADL）の自立などを目的とした集中的なリハビリテーションは、機能障害の改善に有用とされ、これまでに、**脳卒中後の機能改善や予後予測に関わる要因**として、年齢や性別などの**人口統計学的要因**、疾患の種類（梗塞／出血）、脳卒中の重症度、発症から入院までの日数、入院時のADL得点などの**臨床的要因**が検討されてきました。

しかし、言語聴覚士として脳卒中後のリハビリテーションに従事する中で、**人口統計学的要因や臨床的要因が同等でも、機能改善の軌跡は同様ではない**症例も多く経験しました。そして、これまでに検討されてきた要因の他に、機能改善と関連する要因があるのではないかと考えるようになりました。

「**認知予備力**」とは脳の病理と実際の認知機能の水準が必ずしも一致しないことを説明する仮説として提唱された概念で、脳の病理や加齢の影響を受けても**認知機能の低下を抑える個人の潜在的な能力**を指します。**教育歴や職業歴、様々な余暇活動の経験の蓄積**が認知予備力を形成すると考えられています。加齢や認知症との関連について多く研究されており、アルツハイマー病症例を対象とした研究では、認知予備力が高いほど認知機能の低下が抑制されるという研究結果が得られています。

脳卒中症例を対象とした研究は少数ですが、海外では研究数が増えており、認知予備力が高いほど認知機能障害に改善がみられるという報告も出てきています。

本研究では、脳卒中発症後の機能改善には、これまでの研究で報告されている、年齢や脳卒中の重症度などだけでなく、過去の経験の蓄積（認知予備力）も影響するという仮説を立てて研究を行います。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

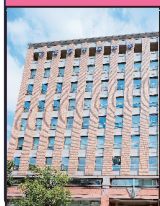
機能改善と認知予備力との関連が示されれば、回復期リハビリテーションにおける予後予測の精度が向上し、入院患者様に**①予後を見据えたより良いリハビリテーションを提供できるようになると**考えています。また、認知予備力を構成する要素のうち、どの要因（教育／職業／余暇活動）が機能改善と関連しているかを詳細に検討し、**②脳卒中発症後の機能改善を促進するような要因が解明できれば、予防医療研究にも貢献できる可能性がある**と考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【所属学会】日本高次脳機能障害学会

日本高次脳機能学会の2026年度学術研究助成を受け、認知予備力と認知機能の改善の関連について研究を進めています。

# 前頭前野の血流と機能を変調させる経頭蓋低周波鍼通電刺激



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授

久島 達也 Hisajima Tatsuya

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



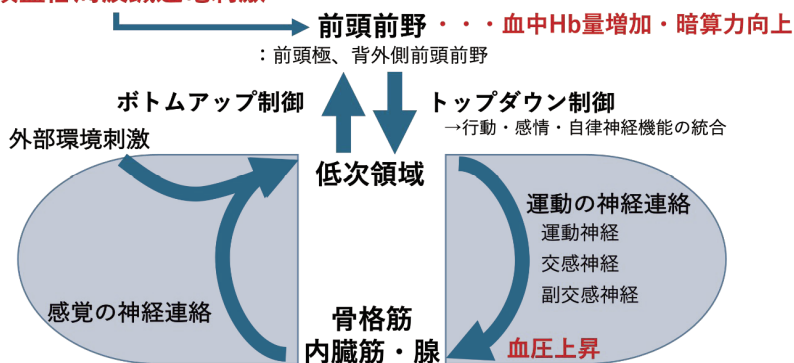
キーワード：トップダウン制御・前頭極・背外側前頭前野・脳血流・暗算・骨格筋・内臓筋・腺・自律神経機能・中枢性疾患・非薬物療法

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

前頭前野 (PFC) は、脳の司令塔としてのトップダウン制御により行動、感情と自律神経機能を統合的に調整し、結果として骨格筋、内臓筋や腺の制御に関与することが神経科学分野で注目されている。前頭前野のトップダウン制御の低下や変調は、パーキンソン病、うつ病、線維筋痛症、統合失調症、てんかん、脳卒中、慢性疼痛のいずれの病態とも非常に深く関与する。そのため、前頭前野機能を変調させることが可能な、経頭蓋電気刺激 (tES) による上記病態への治療方法が近年各国で臨床的に研究されている。我々は、tES の一つである経頭蓋低周波鍼通電刺激 (tEAS) が PFC の血流量や機能に及ぼす影響について調査を進め、これまで健康成人の前頭部領域へ tEAS を介入した研究では、刺激中に PFC 領域 (前頭極、背外側前頭前野) の OxyHb 量増加、その刺激後の暗算課題に対する集中度や解答のしやすさの向上、介入中の血圧の上昇などを確認してきた。tACS は、前頭極や背外側前頭前野の循環動態および機能を調節するとともに、トップダウン制御に影響を及ぼすことが推測でき、中枢性疾患への新たな非薬物療法として期待が寄せられる。

## 経頭蓋低周波鍼通電刺激



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

脳の循環動態および機能を変化させる経頭蓋低周波鍼通電刺激法の開発を目的とする本研究は、うつや認知機能低下による病態の治療への応用が期待できることから、第二期健康・医療戦略における予防・進行抑制・共生型の健康・医療システムの構築に合致する取り組みとなる。

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】

- ・「Electroacupuncture of the Ophthalmic Branch of the Trigeminal Nerve: Effects on Prefrontal Cortex Blood Flow」
- ・「Electroacupuncture on the Ophthalmic Branch of the Trigeminal Nerve Affects Cerebral Blood Flow in the Frontopolar Cortex During Mental Arithmetic: A Randomized Crossover Trial」

# 肩こりや腰痛に対するトリガーポイント療法の可能性



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 准教授  
皆川 陽一 Minakawa Yoichi



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：トリガーポイント・慢性疼痛・筋・筋膜性疼痛症候群・  
プレゼンティーズム・鍼灸

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

トリガーポイントとは、筋、筋膜やその周囲軟部組織が原因となって痛みなど症状を引き起こす筋・筋膜疼痛症候群の診断、原因、治療部位である。私は、これまでトリガーポイントに鍼（はり）刺激を行うトリガーポイント鍼療法で以下の臨床試験をおこなっている。

### ○労働者の肩こりに対するトリガーポイント鍼療法の有用性の検証

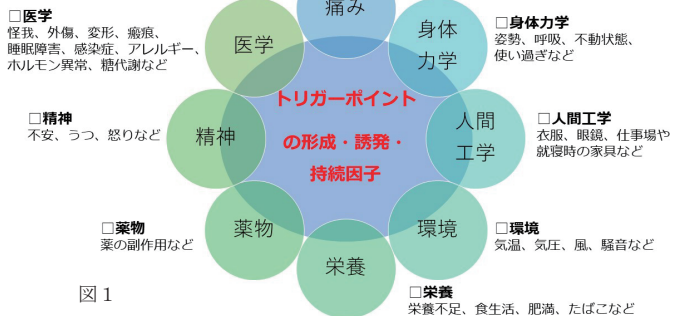
この研究では、労働生産性を低下させる慢性的な肩こりを持つオフィスワーカーに対して、1 か月間トリガーポイント鍼療法を最大4回おこなったところ、トリガーポイント鍼療法を加えない対照群と比較して、肩こりの程度が20%軽減、労働生産性スコア（労働）の改善が認められた。

### ○高齢者慢性腰痛に対するトリガーポイント鍼療法の有用性の検証

この研究では、65歳以上の運動習慣のない慢性的な腰痛を訴える者に対して、3か月間の運動指導＋トリガーポイント鍼療法を最大12回おこなったところ、運動指導のみの対照群と比較して、自覚している腰の痛みの軽減が認められた。

### ○現在

臨床研究を継続するとともに、トリガーポイントの形成・誘発・持続に関与する因子を明らかにすること、さらに豊島区民をはじめとした地域の方々に対して、トリガーポイント療法が応用できないか、セルフケア教室などを開催し、その可能性を模索している。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国民病の1つと考えられる肩こりや腰痛に対して、トリガーポイント療法の有用性を提示することができれば、人々の健康を守る手助けとなる。トリガーポイントの形成・誘発・持続因子には、様々な要因がある（図1）。そのため、色々な角度からトリガーポイントへアプローチできる方法を考えていきたい。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Clinical Effectiveness of Trigger Point Acupuncture on Chronic Neck and Shoulder Pain (Katakori) with Work Productivity Loss in Office Workers: A Randomized Clinical Trial」
- ・「Trigger Point Acupuncture and Exercise for Chronic Low Back Pain in Older Adult: a Preliminary Randomized Clinical Trial」
- ・豊島区区民ひろば朝日にて「セルフケア教室」開催



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授

宮崎 彰吾 Miyazaki Shogo

URL： [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：肩こり・腰痛・労働衛生サービス・費用と費用分析



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も

「休暇を取るほどでもないが、なんとなく調子が悪い、いまひとつ仕事がかたどらない」という労働者の状況（Presenteeism）が生産性を低下させ、企業に多額の損失を与えていることが指摘されています。特に国民病とも称される「肩こり」、「腰痛」などの慢性的な痛みによる損失額は、生活習慣病などの病気による欠勤や医療費などを大きく上回っていることから、経営者は対策を講じる必要に迫られています。一方、伝統医学である「鍼療法」や「あん摩マッサージ指圧」は、「肩こり」や「腰痛」などの慢性的な痛みに対する有用な方法として国民に受け入れられてきました。そこで、私たちは、（公社）東京都鍼灸師会の協力を得て、「肩こり」や「腰痛」などで Presenteeism と自覚しているオフィスワーカーに、鍼療法に要した費用に対して 4 週間に合計 8 千円までキャッシュバックすると提示した際（介入群）の費用対効果、について、提示しなかった場合（対照群）とのランダム化比較試験を実施しました。

その結果、鍼療法へのキャッシュバックにより、Presenteeism による損失額を従業員一人当たり月額約 1 万 4 千円補填できる可能性を示すことができました。

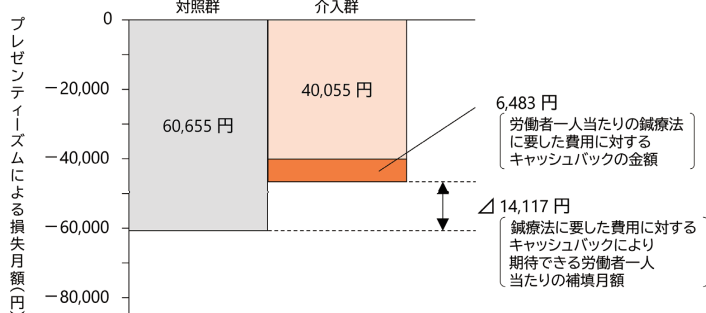


図 鍼療法に要した費用に対するキャッシュバックにより期待できる労働者一人当たりの補填月額(円)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・企業・団体との共同研究により、労働者の健康不調に関わるコスト損失を可視化し、「鍼療法」や「あん摩マッサージ指圧」を活用した施策を導入した際の費用対効果を提示しています。
- ・どのような「鍼療法」や「あん摩マッサージ指圧」を提供することが、費用対効果や満足度をより高めることができるかについて「はり師」及び「あん摩マッサージ指圧師」やこれらの有資格者を雇用している事業所に情報提供をおこなっています。
- ・企業の健康経営に「鍼療法」や「あん摩マッサージ指圧」を導入する際の相談並びに支援をおこなうことができます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「企業における鍼治療への態度と利用可能性 断面研究」
- ・「肩こりを主訴として鍼療法を受けたオフィスワーカーの満足度に影響を及ぼす因子」
- ・「Managing office worker presenteeism by providing financial aid for acupuncture therapy: a pragmatic multicenter randomized comparative study.」

## メンタルプラクティスおよびVR介入が柔軟性と脳活動に与える影響

— 臨床応用を見据えた基礎的検討 —



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

宮崎 学 Miyazaki Manabu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



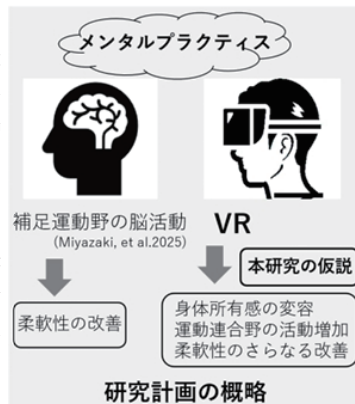
キーワード：メンタルプラクティス・VR介入・柔軟性・脳活動・運動イメージ・ストレッチング・ハムストリングス・リハビリテーション

### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

本研究は、メンタルプラクティス (Mental Practice : MP) および VR (Virtual Reality) 介入が柔軟性と脳活動に及ぼす影響を、身体表象の観点から解明することを目的とする。従来、柔軟性研究は筋・腱など末梢要因に着目したストレッチング介入が中心であり、中枢神経系の関与は十分に検討されてこなかった。一方、MP は筋力増強や運動学習に有効とされているが、柔軟性への影響や神経学的基盤に関する知見は乏しい。現在、予備研究により、MP 実施後に関節可動域や受動的トルクの増大、運動関連脳領域の脳血流変化が確認され、柔軟性変化に中枢神経活動が関与する可能性が示唆された。本研究の独自性は、VR を用いて自己身体像を操作し、身体表象や身体所有感を変化させた条件下で MP を実施する点にある。健常若年者に加え、高齢者および軽度運動障害患者を対象に、柔軟性指標、脳活動および主観的身体認知を統合的に評価し、非侵襲的介入としての MP および VR の臨床応用可能性を明らかにする。



### 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

美学へのつながり：本研究は、運動や強い伸張刺激を伴わずに柔軟性を高められる可能性を示すものであり、身体負担の大きい対象に有用である。MP/VR を用いた非侵襲的な柔軟性改善手法が確立されれば、疼痛や可動域制限のある高齢者・運動障害者・術後・急性期患者にも安全に応用できる。また、柔軟性指標と脳活動指標を組み合わせた評価は、リハビリテーションにおける介入効果の可視化と客観的判定に寄与し、治療方針決定や在宅リハビリ、健康増進プログラム、コンディショニング支援など幅広い領域での活用が期待される。

産業界へのアピールポイント：本研究で得られる知見は、身体的負担の少ない柔軟性評価・介入手法を、脳活動データと併せて客観的に提示できる点に産業的価値を有する。これらのエビデンスは、リハビリテーション機器、健康支援サービス、運動支援プログラムの開発や効果訴求に直接活用でき、製品・サービスの信頼性向上や差別化に寄与する。また、高齢者や運動制限のある利用者にも適用可能であり、今後拡大が見込まれる医療・ヘルスケア市場の需要に合致している。

協力可能事項：医療・ヘルスケア分野における VR 機器・システムの実証評価、製品・サービス開発に向けた基礎データの取得・分析協力、実使用環境を想定したプロトコル設計および評価手法の検討、臨床・健常者データに基づくエビデンス構築の学術的支援が可能である。

協力希望事項：VR 機器・サービスの実証評価、基礎データ取得、プロトコル設計、臨床・健常者データを用いたエビデンス構築の協力を希望している。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「The effects of mental practice on brain activity and hamstring flexibility in healthy young men.」
- ・「Effects of Mental Practice as a Preconditioning Intervention on Hamstring Flexibility in Static Stretching.」

『運動器理学療法の臨床疑問』を解剖研究で解決したい

—『未固定凍結遺体（新鮮な遺体）を用いる生体工学研究』と『固定遺体を用いる解剖学的検討』



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

宮本 浩樹 Miyamoto Hiroki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 未固定凍結遺体・腕神経叢・腱板・伸び率



## 研究の概要

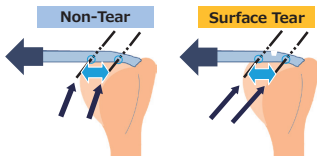
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

### 【背景】

～腱板部分断裂症例の運動療法安全域の検討～

- ・加齢により有病率が増加する腱板部分断裂には、保存治療として運動療法をおこなう機会が多い。
- ・安全で有効な運動療法のためには腱部分断裂の残存部に加わる力学ストレスの定量的な理解が必要。
- ・腱板部分断裂症例の安全な肢位と負荷の境界は解明されていない。

### Mesurement of the Strain of the SSP tendon

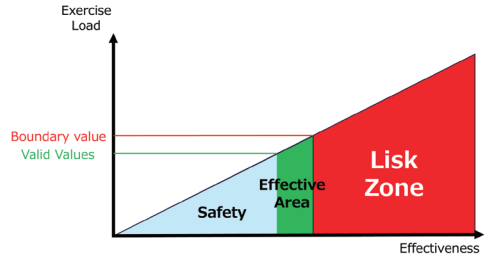


Strain gages (2 needles) was placed in the deep layer of the SSP tendon

( Pulse corder, LEVEX, Kyoto, Japan )

( Miyamoto et al, Clin Biomech 2017 )

( Miyamoto et al, Clin Biomech 2020 )



### 【方法】

- 国内では非常に希少である未固定凍結遺体（新鮮遺体）の肩関節を対象とした
- 腱板を剖出し、棘上筋腱の各層に直接ストレインゲージを設置
- 棘上筋腱の『表層断裂モデル』、『深層断裂モデル』を作成し、断裂リスクを定量化

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- 急速な高齢化により、臨床現場による保存治療ならびに健康増進や日常生活における障害予防は、各自治体や産業界においても非常に重要と考えられる。
- 運動器理学療法の臨床疑問を解剖剖体で検証したことで臨床の保存治療で応用することができ、安全で効率的な治療効果へと応用することが可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「Strain measurement of the deep layer of the supraspinatus tendon using fresh frozen cadaver: The influence of shoulder elevation.」
- ・「Measurement of strain and tensile force of the supraspinatus tendon under conditions that simulates low angle isometric elevation of the gleno-humeral joint: Influence of adduction torque and joint positioning.」

### 【科研費】

- ・研究活動スタート支援採択 (20K22512)

# 日本人とタイ人の解剖学的破格の比較調査：3大学国際共同研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

宮本 浩樹 Miyamoto Hiroki

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：腕神経叢・長母趾屈筋腱・分枝・破格・解剖学・国際共同研究

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

【3大学 国際共同研究】



●国内公立大学（北海道）

医学部 解剖学講座



●帝京平成大学

健康メディカル学部 理学療法学科



●ランシット大学（タイ王国）

理学療法学部

### 【背景】

#### ●スマートフォン等の普及に伴う姿勢不良

- ⇒ 頸部での神経絞扼や上肢支配神経の過度な伸張
- ⇒ 幅広い世代で肩や上肢の筋力低下や疼痛等の機能障害

#### ●姿勢不良による上肢支配神経の伸張部位・程度の定量化は

- ⇒ 臨床症状に対する理学療法の治療選択をするためには必要不可欠
- ⇒ 定量的に科学的根拠が解明

### 【方法】

- 世界でも希少である全身状態の未固定凍結遺体（新鮮遺体）を対象
- 腕神経叢を剖出し、直接ストレインゲージを設置
- 上肢神経伸張テストや不良姿勢による神経伸び率を計測
- 臨床における上肢神経障害の発症メカニズムの解明と治療介入へ繋げる

### 【国際共同研究】

#### ●腕神経叢には解剖学的形態に破格が多い

- ⇒ 上肢の神経障害の評価において破格の存在は重要な一考察
- ⇒ 人種が多様化する日本において、海外との比較が必要

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ハイテク化が進んだ近年では、頸部神経根や胸郭出口などの上肢神経障害を呈する運動器症例が増加
- 理学療法において神経障害を評価することは重要であり、その破格割合や形態を理解することは必須
- 日本では多様化する人種やハイテク環境への対応としての基礎医学的研究を国際共同研究
- これらの知見を臨床現場の他、スポーツアスリートの現場へ応用

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】若手研究採択（24K20449）

【学会発表】「Which dorsal scapular muscle affects shoulder range of motion?」

学習障害（聴覚障害や識字障害）を有する学生に対する柔道整復学教育の学習効果向上、  
国家試験合格率向上を目指して



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

安田 秀喜 Yasuda Hideki

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：柔道整復師国家試験合格率・入学前医療用語集・学習障害学生対策・  
聴覚障害・識字障害



## 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

知的発達に遅れはないが、学習面（聞く・読む・話す・書く・推論すること）に困難のある学生は、授業に集中できないことや学習面でつまずくことが多く、学習障害と定義されています。内閣府令和5年度障害者白書によれば、学習障害を有する者の相対的な発出頻度は、約4～5%と報告されています。1クラスの学生数が40名であれば、学習障害を有する学生は2名存在することになります。

聴覚障害を有する学生や、識字障害を有する学生に対する教育経験から、その対応方法を検討してきました。聴覚障害を有する学生に対しては、UD（ユニバーサル・デザイン）トークアプリを使用して、音声データから文字を起こすことで対応し、教育をおこなうことが有効であると考えられます。識字障害を有する学生に対しては、入学前教育で使用する、医療関連基本用語集の語彙に、読み方と意味をできる限りわかりやすく説明する工夫をおこない、大学教育の早期段階でのつまずきを取り除くことを徹底しています。

さらに、国家試験問題で使用された、または、使用が予想される難読漢字を事前に学習するといった、傾向の分析や事前の予測も踏まえた教育を実施していきます。質の高い、学生一人一人の特性に応じた大学教育を、在学生全員に提供し、国家試験合格率の向上を目指しています。

このような教育現場での実践と、障害を有する学生のニーズに応じたツールの開発を結び付け、誰一人取り残さない教育の実現を探求しています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

聴覚障害学生に対するUDシステムのスマートグラス化（文字画面がスマートグラスに表示される）。識字障害学生に対する文字面の表面に下敷き型のアプリ画面で漢字のフリガナが表示されるシステムの開発を希望しています。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文等】

- ・「聴覚情報障害の症状を示す幼児に関する研究の動向と展望～雑音下聴取困難に焦点をあてて～」
- ・「聴き取り困難を主訴とする成人例の背景要因別の聴覚情報処理特性の検討」
- ・「聞き取り困難を訴える成人例に対する聴覚情報処理障害（APD）の適応」

# 精神障がい者を対象とした競技性スポーツの実施・普及に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 教授  
 作業療法コース 教授  
**鎗田 英樹 Yarita Hideki**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：精神障害・スポーツ・実施／普及

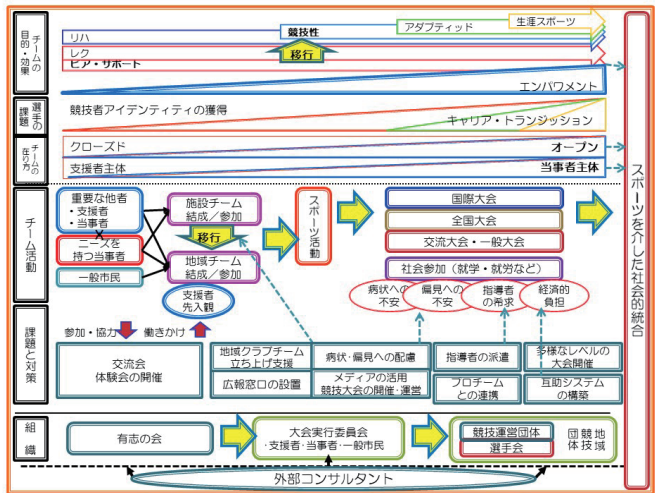
## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
 SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

精神障がい者を対象とした競技性スポーツは、他の障がいに比べ大きく出遅れています。2008年にバレーボールが、全国障害者スポーツ大会の正式種目となったことを契機に大きな進展を見せましたが、精神障がい者総数360万人に対し、まだ十分な実施・普及状況とは言えません。筆者はこれまでの文献調査から、支援者を対象とした調査はみられるが、当事者を対象としたニーズ調査は少数であり、当事者ニーズと合致した推進が実施されているか不明であることを明らかにしました。またスポーツに取り組む当事者選手や支援者から、競技に取り組むことの意義や目的などについて聞き取り調査を実施し、その結果から当事者選手が望む競技性スポーツの在り方を明らかにし、それと合致した実施・普及モデルを考察し、探索的に構築しました。現在は、当事者主体の地域型クラブチームを継続する上で必要となる支援要素について、研究をおこなっています。

近年、当事者主体型の地域クラブチームの設立が見られますが、継続できず解散してしまうことも多く、何らかの支援が必要であることがわかっています。

また世界を見てみると西欧諸国では精神障がい者フットサルが盛んであり、国際大会まで開催されていますが、アジア太平洋地域においてはどの種目がどの程度実施されているのか明らかになっていません。今後の実施・普及を考えると、現状を明らかにすることも重要な課題の一つと捉えています。



医療・リハビリテーション

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

精神障がい者にとって、スポーツをすることが人との交流を回復し、当事者の社会的統合やアンチ・スティグマにつながるなど、心身機能面だけではなく幅広い観点から重要な活動と見ることができます。また、当事者のリカバリーの一助としても重要であり、当事者の就労や就学など個々の目標達成を後押しすると考えます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「精神障害者を対象とした競技性スポーツ実施・普及モデルの改善 ～支援者へのインタビュー調査から～」
- ・「精神障害者を対象とした競技性スポーツにおける実施・普及モデルの構築～当事者スポーツ選手へのインタビュー調査を通じて～」
- ・「精神障がい者を持つ方を対象とした競技性スポーツの実施・普及に関する研究」

## 柔道整復師の史的研究（近・現代）



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 講師

湯浅 有希子 Yuasa Yukiko

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：天神真楊流柔術・柔道整復術・柔道整復術の技術移転



### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

現在、高齢化社会を背景に柔道整復師の人数は増加傾向にあるが、柔道整復師の熟達者の高齢化と整形外科医の充足により、柔道整復師が骨折や脱臼の医療固定具を迅速かつ正確に成形できる機会が激減している。臨床経験豊富な熟達者の減少と、若手柔道整復師への技術伝承の問題は、臨床現場や教育現場に影響を与えている。熟達者が臨床の現場を離れる前に、その知恵や経験を可能な限り保存・蓄積し、その成果を正確に多くの柔道整復技術を学習する人たちに伝承する新しい手段の開発が、必要かつ急務である。

固定技術の保存・再現について歴史を振り返ると、これまで近現代における柔道整復術の歴史的史・資料は文字、絵、写真等に多く依存してきた。これらの史料は貴重であるが、2次元の史料で伝わり切れない部分がある。私たちは既に江戸～大正期までの歴史研究および固定具の史・資料の収集は文献レベルで可能な限り入手しているが、これに加えてデジタルデータによる保存・再現のあり方研究をおこなう。私たちはこれまで学会誌や柔道整復師の業界情報新聞にてその成果を発表しており、基礎研究は概ね整っている。

私たちは熟達者の技量と経験に左右される医療用固定具作成技術を、デジタルファブリケーション（以下、DF という）により保存・再現する研究を 2024 年度から開始した（図 1）。熟達者の実践技術を、DF を活用することにより実践的な模擬授業を通じて学習者へ技術移転をすることを検証する。

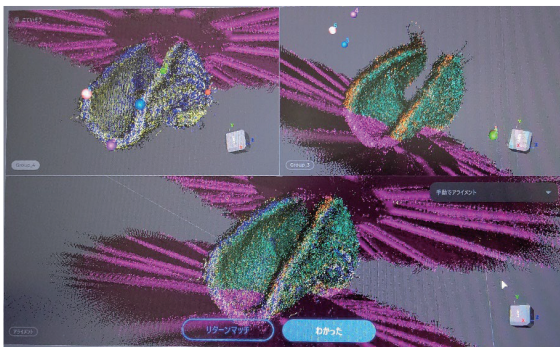


図1 デジタルデータの保存の様子

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究を通じ、デジタルファブリケーションを援用した固定具の作成技術による模擬授業で得た知見は、将来的に臨床の場における若手柔道整復師への技術移転や教育研修、あるいは伝統的な技術の伝承や、その分析研究など広く適用されるものと考えられる。

また、熟達者の技術をデータに保存することで、多くの人がデータを 3D で再現することができ、伝統的な技術の保存・蓄積に裏付けられた新たな固定具作成の技術の開発が可能となると考えられる。

これにより、若手柔道整復師に安定的な研修環境、研究環境を提供し、国民全体の健康保険の向上に寄与することが期待できる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「柔道整復師 接骨術の西洋医学化と国家資格への歩み」
- ・柔道整復の誕生—1911-1920 年における柔道整復の法制化を巡って

【日本私立学校振興・共済事業団】

- ・(2025 年度 若手・女性研究者奨励金)「3D プリンターを活用した医療用固定具作成の実技授業への導入」



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 講師  
**吉野 智佳子 Yoshino Chikako**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 作業療法学・人間生活工学・リハビリテーション科学

## 研究の概要

作業療法の対象となる患者・利用者の方々は発症・受傷した疾患の治療を乗り越え、場合によっては障害が残存した中で日常生活を送ることになります。作業療法は、今までおこなっていた日常生活を介助されずにおこなう方法を提案していくという患者・利用者ファーストで進められる仕事といえます。提案する内容は麻痺した手の回復のための機能訓練から職場に行くための自動車運転の適応についてなど多岐に渡りますが、その中でヒトとモノがどのような関係性があるかという人間生活工学的視点がより重要となります。ありとあらゆる日常生活の一面を分析し作業療法でおこなう提案をより確かなものとするべく研究を進めております。

Figure1-3 ではペンでの把持の際に各指がどのような役割を果たしているか、感圧センサーを用いて紐解けなにか実験しました。拇指・示指・中指が主に関与し、男女での違いとして女性の感圧が高くなっていました。この分析はFigure5 中図のものを元に分析した結果で、この実験では握力把握、中間把握、精密把握の特徴が反映され、握力把握では男女とも環指と中指、中間把握系の鉛筆では拇指・示指・中指で女性の方が高い値となり、精密把握では男女とも拇指と示指、中指に高い値が見られました。Figure 4 の iwakka を用いて一定把持力時での各指の役割についてもクラスター分析により 4 グループに分類できました。

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを

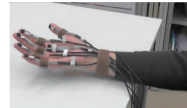


Figure.1 Subject setting



Figure.2 Subject writing

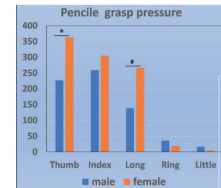


Figure.3 Male and female subjects' pressure average value in Pencil grasp

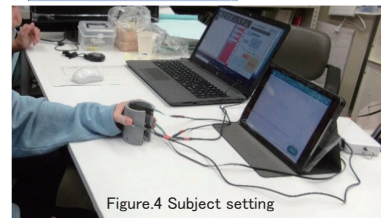


Figure.4 Subject setting

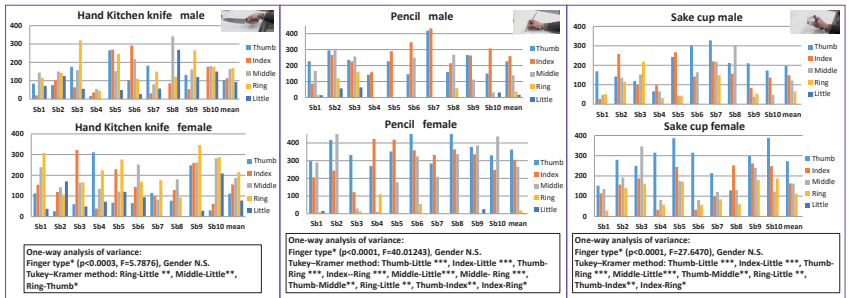


Figure.5 Each subjects' pressure sensor value and average value in male (top) and female (bottom) in each of Hand Kitchen knife (Left), Pencil (Middle), Sake cup (Right)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

作業療法でおこなわれる実践について、人間生活工学の観点から作業効率や快適性を追求することで、患者・利用者の方々に恩恵が得られること、実践する作業療法士がエビデンスを背景に自信を持って作業療法を提供できるよう取り組んでいくことのできる将来を目指していきます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「セラプラストを対象とした硬さや付着性の物性に関する予備的研究」

【学会発表】「Investigation by grasping classification according to the opposing ratio of the thumb and 4 fingers」

# 精神や睡眠に有効なセルフケアの検討



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 講師

脇 英彰 Waki Hideaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：経皮的耳介迷走神経刺激療法 (taVNS) ・認知行動療法・メンタルヘルス・健康維持

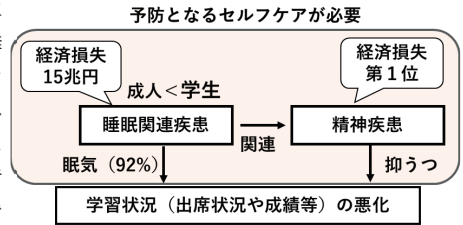


## 研究の概要

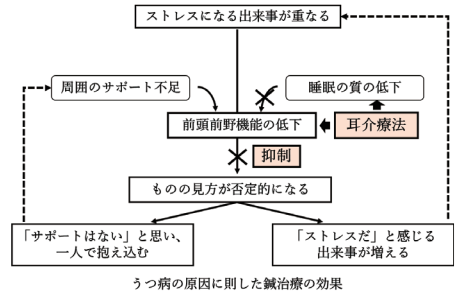
本邦において、睡眠障害や精神疾患は莫大な経済損失を生んでいる。睡眠障害は成人 (21.4%) だけでなく学生 (23.5%) にも多く存在する (Kaneita Y et al 2006)。睡眠障害は記憶力・作業効率の低下など認知機能に悪影響を及ぼすが、気力の喪失、抑うつなどを症状とする精神疾患との関連も深い (Durmer JS et al 2005, Asaoka S et al 2012)。これらの疾患を減少させるためには、疾患に移行する前に睡眠や精神面を改善できるセルフケアが重要である。そこで、耳介療法 (経皮的耳介迷走神経刺激療法 : taVNS) を用いたセルフケアが学生の睡眠の質、抑うつ状態、学習状況を改善させることを明らかにしてきた (Waki H et al 2023)。しかし、睡眠や抑うつのアンケート結果が正常値まで改善しない学生や、介入後の持続効果が得られない学生が存在しており、その主な原因として「睡眠に関する認識不足」が考えられた。良質な睡眠について認知し、行動を変容する方法には、認知行動療法 (CBT) があり、近年では、セルフケアに適しているインターネットを使った CBT (ICBT) が注目されている (佐藤ら 2020)。

本研究では、学生の睡眠・精神・学習状況を改善させる耳介療法と ICBT を併用したセルフケアの有用性と持続効果を検証する。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を



学術的背景の模式図



うつ病の原因に則した鍼治療の効果

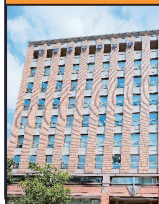
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・睡眠障害や精神疾患は子供から高齢者まですべての年代で対策が必要であり、疾患に移行する前から誰でも簡単に導入することができるセルフケアは汎用性が高い。
- ・taVNS や CBT は睡眠の質も向上させるため、健康維持増進、仕事・学習パフォーマンス向上などにも寄与することが可能。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「Effect of transcutaneous vagus nerve stimulation on daytime sleepiness, depression, and study engagement in college students: a randomized controlled trial. Vulnerable Children and Youth Studies.」
- ・「Impact of COVID-19 and related emergency measures on mental and lifestyle changes in Japanese college football players. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine.」
- ・「Effects of electroacupuncture to the trigeminal nerve area on the autonomic nervous system and cerebral blood flow in the prefrontal cortex.」

## 運動実践やセルフケアを継続するサイトレス指導システムの基盤構築



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 准教授

池宗 佐知子 Ikemune Sachiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : セルフケア・健康管理システム・フィードバック



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

運動は健康維持・疾病予防に有効である一方、身体の痛みを理由に運動を中断する人は多く、運動継続率の低さが社会的課題となっている。特に慢性的な軽度疼痛を有する者では、医療機関を受診するほどではないが不安を抱えたまま活動量が低下し、将来的な運動機能低下やフレイルのリスクにつながる。本研究では、東洋医学に基づくセルフケア（円皮鍼・温灸等）と動画をを用いた運動指導を組み合わせ、利用者と指導者が双方方向に関与可能なオンライン健康管理システムを構築する。

本システムでは、利用者が日々の運動実践、セルフケア実施状況、疼痛の程度を記録すると、クラウド上でデータが可視化され、状態に応じた介入内容の調整とフィードバックがおこなわれる。従来の一方方向型の運動指導とは異なり、疼痛変化に応じて運動負荷やセルフケア方法を調整できる点に特徴があり、鍼灸の知見を活かした在宅自己管理を可能にする。これにより、通院を必要とせず安全性を担保しながら継続的な身体活動を支援できる。

さらに、専門職が常時介入しなくても運用可能な仕組みとすることで、地域における保健指導や介護予防事業の省人化に寄与する。蓄積されたデータは個人の状態把握だけでなく、地域集団の健康傾向の把握にも活用可能であり、自治体の健康施策立案にも応用できる。以上より、本技術は鍼灸のセルフケアを基盤とした新たな遠隔健康管理モデルとして、健康寿命延伸および医療・介護負担軽減への貢献が期待される。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

実学へのつながり :

運動指導と東洋医学的セルフケアを組み合わせた双方方向型オンライン健康管理システムを構築し、研究成果を日常生活や地域・職域の健康支援に直接応用することを目的としている研究である。自宅等で安全に運動実践やセルフケアをおこない、その実施状況や疼痛の程度を記録・可視化し、指導者がフィードバックをおこなう仕組みである。疼痛を理由とした運動中断という実社会の課題に対応し、運動継続を支援する点で実学性が高く、健康寿命延伸や医療・介護負担軽減といった社会的課題の解決に直結する研究である。

産業界へのアピールポイント :

本研究で構築するシステムでは人的資源や時間の制約がある場合においても導入しやすい特徴を有する。また、健康管理や福利厚生、さらには従業員の慢性疼痛対策等に活用できる。近年の多様な勤務形態にも対応ができるものである。

協力可能事項・協力希望事項 :

運動・セルフケアプログラムおよび動画コンテンツの提供、オンライン健康管理システムの共同実証、対象者の特性や地域・職域のニーズに応じたプログラムの調整や、新たな健康支援モデルの構築にも対応可能である。本研究の社会実装を推進するため、実証フィールドの提供（住民、学生、従業員等）や、既存の健康施策・福利厚生制度との連携を希望している。

## 野球の投能力向上と上肢投球障害予防に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科  
スポーツサイエンスコース 教授

伊藤 博一 Ito Hirokazu

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 野球・動作分析



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

身体の構造と機能から「上手な投げ方」を研究している。上手な投げ方とは、肩・肘関節を痛めずに速い球を投げることである。

それを身に付ける練習法の一つとして「真下投げ」という投法を長年に渡って研究している。



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

身体の構造と機能から「上手な身体の使い方」を研究することは、野球の投球動作のみならず捕球動作や打撃動作、さらには他のスポーツのパフォーマンス向上にも応用可能である。

身体の構造と機能から「上手な身体の使い方」を研究することは、スポーツのパフォーマンス向上のみならず、ロコモティブシンドロームの予防にも応用可能であり、健康寿命の延伸につながることも期待できる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「学童野球公式戦における投球数制限の至適範囲」
- ・「学童野球公式戦の登板間隔に関する一考察  
～いわゆる中5日、中6日が投球フォームやボール特性に与える影響について～」
- ・「中3日での登板間隔が投球フォームや球速の乱れに与える影響  
～学童野球公式戦における準優勝投手の場合～」

# アスリートの身体計測値およびソマトタイプを用いた体型評価



【中野キャンパス】 人文社会学部 経営学科  
 トレーナー・スポーツ経営コース 助教

岩澤 茉莉子 Iwasawa Mariko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 身体計測・アスリートの身体組成・ソマトタイプ・ボディ・イメージ



## 研究の概要

身体組成の分析はスポーツ現場においてよく用いられており、身体計測は選手の選択やパフォーマンス基準において重要な役割を果たしている。特に、選手の身体計測データをより詳細に示すことは、スポーツ競技に求められる理想の体格の把握や選手のコンディション評価に活用ができることから、これまでに複数の種目のアスリートを対象に皮下脂肪厚や周径等々の身体計測を実施し、種目やポジション、学年の違いによる体格や体型の評価を報告した。また、体格・体型・身体組成を数値化し、体格を大まかに説明することができるソマトタイプを用いて、種目やポジション別の体格や体型を比較するとともに、ソマトチャートにより視覚的に体格や体型の違いを示した。

現在は、身体計測値やソマトタイプを活用し、種目やポジション、学年といった体型評価だけでなく、経時的に測定したデータを用いて発育・発達との関連について検討をおこない、発育速度が体格や体型の推移に及ぼす影響について明らかにすることや体型認識、ボディ・イメージとの関連について検討をおこない、無理なウエイトコントロールが引き起こす健康障害への影響等について研究をおこなっている。

## SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

### ソマトタイプ(体格・体型分類法)とは

体格・体型・身体組成の数値化し、体格を大まかに説明すること可能。

Endomorphy (内胚葉指数: ふくよかさ具合)

Mesomorphy (中胚葉指数: 骨と筋肉の発達具合)

Ectomorphy (外胚葉指数: 線の細さ具合)

を示す3つの数値で表すことができる。

(表示例)

ふくよかさ

3.5

Endomorphy  
(内胚葉指数)

筋肉や骨の発達

5.0

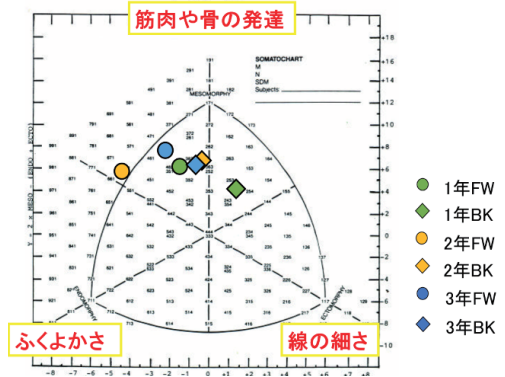
Mesomorphy  
(中胚葉指数)

線の細さ

2.0

Ectomorphy  
(外胚葉指数)

### ソマトチャート



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

身体計測データを通し、種目に特化した詳細な身体的特徴や発育の過程を経時的に明らかにすることで、各種目における選手の体型や体格、成長の評価、ポジション分け、アスリートのタレント発掘等に活用することができる。また、「国際キンアンソロボメトリー推進学会 (ISAK)」が定める基準を用いて計測をおこなうことで、国際的な水準で身体状況を評価でき、同基準に基づいておこなわれた国内外の報告との比較や評価をおこなうことが可能である。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「高校ラグビー選手の体格・体型に関する研究—学年、ポジション、全国大会メンバー登録の有無による身体的特徴の比較—」
- ・「高校ラグビー選手のソマトタイプの変化について」
- ・「高校野球選手の身体状況と身体満足度との関連」

# 増量を目的としたスポーツ栄養マネジメントの検討



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科  
トレーナー・スポーツ経営コース 助教

岩澤 茉莉子 Iwasawa Mariko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

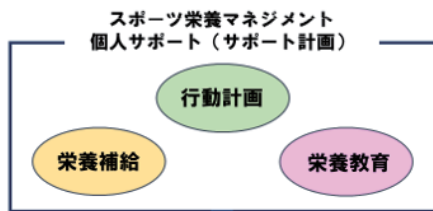
キーワード : スポーツ栄養マネジメント・アスリートの食事指導・ウエイトコントロール・栄養教育



## 研究の概要

スポーツ競技において、身体サイズや形態が競技パフォーマンスに影響を与えることから、アスリートは特定の形態を持つようになる。そのため、競技に適した体重と最適な身体組成を獲得することが重要である。ラグビーのように選手同士の接触を伴う競技では、体重が重いことが競技をおこなう上で有利となるため、体重を増やすことに努める。体重増加のためには、トレーニングだけでなく普段の食事量を増やしていくことが必要となるが、食事の内容を考慮せずに食事量を増やすことは脂肪の増加をもたらし、競技に適した体型を獲得することができない可能性が考えられる。また、増量をおこなう際に、食事指導や栄養教育を実施することにより、栄養素摂取量や食事に対する意識の変化が報告されており、それに伴い体重増加や除脂肪体重の増加などが認められている。しかし、増量する際に効果的なエネルギー付加量は具体的な数値として示されていないことから、エネルギー付加量を検討するとともに、栄養教育等のスポーツ栄養マネジメントの内容を検討することを目的としている。

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに



効果的な増量を行うためのエネルギー付加量は？



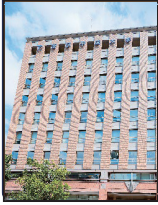
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

体重の増量をおこなう際に、スポーツ栄養マネジメントに沿ったサポートをおこなうことで、無理な増量や健康を害する増量を防ぎ、より効果的に体重の増量に繋げることができる。また、スポーツ栄養マネジメントを実施する際に栄養教育をおこなうことにより、選手の知識や食事に対する意識を高めることができ、自己管理能力を身につけることが可能である。効果的なウエイトコントロールの実施、アスリートの自己管理能力の取得、栄養や食事に対する知識の向上が期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「高校ラグビー部員における身体状況と栄養摂取状況の学年間比較」
- ・「高校野球選手のエネルギー摂取量および栄養素摂取量と身体特性の関係」

# ダンスの動作解析



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 講師

大内 佳奈江 Ouchi Kanae

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 三次元動作解析・表面筋電図・クラシックバレエ



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

### 1. 背景

#### ダンス人口の増加

##### 【ダンサーの怪我】

- ・主な要因 : overuse
- ・アライメント不良や技術的エラーが背景にある可能性が高い。  
(Gamboa 2008)

##### 【ダンスの動作解析】

- ・クラシックバレエに関する研究が大部分であった。
- ・大半がデータ収集に1種類の技術のみ使用しており、2つ以上の計測手法の併用がきわめて重要である。

##### 【教育現場の課題】

- ・ダンス部員が増加する一方、指導体制や施設面に課題あり。  
(中村 2014)
- ・舞踊家による指導を受けた部員へのインタビュー調査  
⇒ 複数の情報提示を行う実演指導が効果的であった。  
客観的評価の必要性が示された。  
(若井 2024)

(Quadrado 2022)

### 2. 本研究

#### 【2022～2024年度：運動学的解析，運動力学的解析，表面筋電図の併用による評価】

バレエの基本ポーズにおける体幹部の制御に着目し，三次元動作解析装置，床反力計，表面筋電計を用いてプロダンサーとアマチュアダンサーを比較した。プロ群では高い安定性を示し，脊柱起立筋の中央周波数が高値を示した。

(第30回日本バイオメカニクス学会)

#### 【2025年度～：指導効果の検証】

ダンス初心者を対象に，バレエ・チアダンスの基本ポーズの習得における口頭指示の効果を検証した。体幹への具体的な指示は筋活動の質的变化をもたらし，姿勢保持や動作安定性に寄与する可能性が示唆された。

2025年度私学事業団「若手研究者奨励金 研究課題：「ダンス指導における口頭指示の効果の検証」(第31回日本バイオメカニクス学会)

#### 【2026年度～：「正しい技術」「誤った技術」の検証】

慣習的に「正しい技術」および「誤った技術」とされてきた下肢のポジションが体幹筋活動やアライメントに与える影響を検証する。本研究により，従来は口頭や経験則に依存していた技術指導に，運動的根拠を付与することを目的とする。

### 3. 今後の展望

ダンス(バレエ，ストリートダンス，チアダンス等)指導現場における技術習得への活用

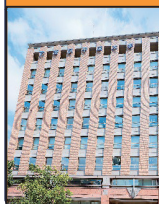
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・本研究は、高等学校の部活動を含むダンス指導現場への実装を目指しています。
- ・指導効果を運動学・運動力学・筋電図の観点から多面的に評価し、怪我リスクを踏まえた科学的フィードバックを提供します。
- ・成果は、教育現場だけでなく、自治体のスポーツ振興やダンス関連産業の指導者育成・プログラム開発に活用可能です。
- ・動作評価技術の提供、指導者研修、共同プログラム開発などで協力ができ、地域スポーツ振興に向けた共同研究を希望します。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

「ダンス指導における口頭指示の効果の検証」「バレエの姿勢保持における身体重心と体幹部の評価」

## 運動直後の血液検査による遅発性筋痛 (DOMS) レベルの早期予測



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 講師

大圖 貴三 Ozu Takamitsu

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 遅発性筋痛・DOMS・筋損傷マーカー・最適運動負荷量



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

運動負荷後の遅発性筋痛 (DOMS) は、筋力低下および努力錯覚を誘導し、運動パフォーマンス低下や転倒等の二次障害が生じる危険性が高まるため、運動負荷直後に予測する利点は大きい。そこで、DOMS の出現を事前に予測できる因子を開発することを目的に研究をおこなう。そこに本研究の新規性がある。

一過性運動後の DOMS との関連を示す従来型筋損傷マーカーとして CK、LDH 等が挙げられてきたが、これらの因子は DOMS のピークに対し後ろにピークが出現するため、DOMS の予測因子の候補になる期待は薄い。

我々の研究チームは筋細胞障害時、DOMS 出現よりも早期の運動直後に血中に流出する新たな筋損傷マーカーをある程度特定しており、現在はそのマーカーの精度や運動負荷の内容に対する変化を解析し、その有用性を従来型筋損傷マーカーや、筋エコー評価を含めて多角的に検討する段階である。

運動負荷直後に DOMS の出現や程度が明らかになれば、その後の運動パフォーマンスの低下を予測でき、発展すれば運動負荷前から DOMS 出現やその程度の予測が可能となる。

この結果は、運動負荷時の指標として運動器リハビリテーションおよびトレーニング現場における個人の最適負荷量決定や過負荷予防の新たな指標確立に展開できる可能性を秘める。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

運動選手のトレーニングや病院患者のリハビリテーションにとって、遅発性筋痛は継続的な実施の妨げとなるものです。遅発性筋痛レベルを運動負荷直後に予測することにより、個人の運動最適負荷量を決定できれば、トレーニングやリハビリテーションの効率を最大限に高めることができます。遅発性筋痛の発生前に早期に予測できる筋損傷マーカーは現時点ではありません。そのマーカーが特定できれば、全国・全世界のスポーツ業界やリハビリテーション施設に対してマーカーの販売をおこなうことが可能となり、企業の新たな収入源にもなり得ます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

現在、科研費（文部科学省）を用いて実験を実施中です。

# 健康と運動の関わり



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 助教  
片桐 亮 Katagiri Ryo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 腸管通過時・運動・腸内環境



SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

主に脳や血液循環（血液再分配）について研究しています。ラットを使った基礎的な研究から、ヒトを対象とした運動と健康などをキーワードに、神経科学的・生理学的・栄養学的な技術を利用した実験をおこなっています。

### 研究活動内容

#### 1) 血液循環中枢に関する基礎研究

運動しているときは活動筋への循環血液量が増加するのに対して、腹部内臓器への循環血液量は減少します。このからだの仕組みについては、脳からの信号によって制御されていますが、まだ不明な点が多い分野です。これらを細胞レベルで理解するために、電気生理学的手法や薬理学的手法、光遺伝学的手法を用いて神経学的研究をおこなっています。

#### 2) 生活習慣病における運動による予防・改善効果に関する研究

現代社会において精神的ストレスや加齢などは腸内環境に影響を及ぼし、便秘や生活習慣病などを引き起こす因子となっています。そこで、健康科学に関する研究として、健康指標に含まれる排便習慣と運動との関係に着目し、運動学専門家・栄養学専門家・消化器内科学専門家でチームを組み、運動実践内容と排便習慣および摂取した食物の腸内通過時間との関連を調べています。

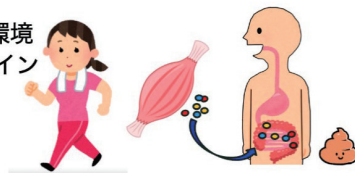
### 運動時の循環調節メカニズム

- ・セントラルコマンド
- ・血流再分配



### 運動と腸内環境

- ・エクサカイン
- ・筋腸相関



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

腸管通過時間の評価から身体が抱える何かしらのリスクが想定可能となれば、健康管理ツールの一つとして国際的にもこのツールが認知されるのではと考えられます。また、運動実践方法による便通変化から、生活習慣病や便秘改善に対する運動プログラムの作成や、若年性ガットフレイル等の疾患対策に向けた一助となる可能性があると考えられます。

健康志向の現代社会において、新たな健康指標を確認するツール開発が期待されます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【所属学会】・日本体力医学会

・日本柔道整復骨医学会

## モルックを通したところとからだの健康プログラムに関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 准教授

勝嶋 雅之 Katsushima Masayuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：モルック・地域交流・活動参加・生活の質・身体機能



### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

#### 【モルックとは】

モルックは、フィンランド発祥のスポーツです。「モルック棒」とよばれる棒を投げ、「スキットル」と呼ばれる木製のピンに当てて倒し、50点を先取することを競います。倒れた本数や書かれた数字を点数として合計し、50点ちょうどを目指します。戦略的な駆け引きと正確なコントロールが重要ですが若者男女を問わず、公園などでいつでも誰でも気軽に楽しめるため、近年、国内でも急速に普及が進んでいます。

#### 【市原市の状況】

千葉キャンパス近隣にある市原市市津地区では、市内でも高い水準の高齢化が大きな課題となっています。高齢化により地域交流などの活動も減少し、関係の希薄化や身体運動の機会減少も懸念されています。

#### 【作業としてのモルックの可能性】

モルックの作業活動種目としての要素を捉えると、身体的には「立つ」、「投げる」、「歩く」、「しゃがむ」などの身体機能だけでなく、「狙う」、「計算する」などの認知機能、さらには「集う」、「交流する」などの社会交流の要素も含まれ、高齢者の身体介護予防だけでなく活動・参加、地域交流の促進にもなると思われ、生活の質（QOL）の改善にも寄与できるのではないかと推察されました。

#### 【研究デザイン】

そこで筆者は、国内には地域におけるモルック活動の効果検証がほとんど無いことから、探索的なモルックの効果に関するシングルアーム研究を現在実施しています。主要アウトカムはARS（意欲評価尺度）を使用して高齢者の意欲の変化を開始前と終了後および終了後1カ月のフォローアップの3時点で測定します。副次的アウトカムは、血圧、心拍数、閉眼立位保持時間、握力などの身体機能評価とPHQ-9、GAD-7、LSA（Life Space Assessment）などの自己記入式質問票で心理面を評価します。

本研究で効果が示されれば、今後、高齢化や過疎化の進む地域での活動としてモルックが貢献できると考えています。



モルックの様子

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現在は、探索的な研究として、千葉キャンパス近隣の地域の住民の方にご協力いただいて研究をおこなっています。今後はその他の地域でも実施して比較をしてみることや、高齢の方に限らず、若い世代や子どもなど様々な世代をつなぐ交流会や大会などの実施もおこなっていききたいと考えています。

# 身体形態および機能の発育発達と加齢変化



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

加藤 浩人 Kato Hiroto

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 加齢・発育発達・筋量・身体機能



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

高齢者の要介護期間は、寿命の伸長とともに年々伸びており、筋量および筋力の維持が必要不可欠な課題である。そこで、身体機能の維持のために必須である運動の種類と身体の部位を明らかにし、QOLの維持に貢献することを目指している。

現在、高齢者の就業率は25.1%（2021年）であり、65～69歳は初めて50%を超え、65～69歳は10年連続で上昇（50.3%）し、70歳以上は18.1%となっている。

そこで本研究では、東京都シルバーセンターで就労している高齢者を対象に、アンケートを調査および身体機能の測定をおこなうことで、勤労高齢者の転倒経験の有無や体力の現状を把握することを目指している。

また一方で、発育期にある高校生を対象に足趾筋力の測定をおこなっており、足部の形態と形態異常が足趾筋力および運動能力に及ぼす影響について明らかにすることを目指している。

現在は、浮趾、外反母趾そして内反小趾が、足趾筋力の発揮をどの程度損ねており、運動能力をどの程度抑制しているのかについて、明らかにしようと努めている。

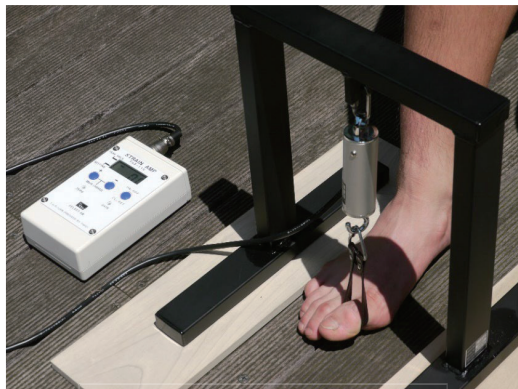


図. 特別に作成された足趾筋力測定器



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

都内シルバーセンター職員に対し、転倒防止のための留意事項、高齢者特有の加齢変化の特徴および運動の効果について講演をおこなっている。今後は、都内の各事業所でも個別に啓発活動や介入研究をおこなうことを目指している。これにより、健康寿命の延伸に伴い、高齢者の就業率の向上が期待される。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【著書】「寝たきりにならない！生涯現役のための筋トレ」

【学術論文】「サッカーシューズの着用が男子高校生の足部形態に及ぼす影響」

【講演会等】「加齢に伴う形態・機能低下および運動効果」公益財団法人東京しごと財団主催 高齢者の転倒予防勉強会講師

# 学生主体の発想で拓く世代間交流型の地域支援活動



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 教授

菊池 和美 Kikuchi Kazumi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：学生ボランティア・ネイルケア・スマホ講座・地域交流・世代間交流・地域包括ケア・作業療法



## 研究の概要

本取り組みは、学生が自ら企画し、自分たちの得意分野や柔らかない発想を地域に活かすことで、世代間交流と地域の活性化につなげる新しいタイプの地域貢献活動です。これまでのように「依頼された作業を手伝う」スタイルではなく、学生が主体的に活動を考え、地域の専門職と相談しながら形にしていっていったことが大きな特徴です。活動の準備段階から、作業療法士の教員が安全性や目的性に関する助言をおこない、さらに地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、区民ひろば、フレイル対策センター職員など、多くの地域の方々にご協力いただきました。

2024年度の「スマートフォン講座」では、学生が若者らしい視点から、分かりやすく操作説明をしたことで、高齢者の方のデジタル生活の不安が解消され、生活の利便性向上に結びつきました。「若い人に教えてもらおうと不思議とできる」という声もあり、学生はICTに対する高齢者の関心の高さを知る学びとなりました。2025年度のネイルケア企画は、学生が「高齢者の生活に気軽な楽しさを」という思いから生まれました。100円～200円程度の材料を使った、シンプルで負担の少ない“お手軽ネイル”を提案し、「こんなに簡単ならやってみたい」「気分が明るくなる」といった喜びの声をいただきました。ネイルをしている間の“おしゃべり時間”では、地域の歴史や暮らしの知恵をうかがう機会も生まれ、学生にとっては、教室では得られない実践的な学びの場となりました。

活動を通して、学生は「生活背景を理解する力」「説明の工夫」「状況判断」といった、作業療法士に必要な力を自然に身につけています。また、このような地域での交流支援は、今後作業療法士が活躍する新しい領域としても期待されており、学生のキャリア形成にも大きく役立つ取り組みです。本活動は、学生の創造性と地域の実情が結びついて生まれた、新しい地域支援モデルとして位置づけられます。2026年度以降も企画を募集し、地域の方々と協力しながら、活動を広げていきたいと考えています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】学生が主体的に企画し地域の方と関わることで、教室では得られないコミュニケーション力や説明力、活動の組み立て方を実践的に学ぶことができます。ネイルやスマホ等の身近なテーマから、高齢者の生活背景や地域の文化を理解する機会が生まれ、作業療法の専門性を実感しながら学修を深めることができます。

【産業界・自治体へのアピールポイント】本活動は、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターなど地域の社会資源と連携し、若者の力を活かした新しい地域支援モデルとして展開し、多様な分野へ応用できる可能性があり、自治体にとっても、交流促進・フレイル予防の施策と運動しやすい取り組みです。

【協力可能事項】地域イベントの企画協力、学生によるICT支援、交流プログラムの開発、活動の記録・評価、地域課題の分析など、多様な形で地域や団体の皆様と協働できます。

【協力希望事項】地域の専門職や自治体との継続的な連携、高齢者との交流の場の確保、活動場所の提供、企画へのアドバイスなどをご協力いただくと、より継続的で実りある取り組みに発展できます。

# 若年競技者のコンディショニングに関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 講師

齊藤 訓英 Saito Kunihide

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 子ども・コンディショニング・睡眠・スポーツ



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

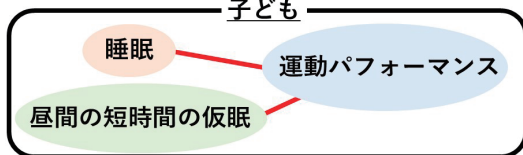
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

睡眠はスポーツ選手にとって良質のパフォーマンスを発揮するための重要な要素であり、近年では睡眠と運動パフォーマンスについての研究報告が散見されるようになってきました。夜間睡眠に対して何らかの制限をした場合、筋力やパワー、スプリントタイム、反応時間、選択反応時間、心理的要因、競技特異的なスキルの実行能力等が低下するという報告が見られます。一方、睡眠時間を増加させることで、運動に関係する様々な指標が改善したという報告も見られます。子どもにおいて、夜間睡眠や昼間の仮眠が、睡眠障害、情動反応、記憶力、集中力、認知能力、学業成績などに深く関係するという報告があることから考えると、睡眠は子どもの運動パフォーマンスにも深く影響すると考えられます。しかしながら、子どもに対する昼間の短時間の仮眠とスポーツに関係する運動パフォーマンスとの関連性を研究した報告は管見の限り見当たりません。したがって、スポーツ活動に関わっている子どもに対しても昼間の短時間の仮眠の効果を明らかにすることができれば、午後の運動パフォーマンスの質の向上に応用できる可能性があります。

### 夜間睡眠のスポーツに対する影響

- 夜間睡眠の不足 ➡ スポーツにかかわる多くの要因に対して**悪い**影響
- 夜間睡眠の十分な確保 ➡ スポーツにかかわる多くの要因に対して**良い**影響

### 子ども



短期的・長期的な観点から  
子どもの競技力・コンディショニング  
の質の向上に役立つ

子ども 教育者 指導者 保護者

有益な情報の提供が可能

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

アスレティックトレーニング関連用語解説集によると、「コンディショニング」とは「競技のレベルに関わらずアスリートやチームがベストパフォーマンスを発揮するために目標とするコンディションと現在のコンディションとの間の差をより望ましい状態に向けて最小化するための過程のこと」とされています。つまり、睡眠や休息の取り方、身体のケアやパフォーマンス向上のためのトレーニングもコンディショニングの一つです。睡眠はスポーツ選手にとって良質のパフォーマンスを発揮するための重要な要素であり、近年では睡眠と運動パフォーマンスについての研究報告が散見されるようになってきました。もし、子どもについても睡眠や短時間の仮眠が運動パフォーマンスに対してポジティブな影響を与えるなら、これらは長期的および短期的な観点から、子どもの競技力の向上やコンディショニングの質の向上に役立つことになります。すなわち、このことは「子ども」「教育者」「指導者」「保護者」に対して有益な情報の提供を可能にと言えます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「昼間の短時間の仮眠が小学生バスケットボール選手の運動パフォーマンスに与える影響」

【学会発表】「新型コロナウイルス感染症の影響により中止されたスポーツ活動再開の実践報告」

・「アスレティックトレーナーによる消防官に対する体力測定の実践報告」

# 高齢者のこころの健康に関する社会疫学研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
理学療法コース 准教授

佐藤 正司 Sato Masashi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：健康の社会的決定要因・健康格差・社会経済的状況・ソーシャルキャピタル・ゼロ次予防

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

一般的に、日々の生活習慣がこころの健康に影響を及ぼすことは広く知られている。高齢期になれば長年に及ぶ生活習慣の蓄積により、さらに影響が大きくなると考えられる。その生活習慣に影響を及ぼし、かつ介入可能性が高い「社会的要因から改善を試みる」というゼロ次予防の取り組みが注目されている。そこで、各個人レベルの社会経済的状況とこころの健康との関連について検証した。先行研究では社会経済的状況として教育歴、職業、所得のいずれかと検討することが多い。本研究では、教育年数、キャリアの中で最も長期間従事した最長職、同居世帯の人数を考慮した等価所得、および等価資産との関連を検証することで、より具体的で、複数の要因を考慮した分析を進めている。

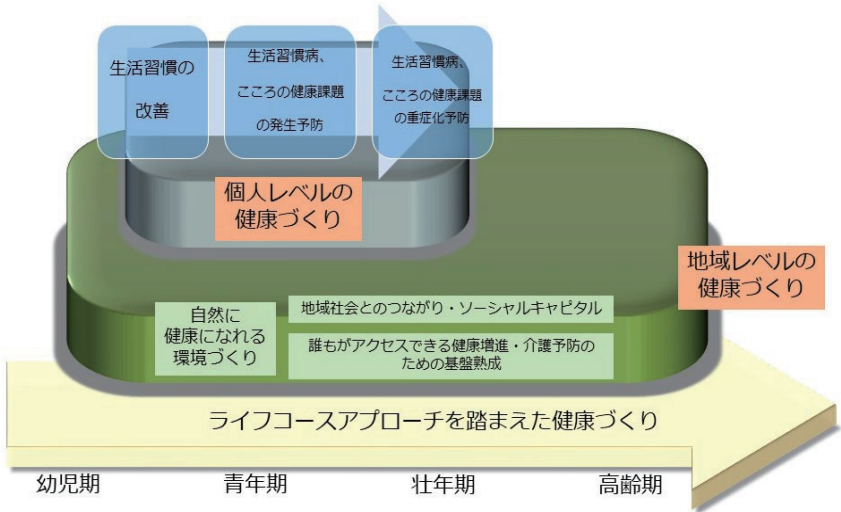


図 健康日本 21（第三次）を見据えた健康づくり

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

近年、高齢者のこころの健康維持のため、就労による社会参加が推奨されている。しかし、全ての高齢者に対し効果的かは不明瞭であり、教育歴や得られる所得、職種などの社会経済的状況により異なる可能性がある。高齢者雇用を推進する自治体や関連機関の皆様や政策立案に関わる方々の一助となれるように研究を進めていきたい。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 【論文】・「新型コロナウイルス感染下でも「人とのつながり」は必要」
- ・「Socioeconomic status and incident depressive symptoms among older adults: A 3-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study」

【学会発表】・「高齢者における社会経済的状況とうつ発症との関連」

## 地域課題解決に向けた「総合型地域スポーツクラブ」の可能性

### 総合型地域スポーツクラブ参加による健康効果



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
理学療法コース 准教授

佐藤 正司 Sato Masashi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：地域課題・高齢者・総合型地域スポーツクラブ・政策評価・健康・通いの地・地域包括ケア・部活動・地域移行・地域展開・well-being・社会参加

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

本研究は、地域課題の解決に向けて「総合型地域スポーツクラブ」参加の効果について、現状把握と定量的な検証を進めて、クラブの可能性を示すことを目的としている。

文部科学省は2000年にスポーツ振興基本計画を策定し、その中の施策として「総合型地域スポーツクラブ」の全国的な整備を掲げた。2024年7月時点では3,581クラブが育成され、約8割の市区町村に設置されている。

総合型地域スポーツクラブは、住民が主体的に運営する点に特徴があり、地域のスポーツ環境を自ら創り出す仕組みとして注目されている。また、各地域の実情に合わせた地域課題の解決にも寄与することが期待されている。

したがって総合型地域スポーツクラブは、高齢者の介護予防や成人の健康づくり・メンタルヘルスをはじめとし、小中高校の運動系部活動の移行・サポートなど多岐にわたる領域にも貢献する存在と位置づけられる。

一方、第3期スポーツ基本計画では、スポーツの効果に関するエビデンスの蓄積が課題として示されている。特にクラブ参加と多面的な健康との関連を縦断的に検証した研究は限定的である。

本研究は、「総合型地域スポーツクラブ」参加による健康への効果について、先行研究をはじめとした現状の把握と、定量的な効果検証により、今後の研究発展の基盤を築くことを目的とする。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【実学へのつながり】

帝京平成大学では、総合型地域スポーツクラブとして「帝京平成スポーツアカデミー」を運営している。提供するプログラムの中には、スポーツ技能を持つ地域住民や大学教員が講師役のものもあり、大学生が関わるプログラムもある。大学生は、スポーツ指導・運営に関わる地域住民や大学教員を身近で見ながら、現場で地域のスポーツ活動を学ぶことができる。また、地域住民の方々も、本学の学生と顔の見える関係を築き、若者への理解が促進される。

### 【自治体への希望要望】

複数の総合型地域スポーツクラブが協力し、多岐にわたる競技種目・競技レベルに対応できるように連絡協議できる機会をいただくと幸いです。また、自治体が所有する健康関連データと各クラブが所有する参加者データを紐づけることで、より詳細で多岐にわたるデータ分析ができると考えられます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「高齢者における総合型地域スポーツクラブ利用と健康関連指標との関連 —スコアリングレビュー—」

【学会発表】「高齢者における社会経済的状況とうつ発症との関連」

伸張性収縮（エキセントリック）運動によるジャンプパフォーマンスならびに  
骨格筋機能・形態の応答と適応に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科  
スポーツサイエンスコース 准教授  
清水 貴司 Shimizu Takashi



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : トレーニング・ジャンプパフォーマンス・筋ダメージ・フライホイール

## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

骨格筋の収縮様式として、筋肉が長さを変えずに力を発揮する等尺性収縮（アイソメトリック）、筋肉が短くなりながら力を発揮する短縮性収縮（コンセントリック）、筋肉が引き伸ばされながら力を発揮する伸張性収縮（エキセントリック）がある。伸張性収縮運動は短縮性収縮や等尺性収縮運動に比べて、大きな張力が発揮できる一方、遅発性筋痛や筋機能、柔軟性の低下、筋の腫れなどの骨格筋の損傷や神経機能の低下を引き起こす。しかしながら、伸張性収縮を含むレジスタンストレーニングは骨格筋の肥大や筋機能の向上に有効である。

伸張性収縮局面により大きな負荷をかける方法として、Berg と Tesch が設計した慣性の法則で負荷をかけるフライホイール（FW）装置を用いたトレーニングが提唱されており、複数の論文でその効果が報告されている。特に、FW 装置を用いた下肢のレジスタンストレーニングは、ジャンプパフォーマンスの向上に有効であることが示されている。しかしながら、FW トレーニングによる筋機能の改善、筋肥大およびジャンプパフォーマンスへの効果については、一般的なレジスタンストレーニングと比較した場合に効果が大きいとする報告と、効果に差がないとする報告が混在している。

本研究の目的は、アスリートと非アスリートの両者を対象に、FW トレーニングによる筋機能の向上や筋肥大に対する効果を検討することである。FW トレーニングの効果的な実施方法や、その効率性について明らかにし、最終的には、これらの知見を基に、伸張性収縮を効果的かつ効率的に活用できる指針策定の一助になればと考えている。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新たなデバイスでのトレーニング効果の検証が大きな目的となっており、アスリートと非アスリート両者に対する、筋機能向上、筋肥大、健康の保持・増進のためのトレーニングプログラムの提供や運動プログラムの作成に有用な情報となると考えられる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Eight - Week Flywheel Training Enhances Jump Performance and Stretch - Shortening Cycle Function in Collegiate Basketball Players」
- ・「Flywheel Resistance Training Improves Jump Performance in Athletes and Non-Athletes: A Systematic Review and Meta-analysis」

# アスリートのストレス対処力についての研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科  
トレーナー・スポーツ経営コース 准教授

園部 豊 Sonobe Yutaka

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : アスリート・首尾一貫感覚・メンタルヘルス・身体活動



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

東京 2020 オリンピックを代表として、多くのアスリートがメンタルヘルスの不調を訴え、メンタルヘルス管理の重要性が再認識されました (Walker et al., 2021)。研究によると、アスリートの 33.6% がうつ病などのメンタルヘルス不調を経験しており (Gouttebarga et al., 2019)、全世界の成人におけるうつ病罹患率 5% (WHO, 2023) よりも高い水準となっています。

さらに競技力向上を目指すアスリートは、競技生活の中で様々な困難に直面し、これまで以上に高い競技レベルが要求され、過酷なトレーニングをおこなっていくことが予想されます。そのなかで経験する様々な心理的ストレス源にどのように対処するかについては、メンタルヘルスの維持や向上を考える上で重要な課題です。一方で、困難な状況が必ずしも不適応を引き起こし、それを持続してしまうアスリートばかりではありません。むしろ困難な状況を成長の糧として競技力向上の一助としているアスリートも存在します。ストレスをポジティブなものとして捉え、健康に導く心理社会的概念として首尾一貫感覚 (SOC : Sense of Coherence, Antonovsky, 1987) があります。

本研究ではこの SOC の概念を用いて、アスリートのどのような経験によって SOC は構築されていくのか、さらに SOC はどのように強化できるのかについて、検討をおこなっています。

現在は、汎抵抗資源 (GRRs : Generalized Resistance Resources) にも焦点を当てています。GRRs とは、ストレスに対処し健康を維持するために個人が利用できるあらゆる資源 (身体的、心理的、社会的要因) を指し、SOC を育てていく基盤となっています。

アスリートが持つ固有の GRRs を特定し、それらを効果的に SOC の向上へと転換させるメカニズムを解明することは、メンタルヘルスの不調予防だけでなく、パフォーマンスを最大化させるための重要な鍵となります。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は SOC の視点を用いて、

- ① トップアスリートの SOC 強化につながる要因の探索的検討
- ② アスリート全般の SOC 強化につながるモデルの作成

について、質的・量的研究法を用いて明らかにしようとするものです。メンタルヘルス不調を抱えているアスリートへの、ストレス対処強化を目指した具体的サポートの立案や実践への応用可能性につながることを期待されます。

さらに本研究はアスリートだけのものではなく、健康スポーツ活動においても重要な知見を提供するものと考えています。具体的には、健康維持増進を目的としたスポーツ活動においても SOC が強化できる可能性があれば、メンタルヘルスの改善にも貢献できると考えています。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「大学生における運動および生活活動が精神的健康に与える影響 -首尾一貫感覚を媒介変数として-
- ・「大学入学時における過去の運動・スポーツ経験が首尾一貫感覚 (SOC) および健康度に及ぼす影響」

## 野球肘からの段階的復帰プログラムの開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
理学療法コース 准教授

田中 直樹 Tanaka Naoki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 野球・野球肘・肘関節・スポーツ復帰

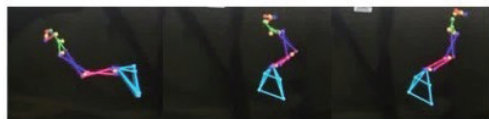


### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

野球選手において、肘関節障害の罹患率は高く再発率も高い現状にあります。しかし、競技復帰するにあたり復帰の手順や方法は標準化されているとは言えない状況です。距離を指標とした方法を提示することは成長期において体格や能力の差が大きく、選手ごとの負荷が異なる可能性があります。また、選手の主観的な投球強度を指標とする口頭指示では、肘関節に加わる負荷やその再現性が明らかになっていません。例えば「80%の強度で投げる」と指示されても選手の主観的な投球強度で発揮されるパフォーマンスや関節の負荷が80%とは限りません。また、その精度は競技歴などの経験も大きく影響すると予想されます。以上より、本研究では、投球距離および主観的な投球強度における肘関節内反トルクとその再現性を明らかにし、野球選手の肘関節障害からの適切な段階的復帰の指標作成とすることを目的としています。

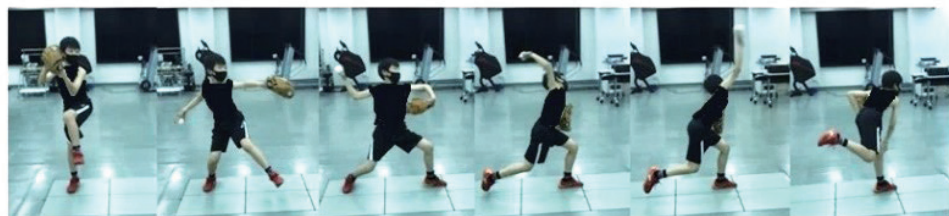


KHP

SFC

MER

BR



Wind up

Cocking

Acceleration

Deceleration

Follow Through

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

健康に関する意識が高まっているなか、スポーツによるケガが原因で競技継続や復帰を諦めることは望ましくありません。多くの治療法が確立され始めているものの、復帰方法や復帰基準については未だ明確になっていません。子ども達やスポーツ選手のケガの再発予防プログラムを確立することは、長く運動を継続することに寄与する取り組みであると考えています。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Throwing kinematics and elbow varus torque relative to ball size in junior baseball players」
- ・「Influence of pitching grip on shoulder and elbow injuries in junior baseball players, focusing on hand length and the metacarpophalangeal joint angle」
- ・「学童野球選手におけるボールの握り方の特徴と肩肘障害の関係」

# 仮眠が日中のパフォーマンスおよび生体リズムに及ぼす影響



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 トレーナー・スポーツ経営コース 講師

田邊 弘祐 Tanabe Kosuke



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 体力・運動能力・認知機能・眠気・社会的時差ボケ

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

### ①予防的な仮眠の効果検証

12時間周期の生体リズムによる眠気に対する対策としての、予防的な仮眠の効果を検討するために、コントロール（安静座位）条件と、各仮眠（30、60、90分）条件における、体力・運動能力および実行機能の諸測定値を比較した。

### ②運動後のリカバリーとしての仮眠の効果検証

午前中の有酸素運動後の回復としての仮眠が、体力・運動能力および実行機能に与える効果を明らかにするために、コントロール（安静座位）条件と、各仮眠（20、90分）条件における、体力・運動能力および実行機能の諸測定値を比較検討した。

### ③学校現場での仮眠実践の効果検証

「子どもの睡眠・覚醒に関わる諸問題を改善させる方法として、学校現場での仮眠実践が有効であるか否か」を明らかにするために、3つの仮説を検証する。

【仮説①】学校現場での短期的な仮眠実践は、午後の眠気を低減させ、実行機能を改善させる。

【仮説②】学校現場での長期的な仮眠実践は、午前・午後の眠気を低減させ、実行機能を改善させる。

【仮説③】学校現場での長期的な仮眠実践は、社会的時差ボケ〔平日と休日における睡眠・覚醒（就床・起床）リズムの乱れ〕を解消させる。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

仮眠が日中のパフォーマンスを維持・向上させ、社会的時差ボケ〔平日と休日における睡眠・覚醒（就床・起床）リズムの乱れ〕の改善に有効な手立てであることを証明できれば、睡眠・覚醒に関わる諸問題を解決する方法として“仮眠をとる”ことが新たなパラダイム（概念）として普及していくことが期待される。本研究の成果は、老若男女問わず、「眠りが困難な時代」が到来したと言われる我が国の深刻な睡眠状況を打破するための新たな解決策として、幅広く応用することが可能であり、社会全体の活力を創起することにも繋がるものと考えられる。また、以下のような活用が考えられる。

①日中のパフォーマンスを最大化させる方法としての活用が期待される。

②OECD加盟諸国の中で最も睡眠時間が短い日本において、仮眠が睡眠に関わる諸問題解決の糸口となることが期待される。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

「Effects of prophylactic naps on physical fitness/exercise ability and executive function in healthy young trained males」

### 【学会発表】

「昼休みに仮眠したいと思う高校生の特徴：基本属性および生活習慣との関連を探索的横断研究」

「高校生の仮眠意向を説明する睡眠・生活習慣の構造モデルの検討」

# 脳科学に基づくストレス対処法のセルフモニタリングシステムの開発



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授

玉井 秀明 Tamai Hideaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : ストレス・fNIRS・前頭前野・右偏指数・セルフモニタリング



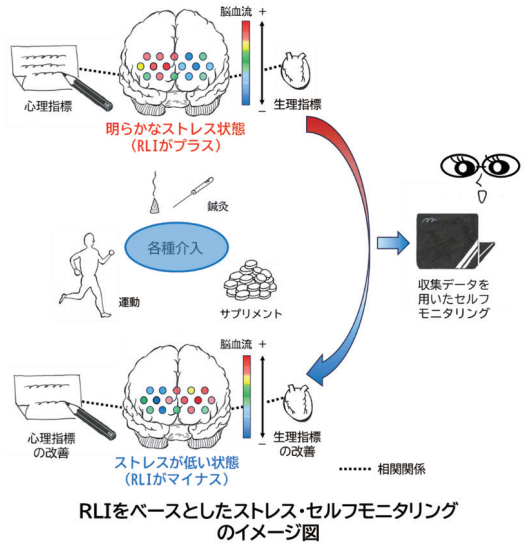
## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

近年、生体のストレス反応として脳の前頭前野活動の右偏位が報告されており、我々は、fNIRS によりどの程度脳活動が右優位であるかを評価できる右偏指数 (Right laterality index: RLI) に着目しています。そして、現在、RLI を用いて鍼灸やその他の介入研究への有用性を検討中です。これまで、ストレスに対する RLI 変化とそれに伴う交感神経活動の亢進 (心拍数や血圧の上昇など) について報告されていますが、それら生体反応を応用したストレス対処法の探索・実践のためのセルフモニタリング法は確立されていません。

本研究では、fNIRS とウェアラブルデバイスを組み合わせ、簡便に前頭前野の RLI、心拍数、血圧などの生理指標や、ストレス・リラク্স度、快・不快度、肯定的感情・否定的感情などの程度を測る心理指標を用いて自身のストレスの状態を知り、取り組んでみたいストレス対処法の効果をフィードバックできるセルフモニタリングシステムを構築することを目的とします。

この研究によって、各個人が簡便にストレスの心身両面からの状態を知り、無理なく効果的に継続可能なストレス対処法を探索・実践できるシステムの開発が期待されます。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・従来の fNIRS の測定は定量性がみられなかったが、本研究では、RLI などを用いて定量的評価をおこなうことを試みます。
- ・fNIRS は他の脳機能計測装置と比較し、日常環境下で簡便に脳のストレス状態を測定できる利点があります。
- ・fNIRS データを、ストレスに関わる交感神経活動の生理指標 (心拍数の上昇、血圧の上昇など) や心理指標 (ストレス・リラクックス度、快・不快度、肯定的感情・否定的感情など) と併せて総合的に分析することで、各ストレス対処法が、個人に無理なく実践できるかの検討が可能と考えられます。
- ・脳科学に基づいて、各自に合うストレス対処法を見つけるためのセルフモニタリング法の開発が期待されます。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】「Exploring feasibility of fNIRS to assess delayed inhibition effect of prefrontal cortex for acute stress by acupuncture on GV20: a pilot study」

【学術発表】「ストレス関連神経生理学的バイオマーカーの探索」



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 准教授

知脇 希 Chiwaki Nozomi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域・高齢者・ジェンダー



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

個人の健康状態は、生物学的な性差のみならず、社会的役割や文化的背景から形成されるジェンダーの影響を受けていると考えています。このジェンダーの視点を介護予防事業の設計・実施に取り入れています。

そして介入の効果を検証しました。

### ①女性を対象とした尿失禁対策講座

尿路や生殖器の構造には大きな性差があり、女性は男性に比べて尿失禁の有症率が高い傾向にあります。その一方で、実際の受診率は低いことが報告されています。また、女性は家事や介護などのケア役割を担っている場合も多く、高頻度の外出が困難なケースも少なくありません。

そこで本事業では、腹圧性尿失禁に対して推奨されている非侵襲的アプローチである「骨盤底筋トレーニング」を中心とした、全3回(月1回)の尿失禁対策講座を実施しました。

その結果、受講生の尿失禁症状において一部改善が認められました。

### ②男性を対象とした健康講座

全7回(月1回)、複数学科の教員が連携し、男性限定の講座を実施しました。身体機能の改善には運動だけでなく栄養管理も不可欠ですが、現在の高齢男性は栄養や調理を学ぶ機会が少なかった世代であることを考慮し、プログラムに栄養に関する講座と調理実習を組み込みました。

その結果、受講生の筋力向上や転倒不安感の軽減が認められただけでなく、日々の食生活において栄養を意識する変化も見られました。

学生との研究では、地域在住高齢者の健康行動について調査をおこなっています。通いの場に集う男性高齢者のインタビュー調査では、通いはじめた理由や継続要因に、調理室が関連していました。

今後も地域での調査を実施する予定です。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

健康増進、介護予防事業の実例と効果を示し、人々の健康に寄与できればと考えています。また、理学療法士の地域事業参画拡大に繋がりたいと考えています。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- ・「介護予防事業における女性高齢者対象の尿失禁対策プログラムの効果」
- ・「高齢男性を対象とした健康講座の効果に関する研究」
- ・「東京都理学療法士協会地域活性局支部活動に関する調査報告」

# 聴覚障がい者に対するスポーツ医科学支援



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 講師

津賀 裕喜 Tsuga Yuki

URL : [津帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

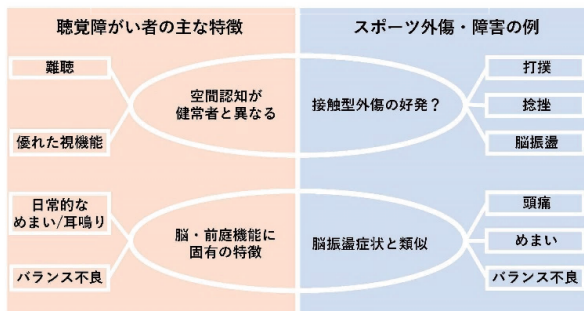
キーワード : スポーツ医学・スポーツ科学・アスレティックトレーニング・障がい者スポーツ・聴覚障がい者スポーツ



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

オリンピックと同時開催されるパラリンピックをはじめ、障がい者スポーツの注目度は高まってきている。しかし、障がい者スポーツの中でも、聴覚障がい者スポーツやデフリンピックに関する研究や支援は非常に少ない。聴覚障がい者はバランス能力を苦手としているが、光反応や動体視力が健常者よりも優れているなどの特徴がある。また、デフリンピックの競技ルールでは補聴器の装着は禁止されており、聴力を頼りにスポーツ活動ができない。これらの要因を踏まえると、聴覚障がい者は健常者と異なるスポーツ医学的な特徴を有する可能性が考えられ、障害特性を配慮した支援体制の構築が求められる。我々は聴覚障がい者に対するスポーツ医科学支援を充実させるための外傷・障害調査、脳振盪関連機能の測定、フィットネスチェックなどを報告している。



健康・スポーツ科学

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

聴覚障がい者スポーツにおける外傷・障害の予防やパフォーマンス向上のためのガイドライン作成を目指して研究を進めている。具体的にはフィットネスチェックや脳振盪ベースライン測定などを経て、コンディショニング方法の指導へと繋げていく。

これにより、デフリンピックをはじめとした聴覚障がい者スポーツにおける日本の国際競技力向上、聴覚障がい者のレクリエーションスポーツ支援を目指す。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「第 19 回冬季デフリンピック大会におけるアルペンスノーボード競技のアスレティックトレーナー帯同報告」
- ・「聴覚障がい者アスリートに対する脳振盪ベースライン測定-VOMS の実践例」

### 【科研費】

- ・「聴覚障がい者スポーツにおける前庭機能に着目した脳振盪評価方法の検討」

足の痛みに妨げられない Successful Aging を目指して

—Disabling Foot Pain 予防を実践する—



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
理学療法コース 講師

仲 貴子 Naka Takako

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : Successful Aging ・ Disabling Foot Pain (活動制限を伴う足部痛) ・  
足部障害予防 ・ 歩行 ・ 靴

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

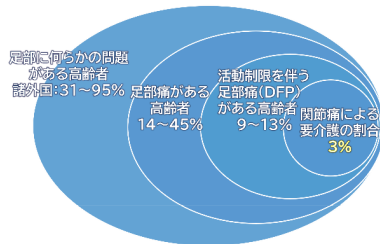
私は、地域で暮らす高齢者が関節の痛みによって人生を妨げられることなくその人らしい「Successful Aging」を達成できる社会の実現を目指し、特に足の痛みとそれに関連する生活機能低下に着目した研究をおこなっています。なかでも、歩く・外出する・人と会うといった日々の営みの基盤である「足」に着目し、足の痛みと生活機能低下との関連を明らかにすることを研究の中心としています。

地域在住高齢者を対象とした疫学調査で、自立して生活する日本人高齢者の4人に1人(22.5%)が慢性的な足の痛みを抱え、19.6%はその痛みにより日常生活の一部が制限されていることを明らかにしました。活動制限を伴う足部痛はDisabling Foot Pain (DFP) と呼ばれ、移動能力や外出頻度の低下を通じて社会参加を阻害し、フレイルや要介護化につながる重要な健康課題です。

DFPは、糖尿病や関節リウマチといった基礎疾患の有無にかかわらず、生来の足部構造、加齢に伴うアライメント変化、足部衛生、運動機能低下、履物の着脱が多い和式生活、サイズ不適合な履物の使用など、多様な要因が複合的に関与して発生します。特に女性高齢者ではDFPの発生頻度が高く、その症状が遷延しやすいく傾向も明らかにしました。

現在は、これらの要因とDFP発生との因果関係を縦断研究により解明するとともに、その成果を社会に還元する予防プログラムの開発を進めています。産学官連携を通じて、科学的根拠に基づく足部健康支援モデルの地域実装を目指しています。

日本人高齢者のDFP(活動制限を伴う足部痛)有病率は諸外国の2倍にのぼる



Hillら(2008)、Kaoullaら(2011)、Kimら(2010)、Leveillaら(1998)、Menzら(2006)、仲ら(2014)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

・DFPの発生要因は疾病にとどまらず、足部構造や身体機能、生活習慣、履物、住環境・移動環境など多岐にわたります。そのため、医学・医療分野に限らず、生活様式を含めた学際的視点から高齢者の足の痛み予防の重要性と対策を発信していきたいと考えています。

・生活習慣や生活様式に着目した予防策は、運動や栄養に加え、履物や衣類などの身装品の選択、住まいのあり方や移動環境への提案へと展開可能です。これにより、高齢者の生活機能や健康関連QOLの向上、さらには要介護発生の抑制への寄与が期待されます。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【科研費】

- ・(基盤研究(C) 24593491)「地域在住高齢者の足部障害と生活機能低下の発生に関する縦断研究」
- ・(挑戦的研究(萌芽) 23K18405)  
「足部形態異常によるDisabling foot painの評価のための新たな足部形態計測法の開発」

### 【論文】

- ・「生活機能低下を防ぐ足部障害対策(解説)」

# アスレティックトレーナー教育に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 講師

西山 朋 Nishiyama Tomo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : アスレティックトレーナー教育・アスレティックトレーニング学・  
アスレティックトレーニング教育・学生トレーナー



## 研究の概要

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(以下 JSP0-AT)の養成事業には、養成コースと免除適応コースがある。大学教育では免除適応コースとして養成事業に取り組んでおり、JSP0-AT 養成講習専門科目カリキュラムに則った 600 時間以上の教育時間に加え、180 時間以上の現場実習を修了することが必要とされる。

現場実習は、学内のリコンディショニングルームや部活動実習、また、学外のスポーツイベントやチームサポートにて実施している。

実際のスポーツ現場で選手をサポートすることは、JSP0-AT を志す学生にとっては非常に貴重な実践経験の場となっており、JSP0-AT 教育にとって、最も必要で、最も重要である(泉, 2011)。

その一方で、1 年間のトレーナー活動では経験することができない項目が存在し、また、実践経験が大幅に不足する項目があるとの報告もある(佐保ら, 2021)。

これらの観点から、JSP0-AT 教育における現場実習の具体的方法と教育効果の検証について研究している。

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに



現場実習に向けた練習の様子



現場実習の様子

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

JSP0-AT の社会的役割は拡大している。その職域は、スポーツ選手のサポートだけでなく、子供から高齢者までの健康管理にまで及んでいる。現場実習において様々な経験を積むことで、資格取得後、多様なニーズに対応できる JSP0-AT の育成に貢献できると考える。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

「JSP0-AT 教育における「搬送」技術取得に向けた多方面からのアプローチ」

# 運動療法による健康の維持・増進と高齢者の生きがいづくり



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

野上 順子 Nogami Junko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：水中運動、運動療法・生活習慣病・肥満・リハビリ

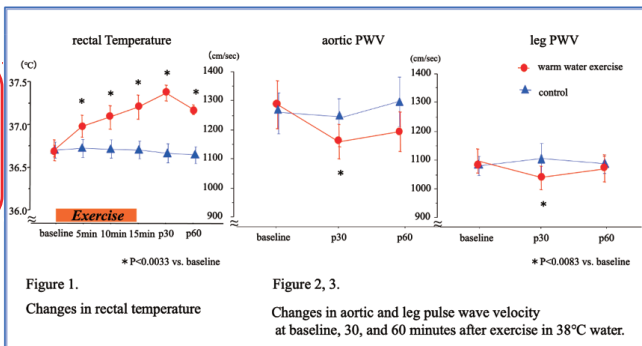
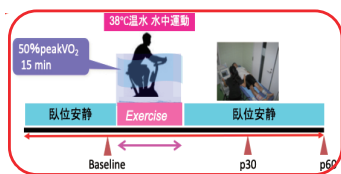


## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

加齢による動脈伸展性の低下や動脈スティフネスの増加が心血管疾患の危険因子の一つであることはよく知られており、定期的な有酸素運動がその予防や改善に有効であると言われている。中でも、水中運動は高齢者でも安全に楽しくおこなえる運動として注目されている。温水での水中運動が動脈スティフネスに及ぼす影響について検討した結果、動脈スティフネスの指標である脈派伝播速度（Pulse Wave Velocity: PWV）が有意に低下し、中強度運動であっても適度な温熱を付加し体温上昇することで、高齢者の動脈スティフネスが低下する可能性が認められた。



高齢化が深刻化し、生活習慣病の増加が懸念される今日、水中での運動が高齢者の健康促進や予防において一層重要な役割を果たすと予想される。現代社会が直面している様々な問題を解決する一助となる研究として、水中運動や温浴などによる温熱刺激が高齢者および成人の動脈スティフネスのみならず、睡眠やメンタルヘルスに及ぼす影響について、またそれらが認知機能や運動パフォーマンスに及ぼす影響について、研究を進めていきたい。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

運動療法は高齢者の健康維持に有益である。バランス能力・筋力・柔軟性向上などを通じて、また温浴を利用した運動療法により、高齢者がより健康的で活発な生活を送る手助けの提供が期待できる。

水中運動や運動療法の具体的な効果やメカニズムに関する科学的な根拠の確立とともに、長期的に健康に与える影響や予防効果や慢性疾患や老化に伴う変化に対する運動療法の長期的な効果が求められている。また、心身のリフレッシュやメンタルヘルスの向上を求める人々にとっても魅力的である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「一過性の水中運動と陸上運動が大動脈スティフネスに及ぼす影響」
- ・「温浴の温度差が高齢男性の動脈スティフネスに及ぼす影響」
- ・「Comparison of aortic stiffness after exercise between 2 different exercise protocols in elderly subjects」



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 准教授

長谷川 和哉 Hasegawa Kazuya

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 急速減量・急性腎障害・炎症・運動



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

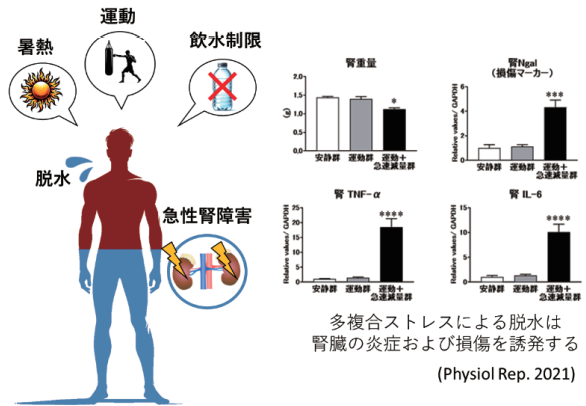
生体内水分量の低下により生じる脱水の要因は、飲水制限、高温環境、身体活動、絶食など多岐にわたり、各要因は異なる機序を介して体液バランス制御に影響を及ぼし、複合的に要因が組み合わさることで複雑な水分代謝応答が生じる。格闘技やボディビル、フィジークなどの体重階級制競技選手の多くは試合前の計量やパフォーマンスに向け、極度の食事・飲水制限、発汗、運動等の多複合ストレスにより短期間で体重を減らす“急速減量”を伝統的におこなう。

急速減量による脱水が急性腎障害を惹起する事例が数多く報告されているが、詳細な発症機序や予防法は依然として不明であり、アスリートは常にリスクを負いながら急速減量を繰り返し実施している現状がある。

これまでアスリートの観察研究にて報告されている急速減量による急性腎障害の特徴とよく似た挙動を示す急速減量ラットモデルを確立し、生体内代謝応答を解析してきた。このモデルを用いて、急速減量時の水分代謝応答の機序の解明とともに、急速減量誘発性脱水では、腎臓での炎症を起点とした腎障害が誘発されることを見出した。

現在はこの現象の発症機序の解明および、脱水誘発性腎障害を予防するために有効なリカバリー飲料の開発を目指した研究を進めている。

### 多複合ストレス由来の脱水による急性腎障害の機序解明



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・脱水や腎障害の予防効果が実証されたリカバリー飲料等のスポーツ栄養補助食品やヘルスケア製品の開発に寄与します。
- ・脱水症状および腎障害の予防に向けた適切な水分摂取や健康管理の指針(ガイドライン)への科学的根拠を提供します。
- ・適切な体液バランス維持による競技パフォーマンス向上のための新規アプローチ法の開発に寄与します。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

#### 【科研費】

- ・(基盤(B))「急速減量による急性腎障害発症メカニズムの解明とその抑制法の基盤研究」
- ・(若手研究(B))「体重階級制競技における急速減量が骨格筋および消化管のタンパク質代謝に与える影響」

# スポーツ指導者の資格と制度の分析に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 教授

**馬場 宏輝** Baba Hiroki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スポーツ指導者・アスレティックトレーナー・制度的補完性・経路依存性

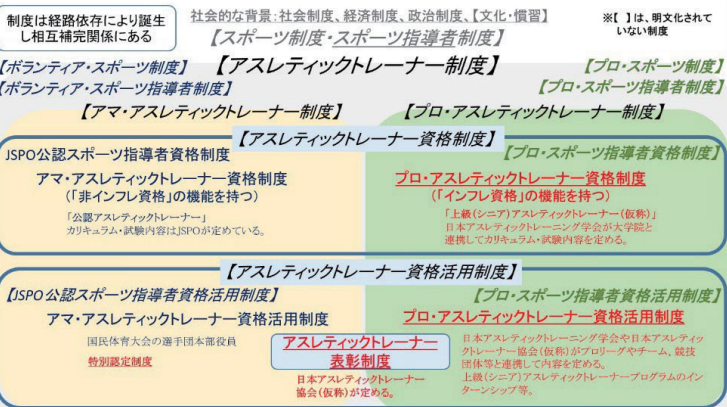


## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

本研究はスポーツ指導者に資格を付与する制度である公認スポーツ指導者制度を分析・考察し、アスレティックトレーナーの社会的地位を向上させるためのアスレティックトレーナーを取り巻く制度の構造を明らかにすることを目的とし、公認スポーツ指導者制度の歴史的経緯を経済学における制度分析の中でも特に「制度的補完性」と「経路依存性」の概念を用いて検討した。その結果、現在の JSPO-AT を資格認定する制度をアマチュア・アスレティックトレーナー資格制度とし、その上位概念である公認スポーツ指導者制度から経路依存し相互補完性のある制度と位置付けた。またアマ・アスレティックトレーナー資格制度と補完性のある上位概念としてアマ・アスレティックトレーナー制度を位置付けた。さらにアマ・アスレティックトレーナー制度と補完性のあるプロ・アスレティックトレーナー制度を位置付けることで、それらの両方を含むアスレティックトレーナー制度を構造化した。さらにアスレティックトレーナーの社会的地位向上を制度と資格で実現する為に、プロ・アスレティックトレーナー資格制度を創設し、修士号以上の学歴を条件とした「上級（シニア）アスレティックトレーナー（仮称）」を日本アスレティックトレーニング学会と日本アスレティックトレーナー協会（仮称）が認定・登録し、専門性と学歴の高さを担保することを提案した。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

各自治体やスポーツ団体等において、スポーツ指導者を養成する際に、その養成の目的に応じた資格や制度の設計に際して有用なアドバイスをすることができる。筆者は、この研究成果を活かし、日本ソフトパラフェンシング協会を設立し、公認審判員規程（制度）を制定した。

スポーツ指導者を養成するにあたり、その養成の目的に応じた資格や制度の設計をする際の、どのような枠組みで設計すれば良いのかのという疑問に対して、問題解決に向けた知見を提供することが可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「アスレティックトレーナーの社会的地位向上に関する研究-制度と資格に着目して-」
- ・「スポーツ指導者の資格と制度の分析に関する研究:アスレティックトレーナーの社会的地位向上に着目して」

# 安全なスポーツ環境の構築に向けた調査研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科  
トレーナー・スポーツ経営コース 准教授

原田 長 Harada Takeru

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スポーツ外傷/障害予防・学校保健・脳振盪・アメリカンフットボール

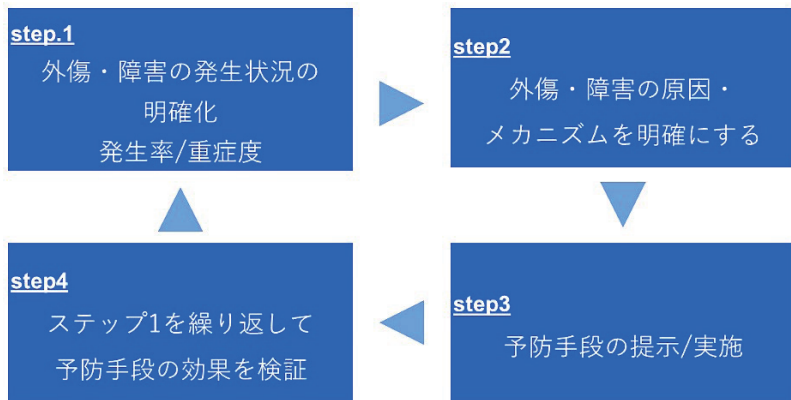


## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

スポーツ活動は日常生活レベルと比較して、その多くが高い身体負荷が加わるため、外傷・障害や重大事故が起こる可能性が少なくない。

スポーツ外傷・障害予防の進め方として van Mechelen らが用いた 4 段階モデルが頻繁に用いられている。



van Mechelen, 1992 改編

まず第1段階として外傷・障害の発生率や重症度を明らかにすること、第2段階としてそれらを引き起こすリスクファクターやメカニズムを明らかにすることである。これに基づき予防しうる取り組みを導入していく。

そこで、現在は下記2つの領域についての疫学的な調査研究を実施している。

1. 学校現場（体育・部活動）における重大事故/スポーツ外傷・障害の発生状況
2. アメリカンフットボールにおける脳振盪/スポーツ外傷・障害の発生状況

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

学校部活動の地域移行化が推進される中で、疫学的なデータは、スポーツに携わるコーチ、選手に向けた教育プログラムや啓発活動に活かすことが可能と考える。事故の原因や予防策に関する情報を広めることで、スポーツ参加者や関係者の意識が向上し、事故発生率の低減が期待され、安全なスポーツ環境の構築につながる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】

- ・「本邦における児童生徒の体育・スポーツ活動中の死亡事故データの分析」
- ・「コロナ禍をはさむ大学生アメリカンフットボール選手における脳振盪の発生状況」

## 足圧分布を活用した基本動作等の評価方法の構築



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 准教授

眞瀬垣 啓 Masegaki Akira

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 足圧分布・姿勢・基本動作・荷重中心



### 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

足圧分布は足底にかかる圧力の分布状態であり、その人の骨関節アライメントや身体の使い方の癖を反映します。足圧分布の状態が異なれば、身体の使い方は異なるといえます。立つ、立ち上がる、歩く、走るといった人間の基本動作における足圧分布の定量的な評価は、適切な基本動作の指標にもなり、基本動作だけでなく様々なスポーツ動作における上手な身体の使い方の習得にも応用できるものと考えられます。

これまで足圧分布の研究は静止立位、歩行動作を主としておこなわれています。

本研究ではこれらの動作のほかにスクワットのような立ち上がり動作、近年注目されている四股運動などの様々な動作における足圧分布を測定することで、スポーツ動作の基礎となる基本動作と足圧分布の関係を明らかにすること、また、足圧分布を変えることで姿勢や動作がどのように変化するか、さらにその結果をもとにして姿勢や動作の指導に用いることが可能であるか検討することを目的としています。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

私はこれまでに様々な対象の足圧分布を計測してきました。そして、対象者の年齢や体型、運動歴その他さまざまな環境によって足圧分布が影響を受けることを明らかにしてきました。

足が本来有する荷重支持機能を発揮させるためには足圧分布のフィードバックが有効です。そして人が本来持っている足底の感覚によってより良いバランスによる荷重支持を習得できると考えられます。

これらの結果を応用することで、一般人からスポーツ選手までを対象とした良い姿勢づくりやコンディショニングに役立てることが期待できます。また、良い姿勢づくりの一助となることで、悪い姿勢が要因となる整形外科的な慢性の運動器障がい予防につながることが期待できます。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・『小学生のメディカルチェックにおける足底圧分布測定の有効性』
- ・『社会人野球選手と少年野球選手の足底圧分布の比較』
- ・『バスケットボール競技者の足底圧分布の比較』

## 月経周期におけるリコンディショニングを目的としたストレッチング法の開発



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

宮崎 学 Miyazaki Manabu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 月経周期・柔軟性・ストレッチング・スティフネス・遅発性筋痛



### 研究の概要

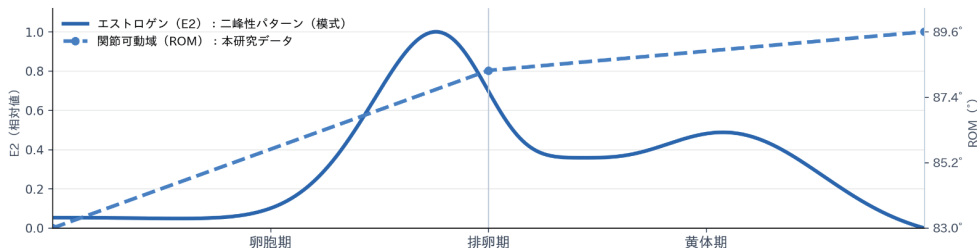
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

運動誘発性筋損傷 (EIMD) は、遅発性筋痛 (DOMS) や柔軟性の低下、運動パフォーマンスの低下を引き起こし、スポーツ活動に大きな影響を与える。対処法に関する研究は蓄積されつつあるが、月経周期という内的要因が EIMD や DOMS の回復過程に及ぼす影響については十分に解明されていない。

一方、我々の先行研究では、柔軟性 (ROM) は月経周期の影響を受け、排卵期および黄体期に有意に向上することを明らかにした。このことは、月経周期に合わせたストレッチング介入が、より効果的な柔軟性向上や傷害予防に寄与する可能性を示している。本研究では、月経周期を排卵期・排卵期・黄体期の3期に分け、周期別のストレッチングが柔軟性改善に及ぼす影響、さらに EIMD 後の DOMS 回復に対するストレッチング効果の違いを比較・検討する。これにより、月経周期に応じたリコンディショニング戦略を科学的に構築し、健康若年女性に適したストレッチング法の開発、ひいては、DOMS 軽減・柔軟性向上・傷害予防・パフォーマンス維持に貢献する方法論の確立を目指す。

月経周期におけるエストロゲン (E2) と関節可動域 (ROM) の変化 (概念図)



※E2は一般的な二峰性パターンを模式化 (相対値)。ROMはMiyazakiら(2022)の平均値 (83.0°→88.3°→89.6°) に基づく。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本実験の研究結果により、DOMS と月経周期の影響の関連性を明らかにすることができれば、月経周期中の生体内の変化の要因を考えるうえで重要なデータとなる。また、遅発性筋痛を抑制できるプログラムを立案できれば、女性アスリートにおけるトレーニングの基礎的な実践方法に寄与できると考えられる。本研究は柔軟性の評価指標である関節可動域、受動的トルク、スティフネスの変動を詳細に検討し、月経周期におけるストレッチングの柔軟性改善効果およびEIMD後の変化を捉えることを意識した独創的なものである。

本研究から得られる知見は、女性の月経周期における内的要因の変動を考慮した新たなスポーツ傷害の予防プログラムの構築の一助となることが期待できる。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【学会発表】・「健康若年女性における月経周期が柔軟性に与える影響」

【論文】・「Effects of Menstrual Cycle on Flexibility of the Hamstrings in Healthy Young Women」

・「Changes in hamstrings flexibility and muscle strength during the menstrual cycle in healthy young females」

# データ駆動型の競技力向上と健康増進の施策設計



【池袋キャンパス】 共創学部 デジタル共創学科 教授

吉岡 剛志 Yoshioka Tsuyoshi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スポーツ政策・競技力向上・健康増進・機械学習・説明可能 AI



## SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

### 研究の概要

**【研究の背景】** 少子高齢化と地域格差の進行を背景に、スポーツ参加率・競技力・健康状態には地域・世代で差が生じています。こうした差は、施設分布やアクセス環境、人口構造などの地域条件で拡大し得ます。しかし、施設データ・参加状況・健康指標などを統合的に分析し、施策・事業・プログラムの設計・改善に反映する仕組みは十分ではありません。そこで本研究は、最先端の AI 技術を活用し、競技団体・自治体・民間事業者が利用できる意思決定支援の枠組み整備を目的とします。

**【研究の革新】** オープンデータ（公開統計等）や地域スポーツ関連データを統合し、競技成績・健康指標との関係を定量的に明らかにします。データ不足や偏りは、生成 AI を活用した合成データで補充し、検証可能性を高めます。さらに、公平性(Fairness) 技術により、地域・世代・属性間の偏りを評価・低減し、施策が特定の集団に不利にならないよう配慮します。加えて、説明可能 AI (XAI) で影響要因や感度、シナリオ別の変化を可視化し、「なぜ有効か」を説明できる形で提示します。

**【研究の未来展望】** 本研究は、自治体のスポーツ振興・健康増進計画に加え、競技団体の強化戦略、地域クラブ運営、スポーツ関連サービス改善への応用を想定します。地域特性や年齢構成を踏まえ、施設配置やプログラム設計をデータに基づき見直し、施策の効果と公平性を継続的に検証できる形で支援します。今後は実証研究を通じて、合成データ活用手順、偏り評価を含む指標、説明可能性を担保する分析手法を体系化し、現場で実装可能な施策設計・運用モデルへ発展させます。

#### Phase 1: Data sampling

- ✓ Using open data
- ✓ Leveraging national surveys and health indicator data
- ✓ Reducing sampling bias and data collection costs

#### Phase 2: Data synthesis with generative AI

- ✓ Synthesizing data using synthetic data vault (SDV) library
- ✓ Reproducing data characteristics
- ✓ Addressing sample insufficiency

#### Phase 3: Analysis with explainable AI (XAI)

- ✓ Enhancing the transparency of analysis results
- ✓ Mitigating the black-box nature of models

データ収集・生成 AI による補充・説明可能 AI (XAI) 分析を統合したデータ駆動型政策設計フレームワーク（下記の論文参照）

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

**【実学へのつながり】** 施策やプログラムの効果を「根拠付き」で示し、合意形成と説明責任の向上に貢献します。説明可能 AI (XAI) により要因の寄与度やシナリオ比較を可視化できるため、優先順位付け、投資判断、運用改善に活用できます。さらに、公平性の観点から地域・世代・属性間の偏りを点検し、競技力向上と健康増進の両立を支援します。

**【アピールポイント】** オープンデータ等を基盤に、生成 AI による合成データ補充、公平性 (Fairness) 技術による偏り評価・低減、説明可能 AI (XAI) による根拠の可視化を統合する点が特徴です。複数目標（競技力向上・健康増進）を同時に扱える統合的な分析枠組みを提供し、自治体・競技団体・企業へ展開可能です。

**【協力可能事項/協力希望事項】** 自治体・競技団体・企業との共同研究として、データ整理・統合から分析設計、評価モデル構築、合成データ生成・検証、公平性評価、可視化とレポートの作成まで一体的に実施可能です。必要に応じて、KPI（競技力指標・健康指標）や評価観点の定義も含め、現場で運用できる形に整理します。共同研究にあたり、匿名化データの提供、実証フィールドの確保、運用現場からの実務的フィードバックを希望します。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「Sustainable Data-Driven Framework and Policy Recommendations for Enhancing Sports Promotion Using Generative and Explainable Artificial Intelligence」

・「Artificial Intelligence Decision Support Framework Integrating Explainable AI, Fairness, and Optimization Technologies」

・「The Influence of Strategic Swimming Pool Facility Placement on Swimming Performance」

# 成長期野球選手のスポーツ障害予防



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師  
吉本 真純 Yoshimoto Masumi



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 成長期・野球・投球障害予防・動作解析・超音波撮影装置

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

成長期野球選手の投球障害は、不良な投球動作が原因の一つである。さらに、成長期は成人と比較し身体が発育途中であるため、投球動作が投球ごとに不安定になりやすく、また本来良好な投球動作であっても投球数が増加するに伴い不良な投球動作へ変化する。成長期野球選手における投球障害の原因を多角的視点から解明し、さらに予防していく取り組みをおこなっている。

### 1. 三次元動作解析装置を使用した投球動作解析

実際の現場に赴き、ハイスピードカメラを使用した投球動作解析をおこなっている。今後は、マーカーレスモーションキャプチャーシステムの導入を検討している。

### 2. 超音波撮影装置を使用したメディカルチェック

実際の現場で野球選手の肩関節・肘関節だけでなく、全身のチェックをおこなう。今後は組織の弾性評価等も実施していきたいと考えている。

### 3. 小中学生野球チームに帯同してのトレーナー活動

現場ならではの意見を聞き、ニーズに合わせた成果を提供することを目指している。



1. 三次元動作解析装置を使用した投球動作解析



2. 超音波撮影装置を使用したメディカルチェック



3. 小中学生野球チームに帯同しトレーナー活動

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

成長期野球選手の投球障害予防に向けて、三次元動作解析や超音波撮影装置を使用した研究に取り組んでいる。研究室ベースでのデータ収集ではなく、現場に赴き動作解析や超音波撮影をおこなっているため、多角的視点から、成長期野球選手の投球障害予防が期待できる。

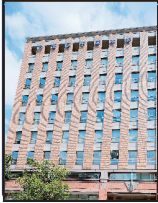
### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】若手研究（20K19575）「中学生野球選手の反復投球による投球障害予防プログラムの確立と普及」

#### 【論文】

- ・「Association of Head-Neck Rotation With History of Pitching-Related Elbow Pain in Youth Baseball Players.」
- ・「中学生野球選手における 75 球の反復投球が関節可動域、筋柔軟性に与える影響」

# 発達障害当事者の大学適応に関する研究



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 講師

江口 聡 Eguchi Satoshi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 大学・発達障害・支援手引き



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

現在、自閉症スペクトラム障害 (ASD) や、注意欠如多動性障害 (ADHD) などの発達障害が、大人になって初めて診断される方が増えてきた一方、特性によって孤立感や疎外感、自信喪失を感じやすく、気分障害や不安障害などの二次障害の合併が多いことも報告されている (Joshi et al, 2010; Michielsen et al. 2012)。特に大学や就労など、高校以前と異なり自由度が高い場面で不適応になる当事者が多い。就労という、本人の責任がより強くなる前の時期である大学での生活において、本人が自分のことを知ることや、周りの人に理解を求められるような資料、また周りの人たちも当事者との関わり方がわかる資料があることは、大学以降の適応を考える上でも重要と考える。

以上のことから、本研究では大学という場で用いることができる、ASD 当事者の方々の特徴を周知するための資料作成を研究の目的とする。具体的には、今回は大学での適応をテーマに、発達障害当事者への心理検査データをもとに、ASD の認知特徴と工夫を小冊子として作成し、その有効性を検討する。ASD 特有の認知機能について科学的に情報を収集し、その内容から生じることについて、当事者や支援する人が知ること、本人の自己理解が進み、また周りの人々は発達障害についての正しい知識や特性を知ることができると思える。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

就労をおこなう場面において、ASD 当事者が自分のことを理解し、周りにも周知できるようになることについては、仕事と並行しながらという点において難しいことが多く、筆者の経験からもうまくいかないことが生じたことがある。そのため、就労する前の段階である大学在学時代に、本人が自分のことを知ることや、周りの人に協力を求めるために用いることが出来る資料を知っておくことは重要であると考え。また、ASD 当事者の人は、本人たちの特性などの影響から自尊心が低いことなどがあり、自分から周りに協力を求めることが難しく、問題が大きくなって初めて相談ができるということもある。そのため、周りに協力や助けを求められるような経験を肯定的に持つことも重要である。このように、予防的な観点をもち大学時代にアプローチをおこなうことで、就労後に他の精神疾患を併発することのリスクなども低減できる可能性があり、それが企業の経済的な損失の予防にもつながると考える。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「東京大学医学部附属病院における発達障害検査入院の試み(1)」
- ・「成人自閉スペクトラム症の特徴と心理教育」
- ・「東大病院における発達障害検査入院の試み」

# 感情体験過程に関する研究



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 講師  
大久保 智紗 Okubo Chisa



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 感情・感情調整・不安・感情スキーム

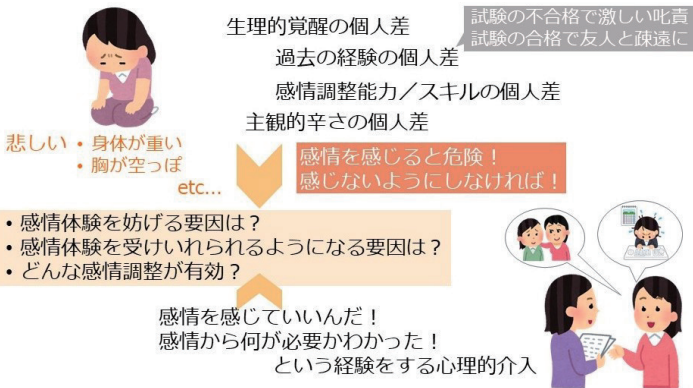
## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

感情は、自分の今の状況が望むものか、望まないものかを知らせ、望まなければそれが維持されるように、望ましくなければそれを変化させるように動機づけるという重要な機能をもつ。感情の生じやすさや、感情の体験を受け入れたり調整したりする能力には個人差がある。

感情を体験することは自分にとっても他者にとっても大変である場合も多い。例えば、合格したい試験に落ちた場合、悲しみを感じることは適切であるが、道が閉ざされたような圧倒されるほどの絶望感として経験されるなら、それを受け入れることは難しいだろう。一方で、試験に合格して喜びを感じることは適切であるが、親しい友人が同じ試験で落第した場合、その友人にとっては面前で喜びを表されることを歓迎するのは難しいだろう。様々な経験から、出来事から生ずるはずの本来の感情は、感じないようにされたり、別の感情で覆い隠されたり、過度な感情的な反応になったりする（感情スキーム）。

これらの感情の体験のあり方に関する個人差について研究をするとともに、感情を安全に体験する土台をつくる心理的介入や感情調整スキルを育てる心理的介入（個人・グループ）について研究をおこなっている。



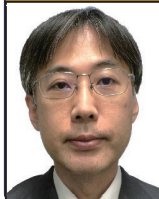
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

感情は、個人が状況を改善していくために重要な機能を果たすものであるが、本来の機能通りに上手に扱っていくことは難しい。そのために、感情は社会の中で忌避されやすく、個人の精神的不調、他者との関係の不和につながってしまいやすい。感情を上手に扱うための場をつくらせたり、環境を整えたりする方法とともに考えることで、より多くの人々が望ましい生き方をしたり、場（家庭、学校、職場、地域等）を共有する人たちが互いに活用したりしていくことのできる社会に寄与していきたいと考えている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「感情調整が困難な青年に対する『感情予測と問題解決のためのシステムズトレーニング(STEPPS)』短縮版の予備的検討」

## 映像コンテンツを快適に利用し続けるために



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

川島 尊之 Kawashima Takayuki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 映像酔い・眼球運動・共行動・多感覚モダリティ



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

いわゆるリモート会議や動画視聴・エンターテインメントなど、映像を利用した情報通信技術の活用が進んできました。こうした映像を利用する技術では没入感や操作性などが増したことに伴って、いわゆるコンテンツへの依存傾向や、映像酔いなどの負の影響が指摘されています。映像酔いとは特に動きがある映像に一定時間ふれることによるめまい、吐き気などをともなう現象です。

私はすべての世代のひとが快適に映像コンテンツ、情報通信技術と接していくことを可能にするため、映像酔いの軽減、予防などに着目した研究をしています。例えば映像利用の場にいる他者の存在や他者との協働作業が、映像酔いや過度の没頭、映像に由来する疲労感の軽減につながる可能性について研究しています。

### 映像酔い



### 共に視聴する人（共行動者）の役割は？

実在の他者, 仮想の他者

社会的な関係性

(酔いの) “伝染”

感覚間の矛盾の背景にある過程に影響するの

...

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

ひとが映像情報を様々なタイムスパンで継続して快適に利用するための知見は、利用者の業務の効率や満足感の向上、利用者の生活の質の維持等に対して有用と想像できます。

業務での持続的な映像の利用において、映像酔いによる作業効率の低下や利用者の心理的な負担・不快感が生じにくくなるノウハウの策定に有用かもしれません。

VR 技術を利用したエンターテインメントなどにおいて高度な没入を維持しつつ、映像を継続的に利用しやすくするために有効な工夫、例えばコンテンツ内での他者のアバターの性質（外見、運動等）等を明確にできるかもしれません。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】・「映像の縦揺れ時間周波数が映像酔いに及ぼす効果」

・「映像酔いに及ぼす動き予測の影響」

【単著】「大学生のインターネット依存傾向を軽減する方法に関する研究」

# ひとの感情を予測する



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

川島 尊之 Kawashima Takayuki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

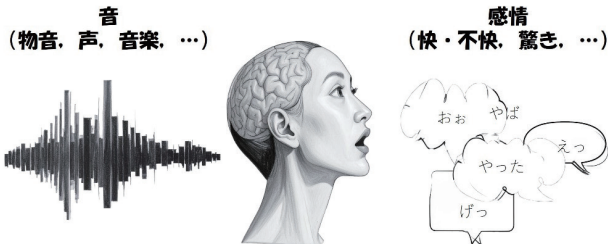
キーワード: 感情・聴覚・視線・心理物理学



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう



### 人間の理解とモデル化

(能動的推論 (バー他, 2022)).  
文脈, 身体, 他者, 学習, 外・内  
受容感覚, ...)

ひとの感情や気分は体の内外の様々な情報と関わっていると考えられていますが、音はそうした情報のひとつでしょう。例えば後ろのほうで人の叫び声が聞こえたとき私たちは驚き、ときには振り返るなどで視線を向けるかもしれません。あるいはスーパーマーケットで流れる音楽が人の感情と購買行動に影響することはしばしば報告されてきました。

私は人の声、音楽や日常的な物音など、音が人間に喚起する快、不快などの感情と、それに伴う人間の行動について研究しています。特に人間がどのような音をどのように感じているかについて、実験や観察から理解すること（データを得ること）、そして、データと同様の応答を示し、予測するモデル（能動的推論に基づくものと、音の時間波形の情報を入力とする深層学習によるニューラルネットワーク）を作成することを研究の目的としています。

私の研究では、人間と音との位置関係や聞く人の視線、身体の方角など、これまで見落とされてきた要因をモデルに含めることで、音が喚起する感情についてより正確に予測することを目指しています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

快適さ、興奮・覚醒、あるいは不快さなど聞く人の感情を意識した音環境を構成するために、(香り等音以外の要素を含める) トータルな人間の感情面の予測、評価システムへの組み込みのために有用と想像できます。例えば、病院等の待合室などで、快感情につながりやすく、心理的な苦しさやいらだちを和らげる可能性が高い環境音、音楽の選定・作成に有用な可能性があります。同様に販売店の売り場、待合室などで利用するバックグラウンドミュージックが、聞いている人の感情に与える影響を予測、検討するために利用できる可能性があります。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】基盤研究 (C) 「感情処理過程における前後の異方性の分析」

【単著】・「位置の前後の違いと聴覚的な感情処理過程」

・「日常的な音に対する感情面での評価と音源位置の関係」

# 認識論的信頼を基盤とした対人援助職養成教育の効果研究



【池袋キャンパス】臨床心理センター 准教授

久野 晶子 Kuno Akiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

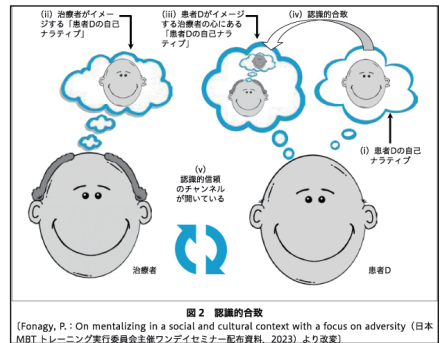
キーワード : メンタライゼーション・対人援助職・養成教育



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

対人援助職において、援助を有効に機能させるための基盤は、対象者との間に「認識論的信頼(この人からの情報は信頼に値するという感覚)」を築くことである。この信頼の鍵を握るのが、「メンタライゼーション能力(自分や他者の行動の背後にある「心理状態」(意図、感情、欲求、信じていること)を想像し、理解する能力)」である。この能力は、従来、個人の資質に委ねられる傾向にあったが、近年の研究では環境や関わりによって変化・向上することが明らかになっている。私はこれまで心理専門職養成の現場において、この能力を育む視点を取り入れた教育指導の実践と検討をおこなってきた。現在は、この教育的アプローチの有効性をより客観的に検証するため、複数の心理専門職養成機関と連携した研究プロジェクトを計画している。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、対人援助の現場で最も困難とされる「対象者との信頼関係の構築」を、個人のセンスではなく、学習可能な「メンタライゼーション能力」の視点から捉え直すものである。この研究が進展することで、心理・看護・教育・福祉などの各養成課程において、より実践的で根拠に基づいた教育プログラムの構築に寄与することを目指している。専門職が対象者のこころを適切に理解しようとする姿勢を持つことは、対象者の「認識論的信頼」を開き、結果として質の高い対人援助の実現へと繋がる。

### 【協力希望事項】

調査・研究フィールドの提供：対人援助職の養成、または現任者研修において、メンタライゼーション尺度を用いた意識調査や効果測定にご協力いただける機関(大学、専門学校、自治体、病院等)。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

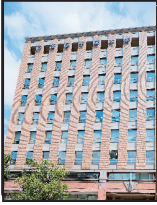
### 【論文】

- ・「大学院心理専門職養成課程における心理臨床スーパーヴィジョン  
—共通目標としてのメンタライゼーション能力の向上という観点から—

### 【学会発表】

- ・「臨床心理士・公認心理師養成大学院における学内実習指導に関する検討(1)(2)」
- ・「心理専門職養成大学院教育におけるメンタライゼーション概念の有用性」

# 認知行動療法／マインドフルネスの諸技法の効果に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 准教授

島津 直実 Shimazu Naomi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 認知行動療法・マインドフルネス・抑うつ・反応スタイル・呼吸法



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

認知行動療法／マインドフルネスはうつ病の治療および再発予防、不安障害、生活習慣病など幅広い対象に効果があることが実証されている。その基礎理論として抑うつの発生・維持を説明する Beck の認知理論、抑うつと認知の双方向の因果関係を仮定する Teasdale の理論、そして、抑うつ気分時の考え込み反応は抑うつの持続・重症化に、気そらし反応は抑うつの短期化・回復に繋がると説明する Nolen-Hoeksema の反応スタイル理論がある。精神的健康が阻害されるのは、抑うつが持続し重い抑うつ状態に陥る時である事が知られており、抑うつへの介入・予防には抑うつの持続と回復をもたらす要因の研究が求められる。また、これらの理論は抑うつが発生し持続する一連のプロセスを部分的に表現している。そのため、これまでの研究では、抑うつを総合的かつ実証的に捉えるための統合モデルの構築を試みた(科研費研究 18K13328)。技法実施が抑うつの統合モデルのプロセスに及ぼす影響を検討する事は、抑うつの持続と回復のメカニズムの解明に寄与するものとする。また、抑うつの低減、再発予防に効果が認められてきているマインドフルネスの技法効果を抑うつの持続・低減と関係があるとされる反応スタイルと併せて研究されたものはまだない。そのため、大学生を対象に2週間のマインドフルネスの技法を実施し、その効果を反応スタイル、メタ受容、抑うつとの関係で検討した(科研費研究 21K13710)。技法実施が抑うつの増強・軽減のプロセスに及ぼす影響を検討することは、治療的観点から抑うつを軽減させ、健康予防的観点から抑うつを増強させない介入法の開発を進める一助となると考える。

(研究協力者 : 本学健康メディカル学部心理学科 中村玲子, 早稲田大学文学学術院 越川房子)

### 【関連学会発表】

・ Shimazu, N., Nakamura, R., & Koshikawa, F. (2025)

「Effects of a mindfulness technique on response styles. APA Annual Convention」

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

職業生活等において強い不安、ストレス等を感じる労働者は約6割、また、メンタルヘルス上の理由により過去1年間に連続1か月以上休業した労働者の割合は0.6%と報告されている(厚生労働省, 2024)。労働者のメンタルヘルス不調に関連する経済損失額は国内総生産の1.11%と甚大であることも指摘されている(Hara, Nagata, Matoba & Miyazaki, 2025)。そのような中、マインドフルネスはうつ病の再発予防をはじめとして、不安障害、生活習慣病など幅広い対象に効果があることが実証されており、現代社会を生きる私たちの心の健康維持に役立つ技法と考えられている(越川, 2010)。抑うつの持続と回復のメカニズムの解明は経済損失額の低減のためにも必要な取り組みと考えられる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【科研費実績】

・ (若手研究 21K13710)

「マインドフルネス呼吸法が反応スタイル、メタ受容および抑うつに及ぼす影響の検討」

・ (若手研究 18K13328) 「反応スタイルとメタ受容が抑うつに及ぼす影響に関する統合モデル構築」

# 多様な性を生きる人々への発達の観点からの支援



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 准教授

莊島 幸子 Shojima Sachiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : SOGI・性的マイノリティ (LGBT)・ナラティブ質的研究



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

近年、我が国においてもレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなど、性的指向や性自認が多様である人々の社会的認知が進んでいる。複数の自治体がパートナーシップ制度を確立し、トランスジェンダーの女子学生の受け入れを認める女子大学も出るなど、徐々に社会的承認が得られるようになってきている反面で、彼らに対する差別や偏見は根深く残っており、性的にマイノリティな青年はいまだに生きづらい現状にある。彼らは10代から20代前半にかけて自身の性的アイデンティティの気づきと混乱を経験し、いじめ被害や不登校の経験率、自殺未遂率が高いことが報告されている(針間・平田, 2018)。

本研究では性的指向や性同一性が多様な人々に縦断的なインタビューをおこない、自己形成の過程やその揺らぎ、親密な他者との関係性の構築、人生の意味づけをナラティブアナリシスの方法を用いて記述してきた。また、当事者を取り巻く身近な他者であるご家族や学校教員にもインタビューをおこなっており、当事者との間で起きるコミュニケーションのずれ違い、支援の難しさについても検討をおこなった。

性同一性障害/性別違和を抱える児童・生徒を取り巻く学校環境の実態把握



当事者と教員間における  
二者コミュニケーション・モデルの構築

当事者-保護者-教員間における  
三者コミュニケーション・モデルの構築



3者間コミュニケーション  
モデルの構築



当事者-他生徒間における集団  
コミュニケーション・モデルの構築

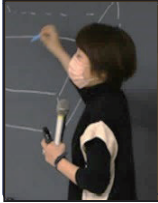
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、ダイバーシティ促進において重要な役割を担っていると考えられる。わが国では、経済産業省を中心に「ダイバーシティ経営」の観点から、多様な人材を、性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、性的指向、宗教・信条、価値観などの多様性だけでなく、キャリアや経験、働き方などの多様性を含むものとして定義されている。認知的に多様性を理解することだけでなく、多様性から新たな見えや解釈、価値や意味を全体的に生み出していくことが必要である。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- 【学会発表】・「Developmental Process of Assimilating Information on Sexuality and Forming Friendly Attitudes: Based on Interviews with University Students」
- ・「Development of the relationship between parents and their children who are sexual minorities: Negative emotions and perceptions after the children come out」

【科研費】 基盤研究 (C) 「性の多様性をめぐる対話的關係の形成を目指したゲーミング教材の開発と実践」



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 准教授

杉浦 貴代子 Sugiura Kiyoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 保育学・心理学



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

- ① **保育所における主任保育士の役割** : 保育士の早期退職や、保育の質の向上が課題となっているが、その課題解決のために、中堅である主任保育士のおこなえるサポートとは何かを研究している。主任保育士による直接的な手助けや相談ではなく、職場環境（職場風土、人間関係、業務の公平性）の整備などがより重要であることがうかがわれるが、研究事例も少ないため、他の形はないか、またそういった援助の形に至るまでのプロセスをより広範に調べていきたい。
- ② **保育所内での心理職の役割** : 保育所での心理職の活動には、保育士との保育コンサルテーション、保護者面談、組織の中での調整役割などがある。筆者は、プライベートな契約の中で、特定の保育園においてそれらをおこなっている。行政による月1回程度心理職を派遣する巡回コンサルテーションは盛んだが、このような形での支援の在り方は、未ださほど多くはない。

心理職が、スクールカウンセラーのように、特定の保育所に定期的かつ長期間に関わることで、子ども、保育士、組織、保護者にどのような変化が起きてくるのだろうか。月1回の巡回相談と何が違うのだろうか。それぞれにメリットもデメリットもあるだろう。保育所に課せられる役割は年々重くなってきている。2025年の児童福祉法の改正では、保育所の役割の強化が明示されたが、そこに心理職もこれまで以上にインテンシブに、支援者として参加するとどうなるのだろうか。心理士が、より深く現場に入っていくためには、どういふことが必要なのか、事例等から考察していきたい。

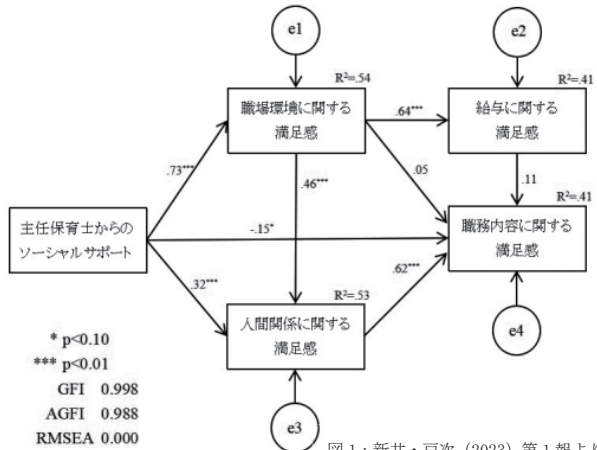


図1 : 新井・戸次 (2023) 第1報より

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

現代では、保育所は単に子どもを預かる（養護）のみでなく、よりよい育ちを促す場所（広い意味での早期教育）としての役割、保護者への支援など、多くの役割が期待されている。そして、質の良い保育を提供することが求められているが、役割が重く、複雑になってくる中で、どうしたら質の良い保育ができるのか、明確な答えはない。また、保育士の早期退職も大きな問題となっている。心理職は、こういった時代の流れの中で、保育士という支援者支援を提供することが可能な援助職の一つである。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「主任保育士のソーシャルサポートと保育士の職務満足感との関連に関する研究」

# 学校におけるスクールカウンセラーの有効な活用に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

鈴木 明美 Suzuki Akemi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：学校臨床・スクールカウンセラー・いじめ・不登校支援・居場所づくり・チーム学校・多職種連携

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

## 研究の概要

学校においてスクールカウンセラー（以下 SC と略記）は、生徒・保護者の個人面接にとどまらず、教員へのアドバイスや外部機関との連携等、様々な活動をおこない、他職種と協働しながら心理臨床の専門性を学校に還元していくことを期待されています（図1）。しかし、SC は非常勤という勤務回数や時間が限られている中で、予防、早期発見・早期対応、フォローアップなどの支援を、いかに効率よく保護者や教員と協働しておこなっていくのが課題となっています。

SC が学校現場に導入されて30年。SC の多くが学校において重要な機能を果たしている現在、学校の教育活動の中で心理の専門職を“より有効に活用”していくには、能動的な支援の検討が重要となっています。そこで「相談室にいる専門家」から「チーム学校の一員としての専門家」へどう役割を広げていけばよいのかを検討していきたいと思います。

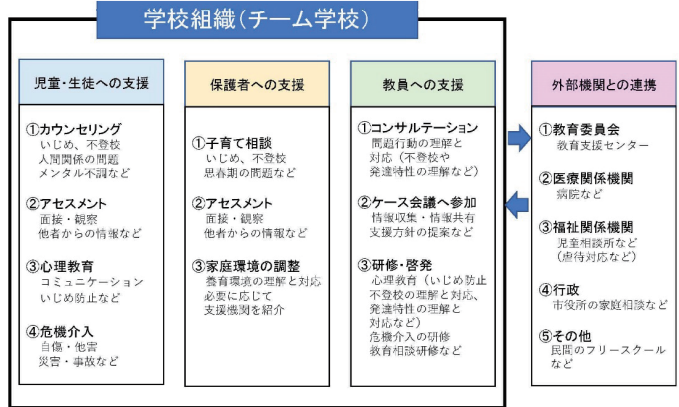


図1. 学校におけるスクールカウンセラーの役割

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

近年、小・中学校が直面している問題は、いじめの増加と様態の多様化、不登校の急増、教員の多忙化・負担増などです。インターネットの普及により SNS でのいじめなどが増えています。大人が把握できず早期介入ができていないケースが多くなっています。また不登校の小・中学生は約 35 万人（2023）と過去最多となりましたが、教員の多忙化・負担増により支援を十分に受けられない子どもも増えています。これらの課題に取り組むために、SC は個別相談だけではなく、教員や外部機関と連携しながら学校という組織（チーム学校）の一員として活動することが求められています。

“問題が起きてから”だけではなく、“問題を未然に防ぐ”役割として、心理教育（ストレスマネジメントやソーシャルスキルトレーニングなど）をおこなうことが有効です。教員向けの研修や子ども向けの授業等、個々の学校のニーズに応じた心理支援を提案していきます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】・「いじめ、自死第三者委員会における心理職の役割」

- ・「反社会的行動を示す中学生へのスクールカウンセラーによる支援」
- ・「学校現場で活用できる心理プログラムの検討」

# 女性の就業継続および職業的キャリア構築に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

瀬戸山 聡子 Setoyama Akiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：女性・職業的キャリア・リーダーシップ・正規／非正規雇用・フリーランス・WLB



## 研究の概要

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

かつて、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、男女共同参画基本法に基づき5年ごとに策定されることになっている2025年までの取組指針となる「第5次男女共同参画基本計画」(2020年12月)は、女性活躍推進の総指標「2030(2020年30%)」よりトーンダウンし、「2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%程度」と修正された。この四半世紀ほどの間に育児と介護の両面で女性の就業継続を支援する法と制度の整備が進み、ポジティブ・アクションの推進、企業への女性活躍情報の公表義務化、ダイバーシティ経営の重要性が強調されてきた上での‘現実’であった。

そして2025年10月、日本の内閣制度140年の歴史上初の女性総理大臣が誕生し、今後の女性活躍推進の追い風となることが期待された。かつ、2026年2月の第51回衆議院議員選挙を経て第二次高市内閣も発足したが、女性閣僚の人数は首相を含め3名のみとここ数年の多くの内閣と同様、少数であった。さらに、「第6次男女共同参画基本計画」は、その素案に高市首相が強く推す「旧姓の通称使用の法制化」の文言が盛り込まれた結果、経済界を中心に大きな反発を呼び、2025年内の閣議決定には至らず今後の予定も未定という。

このように、日本における女性活躍推進について、法的には、改正女性活躍推進法により2022年からは、情報公開対象が「101名以上の企業」に拡大され、男女別の①採用倍率、②職種・雇用形態の転換実績、③再雇用・中途採用実績の公表が強化され、2026年4月からは、情報公開項目に「女性管理職比率」や「男女間賃金格差」などが追加されることが決まっているものの、政局の影響を受け続けた結果、何かと後回しにされ実質的にはなかなか進まない印象が拭えない。一方、各企業の現場では実際どのように進んでいるのだろうか。

これまででは、定量調査(質問紙)/定性調査(インタビュー)により女性労働者の就業継続及び職業的キャリア構築について、その実態、プロセス及び求められる適応を検討し、その中で国内某企業の事例を通して業務委託という新たな働き方の可能性も示した。今後は、国内外から様々な変化を期待される日本において、企業の女性労働者への期待、女性労働者が自分らしく職業的キャリアの構築と経済的自立を確立するための支援を考えていきたい。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

研究を通じて得られる知見に基づき、少子高齢化による労働力減少が見込まれる日本企業と女性労働者双方が働きやすく、かつ安心して働き続けられるような新たな働き方を含む、より良い関係性を作っていくための人事制度や教育プログラムの開発に関する科学的見地からの検討、支援及び協働ができればと思います。

併せて、産業労働分野での心理職/キャリアコンサルタントとして臨床現場でのメンタルヘルス/キャリア支援にも携わっており、産業界の情報についても常にupdateし続けています。

本研究の知見より、企業の女性労働者の雇用・契約の仕組み、人事制度策定、女性活躍推進研修プログラムなどの開発支援及び協働が可能です。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

【著書・論文】・「コロナショックでみえた女性労働者の就業継続の現状と課題」

・「雇用されない働き方の現状と企業の取組み」

【学会発表】・「キャリア中後期女性の新たな働き方の可能性(1)」

# 大学生および若者の職業的キャリア構築に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

瀬戸山 聡子 Setoyama Akiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：大学生・若年労働者・職業的キャリア・離職防止・アイデンティティ・新卒／キャリア採用・フリーランス・ワークライフバランス



## 研究の概要

アフターコロナ期以降の傾向が緩やかに、かつ明らかに変化を見せ始めた 2025 年～2026 年卒の男女大学生の新卒採用では、昭和のバブル経済崩壊以降最高の「売り手市場」が継続中であり、多くの学生が複数の内定先を獲得する一方、内定企業が獲得できず就職活動期間が長期に亘る学生も一定数存在した。入社後早期に離職する学生の割合も増え続け、株式会社マイナビ(2025)によると、「3 年以内」が 33.8% であり、「10 年以内」では 50% を超えるという。特に「3 年以内」では女性の割合が 33% (約 3 人に 1 人) と男性(約 4 人に 1 人) より高く、ライフステージの変化に備えて男性より早めのキャリア形成を考え、より働きやすくスキルが身につく環境へと動こうとする傾向が推察される。

これまでの研究では、定量／定性調査により女性労働者の就業継続及び職業的キャリア構築についてその実態、プロセスおよび求められる社会適応を検討してきた。今後は、少子高齢化も進む日本において、若年の正規労働者が貴重とされる中、大学生を含む彼ら／彼女らが望まぬ早期離職をせず、かつ自分らしい職業的キャリアの構築と経済的自立を確立するための支援を考えていきたい。

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう  
SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

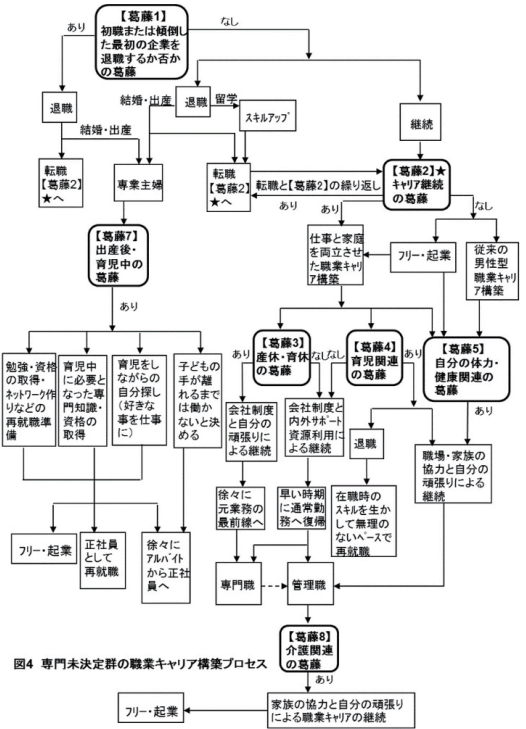


図4 専門未決定群の職業キャリア構築プロセス

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

研究を通じて得られる知見に基づき、少子高齢化による労働力減少が見込まれる日本企業と若年労働者双方が、早期離職を防ぎ安心して働き続けられるような、より良い関係性を作っていくための人事／採用制度、教育プログラムの開発に関する科学的見地からの検討、支援及び協働ができればと思います。

学内では、池袋キャンパスおよび学科内のキャリア関連科目を全般的に担当しています。併せて、産業界分野での心理職／キャリアコンサルタントとして臨床現場でのメンタルヘルス／キャリア支援にも携わっており、産業界の情報についても常に update し続けています。

本研究の知見より、企業の若年労働者の人事／採用制度・教育プログラムなどの開発支援及び協働が可能です。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【著書・論文】・「社会人メンターにみる職業キャリア構築プロセス」

# 保育現場における保育者と心理臨床家の連携について



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 教授

土永 葉子 Tsuchinaga Yoko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 保育・心理臨床・多職種連携・子ども



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

保育園や幼稚園などの保育現場において、心理臨床の専門性を有する外部専門家として「子ども理解のカンファレンス」に参加し、保育者と心理職のより良い連携のあり方について実践・研究をおこなっている。

多職種連携は、様々な支援活動の領域でのキーワードとなっており、これは単に制度的、役割的な分業を指すだけではなく、互いの専門性を活かすことの重要性を意味している。一方で、心理職がおこなう巡回相談をはじめとするアウトリーチ活動の課題点として、その目的が子どもや環境に起こっている現象について背景や理由について議論を深めるよりも、問題解決や危機介入に特化した関わりが中心となってしまうことが挙げられる。この背景には、保育者が抱く自らの着眼点や、どの子どもを事例化するかということへの迷い、「自分の保育」を安心して語れる場が保障されているかといった構造的な要因などがあると考えられる。

保育者の学びの場が外部専門家による一方向の「講義型園内研修」から脱却するにはどうすればよいのか。現場の保育者への聞き取りや保育をめぐる社会状況の分析等を通して、保育者と関連多職種が、お互いの専門性を活かしながら同じ子どもや保育実践について対話を深めるための諸条件について探求している。

また、園長をはじめとする保育施設の管理職者との個別面談を通して、園運営や認知行動療法を用いた職員のメンタルヘルス、職場の人間関係について考えるためのコンサルテーションもおこなっている。

### カンファレンスの考え方と位置づけ

#### 「子ども理解のカンファレンス」

①カンファレンスの参加者はすべて、子どもの発達にチームで携わる専門職同士という対等な関係

②一人の子どもについてみんなで話し合う

③対応の不備や至らない点を探すのではなく「できること」を見つける

④カンファレンスの終了後、ケースの提示者が「この子とまた関わってみよう」と思えるようにする

以上4点を、参加者間で共有した上で話し合う。

★「子どもの生活の中での育ちや学びを味わうこと」「様々な保育親や専門性から複数の視点が出されるおもしろさ」をカンファレンスの中心に据える



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

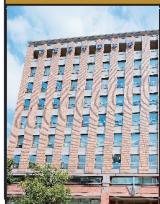
臨床心理学の知見を保育現場に還元することで、保育者のより多面的な子ども理解につなげることができ。また、次のような協力が可能である。

- ・特別な支援や配慮を要する子ども・家庭に関する保育者研修の開催や巡回相談
- ・講義型ではない、多職種同士の対話を重視した継続的な「子ども理解のカンファレンス」の実施

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「保育園におけるカンファレンスのあり方に関する検討―同一保育園での15年以上にわたる参与を通して―」
- ・「『講義型園内研修』からの脱却―ある保育園での子ども理解のカンファレンスを通して―」
- ・「アタッチメントの担い手としての保育者―「安心感の輪」子育てプログラムからの考察―」

## 傍観行動の低減からいじめ防止を目指す心理教育的プログラムの開発と効果検証



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 准教授

中村 玲子 Nakamura Reiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : いじめ防止 ・ 傍観行動 ・ ロールプレイ ・ 心理教育的プログラム ・ 中学校



### 研究の概要

SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

SDGs 目標 17 : パートナリーシップで目標を達成しよう

いじめは現在もお深い問題であり、いじめの防止やいじめへの対処のための対策が求められています。いじめの減少困難や助長の要因のひとつに傍観者が挙げられており、傍観者は中学校で増加することも指摘されています。これまでにいじめ防止を扱ったプログラムが開発され、実施されておりますが、本研究はいじめの傍観行動に着目した心理教育的プログラムを開発し、その効果を検証しているものです。中学生を対象に、いじめを見た生徒がいじめの停止につながる行動をとれるようになることで、いじめの減少を目指す心理教育的プログラムを教育現場の先生方と開発し、その効果を検討することを目的としています。

本プログラムには、いじめの発生予防だけでなく起こったいじめの制止が含まれています。いじめの傍観行動に着目し、いじめを見た生徒がそれを傍観せずになんらかの対処ができるよう、ロールプレイを用いて学習します。

これまでの研究により、本プログラム実施前よりも実施後のほうが、①傍観行動をとらないことへの自己効力感が高まり、②いじめ否定の規範意識は強くなり、③いじめ加害傾向は低くなる可能性が示唆されています。また本プログラムを構成する、①心理教育と、②ロールプレイを用いた学習が共通していれば、実施する教員や対象生徒、ロールプレイの提示場面が異なってもこれまでと同様の効果が認められることも確認されています。

#### <プログラムを実施した中学校の先生方の声>

- 教員と心理職が協働し、それぞれの専門性をいかして授業（プログラム）を行うことができる
- ロールプレイを取り入れることで、生徒がより具体的に考えることができる
- よかった点についてフィードバックすることで、生徒に自信がついたり、行動のレパトリーを増やしたりするのではないか
- あまり重苦しい雰囲気ではなく、前向きに取り組みやすい

#### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の結果より、スクールカウンセラー等の心理学の専門家と教育現場の先生方が協働して本プログラムを実施することにより、本プログラムがもついじめの防止への効果もたらされ、確認できる可能性があります。

また、中学校におけるいじめ防止の取り組みや授業の一環として活用できます。

#### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

##### 【科研費】

- ・（基盤研究 C(17K04365)）「傍観行動の低減からいじめ防止を目指す心理教育的プログラムの開発と効果検証」

##### 【学会発表】

- ・「いじめ否定の規範意識に着目した傍観行動の検討」
- ・「共感性に着目した傍観行動の検討」

## 再就職を防ぐための「ライフ・キャリア」の視点を取り入れたリワークプログラムの策定



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 教授

馬場 洋介 Baba Hiroshige

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：職場復帰支援・再就職・リワーク・ライフキャリア



### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10：働きがいも 経済成長も

現状、職場復帰支援に関する問題のひとつとして、職場復帰後の再就職の問題が挙げられる。本研究は、職場復帰後の再就職を防ぐために、「ライフ・キャリア」の視点を取り入れたリワークプログラムを開発し、その有効性の検証を目的とした研究である。現状、職場復帰後の再就職の問題に対して、例えば、行動療法に基づいた集団プログラムの実施により、しなやかさを備えた行動へと変容させた対処行動等を身につけ、再就職へ備えるプログラム等が実施されている。

しかし、職場復帰支援のなかで、これまで最も欠けていた視点として、職場復帰する人のキャリア形成支援、キャリア開発に関する課題があり、職場復帰支援の手引きや、精神科、心療内科の病院で展開されているリワークプログラムにおいても、キャリア支援の観点の不足が指摘されている。

本研究では、職場復帰で課題になっている再就職を防ぐために、ライフ・キャリアを取り入れた、どのようなプログラム内容、運用方法が有効なのかについて、リワークプログラムを受講し、職場復帰した方々を対象に、復職者のライフ・キャリアに対する捉え方の変化を定量、定性の両方の視点で検証する。

また、職場復帰支援においては、個人への支援だけでなく、支援者同士や組織との協働が必要であり、多種連携の支援体制の構築が必要である。本研究では、キャリアコンサルタント、心理職、産業保健スタッフ、人事担当者、上司など、それぞれの専門性が異なる支援者が、キャリア支援とメンタルヘルス支援の境界を超えた協働が可能な体制を作る際に、支援者として必要な姿勢、コンピテンスはどのようなことなのかについても検証する。

さらに、職場復帰を支援する取り組みが、再発予防だけでなく、職場の活性化や働きがいの向上やエンゲイジメントの強化にもつながることを、本研究で実証していく。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

「ライフ・キャリア」の視点を取り入れた有効なリワークプログラムの開発・実践は、職場復帰後、再就職せずに継続的に働けることにつながり、退職者、会社双方にとって有益なことと思われる。そして、職場復帰後、復職者が元の健康状態に戻るだけでなく、新たなライフ・キャリアを実現し、モチベーション高く働くことは、本人以外の職場の方々の働くモチベーション向上にもつながり、組織全体のワークエンゲージメント向上にも寄与する。そして、「ライフ・キャリア」の視点を取り入れた有効なリワークプログラムの開発は、職場復帰に携わる産業保健スタッフに求められる姿勢、スキルの明確化にもつながり、職場復帰支援に関する具体的な学習プログラムの開発にも寄与する。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「キャリアの視点を取り入れた職場復帰支援の取り組み～メンタル面とキャリア面の統合的アプローチ～」
- ・「メンタル面とキャリア面の統合的視点でのリワークプログラムの取り組み」
- ・「特集：リワークの使い勝手：再就職を防ぐための「ライフ・キャリア」の視点を取り入れたリワークプログラムの取り組み」

# 学校危機における緊急支援の支援者のための研修プログラム



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 教授

松浦 正一 Matsuura Shoichi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 学校危機・緊急支援・研修プログラム・チーム学校



SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

## 研究の概要

学校危機において緊急支援をおこなう支援者（指導主事、心理職、福祉職）が、それぞれの役割によって、どのような支援をおこなうと児童生徒の心の安定が図られ、早期に日常の学校生活を送れるようになるのか、その標準的な支援内容が明確になっていない。そこで本研究では、学校危機における緊急支援において効果的で標準的な緊急支援の内容を明らかにし、それをおこなうための緊急支援における支援者のための研修プログラムを開発することを目的とした。

まず、自由記述による研修のニーズを明らかにした。その結果、指導主事は管理職をサポートするための研修を、心理職は緊急支援全体の流れが具体的にイメージしやすい研修を、福祉職は実際の緊急支援でスクールソーシャルワーカーが参加したときの動きや、多職種の役割や支援内容に関する研修を望んでいた。

次に緊急支援の研修を受講した 129 人の援助職（指導主事、SC、SSW）に対して質問紙調査を実施した。その結果、緊急支援における、指導主事、SC、SSW の役割や支援内容の特徴や緊急支援の基盤となる支援内容が明らかになった。指導主事の主たる役割はコーディネーション、SC は心理教育、SSW は環境への働きかけであることが示された。緊急支援における基盤となる支援は、学校危機に関する情報の収集と共有を通じたアセスメントや心身の健康や安全の配慮を要する児童生徒の把握をおこない、それを教師へのコンサルテーションに役立てるという一連の流れであることが明らかになった (Figure. 1)。

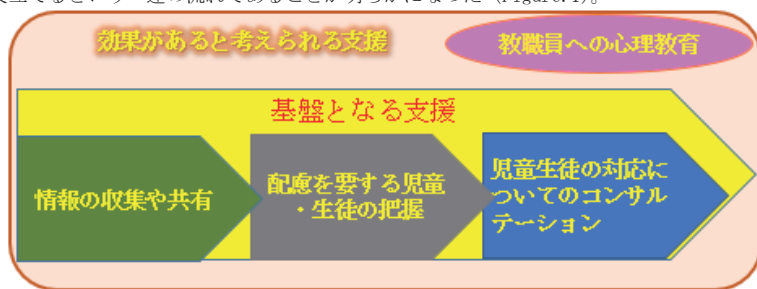


Figure.1 研修プログラムの全体構造

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

学校危機において効率的な人材育成ができるだけでなく、有用性のあるスキルを効率的に身につけることができる。加えて、こうした研修プログラムの作成プロセスが他の人材育成にも応用可能と考える。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・学校危機における緊急支援に関する文献研究
  - 災害による学校危機に関する文献からみえてくる緊急支援のありかた—
- ・学校危機における緊急支援の支援者（教育職、心理職、福祉職）が行う支援内容の特徴
  - 緊急支援における安全教育実現のための研修プログラムの提言—
- ・学校危機における緊急支援の支援者のための研修プログラムの 開発および有用性の研究

# 心理支援職のキャリア形成



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 講師

百瀬 良 Momose Ryo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

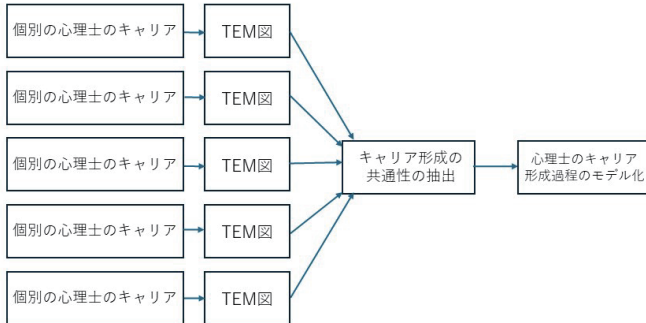
キーワード : 心理支援職・キャリア形成・発達



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

心理支援職のキャリア形成は、その多様性故に、これまであまり研究されておらず、典型的なモデルが存在しない。臨床心理士・公認心理師を養成する上で、キャリア教育は重要な課題であるが、ロールモデルがないことから、キャリア形成の道筋を示すことができていない。多様なキャリア形成過程の分析を蓄積し、その背後にある共通性と個別性を見出すことで、キャリア形成に関する基礎的資料を得ることができるものと考えられる。これまでに、研究職、医療領域の常勤職、複数領域の兼職など、様々な領域、雇用形態の心理士のキャリア形成を複線径路・等至性モデルを用いて整理、分析してきた。現時点で、約半数を占める非常勤職を組合せるキャリア形成について、共通性として抽出した「リアリティショック」、「経験を積むため、自分の志す臨床ができるような場を探索するためなどの兼職」、「心理支援職としてのキャリア構築へのライフイベント経験の取り込み」といった必須通過点や分岐点、「自分の個性・適性を加味したキャリアの選択」、「人が生きることを支える営みとして心理支援をライフワークとする」という2つの等至点からなるキャリア形成過程を明らかにしてきた。



個別性の中から、共通性を見出し、心理士のキャリア形成過程を明らかにする。  
ライフイベントはキャリア形成にいかに関与しているかを踏まえて明らかにする。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

臨床心理士・公認心理師を養成する上で、キャリア教育は重要な課題であるが、心理支援職のキャリアは領域ごと、勤務形態ごとに個性が高く、キャリア形成過程は異なることが推測される。多様なキャリア形成過程の分析を蓄積し、その背後にある共通性と個別性を見出すことで、キャリア形成に関する基礎的資料を得ることができると考える。キャリア形成の中でスーパーバイザーを引き受けることの意味などにも研究を広げ、国民のメンタルヘルスの予防、向上に貢献する心理支援職の専門性の向上に寄与する研究を展開している。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・心理支援職のキャリア形成 -医療領域常勤職のキャリア形成とライフイベント-
- ・心理支援職のキャリア形成 -常勤職から複数領域の非常勤職を兼務する働き方へ-
- ・心理支援職養成大学院における大学院生に対するスーパービジョンモデル

# メール相談による心理支援



【池袋キャンパス】臨床心理学研究科 教授

谷田 征子 Yatsuda Masako

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：メール相談、ひきこもり、力動的的心理療法、家族支援



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

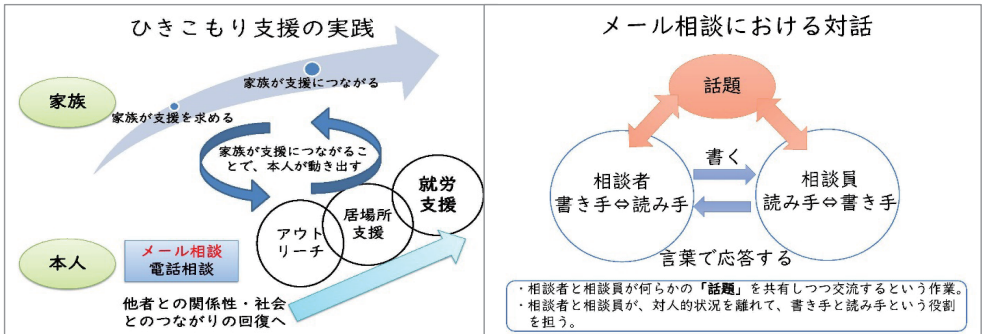
コロナ禍以降、遠隔心理支援（telepsychology）といった、メディアを使った心理的援助に関心が高まっている。

メール相談は、インターネットの電子メールを媒介にした援助方法であるが、対人不安が強い人、外に出かけるのが難しい人、社会的に孤立している人にとって、第一次相談窓口として有効だろう。

コミュニケーションという視点から見ると、メール相談は話し言葉ではなく、「書き言葉」が中心となり、気持ちを言葉で表す必要性がある。

カウンセリング、相談というと敷居が高く感じられるが、メール相談は日常空間でくつろいで相談できたり、対面では伝えにくいことが言いやすかったりする側面がある。

また、「書くこと」は内省する力を育み、想像力や創造性を発揮することで自己理解を深めていくことが考えられる。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

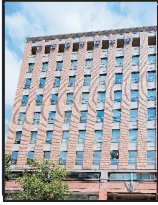
ひきこもりをはじめ、自らが援助機関に訪れることが難しい方への臨床実践に関わってきた。支援を必要としている人に、いかに心理支援を届けるのかという可能性を実感している。メールという媒体を通じて、他者からの応答によって人との交流が生まれる可能性を考えていきたい。現在、オンラインによる子どもを対象としたメンタルヘルス相談に関わっている。生成AIの可能性を含めて、子どもや若者のカウンセリングシステム構築について、メンタルヘルス支援の可能性を探っていきたい。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「ひきこもり支援の実践」精神科

【科研費】・「ひきこもり本人の語りからみるアイデンティティ構築過程に関する研究」（課題番号 26380920）

# 若年女性の月経周期に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 助教  
近藤 渚 Kondou Nagisa



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 月経周期・食事・若年女性・女性のライフプラン・健康教育

## 研究の概要

SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

現在、女性の社会進出が進むとともに女性の生き方は多様化している。そのなかで、女性がキャリアを形成しながら望む時期に妊娠ができ、一方で予期せぬ妊娠を避けるため、月経周期の日数が安定し、排卵がある月経周期を呈すること(併せて以下、月経周期の安定)が大切である。大学生時代の月経周期の状況は将来の妊孕性と関連が強い可能性が示されており(菊池ら2009)、若い時から自分自身の性機能の健康管理をおこなうことは、その後の人生の選択肢を広げることに繋がる。そのため、大学生時代に月経周期が安定していない状態を見過ごしてはいけない。しかし、運動選手ではない一般の女子大学生の22.0～46.4%に月経周期の不安定さが存在すると報告されている(西浜ら2015など)。

現在までの研究においては、健康な女子大学生を対象に月経周期の日数、基礎体温の二相性(高温相と低温相)に着目し、月経周期安定化の要因を検討した。その結果、初経発来から8年を経過していること、初経発来から8年を経過すると食事内容や睡眠時間が月経周期安定化の要因になり得るという新たな知見を得た。

これまで月経に関する研究は栄養学、看護学、心理学など幅広い分野で多くおこなわれている。しかし、それらの多くは月経に関連した諸症状による心理的負担やそれに影響する食生活などの検討である。一方で「月経周期が安定する」重要性へはさほど目を向けられていなかった。未来の人生の選択肢が多い若年女性は「月経周期が安定する」重要性へ意識を向けることが必要である。本研究は将来的には月経周期安定化へ向けた教育的介入への展開に繋がり、月経周期の不安定さを抱えている女性の心身共に健康な生活へ寄与し、自らが望む人生の選択の一助となり得ると考える。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【実学へのつながり】

初経を迎えた後の小中学生から大学生へ向け、将来のライフプランを見据えた月経教育(健康教育)へ貢献できると考える。

### 【産業界や自治体へのアピールポイント】

公表済の研究成果より、20代の女性に対して月経周期を安定させるために心掛ける食生活や生活習慣を伝える際のエビデンスを提示することができる。それによって、若年女性が将来の妊孕性へ意識を向ける契機を得ることが期待される。

### 【協力可能事項・協力希望事項】

#### <協力可能事項>

これまでの研究蓄積より、現代の女子大学生の個々に日数や時期が異なる月経周期のデータを扱う際の留意点などを把握することができたため、月経周期の状態の把握が必要な際には協力することが可能である。また、月経周期と食事の関係が明らかになっていることを実際の食生活で活かす方法を管理栄養士の視点から伝えることも可能である。

#### <協力希望事項>

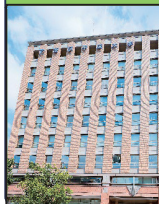
研究協力者募集を日本全国へ広げた検討をおこない、得られた結果の一般性の検証に繋げるため、国内の様々な地域の若年女性から研究協力を募るための協力をお願いしたい。また、血液検査における採血、臨床検査の協力もお願いしたい。生体指標を用いた検討も踏まえ、様々な視点から若年女性の月経周期を安定化させるための方策の検討に繋げていきたい。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【論文】「健康な女子大学生を対象とした基礎体温の二相性パターンに関連する要因の検討」

- ・「女子大学生の月経記録習慣及び月経教育経験の実態調査～月経周期の安定性に着目して～」
- ・「女子大学生の月経周期安定化の要因の検討～初経経過年数に着目して～」

# ICT 技術を活用した栄養管理システムの構築



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 准教授  
高橋 寛子 Takahashi Hiroko



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 臨床栄養・福祉栄養・傷病者の栄養管理・栄養管理ソフト・食育・健康情報・ICT

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

### 栄養管理による健康支援と病態改善

成人（傷病者）および高齢者を対象に、科学的根拠に基づく栄養管理プログラムの開発・評価をおこないます。糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病、加齢に伴う低栄養やフレイル・サルコペニアなどに対応し、臨床検査値・身体計測値・食事調査を統合して病態の改善を目指します。

### 研究の柱

- 病態別栄養管理：疾患・状態に応じた食事設計、栄養教育、行動変容支援により、検査値や機能指標の改善を目標化。
- 高齢者の食環境整備：身体計測値（体重・BMI・握力等）や栄養指標（たんぱく質摂取、微量栄養素）に基づく評価と、在宅・施設での環境整備。
- ICT 対応：視覚化・記録・情報共有を支援する栄養管理システムの設計・検証（過度に依存せず、現場適合性を重視）。

### 主な成果（抜粋）

- 成人用栄養管理ソフトの臨床活用：高血圧、脂質異常症・糖尿病患者で臨床検査値の改善傾向を確認。
- 高齢者向け栄養管理プログラムの構築：配食事業にあける栄養管理実態調査、身体計測、食事調査と栄養状態評価の指針を提供。
- 小学生対象の食育ソフト：個別対応と資料不足の解消、学習意欲の向上と授業の質の均一化を実現。
- 無医地区での携帯電話活用栄養管理：対象者による食生活の問題把握と行動変容の継続支援に有効であることを示唆。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

栄養管理に ICT を使用していくことは、場所や時間に左右されることなく対象者がアクセスしやすい食環境づくりに貢献でき、健康の保持増進、病態の改善、重症化予防に貢献できる。病院の勤務経験を活かし、システムの開発のみならず、妥当性と効果的な使用方法も検討し、真に活用できる栄養管理システムの開発がおこなえる。食育イベントやデザイナーズのボランティアにも積極的に参加し、地域住民への食育活動も積極的におこなっている。栄養士・管理栄養士免許の他、人間ドック健診情報管理士、脳卒中療養相談士、TNT-D 認定管理栄養士の取得、NST 担当者研修を修了し、自身の知識・技術の習得にも努めている。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「成人を対象とした食事バランスチェックソフト「Meal Selection」の開発」
- ・「小学校高学年を対象とした食育用ソフト「なにたべよう」の開発」

# 調理技術の向上を目指すための動画教材の活用



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 講師

手島 陽子 Teshima Yoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 調理技術・模範動画・技術の習得・食と健康



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

近年、若い世代の調理技術が低下していると言われています。この傾向は、管理栄養士など食に関わる資格取得を目指す大学生にも見られます。その背景として、かつては調理技術の習得の場であった家庭がその機能を失いつつあることや、調理済み食品の利用拡大など食生活が変化したことが指摘されています。また、調理技術の習得の場として学校も挙げられますが、学ぶ側と教える側の人数比や、調理実習の時間数が限られているなどの理由により、指導者のそばで観察しながら随時修正を受けつつ、時間をかけて学ぶことは困難です。

このような課題を踏まえ、本研究では、調理技術の中でも基礎的かつ重要な包丁技術に着目し、動画教材を活用した効果的な技術習得のあり方を検討しています。具体的には、管理栄養士資格の取得を目指す大学生を対象に、包丁技術の模範動画を制作し、動画視聴前後の包丁技術の変化を研究してきました。

これまでの研究から、従来より指導されてきた包丁操作の注意項目には、模範動画の視聴によって比較的向上しやすい項目と、向上しにくい項目が存在することが明らかになっています。今後は、未習得者が習得しにくいと示された注意項目について、具体的な支援方を盛り込んだ模範動画の改訂版を制作するとともに、動画教材を用いた効果的な指導方法について検討を進めていく予定です。

さらに、本研究における教材効果の評価測定は「行動面」と「技術面」の2つの側面から行う必要があると考えています。技術習得に不可欠な練習について、その方法や頻度といった行動面の変化が、実技テスト点といった技術面の向上につながるプロセスを明らかにすることを目指しています。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

管理栄養士養成コースの学生は、国家試験に合格すれば管理栄養士の資格を得ることができ、社会から栄養の専門家であると見られるだけでなく、「調理のできる人」とも見られます。本研究の成果は、調理のおもしろさを体得し、自信をもって社会に踏み出せる人材の育成に役立つと考えています。インターネットを開けば、さまざまな調理動画が自由に視聴できる時代だからこそ、調理科学的な裏付けをもつ教材が必要であると考えます。対象者をかえて高齢者向けのコンテンツを制作すれば、高齢者の健康を食生活から支えることにつながることも考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・大学生の包丁技術に関する意識と行動に及ぼすビデオ視聴効果



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 教授

野口 律奈 Noguchi Rituna

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 尿中ナトリウム比 (Na/K) ・ 推定 Na 摂取量 ・ 推定 K 摂取量を用いた減塩



## 研究の概要

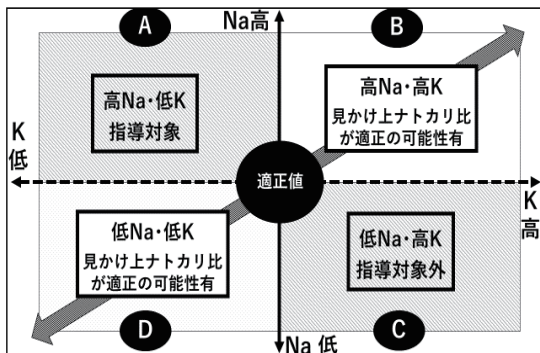
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

日本は高血圧による死亡率が高く、高血圧の予防や治療の一環として減塩は重要である。本邦の食塩摂取量や血圧の下げ止まり傾向が続く近年、新たな減塩指標として注目されているのが、尿中のナトリウム(Na)とカリウム(K)を比で表す「ナトリウム比」(Na/K)である。ナトリウム比はシンプルで受け入れられやすい指標であるため、ナトリウム比に関する調査・研究、実践活動は急速に拡大・進展している。一方で、「比」であるナトリウム比は、Na・Kの各値に着目できないため、「高Na・高K」と「低Na・低K」を区別できず、栄養指導対象者を見逃してしまう可能性がある。

そこで本研究では、ナトリウム比に加えてNa・Kの各値に着目することの意義を以下の手順で検証する。

①対象者の尿からナトリウム比、推定Na摂取量、推定K摂取量を算出し、

A(高Na・低K)、B(高Na・高K)、C(低Na・高K)、D(低Na・低K)の4つに分類する(図)。



Na・Kの4タイプ

②各タイプの食生活上の特徴を明らかにする。

③B・Dの中から、ナトリウム比が見かけ上適正と評価される者を検出する。

④対象者に減塩・野菜摂取・果物摂取に関する自由記述アンケートを実施し、質的分析により、地域住民が減塩・野菜摂取・果物摂取に取り組むための問題点を抽出する。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本人の死亡リスクに関わる食事要因は、1位:食塩(Na)の高摂取、3位:果物(K)の低摂取、5位:野菜(K)の低摂取と報告されており、減塩、およびK摂取は、本邦にとって重要課題である。本邦では、過去数十年間の取り組みで食塩摂取量及び血圧は低下したが、ここ10年間は両者ともに下げ止まり傾向が続いている。日本人の食習慣から、これ以上の減塩推進は困難であり、減塩に加えた新しい一手が求められている。

自治体における、K摂取量を増加させる取り組みの実施、推進を希望している。本研究による知見を、自治体による住民へのK摂取量増加の取り組みに向けて最適化し、提供することが可能である。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

本研究をもとに、中野区健康福祉総合推進計画の策定や、中野区保健所食育講習会の実施等に参画している。

# 給食施設における適切な栄養管理を目的とした食事の品質評価



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 講師  
**野原 健吾 Nohara Kengo**



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 給与栄養量・重量変動要因・調理損失・栄養計算

## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

給食施設の栄養・食事計画は、日本人の食事摂取基準を用い給与栄養目標量を設定し、献立作成段階で、食事からの給与栄養量の計算に食品成分表を用いる。食事摂取基準は習慣的な摂取量を示すことから、調理による成分変化を考慮した摂取時の成分量を推定する必要がある。しかし、食品成分表では、加熱調理の影響を考慮しきれない現状がある。また、給食特有の大量調理による栄養素の損失を考慮する必要があるが、食品成分表の値を適用してよいか明らかではない。

これらの課題は、これまで推進してきた栄養政策の根拠を揺るがす可能性があり、この問題をどのように取り扱うべきか、給食業界でも一致した方向性が見出せない現状がある。

本研究では、給食現場における栄養的品質評価の実態把握<sup>1)</sup>、モデル施設における食品・料理の重量変動要因<sup>2)</sup>(図)、並びに調理過程における栄養素等量変動要因を解明することを目的に研究を推進している。

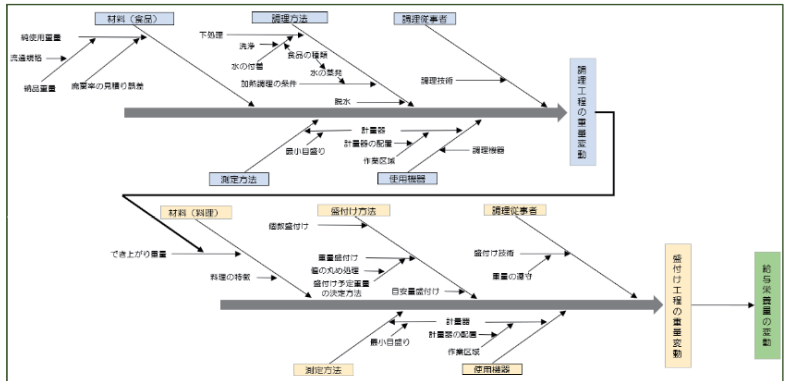


図. 給食の調理・盛付け工程における重量変動の特性要因図<sup>2)</sup>

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

給食施設における食事計画・評価における栄養情報の取り扱いに関する制度上の位置づけ、および給食現場における業務実態と課題を明らかにし、それらの検証をおこなうことにより、食事計画・評価のための栄養計算の考え方を示すことを目指している。また、本研究で示す考え方は、他の給食施設への展開が可能である。さらに、本研究の成果の一部は、食品表示法の規制対象である加工食品を大量生産する食品関連事業者に対して、栄養成分表示のための合理的な推定に資する有益な情報を提供するものである。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

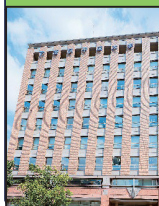
### 【論文】

- ・「学校給食施設における栄養計算方法および調理によるビタミン類、ナトリウムの損失考慮の実態」
- ・「給食の調理・盛付け工程における食品および料理の重量変動要因の検討ークックサーブシステムの特定給食施設を想定してー」

### 【研究助成】

- ・「給食施設における栄養成分表示を目的とした栄養計算に損耗率の考えを適用することの妥当性ービタミン B1、B2 の実測値と栄養計算値の比較ー」

## ハーブサプリメントの安全性



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 講師

端田 寛子 Hashida Hiroko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: ハーブサプリメント・健康食品・安全性・有用性・Cytochrome P450



SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

### 研究の概要

インターネットや通信販売ルート等の普及によりハーブサプリメントを含む様々な「いわゆる健康食品」が入手可能となったが、法的根拠に基づいた安全性が科学的根拠に基づいて評価されていない製品が少なくない。実際にハーブ類の効能を期待して製造されたハーブサプリメントによる健康被害が生じており、生体異物の主要処理器官である肝臓を標的とするものが多い。

そこで、健康被害の報告がほとんど見られない食品添加物の安全性評価法を参考に、肝薬物代謝酵素 (Cytochrome P450) を指標とした製品ごとのハーブサプリメントの安全性評価法を設計し、実施している。

これまで、抗不安作用があることが知られているカバ (*Piper methysticum*)、耐糖能効果が注目されているアマチャヅル (*Gynostemma pentaphyllum*)、偏頭痛やアレルギー性鼻炎に有効とされるバターバー (西洋フキ *Petasites hybridus*) 等の市販されているハーブサプリメントを対象として、製品ごとに医薬品との相互作用や系統差、性差等による薬物代謝酵素の影響を研究してきた。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本では法的根拠を持たないハーブサプリメントの利用に伴う消費者の健康被害を未然に防止するため、比較的簡便である本研究のような安全性評価法は、安全性に関する科学的根拠に基づく情報発信の一端を担うことができると考えられる。

これにより、ハーブサプリメントの利用に伴う消費者の健康被害を未然に防止できる。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

#### 【論文】

・「Application to Butterbur Products of a Suggested Daily Intake-Based Safety Evaluation of Individual Herbal Supplements with Cytochrome P450 Expression as a Major Index」

・「Science-Based Ratings of Safety and Effectiveness of Ingredients of Health Foods Distributed in Japan Differ among Health Food Categories」

#### 【学術発表】

・ハーブサプリメントの安全性評価: バターバー製品のラット肝臓・腎臓への影響

ノンターゲット VOC オミクスによる食品分野・医療分野における  
VOC 代謝物のプロファイル解明と新規化合物探索



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 教授

前田 竜郎 Maeda Tatsuro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：ノンターゲット VOC オミクス・インフォマティクス・  
バイオマーカー探索・VOC プロファイル解明



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

本学には、ノンターゲット VOC オミクスにより、食品分野および医療分野における VOC やその代謝物を網羅的に分析できる体制が整っている。使用する装置は、VOC を包括的に捕捉する独 GERSTEL 社製オートサンプラー MPS robotic pro と、VOC を超高感度かつ高精度に検出可能な米国 LECO 社製 Pegasus BT-4D GC×GC TOFMS から構成されている。

従来の GC MS (シングルディメンジョン：1 次元分離) と比較すると、革新的なマルチディメンジョン GC×GC (2 次元分離) では、性質の異なる「極性 × 分子量」によって分離をおこなうため、食品や生体中に含まれるフェムトグラム単位の極めて微量な揮発性成分まで包括的に分析することができる。さらに、ケモメトリックス (多変量解析) と組み合わせることで、これまで検出が困難であった食品本来の VOC プロファイルの解明や、生体中の重要なバイオマーカーの探索が可能となる。



## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

○オミクス解析には、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、リポドミクスなどがあり、その対象は動植物、食品、環境などを構成する多様な分子・化合物に及ぶ。これらを網羅的に解析することで得られるビッグデータには、多変量解析をはじめとした先端的なインフォマティクス手法による解析が不可欠である。

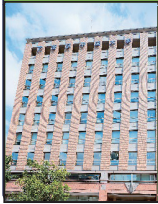
○現在取り組んでいる研究テーマは、ノンターゲット VOC オミクスによるにおい化合物および低級揮発性成分の探索・解明であり、図1に示すさまざまな分析試料を対象としている。多様な試料のにおいを網羅的に解析することで、健康的な食生活の支援やQOL(生活の質)の向上など、社会に大きな付加価値をもたらすことが期待される。

○食品分野では、原材料・製造プロセス・製品に由来する本質的なにおいの解明や、新規におい化合物の探索・同定に活用できる。また医療分野では、ヒト呼気や血漿 VOC から疾病患者のバイオマーカーを探索・同定する手法として期待されている。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】・「Chemometric Approach for Discriminating the Volatile Profile of Cooked Glutinous and Normal-Amylose Rice Cultivars from Representative Japanese Production Areas Using GC × GC-TOFMS」

# 癌化学療法と栄養



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 教授

牟田 真理子 Muta Mariko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 癌・化学療法・味覚障害



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

癌化学療法時には様々な副作用が現れるが、その1つである味覚障害は「食べる」ことに直結しており、化学療法時の食欲不振、栄養不良などを引き、患者の生活の質を低下させることに関連する。味覚の変化は抗がん剤やレジメン（治療計画）、個人の体調や取り巻く環境、主観などが関係し、評価は難しい。

我々は味覚変化を点数化するキットを用い、味覚変化の可視化をおこなった。治療レジメン別に味覚変化の傾向を調べ、栄養状態の変化、栄養摂取状況の変化等を分析し、患者の治療効果の向上や生活の質（QOL）の向上に寄与することを目的とする。

化学療法による味覚変化は治療開始早期に現れる傾向があるが、同じレジメンで化学療法をおこなっても人によって味覚変化のパターンは同じではなく個人差が大きい。特徴的には甘味の感度が上がる人が多い傾向が示されている。レジメンの違いによって味覚変化の傾向は異なるが、塩味の感度の低下と栄養摂取量が低下の関係も見受けられる。

栄養状態の指標として血清アルブミン値を比較すると、化学療法中はほとんどの患者が低下するが、レジメンによる違い、味覚変化の違いにより、血清アルブミン値低下の程度も異なる。血清アルブミン値の低下と合わせてエネルギーや栄養素の摂取量も減少している傾向があるため、味覚と栄養摂取量や栄養状態との関連性が示唆される。

レジメン別に味覚変化のパターン分類が明確になり、味覚変化の発現と栄養状態の低下、栄養摂取量の関係が明らかになれば、化学療法中の味覚変化の状態を知ることによって栄養状態や栄養摂取量の低下の予測が可能になり、患者自身が自身の健康管理に役立てることが期待できる。また、医療従事者にとっては化学療法中の食事計画や栄養指導等、患者への理解や治療対応の改善等に活用が期待できる。がん患者の食事調査を活用し、がん患者が特異的に摂取している食物を特定して食生活の面からがん予防に貢献できることも期待できる。

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・化学療法中の味覚変化別の食事設計が可能になり、変化する味覚を対象にしたレシピ開発等があげられる。味覚変化から栄養摂取の予測が可能になれば、特に低下が予測される栄養素を補強した食品、栄養剤等の病者用食品の開発も考えられる。また、化学療法時の栄養教育のスタンダード化が期待できる。
- ・レジメン、味覚変化別の食事設計が可能になり、患者のQOL向上が期待できる。
- ・化学療法時の味覚障害の詳細を明らかにすることで、医療従事者の患者へのより適切な対応が期待できる。
- ・患者が自己の味覚変化から健康状態の予測とQOL低下予防の自己管理が可能になる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「化学療法による味覚変化の違いについての検討」
- ・「化学療法中の味覚変化と栄養摂取の傾向」
- ・「TC療法とAC療法の味覚変化と栄養状態の比較」



【池袋キャンパス】 共創学部 デジタル共創学科 准教授  
石川 尋代 Ishikawa Hiroyo



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : デジタルコンテンツ・関係モデル化・ビジュアルライゼーション・インタラクション・デジタルキュレーション

## 研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

MoSaICは写真や動画などのデジタルコンテンツに対し、それらの関連性やそれによって形成されるコンテキストを構造的にモデリングし、それらの多様性を含めて可視化し閲覧できるシステムである。

モデリングには、2つのオブジェクト間の関連性を示す「関連付け」と何らかの意味を持ってオブジェクトをグループ化する「グループ化」の2つの構造を用いている。これらの構造を組み合わせることで作成した意味のあるまとまりを「カタログ」として有向グラフを用いて記述している。

可視化では3次元コンピュータグラフィックスを用いて、複数のカタログをデジタルコンテンツ空間に描画し、ノードを選択することでインタラクティブにコンテンツの内容とカタログの構造を閲覧することができる。選択するノードによってグラフはそのコンテンツに適した形状に変化する。

本手法では、自然言語で記述するより情報量は削減されるが、グラフで表現することで、複数のカタログを同時に扱うことができ、あるコンテンツを共有するカタログ群は、そのコンテンツをとりまく多様な関係やコンテキストを同一空間上に表現することができる。それはコンテンツの多面性を表現することができる。

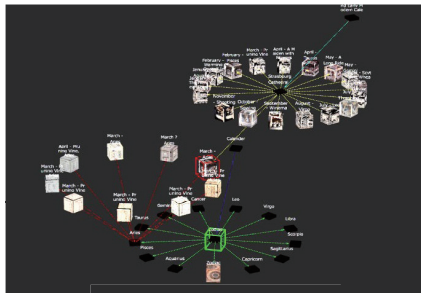


図1 カタログの可視化例



図2 MoSaICの構築

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本システムは人文社会学の研究者の意見などを参考に開発された。カタログは文化財の写真や稀覯書の挿絵をデジタル化したアーカイブをもとに作成され、実際に動くシステムとして調整を重ねて開発していった。また、国内外で発表・展示しており、システムの有用性やカタログ表現の面白さを確認している。なお、本研究は新しいデジタルミュージアムを目指して始まったが、対象はデジタルコンテンツに限定しない。何らかの情報の単位をオブジェクトとしてアイコン等で表示することで、さまざまな対象に応用することができる。例えば、インターネット上のコンテンツを対象にすることも可能である。また、教育関連ではさまざまな教材としても使うことができると考える。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

・文部科学省 戦略的研究基盤形成支援事業「文化財コンテンツのデジタル表象環境に関する統合的研究」の一部  
([https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/10/05/1376968\\_009.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/10/05/1376968_009.pdf))



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 講師

伊藤 雅浩 Ito Masahiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : Single-walled carbon nanotubes · Photo Luminescence · oxidation · reduction



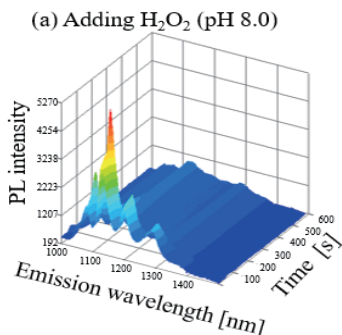
## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

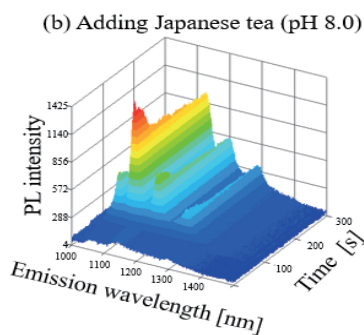
SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

ポリフェノールは、高い抗酸化性から健康品としても注目されてきている。ポリフェノールの一つである緑茶に含まれるカテキンよりも、紅茶に多く含まれるテアフラビンのほうが抗酸化能は高く、テアフラビンの合成、収集に関する研究が多くされている。これまでに、カテキンなどの抗酸化能をカーボンナノチューブ (CNT) が酸化還元されることによる発光強度の強弱を Photo Luminescence (PL) 法により、測定してきた。また、ワインやコーヒーに含まれているポリフェノールによる抗酸化作用を測定する研究も報告されている。

タンパク質の抗酸化能を、in situ に観察し、動的機構の解明にむけて、異なるタンパク質の抗酸化能を時間応答測定する。様々なタンパク質を用いることで、タンパク質の抗酸化能を系統的に知るために、広く利用されると期待できる。本研究は、タンパク質の抗酸化能を知る基礎研究になると考えている。



(a) 酸化による PL 強度の時間変化



(b) 還元による PL 強度の時間変化

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

カーボンナノチューブの還元反応の光学応答を測定することで、簡易に検出が可能である。カーボンナノチューブ溶液に、ポリフェノールに限らず、ビタミンCなどの抗酸化物を滴下すると同時に、フォトルミネッセンス測定をおこなうことで、簡易に、その場観察が、高速で実施できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【特許】

- ・ (特開 2018-096956) 「酸化・還元反応のセンシング方法」

### 【論文】

- ・ 「Near-infrared photoluminescence responses of single-walled carbon nanotubes induced by biomolecules detected on a microbead surface」
- ・ 「Various responses of single-walled carbon nanotubes with differing chirality: a suggestion for biosensing」

# 二周波駆動液晶を用いた調光素子の白濁時間の短縮化



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 講師

伊藤 雅浩 Ito Masahiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 二周波駆動液晶・コレステリック液晶・調光素子・二色性色素・ゲストホスト



## 研究の概要

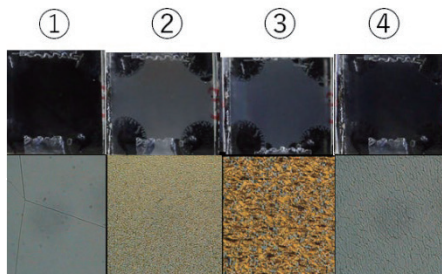
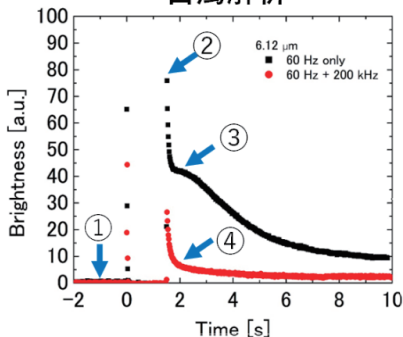
SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

二色性色素を用いたコレステリック液晶 (Guest-Host Cholesteric Liquid Crystal: GHChLC) や、ブルー相液晶、白濁状態を利用した高分子ネットワーク液晶や、高分子分散液晶を調光素子として利用する研究が多数展開されている。ある周波数以下で  $\Delta \epsilon > 0$ 、それ以上の周波数で  $\Delta \epsilon < 0$  となる二周波駆動液晶 (Dual Frequency LC : DFCL) を用いて、DF-GHChLC における調光素子を目指すための基礎研究を実施する。

90 度ねじれ構造よりも、ねじれが多いコレステリック構造を用いることで、透明と黒のコントラスト比の性能が高くなるという利点がある。しかし、コレステリック液晶は、電源 ON から OFF にする過程で、ホメオトロピック状態から、プレーナー状態に戻る際に、白濁状態が発生するという問題がある。セル厚が厚い場合に、コレステリックは、白濁時間が長くなる。そこで、二周波駆動を用いて、OFF 時に、高周波を印加することで、強制的にプレーナー状態にすることで、白濁時間が減少する。OFF 時に印加する高周波を工夫しながら、白濁時間とセル厚の関係を研究する。

### 白濁解析



グラフの縦軸は、白濁度合いを表している。0 秒のときに電圧を印加し、1.5 秒後に OFF にしている。右の写真は、セルの様子と、そのときの顕微鏡写真であり、欠陥の有無がわかる。

黒い四角は、通常の動作をしたときであり、赤い丸は、OFF 時に高周波信号を印加したときである。高周波信号を印加することで、白濁時間が短縮している。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

二色性色素の溶解度は限界があり、より暗い状態でのゲストホスト液晶を用いた場合でも、用いない場合でも、調光素子として使用する場合に、白濁現象が短縮できることで、スムーズに切り替えることができるため、いろいろな場所への用途が広がる。

### 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「Angular Dependence of Guest-Host Liquid Crystal Devices with High Pretilt Angle Using Mixture of Vertical and Horizontal Alignment Materials」
- ・「2 周波駆動コレステリック液晶の白濁解消時間の短縮」

# 劣化のある画像の認識に関する研究



【池袋キャンパス】共創学部 デジタル共創学科 教授

遠藤 和紀 Endo Kazuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 劣化画像・画像認識・深層学習



## 研究の概要

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

深層学習を用いた画像認識ネットワークでは、学習データに劣化のない画像を用いることが多い。しかしながら、画像認識ネットワークを実務に応用する際には、ノイズやぼけ、圧縮等の何らかの劣化がある画像が入力される。劣化のある画像を学習していない画像認識ネットワークは、劣化のある画像を上手く認識することができない。

これを回避する単純な方法は、学習データに劣化画像を含めることであるが、劣化のない画像の認識精度が低下するというトレードオフが発生する。劣化画像の認識性能を向上させる研究については近年増えつつあるが、このトレードオフに着目している類似研究は殆どない。

本研究では、入力画像の劣化の有無に関わらず精度良く認識をおこなうことができる画像認識ネットワークを構築するために、「特殊なネットワーク構造の提案」や「一般的な画像認識ネットワークでも認識を可能とするデータ拡張方法の開発」を目指す。具体的には、図1のように劣化画像の特徴量を補正するネットワークの構築[1]や図2のような劣化画像に特化したデータ拡張方法[2]の研究開発をおこなっている。

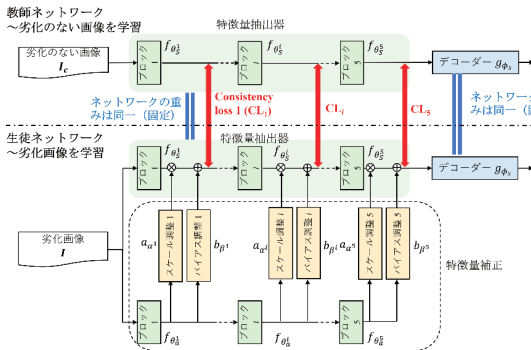


図1.知識蒸留を利用してブロック毎に特徴量補正したセグメンテーションネットワーク [1]

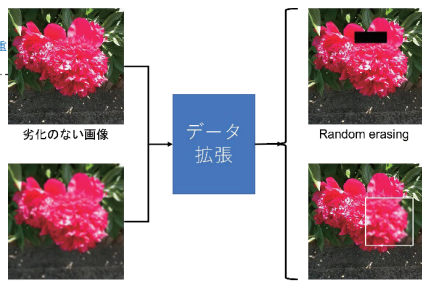


図2.劣化のない画像の分類性能低下を抑制する劣化画像のデータ拡張方法 [2]

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

車載カメラや警備カメラ等、実務上、画像認識をおこなう際の入力画像にはノイズやデータ圧縮等の劣化があるため、本研究の応用範囲は多方面に渡る。対象とする画像の性質等により含まれる劣化が異なることや、画像認識ネットワークに求められる認識精度も応用先により異なることから、利用シーンに応じて課題を明確化する必要がある。これにより、警備カメラ等の認識性能向上が期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- [1] Semantic Segmentation of Degraded Images Using Layer-Wise Feature Adjustor
- [2] Data augmentation technique for degraded images without losing the classification ability of clean images
- [3] CNN-Based Classification of Degraded Images Without Sacrificing Clean Images

# ミリ波レーダによるヒューマンセンシングに関する基礎的研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース 教授

鈴木 昭浩 Suzuki Akihiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : ヒューマンセンシング・FMCWレーダ・パターン認識



## 研究の概要

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

近年多発している自然災害や火災から人命を守るにあたって、発災時において人の存在や動きの把握が迅速かつ確実な避難誘導を実施する上で重要なポイントの1つであるが、混乱した状況下においては困難を極めることも少なくない。従来から監視カメラの映像を用いて人の動きを把握することがおこなわれてきたが、映像には顔など個人を特定できる情報が含まれている可能性が高く、近年のプライバシー保護意識の高まりの中で、個人情報を含む映像の扱いが課題となるようになってきた。

これに対して、近年、FMCW レーダ（周波数変調連続波レーダ）の利用により、個人を特定する映像等の情報を取得することなく人の動きや位置の把握をおこなったり、呼吸や心拍のセンシングをおこなったりする技術の研究が多く報告されている。本研究は、こうした技術を応用し、主に 79GHz 帯のミリ波レーダ（ARIB STD-T111）によって得られる情報をパターン認識技術によって分析する手法を基本に、人の数や位置の情報を障害物に影響されることなくリアルタイムに取得するための技術的基盤の確立を目的とする。

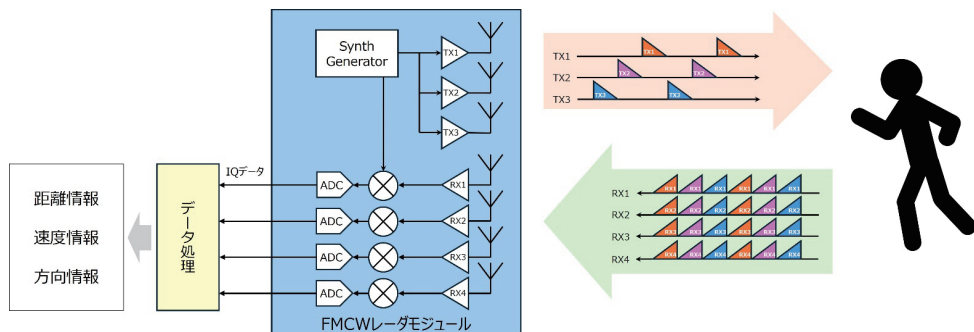


図 FMCW レーダによるヒューマンセンシング

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

災害や火災に対する対策は、国に関わらず必要とされるものであり、近年の技術発展の成果を具体的にその対策に活かすことは喫緊の課題である。こうした中、災害大国といわれる日本が、世界の先頭に立ってこの分野での研究を進めることは意義深いことと考えている。また、本研究における成果は、防災分野だけでなく、感染症の拡大防止や雑踏事故防止のための人の流れや群衆の状況の把握など、幅広い分野での活用が期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

「伝達関数を利用した少数サンプルからの辞書画像の推定」

### 【研究会報告】

「文字認識における少数サンプル辞書画像の推定～活字デーヴァナーガリ文字を例として～」

# 民間放送局におけるCM・番組審査業務と広告倫理に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

鈴木 克実 Suzuki Katsumi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: CM・番組審査業務・放送基準・放送倫理・テレビ・ラジオ・企業広告



## 研究の概要

SDGs 目標 12: つくる責任 つかう責任

SDGs 目標 16: 平和と公正をすべての人に

私は約37年間、テレビ局2社とラジオ局1社での、実務家として就業経験を有している。本研究は、民間テレビ局の審査業務の理解促進となることを目指すべく、これまで一般には知られていなかったCMや番組の審査業務の社内組織フロー(図)を明らかにするとともに、業務遂行時の問題点や放送業界全体における審査の課題などについて検討する。テレビ局・ラジオ局での実務経験に基づいた約8年半、延べ6,200件以上にのぼるCM及び番組審査データを詳細分析する。

### 審査全体手順(A→B→C)と審査内容(①→②→③)及び判断材料

その上で、審査担当のバイブルとされる『民放連 放送基準解説書』の条文別に過去の審査事例を検証しつつ、どのような内容のCMの審査傾向があるのかと、放送倫理の観点より問題となる部分が、どこに多く存在しているのかを探る。

最終的に、これからの放送局の審査担当においては「習慣形成」並びに「社会的妥当性」の意識を持ちつつ、最新の情報収集と継続的な広告リテラシー向上が求められることを指摘する。

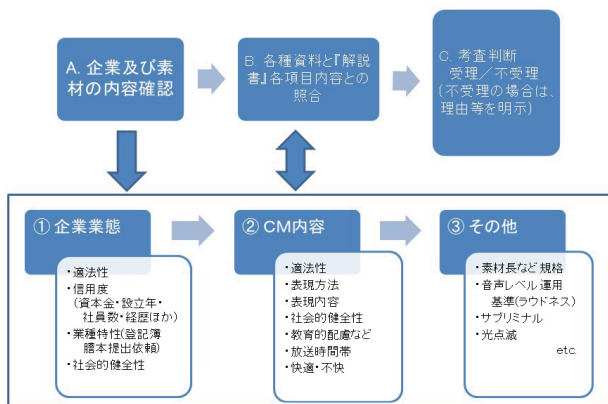


図 CMの審査フロー (筆者作成)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント】

テレビ局やラジオ局、CM及び広告制作会社、広告会社、広告宣伝担当・広報担当・IR担当など、広告審査部門及び広告制作サイドにいる企業または担当者へ有益となる情報を届けることができます。

### 【研究に対するニーズ】

特に健康食品や化粧品等の通信販売会社に関係する組織において、広告審査情報の知見を活かしたアドバイスが可能です。本シーズを通して連携や協力が可能であり、有益な審査情報を基に、効率的なビジネス展開を促進したいと考えております。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【論文】

- ・「地方独立テレビ局の編成戦略と地域学習 ～地域資源番組の編成事例から～」
- ・「組織学習から考える民間地方テレビ局の「大人アニメ」編成戦略」
- ・「Exploring the Possibility of Regional Brand Expression Through Regional Learning by Local Independent TV Stations -Case Study of Mie Television Broadcasting and Kyoto Broadcasting」

# 産学連携によるSDGsサービスUXデザイン



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

山本 暢 Yamamoto Noburu

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](https://www.mymizu.co/)

キーワード: UXデザイン・UIデザイン・マーケティング・共創ビジネス・SDGs



## 研究の概要

一般社団法人 Social Innovation Japan

(<https://www.mymizu.co/>)

三菱ケミカル・クリンスイ株式会社

(<https://cleansui.com/>) 等との産学連携によるUI

/ UXデザインの共創事例。

“給水を通して、サステナビリティに取り組む” サービス / スマートフォンアプリ「mymizu」のスマートフォンアプリのリデザインプロジェクトを実施。リデザインのプロセスとして、一般ユーザーや協賛企業様へのリサーチ、インタビューやフィールドワークを実施。アプリケーションのリデザインに留まらない、サービスの新機能、プロモーションプラン等、ユーザー参加型のサービス特性を活かしたライフスタイルに波及するUXデザインとリデザイン案の提案をおこなった。

SDGs 目標 6: 安全な水とトイレを世界中に  
SDGs 目標 14: 海の豊かさを守ろう

### 1 リサーチ

Social Innovation Japan

SOCIAL INNOVATION JAPAN

vision

誰でも良いことに取り組める社会を目指す。一人一人のアクションを通して世界を変えていく。

mymizu



アプリ概要

ペットボトルの利用削減をミッションにし、給水スポットを探して利用できるプラットフォーム。給水スポットを追加できたり水分補給を記録できる。

ユーザー想定

- 20代後半～40代前半の男女
- マイボトル利用者
- サイクリングする方
- 節約したい人
- 水を補充したい人

仮課題

- 給水を躊躇してしまいそう
- 水に対する個人の感覚の違いがある
- 給水スポットの場所や受け取り方に違いがありそう

### 2 インタビュー

Key word

Social Innovation Japan さんへインタビューを終えて大切な言葉、重要なと考えた言葉をキーワードとしてピックアップ。  
# 共創型 # ポジティブに未来を一緒に作る # 楽しむ  
# 給水が当たり前の世界 # 一人一人の mindset を変える  
# 続けるモチベーション # 1 番のアセットはブランド

意識したこと

サービスや給水パートナー、経験といったようにジャンル分けでは質問を考えたこと。インタビューでは質問の流れが過去のことから現在、未来となるように意識した。また、当日は時間配分に気をつけて余裕などをした。

Interview

サービス

Q サービスを上げの時に重要視していることはありますか？

A. 共創プラットフォームにすること、ユーザー体験アップに効果的、継続的2000項目、自動給水パートナー検索

Q ユーザー、利用客について教えてください

A. 利用客主に日本の方が多く、20代～30代前半が多く実装の方が多いです。

課題

Q 現在感じている課題はありますか？

A. シーズンによってユーザーが減少する可能性があること、冬になると利用者が減ってしまう、また、初期段階でインターフェイスが使いにくいというユーザーからの声も聞かれています。

今後の展望

Q 今後期待することやビジネスの成長を教えてください

A. mymizu のビジョンである、給水で世界を変えていくこと、このビジョンを実現するために、ユーザーの声を聞き、人々のライフスタイルを変えたい、給水スポットの拡大、SDGs への貢献、UI/UX で新しい人々を巻き込んで盛り上げていきたい。

### 3 制作

UI/UX



カラーガイド

デザイン案、コンセプトが決定された後、制作。



画面練習

Figure を使った新しい UI を作り、いく。

SDGs のアイコンを強調

- アイコンの統一
- SDGs のアイコンを強調
- ユーザー体験向上
- SDGs のアイコンを強調
- SDGs のアイコンを強調
- SDGs のアイコンを強調

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】

実際に市場に存在するサービスを用いてのUXデザインプロジェクトを経験することでの実学レベルの向上。

【産業界へのアピールポイント】

大学、サービス提供主体、協賛企業等との共創プロジェクトの実現。

教育機関ならではの多様なフィールドワークの実例。

産学連携によるイベント企画制作（温泉施設×プロジェクションマッピング）



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

山本 暢 Yamamoto Noburu

URL：帝京平成大学 教員業績紹介ページ

キーワード：マーケティング・イベント企画制作・プログラム開発・プロジェクションマッピング



研究の概要

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も

万葉倶楽部株式会社

[\(https://www.manyo.co.jp/outline/\)](https://www.manyo.co.jp/outline/) 等との産学連携によるイベント企画制作、コンテンツ開発制作、ビジネス創出、PBL の共創事例。

温泉施設に新たなビジネス機会を創出するべく、“温泉 × プロジェクションマッピング” イベントを企画制作。企画の立案および提案から新規設備の設計、導入機材の選定、上映プログラムコンテンツの制作、プロモーションまで、一貫して企業を支援。産学共創でのビジネス創出をおこなうプロジェクトデザインをおこなった。

イベント終了後に振り返りを実施。当初目標、想定を大きく上回る来場者やリピーターを獲得し、新たなパートナーを交えての第 2 弾の計画もおこなっていたが、COVID の影響で第 2 弾の計画は中止となった。COVID からの社会経済活動の回復に伴い、本事例のような共創活動も再開していきたい。

万葉の湯 × 帝京平成大学  
「東京・湯河原温泉 万葉の湯」が、「帝京平成大学」とのコラボで  
足湯庭園にプロジェクションマッピング！  
令和初の夏の思い出を色鮮やかな煌きと共に。

今夏限定  
足湯ナイト  
足湯 × プロジェクションマッピング

帝京平成大学  
プロジェクションマッピング  
制作チームからのメッセージ  
期間中 毎日 19:00 - 21:30  
@東京・湯河原温泉 万葉の湯  
7F 足湯庭園

「足湯ナイト」の思い出をSNSにアップしよう！  
「足湯ナイト」SNSプレゼントキャンペーン

Instagram 投稿  
Twitter ツイート  
プレゼント内容

公式アカウントはこちらから  
Instagram Twitter

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】

実営業をおこなう商業施設（企業）とのプロジェクトデザインをおこなうことでの実学レベルの向上。

【産業界へのアピールポイント】

大学、企業との共創プロジェクトの実現。主宰教員ならではの一气通貫な支援体制の実例。

## 関東地方の保育士養成校における学生の自己肯定感の向上をめざす 実習の取り組みと課題に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 講師

浅見 優哉 Asami Yuya

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 保育者養成・実習準備・保育実習・保育所実習・自己肯定感・  
保育者養成の質の向上



### 研究の概要

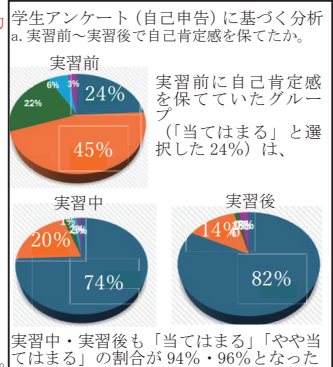
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成25年度）」の項目「私は、自分自身に満足している」では、日本の高校生の肯定回答は45.8%にとどまり、米国（86.0%）の半分程度であるなど、国際比較で顕著に低い水準が示されている。こうした背景を踏まえると、大学入学後に意欲喚起を図っても、個別指導や精神論に依存する対応だけでは持続的な行動変容の実現は難しい。学生が自ら学びに向かう状態へ移行できるよう、教育課程に組み込まれた学修支援の設計が不可欠である。

保育者養成の中核である保育実習では、実習先から無気力さや打たれ弱さが指摘される。本研究は、その一部が自己肯定感の低さと関連する可能性に着目し、要因の特定と教育的介入の設計を目的とする。本研究では自己肯定感を「ありのままの自分を受け止め、否定的側面も含めて自分が自分であっても大丈夫だと感じられる感覚」と定義した。

学生アンケート（自己申告）に基づく分析（抜粋）では、実習前に自己肯定感を保っていた学生の90%超が、実習中および実習後も自己肯定感を保てたと回答し、その83.1%が実習期間中、日常的に前向きな気持ちで実習に参加できたと回答した。実習の具体的なイメージを事前に形成できていた学生の90%が「十分に準備できた」と回答し、そのうち約70%が自己肯定感を保てた一方、イメージ未形成群では35.7%が準備不足と回答し、そのうち約52%が自己肯定感を保てなかった。学生が有効と捉えた準備は、教材作成、体力・体調管理、資料・教材準備、リサーチ、練習等の6類型に整理でき、実習経験者が挙げる事前学習の必要事項も、子どもと関わる機会の確保や社会性など8類型に整理できた。

これらは主観指標ではあるものの、少なくとも学生の体感として、「実習を具体的にイメージできること」および「準備行動を実行できること」が実習参加時の前向きさや自己肯定感の維持と関連している可能性を示している。今後、特定の授業や演習を対象に、具体的な効果測定と改善サイクルを構築する。これにより、学生が実習を見通し、必要な準備を主体的に進められるようになる教育課程に組み込まれた学修支援の設計をおこない、実習を通して意欲的に学べる学生の養成を目指す。



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究を通じて、学生に「意欲を持って学ぶこと」を言葉で促すだけでは不十分であり、学びへの移行を支える具体的な提案と、教育課程に組み込まれた学修支援の設計が重要であることが確認された。

実習の具体的なイメージ形成と準備行動の促進に資する授業は複数挙げられたが、とりわけ本学で実施している「子育て支援演習」のように、子どもや保護者と直接関わる演習系授業は、実習への見通し形成や自己効力感の獲得に寄与し得る点で、重点的に検証すべき教育資源であると考えられる。

今後は、自治体や実習受入施設等と連携し、ニーズ調査に加えて、現場および行政における課題認識を把握する。そのうえで、現場のニーズを参照しつつ、養成課程としての到達目標と照合し、双方の整合性を高めることで、実習に向けた学修支援の改善と実効性の向上を図りたい。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【関係研究】保育者養成校における学生の自己肯定感について -先行研究のまとめと枠組みの構築-

【所属学会等】日本保育学会、日本幼児教育学会、日本ヒューマンケアリング教育学会、早稲田大学教師教育研究所

# 子どもの発達に合わせた安全教育・防災教育の開発



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 講師

植田 真理子 Ueda Mariko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 防災教育・安全教育・子どもの安全・カリキュラム開発・家庭科教育・住教育・保幼小連携・情報リテラシー



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

(1) 安全教育 ～子どもの安全を守るために: 保育者・保護者・企業への展開～

保育中や子育ての場面で発生する事故は、大人が注意深く見守るだけでは十分に防ぐことが困難であり、傷害予防に関する具体的かつ実践的な知識を学ぶ機会の提供が不可欠です。本研究では、子どもの事故のデータベースを用いて誤飲・誤嚥事故を分析した結果、保育現場では死亡に至る食品関連事故が多く発生している一方で、家庭ではおもちゃや電池などの製品事故が多いことが明らかになりました。これらの知見を踏まえ、教員養成課程および保育者養成の現場において、実態に即した安全教育の充実に取り組んでいます。

(2) 防災教育 ～カリキュラム・教材開発: 家庭科を基盤とした防災教育と保幼小の連携～

本研究は、子どもの発達段階に応じた安全教育および防災教育を、学校教育における**家庭科**を基盤として体系的に構築することを目的としています。近年、自然災害や事故のリスクが高まる中、日常生活と密接に関連した防災教育の重要性は一層高まっています。家庭科は「衣・食・住・消費生活」を総合的に扱う教科であり、災害時に必要な知識や技能を実生活に即して学ぶことができる点で有効です。また、災害時には SNS 等で偽情報が拡散することもあるため、情報を適切に取捨選択する力(情報リテラシー)の育成も重要な課題です。さらに、幼児期から段階的に「**自分事**」として防災・減災を学び、保育所・幼稚園・小学校、さらには地域との連携を通じて広げていく教育モデルの構築を目指しています。

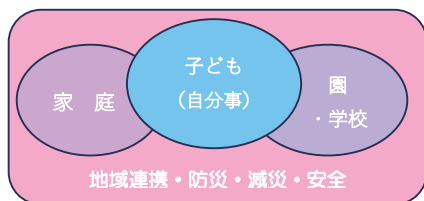


図: 家庭・園・学校・地域と連携した子どもの安全・防災の学びのイメージ

教育とすまい・まち 実践事例	
防災教育 その3 ～通学路を見直そう～	
小学校、中学校、高校/家庭科、総合的な学習の時間	
教育とすまい・まち 実践事例	
防災教育 その5 ～地域の歴史に学ぼう～	
小学校、中学校、高校/社会科、家庭科、総合的な学習の時間	

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・家庭や園、学校での安全な環境構成や、大人(保護者や保育者、教員)のチェックポイントを提案します。
- ・家庭ごとのニーズ(年齢、病気や障がい、嗜好など)に応じた防災対策や防災グッズの選定を提案します。
- ・情報リテラシー教育を通じて、災害時に必要な情報を取捨選択する力の育成をおこないます。
- ・保幼小連携を基盤に、地域の中学校や高校、保護者、地域住民と協同し、安全マップ作成や街歩き活動をおこない、社会全体で子どもの安全を守る取り組みを進めます。
- ・自治体や産業界と連携し、防災教育教材の開発、地域防災活動への参画をおこないます。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

【論文】・「震災の記録を活用したこれからの防災教育の課題と可能性」

・「家庭科における家族・家庭生活と住まいの領域を融合した防災教育に関する研究」ほか

【所属学会】日本家庭科教育学会、こども環境学会、防災教育学会、日本セーフティプロモーション学会

## 環境整備によるQOLの向上に関する研究



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 教授

牛込 彰彦 Ushigome Akihiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 障害児・ストレス・アイトラッキング



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

生物は絶えず環境との応答によりその「生」を維持している。これは、全ての生物に言えることで、人間も例外とは言えない。環境を整えることで、人々のQOLは向上する。

本研究では、現代社会における人間を取り巻く環境を生理学的指標を用いて評価し整えることで、当事者のQOLの向上を目指すものである。

#### 1) 障害児における取り組み

ストレスの低減は、QOLの向上に繋がる。障害児は感情の表出が難しい者も多く、周囲の他者が本人のストレス状態を知ることは困難である。しかしながら客観的な数値をもって、周囲の者が障害児のストレス状態を知ることができれば、環境を整えることを通して、ストレスを低減しその結果、障害児のQOLの向上を望むことも可能となる。ストレスを客観的な数値として知る方法としてはコルチゾール、アミラーゼの測定や脳波の測定などがある。最近では、リアルタイムで脳波を測定することによりストレス度を計測することも可能になってきている。

本研究では、障害児のストレスをリアルタイムで測定することによって、環境としての快・不快刺激を特定し、その結果から環境を整えることを通して、障害児のQOLの向上を目指すものである。実際にはストレスにかかわる環境刺激のうち、快刺激を増やし不快刺激を減少させることで、ストレスの低減につなげる。

療育として、触覚、視覚、嗅覚等の五感を刺激する方法が療育施設で実施されているが、その効果についても検証する。

#### 2) 幼児・児童における取り組み

本研究では、幼児・児童が、何に注目して日々の生活における情報を処理しているかを、その視線を調べることにより検証し、より良い環境を創出することを通してQOLの向上につなげることを目指すものである。

近年では、教育の現場に様々な特性や属性をもった幼児・児童が在籍する。それらの認知の傾向を知ることが出来れば、より良い保育・教育環境を整えることが出来ると考える。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

環境を整備することで、当事者のストレスの軽減や特性を生かすことが可能である。このことは当事者のQOLの向上とともに、社会全体の公衆衛生や労働生産性の向上に寄与できる可能性を秘めている。特に保育・教育現場での教具・教育内容、また病院等における患者のQOLの向上に貢献できると考える。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費（基盤研究C）】

- ・「重複障害における生涯学習支援に向けた感覚を生かした活動の実証的研究：日英比較研究」
- ・「困難を抱える子どもを包摂する多重感覚発達支援環境の実証的研究：日英米の環境比較」
- ・「発達障害支援における生理学的指標評価に基づく支援モデルの構築」

# 価値ある学校経営の推進における「生徒・進路指導」の役割



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 教授

榎並 隆博 Enami Takahiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 児童、生徒理解・教員の育成・関係機関との連携、ウェルビーイング



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

各学校においては、教育目標を達成する上で、校長の学校経営方針の貫徹が必須であるが、そのためには、心身の成長や価値観が多様化する児童・生徒・保護者等への柔軟な対応を欠かせない現状が学校現場にある。そこで、私自身のこれまでの行政経験、ならびにいわゆる経営困難校とされる学校での長年の管理職経験を踏まえ、価値高い学校経営の充実に資する研究を進めている。

学校経営においては、多様なアプローチが求められるが、中でも特に留意すべきことは「生徒・進路指導」の充実を図ることであることを学校現場では痛感してきた。一般的に「生徒・進路指導」というと、中学校・高等学校における指導を想定しがちだが、現実には小学校段階での指導こそ注力することが重要であることを認識できている管理職は決して多くはない。特に、小学校入学段階からの意図的・計画的な「進路指導」は、六年間の学びを充実させるためにも大きな役割を果たすものだが、その認識と、具体的な実践は、必ずしも充実したものとなっていない現状がある。そのため、これといった目標をもたないまま学校生活を漫然と送り、またそのことに保護者も危機感をもたないまま進学だけをしていく児童・生徒が少なからず存在し、中にはそのことが問題行動につながりかねないことを目の当たりにしてきた。

そこで全ての児童・生徒が、自身の将来に向けて明確な目標をもち、計画的に学習行動していけるための「生徒・進路指導」の充実に欠かせない事項や、取り上げるべき内容について明らかにし、学校現場での検証等を踏まえながら研究を進めていく。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

国が提起した第四期教育振興計画も、その目標に向けた取り組みが中盤を迎える。今回キーワードとなっている「ウェルビーイング」の達成は、児童・生徒のウェルビーイングはもちろん、教員のウェルビーイングもねらいとしていくことで、校長の学校経営方針がより具体化されていくことが明らかになりつつある。その中で、本学でおこなわれる「実学」を基礎とする教員養成は、近い将来、学校現場の多様なニーズに応える得る学びとなっていると考える。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「誰もが社会の担い手になるためのセーフティーネットを構築する学校経営」
- ・「東京都が求める教員像と大学における教員養成」



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 教授

川越 孝洋 Kawagoe Takahiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 架け橋期・切れ目のない発達支援・保育者/教員・職能成長



## 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

これまで学校現場や教育行政において責任ある職を務めつつ、現状を見極め、常に「今何をすべきか」という課題認識のもと実践研究を積み重ねてきた。そのテーマの一つが就学前施設と小学校の切れ目ない個に応じた保育・教育を実現することである。そのために、保育者や小学校教員が時々々の優先課題に対応できるようにしたい。また、教員の専門性を構成する「どのような資質・能力を獲得させるのか」を具体的に提示し、その上で、職能成長を図るために保育者を含む教員の養成教育内容と、その効果的な実践の場を創出したい。特にこれまで教育現場や行政において児童個別の教育的ニーズに応じた的確な指導・支援が受けづらい状況を目にしてきた。その要因として、子どもの教育的ニーズを専門的に的確に捉えきらずに指導すること、小学校教員の資質・能力や協働する組織の脆弱さや限界があること、また、的確に対応する専門的なリーダーがいないことなどが考えられる。

一方、就学前施設における保育者には、療育の必要が見込まれる子どもを可能な限り早期にとらえ、その保護者と面談を重ね、医療機関や療育機関等の諸機関と協働して対応する様子が見られる。この状況に着目し、就学前施設と小学校が、切れ目ない個に応じた保育・教育を実現するために、保育者と小学校教員が専門家や専門機関に繋げる連携協働の質的改善を視野に、近年の課題でもある小学校教員や保育教育職員の魅力減少傾向や離職者を防ぐためにも、その職能成長を促す教育についての提案が急務であると考え。児童生徒の資質・能力育成のために、各教科の特質に応じつつも、学校や地域あるいは児童生徒の発達の現状等を踏まえながら、ICTの活用を通じた教育課題の解決と効果的な利用促進を図りたいと考えている。「一人ひとりの児童の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」を目標に、学校の日常において、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実に向けて、より実践的な分かる喜びと効果の上がる教員の働きかけ、教材の開発に努めている。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

令和5年に国の新たな教育振興基本計画(令和5年度～9年度)が公表された。

まさに今後我が国の教育が向かうべき羅針盤である。そのコンセプトは、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」である。

こうした国の動向から本学科では、本学の実学の精神をより促進する『学びの多様性を支え、子どもたちのウェルビーイングを高める教員養成』を社会に発信し、社会的に需要が高まる教員と保育者養成のため、更なる教育の質向上を推進していくことが、何よりの社会貢献であると考えている。

産業界と自治体には、「児童だれ一人取り残さない、新たな保育者・教員の養成プログラムの導入」や、未だに手の届いていない子どもたちの多様な教育ニーズを支える組織機能の在り方と教材の開発、およびその体制づくりを提案していきたい。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「学校組織開発理論に基づく管理職育成型研修のプログラムの開発」
- ・「社会情動的スキルにも着目し、客観的データに基づく個別支援を強化」

# 学校組織・学校文化に関する研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 准教授

橋田 進 Kitta Susumu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 学校経営・教員養成・健康、スポーツ科学

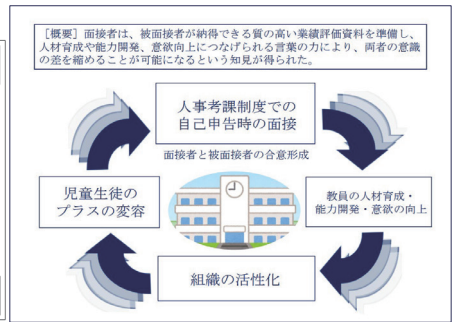
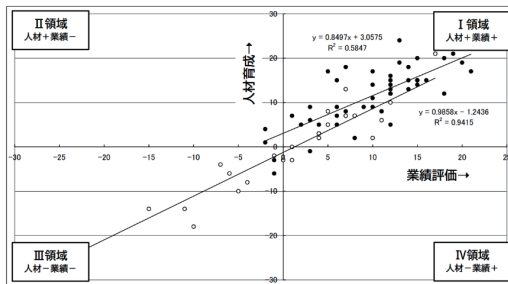


## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

本研究室は学校経営学を柱とし、「学校の組織文化に関すること」「学校と教育行政の関係に関すること」を主な研究項目としています。学校は複雑な組織であり、異なる職層や校務分掌、教科が連携して機能しています。学校経営学の本質は、学校組織の構造や機能に関し、より効果的な組織の構築や運営方法を模索することにあります。また、学校内で共有されている価値観や信念、慣習などの要素は学校文化と呼ばれており、これらの要素が学校の運営や学習環境に与える影響を理解し、良好な学校文化を構築することによって、学校の質を向上させる必要があります。このように、本研究室では、学校の組織や学校の文化に関わる知見を創出し、教育機関が学習者に対してより良い環境の種を蒔くことができるように研究をおこなっています。

[研究例] 本研究は、人事考課制度における自己申告時の面接の在り方を検討することを目的とし、面接者である管理職と被面接者である教員を対象に質問紙調査を実施した。グラフは、面接者(●)の実施意識と被面接者(○)の受容意識の差異を示し、図は研究成果の概要を示している。これらの結果から、人事考課制度における自己申告時の面接では、人材育成や能力開発を支援する視点をより重視することが重要であることが明らかになった。このような面接の充実には、教員の成長を促すとともに、学校教育全体の質的向上にもつながることが期待される。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

学校は現在、「主体的・対話的で深い学び」の実現、児童生徒の多様な個性の尊重、ICTの活用、働き方改革など、実に多くの課題に直面しています。このための、本研究課題は、産業界とは一見関係がないようにも思われますが、将来社会で活躍する児童生徒の教育環境の課題であるとする、非常に関係性が高いものと思います。また、子どもたちの学習活動の基盤となる、心身の成長過程に関与する、保健体育科教員の養成、スポーツ指導者の養成等は、日本の将来を担う人材の育成のためにとても重要であると感じています。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

[論文] 組織をマネジメントするための学校経営計画の在り方

[発表] 独立行政法人 教員研修センター(教職員支援機構)「学校組織マネジメント指導者養成研修」

## 聴覚障がい者・盲ろう者の Well-being（健康で幸福な生活）と補聴（聴覚活用）の意義、コミュニケーション支援のあり方についての研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授

黒田 生子 Kuroda Seiko

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：聴覚障害者・盲ろう者・Well-being・コミュニケーション・関係発達・補聴器・人工内耳・手話



### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

近年、私たちの「Well-being（健康で幸福な生活）」(R. J. Waldinger, M. Schulz, 2023)に影響する最大の要因とは、身近な「他者との関係性（量と質）の充実」であることが指摘され、日常的なコミュニケーションの重要性が改めて注目されている。（視）聴覚に障害を抱える当事者が社会的な孤立や孤独を回避し、その Well-being（健康で幸福な生活）を実現するために、適切な補聴環境を整備し、さらに手話等の使用により、早期から身近な他者とのコミュニケーション関係を確立することはきわめて重要である。特に乳幼児の早期補聴と聴覚活用は、単に音韻聴取のために重要というだけではなく、より原初的（プリミティブ）で情動的、感性的な水準で、「子ども・養育者」の関係性を改善し、日常的な「音の風景」の拡大により日本語の概念基盤の形成に資する点に大きい意義がある。黒田（2020）らはこうした知見をふまえ、大倉得史教授（京都大学）らと共に、聴覚障害児・盲ろう児の早期支援現場の初任者向け研修用プログラム（2018 厚生労働科研究費事業）を取りまとめ、現任者向けテキストの刊行や研修会の開催に取り組んできた。当事者によれば、補聴器や人工聴覚器の装用意義とは、話者の音声の超分節的要素（力動感）等が運ぶ情動の伝搬により、他者との「気持ちの通じ合い」の改善にこそ、求められるべきであることがわかる。今後も私たちの間身体性と間主観性の観点から、聴覚活用とコミュニケーションを主題に、研究を継続したいと考えている。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

これまでに刊行したテキストは、医療・福祉・教育・心理の幅広い学際分野から協力者<医師（耳鼻咽喉科・眼科）、言語聴覚士、視能訓練士、聴覚障害および盲ろう当事者およびその家族、手話・指文字通訳者ら>の参加を得て、各分野を幅広く網羅して作成した。また学習補助教材として DVD やオンラインによる視聴用動画等を作成し、よりわかりやすく、実践的に聴覚障害者・盲ろう者支援の実際を学ぶことができるよう配慮した。子ども支援の基調には、鯨岡 峻教授（京都大学名誉教授）の関係発達論を据え、言語獲得支援の視点のみならず、子どもと養育者、身近な他者とのコミュニケーション関係と子どもの育ちを重視した内容とした。

今後、上記についての研修会や講演会等の継続により、聴覚障がい児および盲ろう児の早期支援法が医療・福祉・教育・心理の領域で、広く現任者に周知されて実践に生かされ、当事者の幸福に還元されることを期待している。また一般社会に広く聴覚障がい者・盲ろう者の現実的ニーズと、聴覚活用の本来の意義がきちんと理解されるよう、働きかけを継続していく予定である。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【厚生労働研究費（障害者政策総合研究事業（感覚器障害分野））】（課題番号：H30-感覚器一般-001）

・「聴覚障がい児支援のための研修プログラム・テキスト開発のための研究」

【テキスト】

・（共著）『新訂版 聴覚障害教育の基本と実際』

・（編著）『聴覚障害学』

## 学校現場から再構築する LGBTQ+教育 ～理論と実践をつなぐ実証的研究～



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科  
トレーナー・スポーツ経営コース 教授

郡 吉範 Kohri Yoshinori

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 性教育・ジェンダー教育・LGBTQ+・生徒指導・教育相談・教員養成



### 研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 5 : ジェンダー平等を実現しよう

本研究は、教育学の理論と学校現場での実践を往還しながら、LGBTQ+に関する教育の「現場適合モデル」を構築することを目的とする。近年、性的マイノリティへの理解促進が国際的にも国内的にも求められており、文部科学省通知や生徒指導提要の改訂などを通して、学校教育における対応の明確化が進められている。

しかしながら、学校現場では概念理解の不足や用語の誤解、保護者対応への不安、組織内の温度差などが見られ、実践が必ずしも体系的に整理されていない状況がある。

本研究は、こうした現場の混乱や葛藤の構造を分析し、教員が無理なく実践できる指導・支援の枠組みを提示するものである。特に、教員養成および教育委員会での実務経験を踏まえ、理論と実装の間に生じるギャップを可視化することに重点を置く。さらに、「困難を抱える児童生徒」への対応にとどまらず、学習や生活が安定している層への発展的学びの設計やピアティーチングの導入等、学級全体の教育力を高める戦略的アプローチを検討する。

単なる理解促進や知識伝達型の教育にとどまらず、学校組織全体で多様性を支える体制構築、教職員研修モデルの開発、地域・自治体との連携強化へと展開することを目指すものである。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

#### 【実学へのつながり】

- ① 教育委員会および学校現場が直面する LGBTQ+に関する実務課題（相談対応、校内合意形成、保護者説明等）に対し、現場適用可能な指導・支援モデルを提示する。
- ② 教員養成課程および現職教員研修に組み込み可能なプログラムとして体系化し、学校組織全体の対応力向上を図る。
- ③ 発展的学びやピアティーチングを通して、学級全体の多様性理解を高める教育設計を提案する。

#### 【産業界や自治体へのアピールポイント】

- ① 多様性を尊重する人材育成の基盤形成に資する教育モデルを提示し、将来的なダイバーシティ推進に貢献する。
- ② 自治体の教育政策・人権施策の立案および評価に活用可能な実証データを提供する。
- ③ 教育現場・行政・地域をつなぐ連携モデルの構築を通して、持続可能な地域社会形成に寄与する。

#### 【研究に対するニーズ】

- ① 学校現場における LGBTQ+対応の実践モデルに関する体系的な研究へのニーズ
- ② 教員養成と現職研修を接続する教育プログラム開発へのニーズ
- ③ 自治体施策の実効性を検証するエビデンスの蓄積へのニーズ
- ④ 地域社会との協働を前提とした包括的支援体制構築へのニーズ
- ⑤ 政策立案および施策評価に資するエビデンス構築へのニーズ

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ジェンダー視点の導入による教育原理の進化と実践的效果について ～多様性を尊重した教育環境の構築～」
- ・「生徒指導と生命の安全教育における教育職員の役割 ～性暴力防止法を踏まえた児童生徒への指導と支援のあり方～」
- ・「多様性とカウンセリングを取り入れた包括的性教育の推進～教員へのカウンセリングアプローチの視点を通じた学校教育の支援～」

# 子供の「生きる力」獲得・向上のための教師力の獲得・向上



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

佐瀬 一生 Sase Kazuo

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 教員研修・授業経営・学級経営・教科教育 (社会・生活・総合・道徳)



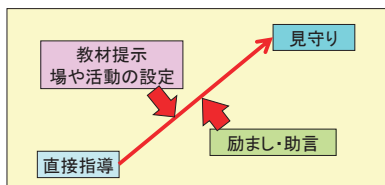
SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

## 研究の概要

小学校教員(担任・管理職)・教育行政・大学教員(交流人事)と、様々な立場で学校教育に関わった38年間を経て、本学に勤務している。この過程で、前半期は授業実践・学級経営を軸にした教育実践に研究の中心があった。後半期そして現在は、子供達のよりよい成長につなげるための教師の力(教師力)、特に、授業実践(授業経営)と学級経営を両輪とした教師力について、教員養成と教員研修の両方にわたる獲得・向上を研究の中心としている。

ICT活用の推進などに伴い、教育方法は大きく変容してきている。しかし「やり方」は変われど「あり方」は不易の部分に係るものである。例えば図に示した「指導のベクトル」である。授業にしても「あり方」と「やり方」の関係を踏まえた構造的かつ効果的なものであることが重要である。学生や教師が目先の「やり方」に振り回されず、地に足をつけて自身の力を高める方策を提示したい。

その一例が「授業力の見える化」DVDである。「授業の達人」の「日常の授業」における様々なポイントを「見える化」して示した教員研修DVDを作成した。現在も大学での授業や教員研修で活用している。このような具体的で活用しやすい「モノ」の作成等も進めていきたいと考える。



【指導の大きなベクトル】



【「授業力の見える化」DVD】

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本来、教師力は長い時間をかけて日々の教育実践を軸にして育つもので、短期間の促成栽培はできない。しかし「多忙な学校現場」「教採倍率の低下」など、学校教育を巡る状況は非常に厳しい。その中でも更なる教育改革が求められ、ICT活用等の教育方法への対応なども伴い、教員の資質・能力の獲得・向上がなお一層、大きな課題となっている。教員研修も「研修疲れ」が叫ばれる中で大きな改革が必要とされている。だからこそ、学生や教員が自己理解をした上で明確な目標やねらいを持ち、それこそ「主体的・対話的で深い学び」をしながら効果的・効率的に獲得していくことが重要である。その流れの上での研修プログラムや資料・教材等の作成・提示を進めていけたらと考えている。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

- ・「授業力の『見える化』～千葉発：達人の授業に学ぶ～」
- ・「大学における教員志望学生を対象とした『実践的教師力育成プログラム』の開発」
- ・「教員としてのホップ・ステップ～磨こう 授業力・学級経営力～」

## 地域学の視点を生かした学校教育・生涯学習



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

佐瀬 一生 Sase Kazuo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：地域学・グローバル・地域史・地域地理・おもしろ半島ちば・フィールドワーク



### 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

「学校と地域の連携」「地域の実態を生かす」等の言葉にあるように、「地域」は学校教育における重要な視点である。例えば小学校社会科では第3学年で「自分たちの市を中心とした地域」を、第4学年で「自分たちの県を中心とした地域」を学習対象にして内容を構成している。また、小・中学校の総合的な学習の時間、高等学校の総合的な探究の時間においては地域のモノ・コト・ヒトを課題にした探究学習が多くおこなわれている。また、生涯学習の場においては、地域に根差した諸活動が展開されている。

本研究では、地域学の視点を学校教育および生涯学習に生かすことについて、特に以下の点から考察し実践化を図るものである。

学校教育においては、学校の「芯」に「地域」を据えることである。具体的には「地域に根差し、世界につながる教育」として「グローバル（ローカル＋グローバル）教育」を中心に置き、カリキュラム編成をおこなう。日本においてグローバル教育はまだ一般的ではないものの、その重要性・有効性に目を向けた学校が小・中・高・大の各学校種で出始めている。まずは、小学校社会科「内容の取扱いの配慮事項」にある「地域素材の教材化」「地域での学習活動の場の設定」「地域人材の積極的活用」を各学年・教科にできることをできるところからできる範囲で広げていく、という考え方から始めていくことである。

生涯学習においては、特に千葉県をフィールドとした地域史や地域地理の立場から、具体的素材を幅広く取り上げ紹介したり、実際に現地に赴いて活動するフィールドワークプログラムを策定したりするものである。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

#### 【学校教育】

学校に求められる「〇〇教育」は数え切れないほど多くある。それらを総花的に取り込もうとすると、教育活動は羅列的になり、ただ「こなす」ことに追われがちになる。1つの「芯」を据え、その芯に関連付ける形で他の「〇〇教育」を配置することで、教育活動は構造的に展開できる。その「芯」として「グローバル教育」は極めて適しているといえる。その「地域をベースに世界につながる」考え方は、国際理解だけでなく、福祉、人権、環境、情報、政治、経済、文化、芸術などあらゆる面に適用できる。グローバル教育の視点から学校教育を構築し展開することについて、文部科学省教育課程特例校（2019年度指定）経験も活かし、可能であれば実際の市町村教育委員会・学校と関わりながら進めていくことができると考えている。

#### 【生涯学習】

現在も千葉日報紙上において「駅から2kmのおもしろ散歩」コラム掲載をしているが、千葉県というフィールドを「おもしろ半島ちば」の言葉で表し、その多様な魅力を発信していきたい。生涯学習に係る公開講座等でも対応可能である。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- ・「教員養成学部における「地域の教育」に関する授業の意義と実際」
- ・「地理から学ぼうちばの魅力 おもしろ半島ちば」・「同2」・「同3」
- ・「おもしろ半島ちば 駅から2kmのおもしろ散歩」

## 適切なワークライフバランスと教育効果を実現できる学校教育の展開



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

佐瀬 一生 Sase Kazuo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：ワークライフバランス・教育効果・「程々の学校」ベース化・学校ダイエツトプログラム



### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

「学校・教員の多忙化」改善に向け、「働き方改革」の各種取組がおこなわれているが、その実質的進展は甚だ心許ない状況であるといえる。「教員は超大変」「学校はブラック職場」の声が止まず、教員採用選考の低倍率が定着化していることは、それと無関係ではあるまい。

一方、学校への諸方面からの社会的要請は更に増加の様相を見せ、急ピッチで策定作業が進む新学習指導要領も、どうやら学校・教員の負担減にはなりそうもない。この流れでは、学校ではアクセラとブレーキを同時に踏むような混乱が一層続き、教職員達はさらに疲弊していくことになりはしないか。教職員が心身を削り常に全力を強いられる状況では学校教育の充実はあり得ない。

「ゆとりと充実」は約50年前の言葉であるが、学校教育充実のためには教職員の心身のゆとりは必須であろう。「教育は国家百年の大計」であるが、ここ数年が今後の学校教育のあり方を決定づける分水嶺と考えられる。

今大切なのは「適切なワークライフバランスの中で教育効果を挙げる学校」を無理なく実現化していく道であるとする。本研究では、学校経営や学級経営、授業経営、教職員業務などの諸観点からその道を探り、現実的・具体的な方向性や方策を考察していきたい。まずは、「オール100点」ではなく「平均80点」の「程々の学校」づくりをねらいに定め、そのベース化に向けた「学校ダイエツトプログラム」検討からのスタートと考えている。もちろん学校だけで成し得るものではなく、市町村（教育委員会）・都道府県（教育委員会）の役割も大きい。国の教育行政はもとよりである。家庭や地域などの人々も社会参画者として主体的に関わる必要がある。学校・教職員を中心に据えつつ、学校を取り巻くそれらにも目を向けながら、考察を進めていきたい。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

どこの学校でも、どこの市町村でも、学校改革・教育改革が必須とされ、さながら競争をしているかの如き様相を見せている。「成果」のアピール合戦も盛んにおこなわれている。「先進」として走っていけるところはそれでよいのだろうが、一般のごく普通の学校にとっては、「MUST（～しなければならない）」ばかりでは辛い。無理が重なると続かず折れる。教職員はスーパーマンではないのである。

同じ目的に向かう上でも「できることを、できるところから、できる範囲で」積み重ねる方が、より確かな道であるのではないかと。特に一般の公立小・中学校にとっては。

無理なくその学校や地域・市町村の実態・状況に合った改革推進の道を探り、その内容・方法を明らかにすることで、教職員も児童生徒も健康的な生活の中で教育成果を高めることにつながるだろう。可能であれば実際の市町村教育委員会・学校と関わりながら進めていきたい。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・千葉県学力向上推進会議
- ・千葉県小中学校教育課程推進会議



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 講師

佐藤 かほり Sato Kahori

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：学習障害・学び方の多様性・通常の学級・通級による指導・早期の教育的対応



## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

認知発達の特徴が要因となる学習上の困難は、早期の教育的対応がなされなければ学年進行とともに困難が深刻化するとともに、学習意欲や自己肯定感の低下等の二次的な問題を引き起こすリスクが高いことが指摘されており、予防的な視点が重要である。自身の教育行政における臨床実践を踏まえ、今後の課題は以下2点と捉える。

### I. 通常の学級における早期の教育的対応の実態把握

認知発達を背景とした学びの困難について就学後早期段階での詳細な見立ては難しい。しかし神経心理学的検査結果や医師の診断を待った対応ではなく、教員の早い段階での気付きをもとに通常の学級における学びの困難に特化した教育的対応の好事例や教育的対応を阻害する要因、また有効な指導や支援につながるアセスメントについて、その実態を明らかにする。

### II. 学びの困難を有する子どもが「自走できる」力を育むシステムの構築

学びの困難を有する子どものうち、特に認知発達の特徴を背景とした学びの困難については、教育環境の整備が重要である。子どもの学びの困難を保護者や教員を含む指導者・支援者が認識し、どのような学び方が望ましいのか(学び方の多様性)について検討を重ね伴走することで、子どもの自走力を育む産官学の協働システムの構築を目指す(図1参照)。

2024年度より『帝京平成大学中野こども楽舎』が開設された。中野キャンパス近隣の小学校2年生を対象に、学びのつまずきに対する早期対応を目的として、学生と教員が協同し学習支援や余暇活動をおこなう地域連携事業である。

2025年度からは、『児童研究I・II』の授業科目として位置付けられた。教員養成課程の学生が参加児童との信頼関係を構築し、児童理解を深め、参加児童の教育的ニーズや興味関心に応じた教材等について考える力の育成を目指している。



図1 産官学協働システムのイメージ

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

GIGA スクール構想により各小中学校において、ICT活用が推進されているものの、子どもが学びのツールとして自由に利用可能な状況とは言い難く、その活用方法は学校現場において模索段階と言える。就学後早期段階における認知発達の特徴を背景とした学びの困難については、特にICTを活用した指導・支援の為のアセスメントツールや個別最適化された教材の開発が求められる。保護者や指導・支援者の伴走が最小限であっても、子どもが自力で取り組める仕様こそが「学びの持続可能性」を高めると考える。

文部科学省の調査(2022)によれば、通常の学級担任が学習困難を指摘した児童の割合は小学校低学年で1割近くに及んでおり、就学後早期の教育的対応が望まれる。産官学協働システムの具現化により、認知発達の特徴により学びの困難を有する子どもたちに関わる早期教育的対応モデルの構築が期待される。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

「学習障害(LD)における早期の教育的対応に向けた一考察」

# インクルーシブ教育の中で視覚障害教育を効果的に進めるための研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

左振 恵子 Saburi Keiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 視覚障害教育・自立活動・早期教育・専門性・放課後等ディサービス・歩行指導・日常生活動作 (ADL) 指導



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 10: 人や国の不平等をなくそう

視覚障害教育は、生徒の見え方と生徒自身の経験によって、指導方法や支援方法が変わってきます。しかし、視覚障害領域の教員免許取得者が少ないことと、生徒数の減少による教員の実践経験の不足により、効果的な視覚障害教育の維持継承が難しくなっています。視覚障害生徒の能力が最大限に育むことができるような指導を目指し、問題を整理し、課題を挙げ、方途を考えていくことが研究の目的です。現段階で把握している問題のうち二つを以下に提示します。

### ○視覚障害は初期の取り組みが大切

盲学校の幼稚部の乳幼児相談では、見えない・見えづらい乳幼児の子育てや遊び方について、保護者の方に寄り添いながら、お子さんの様子を見ながらお話をしていきます。この取り組みを通して、触ることの面白さや見ることの楽しさなどを子どもが体験し、外の世界を知る足がかりを作ります。この体験を積み重ねたものが経験となり、上級学校での学びに繋がります。しかし最近では、視覚障害故に必要な取り組みがなされないケースが散見され始めています。

### ○視覚障害生徒用の文房具類の製造中止が多数

点字を使っている児童生徒は筆算をすることが難しく、低視力の弱視児童生徒も筆算をしている内に書き間違えてしまい誤答になってしまうことが多々あります。そのために盲学校ではそろばんの指導が重要になります。彼らが使うそろばんは、玉が動きづらい特別なそろばんです。この大切なそろばんが2024年製造中止になりました。過去には、打ちやすかった木の点字盤、児童生徒が使いやすいと言っていたレーザーライターと立体コピー用紙も製造中止になりました。弱視生が使う拡大読書器も国内では生産中止となりました。

次に危ないのは大量の点字の印刷ができる点字プリンターです。メンテナンスができる人がいなくなりつつあります。点字使用生徒に必要な筆記用具や教具がなくなる可能性があります。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### 【実学へのつながり】

本研究は、盲学校（視覚障害に特化している特別支援学校）の役割をあらためて見直すことにより、療育、保育園、幼稚園や普通校に在籍している視覚障害幼児児童への指導や支援、教育を効果的におこなうための方法を示唆することができます。

### 【協力可能事項】

視覚障害幼児児童生徒が在籍している園や学校に対して、勉強会の開催や助言をおこなうことができます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

・「手指動作を中心とする発達順序性－視覚障害生徒の日常生活動作再指導に活かす－」

### 【学会発表】

・「視覚障害生徒の日常生活動作の再指導方法についての提案(1)～(3)」

・「視覚障害教育の基礎・基本の再確認Ⅲ-点字使用児童生徒に対する指導-」

# ICT を活用したアクティブ・ラーニング型授業の実践的研究



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科

作業療法コース 准教授

庄司 一也 Shoji Kazuya

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : アクティブ・ラーニング・ICT・PBL・学習成果の可視化・キャリア教育



## 研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 8 : 働きがいも 経済成長も

アクティブ・ラーニング（能動的な学習）が注目され多くの教育関係者に多大な影響を与えた。しかし「アクティブ・ラーニング」の言葉ばかりが先行しその中身が伴わない教育や表面的な学習も課題となった。

そこで本研究では以前より主体的な学習についてさまざまな手法を用い実践してきた筆者が、過去の課題等も踏まえ、学習者にとって真に主体的で深い学びとなるアクティブ・ラーニングを実践する。その際、LMS やビデオ配信サービス、AI 等の ICT ツールを有効活用しながら、質の高い学びになるよう教育改善を図る。またグループワークやディスカッションにおいて表面的な学習にならないよう、十分なクラスデザインを行い、同時に介入と見守りを使い分け適切な学習環境を構築する。

そして、学習成果や課題を AI やテキストマイニングソフトによって分析し、独自の可視化手法を用いて学外に情報発信するとともに、対外的評価を受けさらなる教育改善を図るものとする。

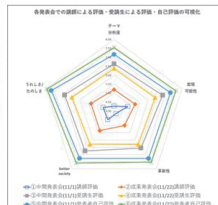


本研究におけるアクティブ・ラーニング  
→“実学”を徹底的に重視した教育や実践の場において  
主体的・協動的な学びの環境を構築

- ICT(LMS、ビデオ配信サービス、AI等)の有効活用
- 十分なクラスデザインと、介入と見守りを使い分け、適切な(主体的・協動的な)学習環境を構築



地域の産業界・自治体と連携した  
キャリア教育や課題解決型イン  
ターンシップ(PBL・PBI)等を展開



学習成果をAIやテキストマイニングによって分析し独自の可視化手法を用いて学外(地域)に情報発信

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

アクティブ・ラーニングによって、学生の主体的な態度と、知識・技能を育成します。

前者は、何事にも積極的に取り組む姿勢や協調性および人間性を向上させます。

後者は、汎用的能力を育成し、地域および産業界、自治体等へ幅広く貢献できる人材養成を目指します。

この学びでは、教室内授業にとどまらず地域の産業界・自治体と連携したキャリア教育や（課題解決型）インターンシップ等を通して早期に社会人と接点を持ち、学生の気づきを促し就業意識を高めることにも寄与します。

そして外部と連携することで一定の緊張感の下、適切なクラスデザインにより学習効果を より一層高めます。

地域および産業界、自治体等にとっても、早期に学生との接点を持つ貴重な機会となり、学内外の多くの関係者にとって有益な学びの機会となるような内容を目指します。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・市原市のゴルフ場（ゴルフ場運営管理会社）との連携による課題解決型インターンシップの報告 ～文部科学省「大学等におけるインターンシップの届出制度」の6つの必要な要素を満たすインターンシップの一事例として～

・「いちばら版 Get The Point」による SDGs 教育の充実と振り返りレポートを基にしたキャンパス間の比較・分析

## 小学校音楽でのよこ笛導入の社会実装モデル — 器楽教育の多様化と地域文化継承の両立 —



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 助教

新保 江美 Shimbo Emi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 小学校音楽・よこ笛・文化継承・音楽教育・器楽教育



### 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

地域文化の継承危機と学校器楽教育の画一化が進む中、教育と文化の課題を同時に解決する実践モデルの構築が求められている。本研究は、教育用よこ笛（ファイフ）を小学校音楽に導入し、児童の音楽的理解を深めるとともに、器楽教育の多様化と地域文化継承に資する持続可能な教育システムの構築を目指す。

よこ笛は神事や祭囃子など日本の生活文化に根ざした楽器であるが、現行の小学校音楽では篠笛の紹介とどまり、演奏体験の機会は乏しい。リコーダーとファイフを併用して学ぶことで、児童は楽器構造や音色の違いを体験的に理解できる。また、よこ笛は共通の発音メカニズムを持つため、一種類を習得すれば他種への移行が容易であり、学習負担も小さい。ファイフはリコーダーと同素材・同価格帯で導入しやすく、他種の教育用楽器として、篠笛や能管も存在する。

学習指導要領が掲げる「生活や社会の音楽と豊かに関わる資質・能力」の育成に対し、よこ笛は具体的な教材となり得る。小学校段階での基礎的体験は、中学校で扱われる篠笛学習の円滑化にもつながり、さらに地域例祭の担い手不足といった社会的課題にも寄与する。

本研究では、(1) 教育用よこ笛教材パッケージの開発、(2) 教員向け指導法の体系化と研修、(3) 学校・地域・産業界を結び連携プログラムの設計・評価をおこなう。これにより、器楽教育の多様化、地域文化振興と人材育成、教材開発の新たな機会を創出し、教育と文化継承を両立するモデルとして社会実装を目指す。



上: ファイフ 下: リコーダー

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

#### 【実学へのつながり】

たて笛・よこ笛の並行学習で、構造・音色理解と探求心の育成。よこ笛習得は他のよこ笛に应用可能で効率的な学習を実現。

#### 【産業界や自治体へのアピールポイント】

祭礼・伝統音楽の担い手の育成。観光資源としての文化価値の強化。

#### 【協力可能事項】

教材・指導法の開発。教員研修やワークショップの実施。学校・地域イベント連携の提供。

#### 【協力希望事項】

自治体と文化継承プロジェクトの推進。産業界・教育機関との普及ネットワークの構築。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「文部省器楽教材『合奏の本』『小学校の合奏』におけるよこ笛の取り扱いに関する分析」

【学会発表】「音楽教育におけるよこ笛導入の可能性—教育用よこ笛「ファイフ」を使用した授業の実践教育（1）—」

# レクリエーションの教育・保育・福祉での活用



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

鈴木 邦明 Suzuki Kuniaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : レクリエーション・コミュニケーション・子どもが育つ環境・体力低下・健康



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

新型コロナウイルスにより社会はさまざまな影響を受けた。病気に関しては、さまざまな研究などがされたことにより一定の落ち着きを見せている。しかしながら、教育や保育の分野においては、病気とは違う面での影響が指摘されている。コロナ流行の初期には、人との関わりが制限され、コミュニケーションにおける影響が指摘された。学校においてタブレット/PCが常用されるようになり、その影響も小さくないであろう。人との関わりが制限されたことなどの影響は未知数である。子どもの自殺者数が過去最高であったことは、人との関わり方の変化が何らかの形で影響を与えていたことが伺われる。また、文科省の統計によると、小学校の低学年での不登校の子どもが増え、また低学年での暴力件数も増えている。これらは乳児期、幼児期にコロナの流行があったことと関連が窺われている。そういった状況において「レクリエーション」の活用により、子どもの育ちなどに良い影響を与えることが可能である。

WHOは健康の定義を、下図のように「physical : 体 (身体性)」「mental : 心 (精神性)」「social well-being : 仲間 (社会性)」の3つとしている。

現代社会において、単に身体的に問題が無いことが健康なのではなく、精神的にも、社会的にも問題無く暮らすことができていることが健康であることを意味している。様々なレクリエーションを教育・保育・福祉などの現場において取り組んでいくことは、良好な生活を作り上げていくことにつながっていく。

また、そういったレクリエーションの手法は地震などで被災した人の生活の質を向上させる可能性がある。レクリエーションは身体的だけでなく、精神的にも社会的にも良い形で働いていく可能性を秘めている。

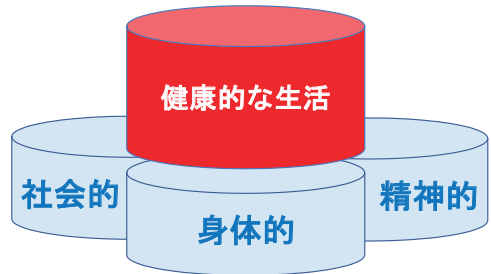


図 : WHO 健康の定義

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

子ども時代にどのように身体を動かし、それをどのように感じたのかということは、その人のその後の生活に大きな影響を与えている。それらは、長期的な視点では、医療費や介護費などの社会保障費の問題と関連する重要な問題である。また、地震などの大規模な災害においては健康の維持が重要となる。状況に合わせて体を動かす活動は被災した人の生活の質を上げることと大きく関連し、震災関連死を減らすことにつながっていく。

知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「子どもの心と体のストレスを緩和する リラックス学級レク 75」
- ・「子ども時代の運動好意感がその後の運動習慣に与える影響」

# 聴覚障害教育の専門性向上に向けた教員養成の在り方



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

鶴田 敦司 Tsuruta Atsushi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 特別支援教育・聴覚障害・指導法・授業改善



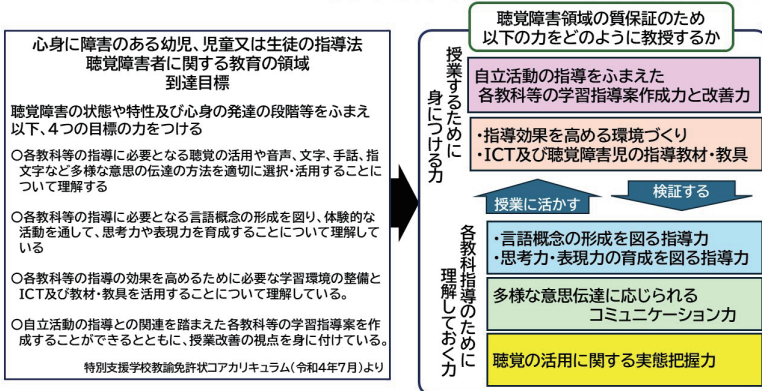
## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

「令和の日本型学校教育」の構築を目指す答申が出され、特別支援教育を担う教師の専門性向上を図る重要性が指摘されています。その会議の中で、特別支援教育の充実に関し、大学へも様々な提言がなされてきました。それを受け作成されたのが「特別支援学校教諭免許状コアカリキュラム」です。本コアカリキュラムは、全国の大学において一定の基準を設定し、教員養成の質保証を実現することに目的をおいています。聴覚障害領域に関する授業においても、本コアカリキュラムに基づいたシラバス作成及び授業内容の転換を図ることが重要になっています。

私の研究は、聴覚障害教育の専門性向上を目指すことを目的とし、聴覚障害教育に携わる教師の質保証の観点から、コアカリキュラムに基づいた聴覚障害教育の指導法および教育課程における教授方法の在り方について実践・検証を重ねていきます。特に指導法における学生の実践的な授業力の向上を図るため、聴覚障害がある幼児児童生徒の実態を把握する力に焦点をあて、どのように大学の授業を計画、実践、評価していくかを探っていきます。

## コアカリキュラムに基づいた教員養成大学における教授方法の研究



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、聴覚障害のある子ども達の教育を担う教員養成のための研究になります。高等教育機関である教員養成に取り組む大学の特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムに即したシラバス作成や授業改善につながります。

特に、実際のろう学校での教員経験を活かして、今後の指導法の取り組みにおいて、学生の模擬授業の実施方法及び評価等の在り方について考察していく研究になります。

また、特別支援学校（聴覚障害）の初任者研修等の校内・外での研修内容につながる実践研究にもつながると考えています。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 『聴覚障害教育における「主体的・対話的で深い学び」』
- 『特別支援教育転換期から見る聴覚障害教育の動向と課題』
- 『教職課程コアカリキュラムを反映させた「聴覚障害教育の指導法」の在り方』

# 発達障害児への実態把握にもとづく効果的支援研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

鶴田 敦司 Tsuruta Atsushi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 特別支援教育・発達障害児・アセスメント・教材研究



## 研究の概要

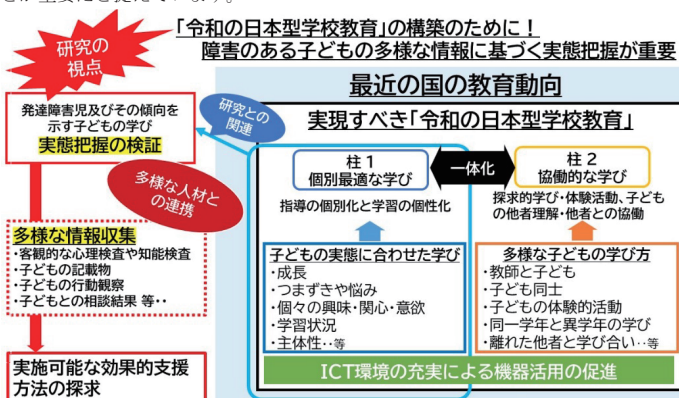
SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 10: 人や国の不平等をなくそう

文部科学省は「令和の日本型学校教育の構築を目指す(答申)」の中で、全ての子どもたちの可能性を引き出す、ICT機器の活用を視野に入れた個別最適な学びに触れるとともに、教師間および外部の異なる知見をもつ人材の組織的な活用を述べています。

特に、発達障害およびその傾向を示す子ども達の個別最適な学びを進めていくためには、子どもの認知特性、学習上の困難さ、社会自立の障壁となっている課題等の子ども一人一人の実態把握が欠かせません。

また、適切な実態把握を進めていくためには、心理検査をはじめとした様々な検査や子どもの行動観察、子どもとの対話内容等、多様な情報収集をおこなうことが必要です。そこから導き出された子どもも像にあった支援方法や教材の有効性を検討していくことが重要だと捉えています。

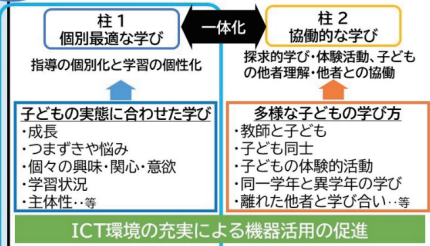
私の研究は、この一連の流れにもとづき、学校や家庭において実施可能な実態把握の方法を検証することから始めています。そして、学校以外の人材を通じて得る情報を関連させたり、得た子ども像から実施可能な支援方法を探り、検証したりする実践的研究に取り組んでいます。



「令和の日本型学校教育」の構築のために！  
障害のある子どもも多様な情報に基づく実態把握が重要

## 最近の国の教育動向

### 実現すべき「令和の日本型学校教育」



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、特別支援学校だけではなく、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において困難さを示す子ども達の適切な実態把握につながります。実際に学校現場において、特別支援教育に関わった教師としての経験を活かした学校現場目線の支援方法や教材づくりの相談および提供ができます。特に、「個別の指導計画」の作成および「個別の教育支援計画」の策定について重要な PDCA サイクルにつながる研究であると考えています。

また、今後重要となる多様な特性の子ども達に接する教師の専門性の向上に貢献でき、学校全体として個々の子ども達へ組織的にどのように取り組むのかを導ける研究になると考えています。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「Vineland-II 適応行動尺度と WISC の分析をもとにしたアセスメント方略研究」
- ・「平成 30 年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業成果報告」
- ・「特別支援学校(聴覚障害)における「個別の指導計画」作成の方向性」

「一次のことば」から「二次のことば」への円滑な接続  
～言語環境を中心としたスタートカリキュラムの作成を通して～



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

寺岡 聡志 Teraoka Satoshi

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：保幼小連携教育・言語環境・スタートカリキュラム・  
学校段階間の円滑な接続・音声言語と文字言語



## 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

本研究のテーマは『一次のことば』から『二次のことば』への円滑な接続である。研究の背景・目的、方法は以下の通りである。

### 【研究の背景と目的】

幼児教育と初等教育の円滑な接続が希求される要因として、幼児教育と初等教育の「学び方の違い」が挙げられる。一方、岡本夏木の論考からは、幼児教育と初等教育の接続にあたる入門期は、『一次のことば』から『二次のことば』への移行期でもある。つまり入門期とは、「学び方の大転換」という側面だけでなく「言語環境の大転換」という側面がある。

そのため本研究では、幼児教育と初等教育の円滑な接続を実現するために、言語環境を中心としたスタートカリキュラム並びに国語科のカリキュラムを作成することが目的である。

### 【研究の方法】

- ① 国語科教科書の入門期の学習材に見られる「一次のことば」と「二次のことば」の実態調査
- ② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動における児童の「一次のことば」と「二次のことば」の実態調査
- ③ ①②の調査を鑑みた、「一次のことば」から「二次のことば」への円滑な接続を実現するスタートカリキュラム並びにカリキュラムの作成

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

### ■「幼児教育と初等教育の円滑な接続」を実現

学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続を希求している。その要因として挙げられているのは幼児教育と初等教育の「学び方の違い」である。一方、幼児教育と初等教育の接続にあたる入門期は、「子どもを取り巻く言語環境」の転換期でもあり、「コミュニケーションの側面」からも「学びの対象の側面」からも「一次のことばから二次のことばへの転換」の時期にあたる。そのため、「学び方」だけでなく「子どもを取り巻く言語環境」を鑑みた上で、幼児教育と初等教育の円滑な接続の実現を図っていく。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

- ・「生活科との関連を図る上での国語科教科書の役割に関する一考察  
～身近な自然を観察する学習を手がかりに～」
- ・「小学校1年次における『説明的な文章を書く活動』の困難要因に関する一考察  
～発達心理学の論考を手がかりに～」

# 国語教育における主体性の育成に関する一考察



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

寺岡 聡志 Teraoka Satoshi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 国語教育・学びに向かう力・円滑な接続・幼小連携教育・発達心理学



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

本研究のテーマは幼児教育における保育者の支援を手がかりに国語教育における主体性の育成を図ることである。

### 【研究の背景】

○学校教育法 30 条第 2 項に、学力の 3 要素の一つとして「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」とある。またこれを受けて現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善が希求されている。すなわち、将来の変化を予測することが困難な時代を切り開いて生きていくためには、主体的に取り組む態度を育成することが肝要となる

○学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続が求められている。またその具体的な方策として「幼児期の終了までに育ってほしい幼児の具体的な姿」や「幼児教育のスタートカリキュラム」等が示されている。すなわち、子どもの途切れることのない育ちを支援し援助するためには、小学校教諭も幼児教育の実際を知り、その支援や援助の方法を学習指導や児童理解に生かすことが肝要となる。

### 【研究の方法】

- ・幼児教育の支援や援助を援用し、初等教育の旧来の学習指導方法を見直し改善を図る
- ・発達心理学の論考等を援用し、児童の発達段階に即した単元計画の見直し改善を図る

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

■主体性育成の手がかりを「幼児教育における保育者の支援や手立て」に希求している点

・学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続が求められている。その具体的な方策として「幼児期の終了までに育ってほしい幼児の具体的な姿」が示されている。すなわち、子どもの途切れることのない育ちを支援し援助するためには、小学校教諭も幼児教育の実際を知り、その支援や援助の方法を学習指導や児童理解に生かすことが今求められている。

よって、以下のニーズが考えられる。

- ・「将来の変化を予測することが困難な時代を切り開いて生きていくため」の具体的な方策の一つとなりうる
- ・「幼児教育と初等教育の円滑な接続」のための具体的な方策の一つとなりうる

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「生活科との関連を図る上での国語教科書の役割に関する一考察  
～身近な自然を観察する学習を手がかりに～」
- ・「小学校 1 年次における『説明的な文章を書く活動』の困難要因に関する一考察  
～発達心理学の論考を手がかりに～」

# 対話力（話し合う力）が身につく授業



【池袋キャンパス】ヒューマンケア学部 柔道整復学科 教授

富田 晴生 Tomita Haruo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

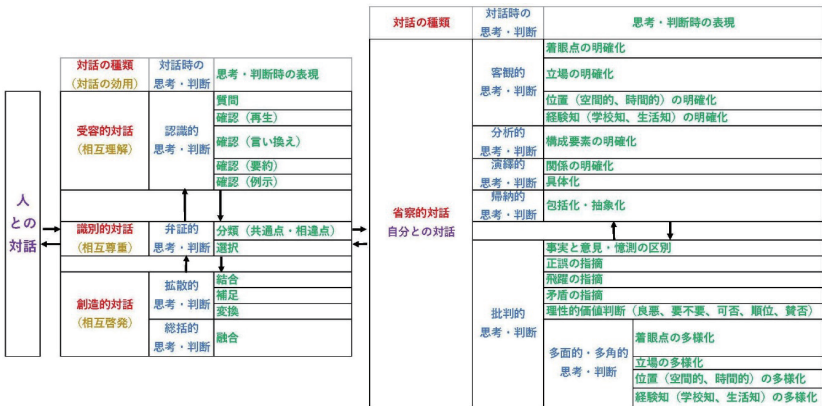
キーワード：国語科教育・話す、聞く・思考力、判断力、表現力・対話



## 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

学校で児童生徒に話し合いをおこなわせるときの教師の指導活動には次のようなものが多い。「①課題提示→②話し合いのやり方の説明→③開始の指示→④机間指導→⑤各グループに話し合いの経過と結果発表の仕方を指示→⑥学級全員での交流とまとめ」。この中で、②の話し合いのやり方についての研究授業をおこなう学校が増えている（例えば、KJ法、ワールドカフェなど）。このとき児童生徒は、話し合いのやり方・形式に沿って話し合おうと努力する。しかし多くの場合、この努力は、話し合いで重要なはずの考え・ことばの深化・拡充よりも形式の遂行による成就感を獲得する方向へと向かう。たしかに、形式によって自他の考え・ことばが深化・拡充することはある。しかしどのような形式で話し合うにしても、相手の考え・ことばのとらえ方(受容)、自他の考え・ことばの比較の仕方(識別)、自他の考え・ことばが生きる新しい考え・ことばのつくり方(創造)、これらの習得・活用がなければ、その話し合いは浅薄な流れと結果を生む。受容、識別、創造の各対話力の習得・活用につながる学習指導活動の構築と実践をめざしたい。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

児童生徒の対話（話し合い）が授業において重要だということは理解しているがそのやり方がよくわからないという教員が学校にいる場合、教員の授業力を高めるための研修会や研究授業後の研究協議会等で、児童生徒の対話力育成のための視点や具体的な方法を提供することができる。また児童生徒の対話（話し合い）を授業の中でどう生かすのかについて、教職課程に学ぶ学生の模擬授業や教育実習時の授業等での学習指導案の作成に活用させることができる。さらに職場で日々開催されている会議を機能的かつ生産的におこなうための視点と具体的な方法を提供することができる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「改訂版 道徳教育のフロンティア」
- ・「学校で育む対話力」
- ・「教育と教職のフロンティア」

# パネルシアターに関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

松田 聖子 Matsuda Shoko

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：パネルシアター・児童文化財・造形表現



## 研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

パネルシアターとは児童文化財の一つであり、1973年に古宇田亮順により考案された。パネル板にPペーパーで作った絵人形を貼ったり外したりしてお話し、歌遊び、ゲーム等を展開していく。

現在、多くの保育者養成校で授業にパネルシアターが取り入れられている。またパネルシアターは多様な科目で取り扱われ、各校が独自の方法で授業実践や評価をおこなっている。

本研究ではパネルシアターを授業に取り入れている複数の養成校の教員が、授業内容の開示をおこなう。またパネルシアターに関する授業を受講した学生に共通項目のアンケート調査をおこない、学びの実像を明らかにする。



図1：パネルシアター自己紹介



図2：なぜなぜ・おはなし

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

パネルシアターを授業に取り入れる、より良い方法を探ることにより、パネルシアターの文化が幼児教育・保育で更に広がっていくことが期待できる。

また学生がパネルシアターの制作方法や演技方を習得することで実習や現場で身近な文化財として活用していくことができる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

2024年度 日本保育学会でポスター発表

## 保育者養成校における実務家教員の担う役割



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

松田 聖子 Matsuda Shoko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 実務家教員・保育者養成



### 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

本研究では全国の指定保育士養成校を対象にアンケート調査を実施し、保育者養成校における実務家教員の実態を明らかにすることを目的とした。514校に調査を依頼し、103校から回答を得た(回答率21%)。回答校の内訳は、4年制大学と短期大学がほぼ半数ずつであり、専門学校からの回答は少数にとどまった。専任教員に占める実務家教員の人数は1名から10名以上と幅があり、年齢構成は50代、60代が多く、次いで40代であった。保育者としての実務経験年数は5~9年が最も多く、次いで20~29年、15~19年となり、養成校教員として一定程度の現場経験が求められている実態がうかがえた。

業務遂行上の困難については、研究活動において「困っている」と回答した割合が40%を超えた。一方で、授業や学生指導、保護者対応については、「問題はない」とする回答が6割以上を占め、実務家教員がこれまで培ってきた現場経験が、養成校教育において有効に生かされていることが示された。実務と研究という性質の異なる業務を並行して担うことの難しさとともに、実務家教員ならではの強みも浮かび上がる結果であった。

今後は、本調査を基礎資料として、実務家教員個々のキャリア形成や、養成校が実務家教員に期待する役割について、質的調査も含めた検討を進めていきたい。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

実務家教員の存在は実学へ直結すると考えられる。実務家教員がその力を発揮し、強みを活かす環境とはどのようなものであるか明らかにしていきたい。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

本研究は2024年度 日本保育者養成教育学会の助成を受けて実施した。



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 講師

村山 大樹 Murayama Taiki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 幼児教育・子ども学・教育学・遊び・ICT



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

本研究の目的は、**幼児期にふさわしいデジタル体験**と、それを保育活動に取り入れるための**具体的な方法論**を明らかにすることである。

これまで、幼稚園・小学校・中学校・不登校支援の場における ICT 活用の実践研究や教材・玩具開発に携わってきた。この中で幼児期のデジタル体験の必要性和有用性は見出されてきたが、それを保育実践にするための具体的な方法論を確立することが今後の課題となっている。

このためには、多様な教育現場での実践との比較から、幼児期ならではの**方法論の生成**が必要である。特に、幼児教育の特徴である遊戯性や、環境構成と遊びを通じた指導によって、子ども個々の学びを捉えていく教育方法を大切にしたい。

現在、①理論研究(遊び・学び・ICT活用等)、②実践研究(各種教育現場)、③方法論考察を順次実施している。

本研究の遂行により、**新時代を生きる子どもたちとデジタルとの最初の出会いの在り方**をデザインすることに貢献したい。



図1 保育現場での実践



図2 ICT教材の体験(大学授業)



図3 保育活動の検討(保育者研修)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

保育者が自信を持って ICT を活用した保育活動を実践できるようになり、幼児教育の充実に貢献することが本研究で期待される成果である。また、教育実践を叶える新たな教材・玩具等の開発につなげ、研究の成果を広く社会に還元したい。

デジタルの進化により、超効率化が押し進められる現代社会。研究を発展・深化させ、**デジタルの良さと危うさを丁寧に明らかに**することで、**翻って人にしかできないことや教育・保育の重要性を改めて位置付けていく**ことが大切だと考えている。

- ・乳幼児向けの新しいデジタル体験を支える**教材や玩具の開発**に役立つと期待できる。
- ・保育者研修や保育者養成課程における**教育・研修プログラムへの利用**が期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

### 【科研費】

- ・(若手研究 18K13136) 「幼児教育における ICT の活用～年齢別プログラミング体験活動プログラムの開発～」

### 【出版物・論文】

- ・「あそびのたねずかん」
- ・「プログラミングの思考に留意した幼児向けプログラミング活動に関する実践研究」

# 生成 AI や仮想空間を活用した道徳科授業の開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科  
トレーナー・スポーツコース 教授  
**矢作 信行 Yahagi Nobuyuki**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 生成 AI ・ 仮想空間 ・ 道徳的問いの探究

## 研究の概要

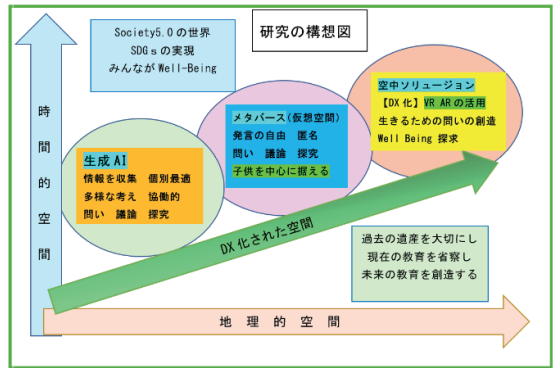
SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

日本には江戸時代後期より儒教思想に基づく伝統的な道徳教育があった。戦後になり修身科は廃止され、道徳は、日常生活の中で教えればよいとする全面主義道徳と特設の時間を設けて道徳を教育すべきだという二つの意見に分かれた。結局、1958(昭和33)年に「道徳の時間」が小中学校の教育に取り入れられた。やがて、道徳の時間においては、心情理解を中心とする基本型とよばれる指導過程が定着し、日本全国に浸透した。

しかし、心情理解を中心とする道徳の時間も、価値観の多様化、ICT・AIなどの科学技術の目ざましい進歩により変革を求められるようになった。2015(平成27)年に、道徳科は他の教科に先駆けて学習指導要領の改訂がおこなわれた。そこでは、豊かな心や心情が大切にされた道徳教育から、エビデンスに基づく議論により、科学的・論理的な思考を重視し、社会正義に重きを置く道徳教育へと変化を遂げた。

「Society5.0」の時代に入った今日、フィジカル空間とサイバー空間（仮想空間）の入り混じった空間で我々は生活していくことになる。つまり普遍的価値観を探究するだけではなく、そこに集まった人々が、お互いの良さを認め合いながら、よりよい生き方を自ら探究しなければならない時代である。そして、生成AIや仮想空間を活用しながら協働的な学び合いを構築し、新たな価値観を創造しなければならない。つまり、未来の道徳科授業をどう創り上げていくのかという学術的な問いがここに見いだされる。

本研究の目的は、学習者自らが問いをたて、それを探求する道徳科授業を目指す。そのために生成AIやメタバース・VRなどの仮想空間を活用して、子どもたちが楽しくアクティブに学び合える道徳科の授業を開発することである。研究の方法は、臨床的な授業検証を小学生、中学生、大学生を対象に実施しその結果を基に、道徳科授業への有効性を検証している。今後、発展的にホログラム、インタラクティブ映像の導入や授業で活用する360度動画の開発など「未来志向の道徳科授業」を開発する。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

道徳的な「考え議論する授業」の先に、よりよい解決に導く実学的な学びを構築する。問題を解決するためのワークショップやアイデア創りをする。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・「多様な思考形態を取り入れた、創造的な道徳授業の探究」

【所属学会】日本道徳教育学会 日本教材学会

## 中国総合実践活動におけるコンピテンシー育成



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 講師

元 笑予 YUAN Xiaoyu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 中国・総合実践活動・コンピテンシー育成・総合的な学習（探究）の時間・特別活動・道徳教育



### 研究の概要

本研究は、中国の小学校・中学校・高等学校における必修課程「総合実践活動」に焦点を当て、その制度的特徴と教育的役割を明らかにすることを目的とする。「総合実践活動」は、体験的学習・探究的学習・社会参加を重視する中国独自の教育領域であり、近年はコンピテンシー育成の観点からその重要性が再評価されている。しかし、理念と実践の乖離、学校段階による実施の差異、教員の指導力のばらつきなど、多くの課題も指摘されている。

本研究は、こうした現状を踏まえ、同活動が児童・生徒のコンピテンシー育成にどのように寄与し得るのかを多角的に検討する。さらに、日本の教育課程における「特別活動」および「総合的な学習（探究）の時間」との比較を通して、「総合実践活動」の特質をより精緻に位置づける。日本の二つの領域は、それぞれ集団活動による社会性育成、課題解決的な探究学習を重視しており、中国の「総合実践活動」はその両者の性格を併せ持つと考えられる。本研究では、両国の教育課程の構造的比較を行い、「総合実践活動」がコンピテンシー育成において果たし得る独自の役割を明確にする。研究方法としては、カリキュラム文書や政策資料の分析による文献研究、学校現場での事例研究・観察研究・インタビュー調査などの質的研究、児童・生徒への質問紙調査による量的研究を組み合わせる。制度・実践・学習者の認識という複数のレベルから検討することで、「総合実践活動」の実態と可能性を総合的に捉える。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう



### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究が進展することで、中国の教育研究を世界標準のレベルへと引き上げるだけでなく、2030年を一つの目標として、アジアをはじめとする他国の教育政策の在り方を解明する上でも大きな波及効果をもたらすことが期待される。中国では、教育部が全国的な教育内容を規定しているものの、地方や学校はそれぞれの実情に応じて創意工夫を凝らし、独自にカリキュラムを編成することが可能である。教育の質の向上が求められる現在、地方や学校の特色を生かした教育課程の構築が重要な課題となっている。これまでの教育政策研究は理念的な議論に偏りがちであったが、本研究は具体的なエビデンスに基づいて政策と実践の実態を明らかにする点に独自性と創造性がある。とりわけ、「総合実践活動」を通じたコンピテンシー育成の可能性を検証することで、中国の教育改革に新たな視座を提供することが期待される。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「中国の小学校における「総合実践活動」とその特徴」
- ・「特別活動で OECD Learning Compass 2030 の Agency とコンピテンシーの発揮を図るための指導方法—小学校学級活動（1）を事例として—」
- ・「特別活動と総合的な学習の時間で育成される Agency とコンピテンシー—OECD 及び文部科学省の視点から見た小学校の教育実践」

# 初等教育における異文化理解の学習方法



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 教授

吉藤 玲子 Yoshifuji Reiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 異文化理解・学習方法・年中行事・単元開発・生涯学習



## 研究の概要

SDGs 目標 10: 人や国の不平等をなくそう  
SDGs 目標 16: 平和と公正をすべての人に

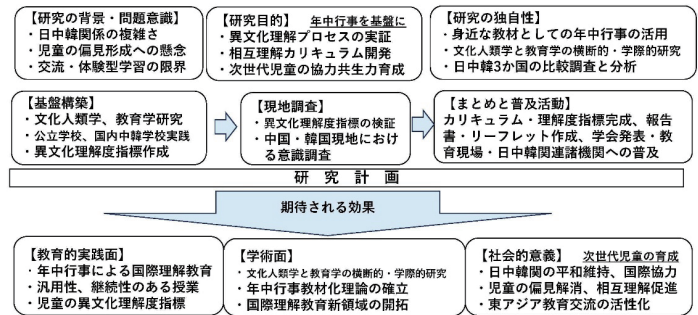
近年、グローバル化が進展する社会の中で、初等教育においては、国際社会に対応できる資質・能力の育成とともに、児童が自国の文化や歴史を理解し、自国に誇りや愛着をもつ心情を育てる教育の重要性が一層高まっている。本研究は、年中行事の比較学習が児童の異文化理解に与える効果を、実証的に明らかにすることを目的とする。本研究では、日本・中国・韓国に共通する七夕や正月などの年中行事に着目する。これらの行事は、共通の文化的基盤をもちながらも、国や地域によって意味付けや実践の在り方が異なる点に特徴がある。文化人類学および教育学の知見を踏まえ、「類似点と相違点」に焦点を当てたカリキュラムを設計し、初等教育段階での授業実践を通してその有効性を検証する。対象は、日本人児童に加え、在日の中国人・韓国人児童、さらに中国・韓国の現地児童とし、年中行事の学習を通じた相互理解の変容過程を明らかにする。本研究の特徴は、イベント型国際理解教育とは異なり、年中行事という学校教育に根付いた教材を用いることで、全国の学校で導入可能な汎用性と繰り返し学習できる持続性を備えたカリキュラムモデルの構築を目指している点にある。

また日中韓それぞれの児童における「自国理解」「他国理解」の段階や特徴を明らかにすることで、隣国との相互理解を多角的に捉えることを試みる。本学に

は多くの中国人留学生が在籍していることから、今後は留学生と小学校現場をつなぐ交流活動の実践も視野に入れ、大学と地域が連携した、異文化理解教育の可能性についても検討していきたい。

本研究は、隣国との平和と協力を担う次世代の児童を育成することを最終的な目的としている。

### 研究の全体構想図



## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究で追究しているカリキュラムおよび児童の異文化理解度を測定する指標は、リーフレットやデジタル教材として体系化し、学会発表や教員研修、オンライン研修等を通して広く普及を図る。これにより、学校現場のみならず、教育関連企業、教材出版社による教材開発や、研修プログラムへの応用が可能となる。また、本研究は初等教育段階から日中韓の文化的相互理解を体系的に促進する点に特徴があり、東アジア地域における持続的平和と国際協力の基盤形成につながるものである。年中行事の「類似と相違」に着目し、異文化理解の過程を実証的に明らかにする点は、国際的にも汎用性が高い。さらに、本研究で育成される、日中韓の関係を自らの経験と知識に基づいて判断できる力の育成は、将来的に外交、国際ビジネス、観光、国際交流、地域共生などの分野において求められる基礎的素養となる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】・「日本と韓国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法」

・「日本と中国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法」

【論文】「日本と韓国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法～小学校4年生・6年生を対象にした単元開発と授業実践～」

# 日本留学経験が現在の職務に与える影響



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科  
グローバルコミュニケーションコース 講師

黄 美蘭 HUANG, Meilan

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 日本留学経験・異文化間教育・留学生・キャリア教育・日本語能力



## 研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

本研究は、日本で大学や大学院などを卒業・修了し、中国と日本で企業等に就職している中国人元留学生を対象に、日本の高等教育機関で学んだ知識や日本社会におけるアルバイト活動、インターンシップ活動などの社会経験が現在従事している職務にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、日本留学経験が中国と日本の職場の職務に及ぼす影響を比較検討することを目的とした。海外留学経験は収入や職業キャリアに正の影響、仕事や私生活に充実感や満足感をもたらす（新見・米澤・秋庭，2018）としているが、日本で留学を終え、中国に帰国して就職した中国人帰国留学生や日本で就職した中国人元留学生を対象に、彼らが日本留学経験をどのように捉えているのかについて検討した先行研究は僅少である。本研究は、日本留学経験が中国と日本の職場の職務に与える影響の差異を明らかにすることにより、日本留学の意味を再考し、中国人留学生の将来のキャリア選択、キャリア形成のための重要な参考資料を提供することができる。

本研究は、質的研究と量的研究で構成される。質的研究手法として半構造化インタビュー調査、量的研究手法として質問紙調査を実施した。半構造化インタビューを通して現在の職務に影響を与えている日本留学経験の内容について調査した。インタビューデータを質的手法で分析し、本研究の仮説を生成した。また、半構造化インタビューデータを参考に質問項目を設け、質問紙を作成した。質問紙調査では、現在の職務に影響を与えている日本留学経験と日本と中国で就職する目的、仕事に対する価値観、仕事満足度に加え、中国人元留学生社員の属性との関連について明らかにし、質的研究で得られた仮説を検証した。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

グローバル化が進んでいる今日の日本において、元留学生社員という「高度人材」は増加の一途を辿っており、日本の職場も多様化している。元留学生社員は日本留学経験を通してどのような学びや気づきがあり、それを現在の職場にどのように活かしているのかを検討することは、留学生のキャリア選択、キャリア形成のために重要であると考えられる。

日本留学経験のある元留学生社員は、現在の職務において日本留学経験をどのように捉えているのか。本研究は、日本留学の意味を再考し、留学生の将来のキャリア選択、キャリア形成のための重要な参考資料を提供できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「中国人元留学生の就職活動—中国で就職した場合—」
- ・「日本留学経験が現在の職務に与える影響—日本で企業に就職した中国人元留学生社員の場合—」
- ・「日本企業における日本留学経験の活用と労働価値観—中国人元留学生社員の場合—」

# 学外連携広報啓発活動「地域安全安心プロジェクト」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

鷺山 啓輔 Sagiya Keisuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域連携を通じた広報活動としてのメディア制作



## 研究の概要

SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを  
SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

警視庁野方警察署と本学は、「広報啓発活動への協力体制に関する協定」を締結した。本協定は、犯罪抑止、交通安全、災害対策など、地域の安全・安心に関わる課題に対応するために締結されたものであり、本学の人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コースの学生および教員の知見と技術を活かし、広報啓発活動に協力することを目的とする。



協定締結に先立ち、野方警察署とメディア文化コース有志の学生チームは、「特殊詐欺対策」に関する YouTube 動画を共同制作した。制作された動画は、中野区公式チャンネルにて公開されている。また、動画制作を通じて広報啓発活動に貢献したことが評価され、学生チームに対し、野方警察署より感謝状が授与された。

メディア文化コースでは、今後も映像制作やデザインに関わる知見と技術を活かし、防犯意識の醸成および広報啓発活動に積極的に寄与することで、地域に貢献できればと考えている。



制作チーム : 大山航平、長島優希、上原蓮、高橋知也、若松俊人 (2025 年度 3 年生)

指導 : 鷺山啓輔

YouTube リンク : <https://www.youtube.com/shorts/32K8V7r2URO>

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

プロジェクトを通じた、地域住民や警察署の方々とのコミュニケーションを経ての映像制作は、学生にとって非常に貴重な実学体験の場となっている。成果物は YouTube を通して、ショート動画として実際に公開されることで、学生の自信と達成感を生み出すとともに、大学の地域貢献としても社会に還元されている。

## 短編映画『芋穴のささやき』 “Whispering of the Natural Refrigeration Hole”



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

鷺山 啓輔 Sagiya Keisuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](https://www.sagiya.com/cv-jp/)

キーワード：映画・フィクション・ドキュメンタリー・芸術祭・洞窟



### 研究の概要

本作は、「越後妻有 大地の芸術祭」に向けて約 2 年間の期間でリサーチ、ワークショップ、撮影、編集を経て完成した短編映画となる。リサーチで新潟県を訪れた際に、穴、洞窟、坑道、水道に関する聞き取りをしていた中で、妻有の十日町に「芋穴」と呼ばれる食糧貯蔵庫があることを知った。外気が入り込みにくい構造の穴の中の温度は、鍾乳洞のように安定していながら、トンネルと違い入口と出口が同一で、外界から遮断された護られた世界と捉えることができる。芋穴には、厳しい冬の山間の食料確保という生活様式が現れている。穴の話から始めて、地域の方々との関わりから紡ぎ出した声を皮切りに、過去から未来へとつながる言葉の集合体を映像で記録（貯蔵）したい。「芋穴」を舞台に、ドキュメンタリーからフィクションへ、そして歌へとゆるやかに変容していく短編映画を地域の子供達とのワークショップを軸に制作することになる。子ども達の心の中に隠れている満たされない想いが節々で見え隠れした。言葉にならない心の奥に溜まったものが、合唱と共に芋穴から大地へ解放されていく。そんな映画に成り得ていればと願っている。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに  
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを



Copyright © Keisuke Sagiya All Rights Reserved.

### 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

リサーチ・撮影・ワークショップ・設営・公開を経て得られたフィードバックは、制作活動に反映され、映像作家としての研究としても最新の技術取得・ワークフロー構築の面で、学生の教育に還元されている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

「<https://sagiya.com/cv-jp/>」をご覧ください。

# タイにおけるイスラームの複雑性と共生



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

柴山 信二郎 Shibayama Shinjiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：タイ・イスラーム・ムスリム



## 研究の概要

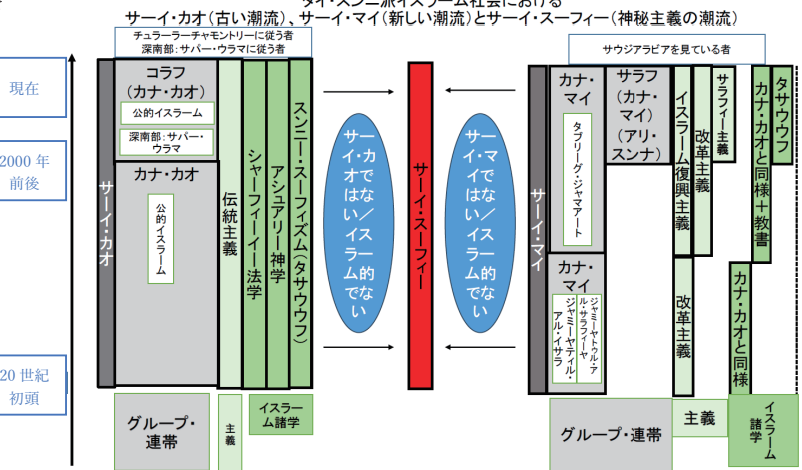
SDGs 目標 1：貧困をなくそう

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

仏教国とのイメージが強いタイだが、イスラーム教徒も多数暮らしている。その内、98～99%程度がスンナ(スンニ)派で、1～2%程がシーア派だと推測される。タイのスンナ派イスラーム社会では古くからサーイ・カオ(古い潮流)、サーイ・マイ(新しい潮流)の2つの大きな潮流が見られた。2つの潮流間にはイスラーム思想と実践の相違から摩擦・対立が見られながらも、イスラーム社会内外において共生の努力をしている。

また、歴史の中で、それぞれの潮流においては異なるグループ(カナ)が出現し、一つの潮流にも様々な思想や実践が見てとれる。更に2大潮流に加えて、「イスラーム的でない」と非難されるサーイ・スーフィー(イスラーム神秘主義の潮流)も観察できる。本研究では、タイのイスラームの複雑性の一端を明らかにし、そこで起こっている摩擦・対立と共生の取り組みについて検討・考察をおこなっている。

なお、1979年イラン・イスラーム革命をきっかけにシーア派においても思想と実践の相違からカナ・マイ(新しいグループ)が起こっており、シーア派社会においても多様化が見られている。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界人口の約1/4を占めるイスラーム教徒であるが、思想や実践、イスラーム社会の実情はあまり理解されていない。多様な思想・実践やイスラーム社会で起きている摩擦・対立、共生への取り組みを解き明かすことにより、イスラーム金融やハラル産業等の独特の形態を持つイスラーム経済へのアプローチについて考える/再考する切っ掛けを提供できると考えている。また、イスラームの思想・実践及びイスラーム社会の複雑性を紐解き、実態を明らかにすることにより、イスラームフォビアの遁滅・解消を目指す。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【学術論文】

- ・「タイにおけるスーフィズムの継承・維持と広がり」
- ・「タイ深南部(南部国境地域)事情—その62～73—タイのイスラーム スーフィズム/カーディリー教団(1)～(12)」

### 【学術発表】・「タイのスーフィズム:カーディリー教団の系譜とネットワーク」

# 公益財団法人委託「芸術劇場 アーツプロジェクト」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 助教

新井田 宇謙 Niida Takanori

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

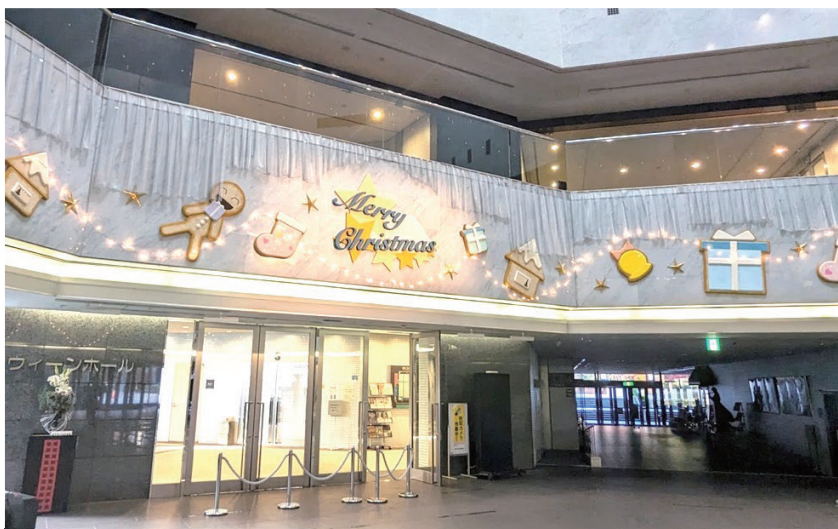
キーワード: 地域振興・美術・公共展示・ディスプレイデザイン



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを



公益財団法人の委託を受け、芸術劇場のエントランス壁に11~12月の期間、クリスマス为主题としたアートディスプレイをおこなう。劇場の雰囲気をもくし、来場される方々が鑑賞によって楽しめる事を目的として、本学メディア文化コース有志学生が主助となりデザイン・制作・設営展示・撤去撤出までの一連の計画と作業を实践する、大学×地域連携のアートプロジェクトである。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

公共に設置されるディスプレイデザインを学生が主助となっておこなう機会を自治体等に頂くことで、学生にとって自身のデザイン制作やコミュニケーションスキルのあり方と社会の繋がりを実践的に考察する場を得ることができる。また、公共施設スペースのディスプレイ設置によって、季節イベント等の広報とともに自治体と学生の連携する地域活動の広がりとして期待できる。

## 地域医療の視点からみた明治期の近代医療システム構築過程の解明



【中野キャンパス】ヒューマンケア学部 看護学科 准教授

松村 紀明 Matsumura Noriaki

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 地域医療・医学史・医療史・医史学

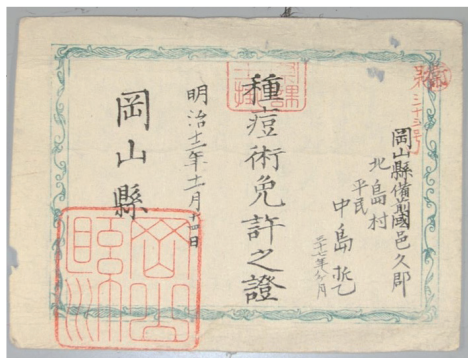


### 研究の概要

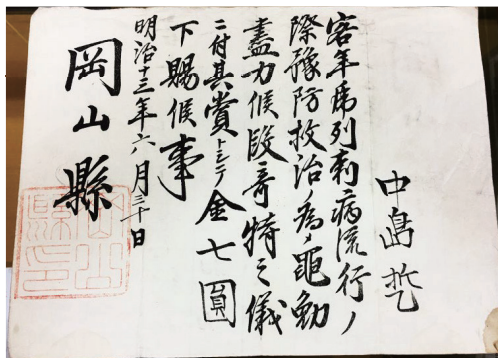
SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

明治初期日本における近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程について、地域医療の視点からの解明に取り組んでいる。1874（明治7）年の「医制」の公布に始まる各種の近代的医事法令の制定に先導されながら日本の近代的な医療システムなどは整備されていった、というのが一般的な歴史認識となっている。

しかしながら、全国的にみても大多数の府県で免許医（近代的な医学教育を受けた医師）が従来開業医（いわゆる在村医など）を数的に上回るのは明治30年代以降であり、それまでは地域医療の現場の担い手は基本的に従来開業医であった。しかも彼らの活動は単なる日常的な診療の域に留まらず、医学教育・公衆衛生・防疫活動などの、一般に「近代的な医療活動」と呼ばれる分野にも及んでいた。彼らが明治期に地域医療の現場でどのような活動をおこなってきたのかを解明し、近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程を問い直し、地域医療の視点からそれらの実像を明らかにすることを目指している。



種痘術免許証（明治12年）



コレラ流行時の医師への表彰状（明治13年）

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医療システムの構築を地域という視点（地域医療史という視点）から解明することは、地域社会における公共サービスの構築や維持という点へのヒントとなるだろう。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

#### 【科研費】

- ・（基盤研究 C）「在村医の視点からみた明治初期の近代医療システム構築過程」

#### 【著作】

- ・「岡山の種痘 ～近世・近代の感染症との闘い～」
- ・「岡山の衛生と隔離病舎 ～近代の感染症との闘い II～」

# 住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルの検討



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

間部 豊 Mabe Yutaka

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 電子図書館・電子書籍・電子資料・図書館サービス・情報サービス



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

ウェブ上には多くの情報が氾濫しています。中には有益な情報も、正確な出典を伴わない誤った情報もあります。その一方で図書館にある情報源は、出版流通に至るまでに著者や編集者をはじめとする複数のチェックが入り、情報の正確性や典拠性が担保されています。しかし、現在人々の情報探索行動において中心となっているのはウェブ情報源です。オンラインで探索・参照可能で簡単に入手できるウェブ情報源は、その入手性や利用可能性において印刷資料よりも好んで用いられています。

そんな中、近年図書館において導入が進んでいるのが電子図書館サービスです。2023年10月現在、520の自治体で運用されています。電子書籍や電子雑誌は一般的なウェブ情報源と同様にオンラインで利用できる電子資料でありながら、出版流通を経た正確性・典拠性のある情報源として大きく期待されています。

しかしながら、現在導入されている電子図書館サービスはいくつかの課題があります。

1. COCID-19 流行に対応するための非来館型サービスとして緊急避難的に導入されたものが多く、質・量ともに蔵書の形成が十分ではない。
2. 電子図書館サービスの目的や役割の検討が不十分であるケースも散見される。
3. 利用者が電子図書館サービスに対してどのような役割や期待を持っているのか明らかになっていない。

これまで私が進めてきた研究からこうした課題が浮かび上がってきました。そこで現在おこなわれている電子図書館サービスの実態を改めて確認するとともに、利用者たる住民が本当に求めている電子書籍・電子図書館サービスを明らかにし、住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルを検討・提示することで自治体の図書館サービスに還元することを考えています。

現在、全国の公立図書館のご協力をいただきながら住民が求めている電子書籍・電子図書館サービスの要素を検証しています。また、近年人々が利用することが増えた情報メディアの種類やそのニーズもあわせて検証していきます。これらの研究成果が住民に真に求められる電子書籍・電子図書館サービスモデルを明らかにすることを期待しています。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

住民が求める電子書籍・電子図書館サービスを明らかにすることにより、最終的にデジタル資料の特性を生かした住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルを検討構築することを考えています。これは今後の自治体における電子図書館サービス計画やその実施にあたり貢献できると考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「公立図書館におけるハイブリッドな情報提供の実際」
- ・「公共図書館における電子雑誌提供サービス」
- ・「公立図書館における電子図書館サービスによる資料提供と利用の実態」

# 大学の教育力の計測と比較分析に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授  
**阿部 廉 Abe Yasushi**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

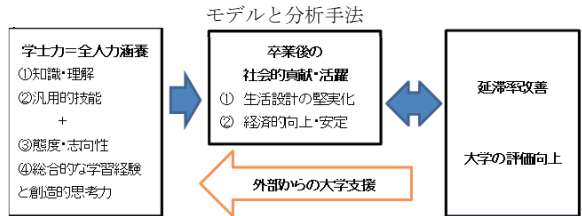
キーワード：教育力指標・大学経営政策・学士力（卒業生成果）・比較分析・地域性/大学特性

## 研究の概要

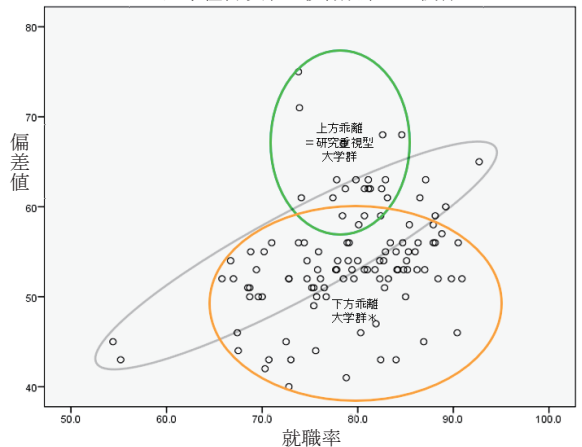
本研究は、奨学金返済延滞の要因分析を基盤としつつ、それを大学教育力の成果指標として再構築し、大学間比較を通じて教育力の計測枠組みを提示するものである。従来の奨学金研究は学生個人の経済的困難や制度設計に焦点を当ててきたが、本研究では大学経営政策が卒業生の社会的・経済的成果に及ぼす影響を検証する点に特色がある。奨学金利用者の匿名個票データを用い、延滞有無を被説明変数とするロジスティック回帰分析により、卒業後の就労状況や年収、貸与総額、学部区分等が延滞に有意に影響することを確認した。さらに、大学四季報等の外部データを組み合わせ、就職支援職員比率、教員比率、教育研究費充当度など大学の経営戦略・施策が卒業生の就職率や平均年収を通じて返済状況に有意に影響することを重回帰分析で明らかにした。加えて、クラスター分析により、国公立・私立を問わず学士力向上努力に注力している大学群が、そうでない大学群よりも、返済・就職成果で優位にあることを示し、大学特性に応じた施策の重要性を指摘した。

以上より、奨学金延滞は教育力の成果を測る重要な指標であり、大学経営政策や地域性を踏まえた比較分析が不可欠であることを論じている。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに  
 SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も



大学経営政策と教育成果との関係



\* 「下方乖離」大学群の中には、「就職率重視型」と「学士力涵養型」の異なるタイプの大学が混在している可能性がある点には留意を要する。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】・奨学金返済・延滞状況を教育成果指標として活用し、大学教育の社会的効果を可視化。  
 ・就職率や平均年収を産業界の人材ニーズと結びつけ、教育施策改善に直結。

【協力可能事項】・大学施策の効果検証に関するデータ分析支援。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「奨学金利用者の卒業後の社会・経済的状況に関する分析」
- ・「大学経営政策における奨学金管理業務の担う役割に関する研究」

# 地域金融機関経営における効率性と公共性に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

阿部 廉 Abe Yasushi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 効率性・公共性・地域密着型金融・ガバナンス・持続可能性



## 研究の概要

本研究は、地域金融機関の経営における「効率性」と「公共性」の両立を探るものである。

信用金庫型経営は、共同組織として相互扶助の理念を基盤としつつ、利益確保も不可欠であり、日本型マイクロ金融の担い手として、地域資金の域内循環を担ってきた。しかし、地域衰退とともに経営も縮小均衡を余儀なくされる宿命を抱え、営業地盤の規模や地方創生力が存続可能性を左右する。他方、銀行型経営は、株式会社として株主利益を意識せざるを得ず、広域合併や非リレバン型事業への展開を模索する。

地域金融機関は、利益獲得に加え社会的要因の影響を強く受け、長期的に利益確保が困難な場合には清算や合併に至る点では、一般の株式会社と大差はない。また、地域経済活動に依存するため、生存域別の分析が不可欠である。

近年、収益対策としての店舗削減や手数料引き上げは顧客不満を招き、存在意義の低下と悪循環を誘発している。地域金融機関は、単なる利潤追求ではなく地域活性化への貢献を使命とし、公益と資本の論理を高次元で両立させる経営モデルの構築が求められている。

SDGs 目標 8 : 働きがいも経済成長も  
SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

## 地域金融機関の「効率性」と「公共性」の両立モデル

### 信用金庫型

(協同組織)

- ・相互扶助の概念
- ・利益確保も不可欠
- ・日本型マイクロ金融の担い手
- ・地域衰退とともに縮小均衡

### 銀行型

(株式会社)

- ・株主利益意識
- ・非リレバンの事業展開・越境融資等も
- ・営業基盤の規模や地方創生力が存続可能性のカギ

### 共通構造的課題

- ・地域経済に依存
- ・利潤追求+社会的要因
- ・長期的な利益確保の不透明

### 求められる方向性

- ・「効率性」と「公共性」の両立
- ・地域活性化への貢献
- ・生存域別の戦略設計

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】・効率性と公共性の両立を、収益構造や地域経済指標に落とし込み実務へ応用。

【産業界・自治体へのアピール】・地方創生施策と金融機関経営の連動性を強調。

【協力可能事項】・共同研究や勉強会の開催。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

・「長谷川敏朗（埼玉大学大学院）報告論文（地域銀行経営としての経営統合の意図と現実～地銀・第二地銀に着目して～）へのコメント」

・「堀江 康熙 教授（九州大学）報告論文（信用金庫の経営問題：コロナ禍と合併効果）へのコメント」

・「銀行による企業経営分析の課題」

# ソフトデータとハードデータの相互関係から見た景気実態の構造的な理解の研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授  
**阿部 廉 Abe Yasushi**



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

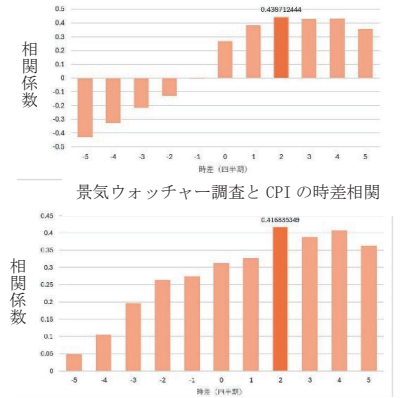
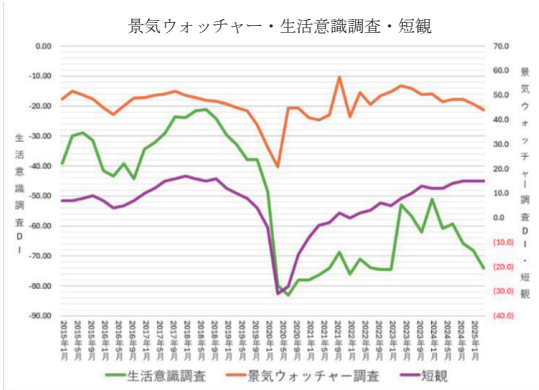
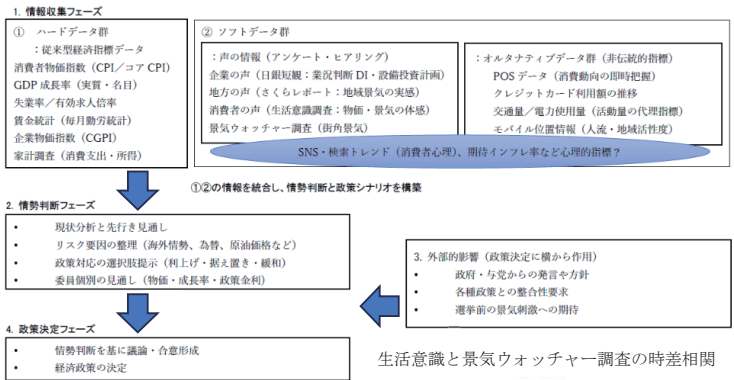
キーワード: ソフトデータ分析 (各種アンケート、SNS テキスト分析等)・

ハードデータ (統計指標)・時差相関・期待形成と心理的反応・政策判断と情報発信

## 研究の概要

本研究は、ソフトデータとハードデータの相互関係から景気実態を構造的に理解することを目的とする。GDPや鉱工業生産などの統計的に整備されたハードデータは政策判断の基盤となる一方、生活者の心理や期待を反映する景気ウォッチャー調査や生活意識調査といったソフトデータは、物価変動や景気局面を先取りする可能性を持つ。本研究では、ソフトデータの時系列的特性に着目し、消費者物価指数 (CPI) との時差相関分析を通じて、街角景気と生活意識調査が示す異なる相関方向と先行性を検証する。さらに、SNS 分析による「世間の風」の可視化を補完的に用い、政策当局の情報収集・発信の在り方を再考する。これにより、景気認識の多層性を明らかにし、柔軟かつ市民感覚に即した政策設計への示唆を導出する。

右図 経済政策決定プロセスの構造整理 (情報源・政策判断・外部的影響)



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- 【実学へのつながり】ソフトデータとハードデータの相関分析を通じ、生活者感覚と統計指標の乖離を可視化。政策判断や企業戦略に直結する「実感経済」の把握方法を提示。
- 【産業界・自治体へのアピール】物価や景気変動に対する市民心理を早期に捉え、需要予測や価格戦略に活用可。
- 【協力可能事項】産業界・自治体向けの説明会や研修での知見共有
- 【協力希望事項】政策立案や地域振興に関する共同研究・実証プロジェクト

社会科学・環境学

阿部 廉ゼミ有志チーム（森山颯太〔受賞時4年生〕・山本渉太〔受賞時3年生〕）  
「第21回 日銀グランプリ」「優秀賞」（準優勝）・「審査委員長賞」受賞



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授  
**阿部 廉 Abe Yasushi**



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: SNS テキスト分析・期待形成と心理的反応・政策判断と情報発信

## 研究の概要

SDGs 目標 8: 働きがいも経済成長も

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

2025年11月29日(土)、日本銀行主催「第21回 日銀グランプリ ～わが国の金融・経済への提言、日銀への提案～」決勝大会が日本銀行本店で開催されました。全国133大学チームから応募された論文の中から選ばれた上位4チーム(本学、東京大学、同志社大学2チーム)が決勝に進出しました。本学人文社会学部 経営学科 阿部廉教授ゼミナール有志チーム(森山颯太さん〔4年生〕・山本渉太さん〔3年生〕)は、審査委員長・氷見野副総裁をはじめとする審査員との厳しい質疑討論を経て、見事「優秀賞」(準優勝)を受賞しました。

本チームの提言テーマ「『日銀文学』を超えて～風を読む経済情報の可視化と発信改革～」は、中央銀行の政策決定における情報収集と発信の在り方を問い直し、経済情報の透明性と社会的理解を高める独創的な内容として、高く評価されました。特に、「国民世論＝風」を受け実施した政策のレビュー検証と一般向けの広報体制の確立」という、政策コミュニケーション改革に関する斬新なアイデアが極めて高い評価を受け、その成果に対して特別に「審査委員長賞」が授与されました。

この成果は全国紙や海外通信社等を含む有力マスメディアに広く報道され、本学学生による学術的成果としては空前の規模で社会に認知されました。加えて、12月2日には中野区長への表敬訪問の榮譽にも浴し、本学の名声を大きく高めました。

なお、日銀グランプリへのチャレンジは、2024年に続き2回目となりました。本学人文社会学部 経営学科 経営コース植村眞司教授からは、当初から貴重な実践のご助言を、藤川健一本学副学長からも多くのご支援を賜りました、また今回は、遠藤和紀本学教授からも、情報学の視点からの御示唆をいただきましたこと、篤く御礼申し上げます。

## ・優秀賞表彰式

左から、植村教授、藤川副学長、森山、山本、阿部教授、小池

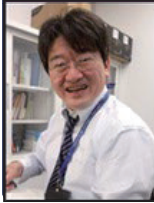
・日銀東門前にて



日銀グランプリ受賞関係ニュース 媒体別報道件数 (いずれも2025年度)	主催者 公式	全国紙	海外 通信社	地方紙	大学 ・ 専門	ポータル 他	本学 公式 メディア	合計
決勝大会進出決定 11/7 公表	2	2	1	5	2	12	2	26
優秀賞・審査委員長賞受賞決定 12/1 公表	3	2	1	5	2	14	3	30
中野区長表敬訪問 12/3 公表	2	2	1	3	1	7	3	19
合計	7	6	3	13	5	7	3	75

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日銀グランプリ優秀賞受賞は、理論的知見を実務に結びつける実学的成果であり、産業界や自治体にとっては、政策判断や地域経済戦略に直結する、高い応用可能性を示すものです。



【池袋キャンパス】共創学部 デジタル共創学科 准教授  
**磯部 大 Isobe Dai**

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：IT 投資マネジメント/IT 投資評価・数理的意思決定・計算組織論・マルチエージェントシミュレーション



## 研究の概要

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

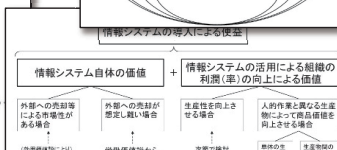
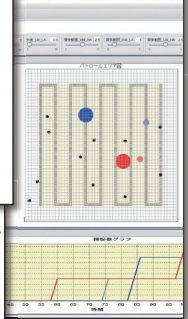
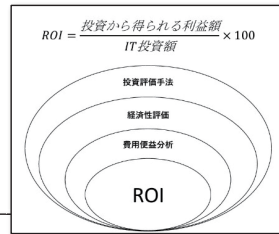
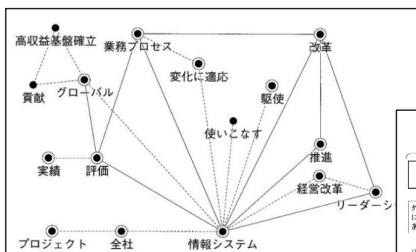
私は実務家（コンサルタント）出身の大学教員です。IT と経営の両領域を横断する立場で、情報システム導入における各種課題解決、および IT 投資の意思決定・投資評価支援などに長年携わってきました。特に行政機関については、中央省庁で **CIO 補佐官**（支援スタッフ含む）として、『**業務・システム最適化計画**』の推進のほか、当該庁の **IT 投資判断支援、IT 導入プロセスの制度設計、IT（組織）統制に直接関与した経験を多数有しています。**

学術研究においても、こうした実務経験を元に、引き続き**情報システムに関する組織の各種課題**を主題として研究を継続しており、近年は「**IT 投資に関わる合意形成過程**」に関心があります。

研究手法は、実際の案件を素材にしたフィールド調査を基本とし、各種多彩な分析方法（多変量統計、テキストマイニング、AHP その他の各種数理的意思決定手法、マルチエージェントシミュレーションなど）を駆使しています。

【学術的背景（詳細は本学教員業績紹介ページをご参照ください）】

- ・『IT 投資マネジメントのフレームワークに関する調査報告書(2006)』／『IT 投資マネジメント評価指針に関する調査研究報告書(2007)』（財）日本情報経済社会推進協会
- ・『IT 投資マネジメントの発展』第3章(2007)白桃書房
- ・『わが国企業における IT 投資マネジメントの現状とその課題（査読付）(2006)』経営情報学会



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

私の研究は、実務と密接に「連携する」というよりも、**組織における実務そのものが研究対象**です。そして、行政機関の中でも特に**自治体は、自庁内、議会・住民・監督省庁等々の多様で多数のステークホルダーへの説明責任を伴う点で非常に興味深い対象**と考えています。

### 【行政機関との協同研究イメージ例】

- ・ IT 投資案件に対する**外部有識者としての投資妥当性評価**の実施
- ・ 議会・監査・住民説明などを想定した**説明ロジック・判断根拠の整理、説明資料の作成支援**
- ・ 各種 IT 組織内の**制度改善、規定・文書制定支援、システム監査への対応準備支援**
- ・ 行政 CIO・CIO 補佐官業務または**支援、IT 部門に対する各種助言**

# NIPT を受けた妊婦に対するソーシャルワークの必要性



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 講師

井上 美和 Inoue Miwa

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : NIPT・ソーシャルワーク・意思決定支援



## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

2013 年から日本で開始された非侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT) の受診妊婦数は年々増加しており、確定診断を経て染色体異常が判明したケースのうち、その約 9 割が中絶を選択している。このことは産む、産まないを判断するまでに数週間しかないという時間的制約や、無知ゆえに病氣や障害を回避する傾向、当事者自身のこれまで社会から知らずに植え付けられてきた障害への否定的考え、障害をもつ者への社会資源の乏しさ等、様々な要因が考えられる。

NIPT を受診した妊婦を支える NIPT 支援専門職である「認定遺伝カウンセラー」は全国で 388 人 (2024 年 3 月現在) と非常に少なく、情報提供や相談支援体制が十分に整備されているとは言い難い。そのような状況で NIPT が実施されることが多く、妊婦は時間的制約の下、自己決定を迫られる現状にある。

また、現状 NIPT を受診した妊婦に与えられる情報は医療行為としての人工妊娠中絶手術に関するものに偏っており、出産後の養育に関する社会的支援や環境調整、福祉制度等の情報については提供体制が整っていない。そこでソーシャルワーカーが介入することで、NIPT を受診した妊婦が自らの価値観に基づいた自己決定を支援することが可能となると考えられる。

もちろん、情報提供といいながら、当事者に対する「中絶の否定」となってはならない。あくまでソーシャルワーカーが直接的にも間接的にも幅広い情報を提供することが、当事者の自己決定を支えることにつながるのとのお考えのもと、NIPT を受診した妊婦へのソーシャルワークの必要性やあり方を提示したい。

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

厚生労働省「母体血を用いた出生前遺伝学的検査 (NIPT) の調査等に関するワーキンググループ報告」(令和 2 年 8 月) にあるように、「障害を持つ子どもの子育て、くらし等に関してイメージできるような情報の提供、社会福祉施策等の情報の提供、受検者の不安・葛藤に寄り添った相談支援等の確立」が NIPT における今後の議論で期待されている。本研究はこれに応えるものであり、NIPT の適正な実施体制の構築に寄与することが期待される。

またソーシャルワーカーによる具体的な情報提供方法として、消費者情報処理モデルを参考に、妊婦の行動変容ステージ (受検前/受検直後/自己決定前/自己決定後) に応じた情報提供をおこなう「コミュニケーションプログラム」の開発を目指す。それにより社会実装が可能となると考えられる。

## 知的財産・論文・学術発表など (詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

### 【論文】

- ・「障害児の親の当事者性に立った在宅福祉サービスの検討」
- ・「障害をもつ子の親への視座と障害学に基づく社会のあり方の一考察」
- ・「出生前診断及び胎児の障害を理由とする選択的人工妊娠中絶から考えるクライアントの主體的な自己決定を支えるソーシャルワークの必要性」

# スタートアップなどの創造事業の成功確率を高めるためのプロジェクトマネジメント研究



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授  
**植村 眞司 Uemura Shinji**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 事業創造・プロジェクトマネジメント・PMBOK ガイドライン・アジャイル

## 研究の概要

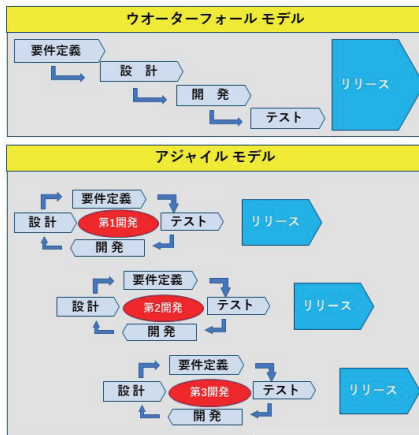
SDGs 目標 8 : 働きがいも経済成長も  
 SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

「成功にこだわった」スタートアップの考えを推し進めると、スタートアップの事業創造としての本質が見えてくる—私は総合商社時代の実験の経験からそう考えた。これは、スタートアップがこれまでの起業研究における通説ともいえる「多産多死型」ではなく、「多産少死型」の事業創造であるべきことを意味している。すなわち、スタートアップはベンチャーの語源である“チャレンジング”な精神と発想とは異なり、「最も成功にこだわった」事業創造であると考えられるが、それはスタートアップが社会課題の解決を果たす使命を帯びた事業創造だからである。

そのための方法論研究としては、人的動機づけの観点から「アントレプレナーシップ」があるが、本研究では、計画・組織行動、リスク管理、プロセス最適化の観点から「プロジェクトマネジメント」と、そのフレームワークである「アジャイル」をその対象とする。アジャイルは、“プロジェクトをスプリントと呼ばれる短期に分割し、その範囲で可能な機能を優先順に開発する手法であり（中略）柔軟に全体へ反映してゆくが、要求されるものや最善策は途なかで変化することを前提にした、現代的な開発モデル”であり（\*1）、本研究ではこれをスタートアップに活かすための実装検証をおこなう。

（\*1）野中郁次郎「アジャイルとスクラムから考える開発と経営」（一般社団法人行政情報システム研究所 2020年4月号）

（図表）プロジェクトマネジメントの管理手法



（図表）教員が作成

【関連論文・学会報告】
【学会論文】
「グローバル・スタートアップビジネスとプロジェクトマネジメント」単著/2024年10月/国際商取引学会年報 2024年第26号
【学会報告】
① 「日本版 IR（統合型リゾート）推進と法に関する考察」2024年9月/国際取引法学会中間プログラム（国際通商・投資法制部会）
② 「暗号資産紛争処理における新たな国際裁判管轄類型の必要性と制度設計に関する考察」2026年3月/国際取引法学会全国大会（国際取引紛争解決法制部会）

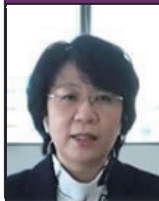
## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

システム開発の分野で最近よく耳にする「アジャイル」は、小さい失敗と、後戻りをショートタームで繰り返すことで、比較的大きな成果をもたらすプロジェクトマネジメントのフレームワークであり、大企業が採用するウォーターフォール型（\*2）のフレームワークに比べ、中堅規模または地方創生を目指す企業にとってより有効なプロジェクト推進手法であるといえる。

本研究の成果は、不確実性の高いビジネス環境（VUCA）への適応力が強く求められる時代の中で、スタートアップによる新規事業の創出を模索する企業に対する支援と協力につなげることが可能である。

（\*2）開発は上記図表のように、左斜め上から右斜め下へと“一方方向”のみに向け、時間をかけて慎重に進められる

# 犯罪被害者等支援のための多機関連携に関する調査



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 教授

大塚 淳子 Otsuka Atsuko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](http://www.keio.ac.jp/~tsukuba/atsuko/)

キーワード : 犯罪被害支援・途切れない支援・他機関連携



## 研究の概要

SDGs 目標 1 : 貧困をなくそう  
SDGs 目標 10 : 住み続けられるまちづくりを

日本では、2004年に犯罪被害者等基本法が成立し、同法に基づく犯罪被害者等基本計画により支援施策が推進されてきている。被害者等への支援は、警察、検察、福祉・心理・医療関係機関や民間支援団体等、多くの機関や職種が関わる。しかし、各機関や団体での支援内容や連携および協働について全体像は未だ明らかではない。本研究は、「途切れない支援」の提供が重要視されていることを踏まえ、多機関連携のあり方に焦点を当てた。突然、犯罪被害に遭い長期間多岐にわたる被害を被った方々の支援において、「たらいまわし」をはじめ二次被害を防止するため、多機関でより良い協働を図るための検討材料とすることを目的に全国調査をおこなったものである。対象は全国の警察、民間支援団体、市区町村、医療機関、女性センター等の担当者で、自記式質問表等を郵送し、紙媒体もしくは電子媒体での回答を依頼した。調査内容は、回答者の属性、支援過程、連携の好事例、連携の状況、求められる役割、倫理的視点などである。調査からは、機関や職種により連携のイメージと実際は大きく異なることが課題であると判明した。支援者の職種や専門性、経験、研修受講などの対象ごとの状況が異なることがその要因と言える。

連携困難な要因への対策に挙げられたのは、「情報共有に関する仕組みやルールの設定」、「顔の見える関係づくりのための定期的開催会議と人事異動時の工夫」、「コーディネーター機能や役割についての検討や人員配置」などであった。

本調査結果は右記の URL から参照可能である。([http://fujie-ito.com/topics/pdf/topics\\_190508\\_01.pdf](http://fujie-ito.com/topics/pdf/topics_190508_01.pdf))

犯罪被害者支援における多機関連携の課題と具体的方策について自由記述（「連携とは何を指すか」）から抽出した「キーワード」は以下となった。

行政＝情報共有×連携  
警察＝情報共有×ニーズ  
民間＝ニーズ×連携

“連携”の解釈は、機関によって様々であることが分かる。

支援担当者が考える「連携」とは何か 自由記述239件回答の分析から5つのカテゴリー区分と要約共通項目を抽出した	
各機関の役割を補い合い、得意分野を生かして協働すること (63)	・自機関でできること／自機関でできないこと／他機関でできないこと／得意・不得意／各機関の持つノウハウ／機関の特性を生かす／行動原理の異なる機関のそれぞれの強み
情報共有すること (59)	・情報共有／個人情報保護意識の徹底／被害者の重複説明負担を防ぐ／情報共有と役割分担
チームとして共に被害者を支えること (43)	・途切れない支援／支援可能な機関が一体となって協力関係を築きサポートを実施／目的を共にした組織のつながり／必要な時に必要な支援を行える体制づくり
適切な機関への橋渡し (18)	・情報提供し他機関を活用できるような橋渡し／関係部署と調整しつなく ・適切につなぐ／ワンストップで適切な機関へつなぐ／その場の窓口担当とともに次の機関につなぐ
その他 (56)	・被害者中心／被害者のストレス軽減／安心して相談できる環境づくり ・被害者と同じ視点（安心、安全、自立）／私的・公的ネットワークが上手く調整できている動き／被害者の自己決定を最大限尊重することができるために支援機関を選ぶこと
「連携」の解釈は機関によってまちまちであることが分かった。	

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

2019年には全国自治体に総合的対応窓口が設置されたが、人的体制や支援メニューの充実には課題がある。また、被害者等は多岐にわたり、しかも長期間の生活困難を抱えることが多い。支援にかかわる機関や職種が多くあるため、コーディネート機能が重要視される。より良い連携や協働を図るためには総合的対応窓口が中心的機能を果たせることが重要と考えられ、先ずは現状や課題の把握が求められる。本研究がその参考になればよいと考える。地方公共団体の犯罪被害者等支援に関する多機関連携に関する研修（講演・演習）、研修企画の材料等に活用できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認下さい）

【科研費】(16K04185) 『「犯罪被害者等支援のための多機関連携に関する調査」報告書』

【学会発表】『犯罪被害者支援における多機関連携の現状と課題—機関による連携の捉え方の違い及び連携困難要因—』

# 経営倫理と技術者倫理の統合教育プログラムの構築



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科  
グローバルコミュニケーションコース 教授

岡部 幸徳 Okabe Yukinori

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 経営・技術者倫理・統合教育プログラムモデル・経営倫理



## 研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

日本の高等教育機関における「技術者倫理」教育は、日本技術者教育認定機構によって義務付けられ、理工学系高等教育機関で開講されている。また、技術者教育に関する研究発表は毎年 300 以上ある。

一方で、科目としての「経営倫理論」、もしくは「企業倫理論」「コンプライアンス論」の開講は高等教育機関では義務化されていない。つまり、「技術者倫理」教育と「経営倫理」教育の乖離が大きいのである。そのため、高い倫理観をもつ技術者が企業に就職すると、経営者や上司にその価値観を大きく揺さぶられ、自らの価値観と異なる方法で業務遂行を指示されるなどの軋轢が起こる可能性がある。

こうした課題が、経営と技術者倫理の“統合教育プログラムモデル”の必要性を示すものであり、質保証がなされた“経営と技術者倫理の統合教育”の実施が急務だと言えるであろう。産学一体となった技術者倫理教育と経営倫理教育の統合型“標準講義モデル”の構築を目指して研究をおこなっている。

今後は、技術者倫理、及び経営倫理という 2 つの新しい統合倫理教育プログラムで扱っている事例に関して、哲学倫理学分野における新たな研究分野である“行動倫理学”（善悪の判断の潜在的偏向性に関する研究）の観点からも、技術者倫理と経営倫理の相克、軋轢を分析解決する方法を探索していくことを考えていく。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

企業内のコンプライアンス研修などでケースシナリオを用いたディスカッション形式の研修をおこなうことが可能です。また、自社のオリジナルディスカッションケース教材の作成方法なども支援可能です。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【関連書籍】

- ・「よくわかる経営倫理・CSRのケースメソッド：エシックストレーニングのすすめ」
- ・「経営倫理入門：サステナビリティ経営を目指して」

### 【科研費】

- ・(18K02838) 経営倫理教育と技術者倫理教育の統合—統合教育モデルと教育の質保証評価手法の構築

# レジリエントな空間と観光：世界遺産エリアの防災計画



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授

狩野 朋子 Kano Tomoko

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：建築・防災計画・レジリエンス・住民ワークショップ・フィールドワーク・観光まちづくり

## 研究の概要

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

SDGs 目標 15：陸の豊かさも守ろう

世界文化遺産や歴史的都市、伝統的な建築群、集落などを対象に、レジリエントな空間と観光に関する研究をおこなっている。近年、地震や火災のほか、気候変動の影響による自然災害により世界遺産を含む歴史的なまちも被災している。一方で、これらの遺産は、今日までに様々な災害を乗り越え、人々のよりどころとして地域社会を支え続けてきた。

こうした視点から、歴史的な都市やまちがもつ空間的・社会的特性を生かした防災・減災のあり方を検討し、レジリエントな地域社会の構築に向けた防災計画の提案や住民参加型ワークショップなどをおこなっている。

また 2025 年には、旧軍事施設を有する孤島を対象に、平和をテーマとした観光施設へ転用する空間デザインを国際芸術祭に提案して、離島観光への貢献を通じて、研究成果の社会還元にも取り組んでいる。



住民ワークショップの企画・実施



世界遺産における防災広場の提案

台湾国際芸術祭 Matsu Biennial 2025 “Letters from Matsu” (招聘作品)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界各地の都市や建築の調査に加え、日本、トルコ、ネパール、中国、台湾など国内外の被災地でフィールドワークをおこなってきた。これらの知見をもとに、政府・自治体・大学と連携し、住民参加型ワークショップを通じた防災意識の向上や、歴史的空間と地域コミュニティの特性を生かした減災・防災計画提案をおこなっている。

研究成果は海外メディアや国際会議、書籍等で発表され、住民主体の防災計画の推進と実践に寄与している。古いまちや歴史的都市（観光地を含む）を対象に、調査、ワークショップの実施、観光まちづくりの計画と空間計画まで一体的におこなう、連携・協力が可能である。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【研究実績】

- ・ 科研費（基盤研究(C)）「世界遺産エリアにおける公共空間の防災計画」
- ・ 二国間交流事業共同研究「イスタンブール歴史地区の防災強化に向けた共助体制構築と IT ツールの効果的活用実証」
- ・ 科研費（基盤研究(B)）「世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために」

# 場所の固有性に関する研究



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授

狩野 朋子 Kano Tomoko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



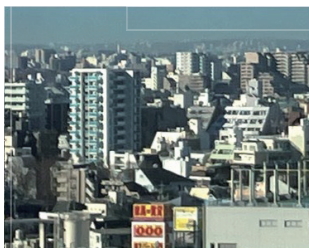
キーワード: 建築・集落・固有性・空間解析・地域資源・都市デザイン・観光まちづくり

## 研究の概要

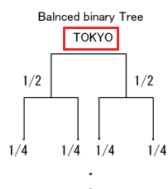
SDGs 目標 11: 住み続けられるまちづくりを

SDGs 目標 15: 陸の豊かさを守ろう

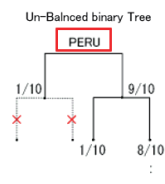
都市空間は複雑な様相を呈しているが、その構成や配置を読み解くと、場所固有の文化、習慣、価値観などが内包されていることが明らかになる。こうしたサイトスペシフィックな固有性を捉え、視覚化していくことは、都市デザインや観光まちづくりの深化にとどまらず、地域に暮らす人々が自らの都市や地域を再認識する契機となる。



本研究は、フィールドワークと空間情報を用いた分析を通じて、場所固有の空間特性を読み解く手法を検討し、それらを明快に記述し、地域住民や関係者と共有するための表現方法を探るものである。成果は、地域・観光振興や観光まちづくりに活用される。



様々な事象の重ね合わせから  
地域の固有性を見つけ出す場合



特異な事象を対象とする場合

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界の都市やまち、建築群を対象に、フィールドワークと空間情報を用いた分析をおこない、その地域の魅力となる場所の固有性を発掘している。また、国内外の専門家や地域住民、自治体等との対話を通じて、得られた知見をまちづくりや都市デザイン、観光まちづくりの計画立案や実践的な取り組みへとつなげる方法を提案している。

「このまちには特徴がない」「この地域には顔がない」と思われがちな場所であっても、人々の生業や日常の営みがある限り、必ず固有の魅力が存在する。本研究では、そうした見過ごされてきた場所の固有性を発掘し、分かりやすく可視化・共有することを重視している。

これまで個人およびチームで取り組んできた建築・都市デザイン競技では、国土交通大臣賞、日本代表、世界大会第3位などの受賞実績がある。

地域の魅力を再発見し、地域振興（創成）や観光まちづくりを検討する際には、調査・ワークショップ・計画・実践までを一体的におこなう実学的な取り組みとして、国内外を問わず、連携・協力することが可能である。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【書籍】・「建築・都市計画のための空間学事典 増補改訂版」

【国際会議・招待講演】

・「Cooperation for Sustainable Development of Life and Cultural Tourism in Bergama」

【論文】・「二値化データに基づく場所の固有性に関する研究」

## 長期入院精神障害者の退院支援におけるソーシャルワーカーの「かかわり」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 准教授

國重 智宏 Kunishige Tomohiro

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: ソーシャルワーク・かかわり・援助関係/長期入院精神障害者・退院支援・地域移行支援



### 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 17: パートナリーシップで目標を達成しよう

精神保健領域のソーシャルワークでは、クライアントとソーシャルワーカー（以下、Wr.）との関係を「かかわり」と表現する。この「かかわり」は、援助する者・される者との間に形成される専門的な関係である「援助関係」とは異なり、援助という目的がない場面においても成立する関係である（國重 2025）。

本研究は、我が国の社会的課題であり、人権侵害である精神科病院における長期入院に焦点をあて、Wr. と長期入院精神障害者（以下、長期入院者）との間に築かれる関係のあり方について問うものである。

本研究の第1段階として、退院支援におけるWr. と長期入院者との関係である「かかわり」について、相談支援事業所のWr.を対象にインタビュー調査を実施した。修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA）を用いて分析した結果、Wr.は、退院意欲を示さない長期入院者に対して外出や外食等を「一緒に行く」ことを通して、「人と人」としての信頼関係を形成し、具体的な退院支援につなげていた（國重 2019）。

第2段階では、相談支援専門員に対して、退院支援における「かかわり」に関する質問紙調査を実施した。探索的因子分析の結果、「かかわり」の背景因子として「相談を受ける」「一緒におこなう」「本音を聴く」「つながり続ける」の4因子を抽出した。更に共分散構造分析を実施し、「一緒におこなう」ことなしに「本音を聴く」ことはできず、「本音を聴くこと」なしに「相談を受ける」ことはできないという変数間の関係を示した。また「一緒におこなう」のみが「退院あり」に影響を与えていた。これまで退院支援において一般的に重視されてきた「相談を受ける」以上に見専門的には見えない「一緒におこなう」という行動レベルの支援が、長期入院者の退院というアウトカムにおいて重要であることを実証的に明らかにした（國重・吉田 2021）。

現在は、第3段階として「かかわり」のもう一方の主体である長期入院者の視点による調査を実施している。精神科病院での長期入院を経験した方たちにインタビュー調査を実施し、M-GTAを用いた分析をおこなっている。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、長期入院精神障害者の退院支援に取り組むソーシャルワーカーの暗黙知を実証的に示したものです。クライアントとの関係に悩むソーシャルワーカーや退院（地域移行）のための施策を推し進めていこうと考える自治体の方たちに参考にしていただければと考えております。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

- ・「長期入院精神障害者の地域移行支援における相談支援専門員の「かかわり」
- ・「長期入院精神障害者の退院支援における相談支援事業所に勤務する精神保健福祉士の「かかわり」のプロセス」

#### 【著書】

- ・「精神医学ソーシャルワーカーの「かかわり」論」

# 航空運輸産業視点からの戦後アメリカ占領政策の考察



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授  
栗山 俊久 Kuriyama Toshihisa



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 航空事業・航空産業・占領政策・交通政策・経営史・航空史

## 研究の概要

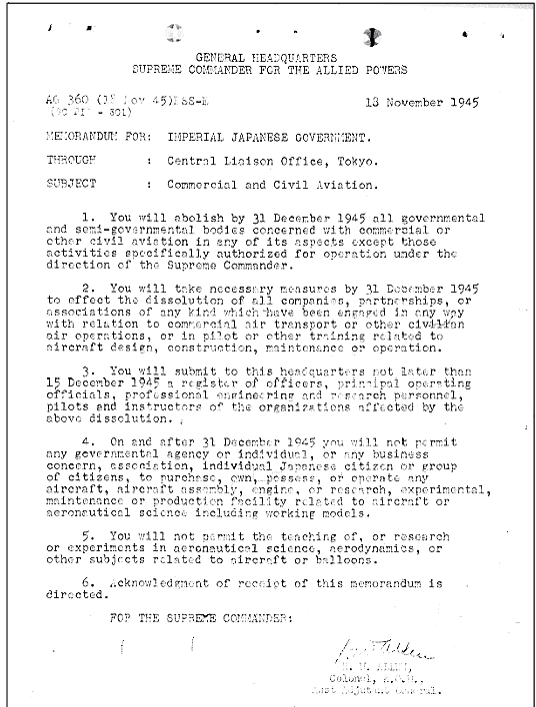
SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

アメリカによる占領政策は政治或いは経済を通じた様々な研究が数多くなされている。特に後者については各産業を軸とした研究も多くみられるが、航空運輸産業を通じた研究はほとんど見ることができない。

その理由は占領期に航空運輸産業がほぼ存在していなかったからと考えられる。1945年9月2日の降伏文書調印から1951年4月28日のサンフランシスコ講和条約発効までおよそ6年半、アメリカ占領軍(GHQ)の統治下にあった日本では大日本航空株式会社が1945年10月31日に解散、独立後1951年8月に日本航空(JAL)が設立されるまで日本に航空会社はなく、従って航空運輸という産業が存在していなかった。

そこでこの空白期間の開始時期に焦点をあて、航空運輸産業研究と占領政策研究を同時並行しておこなう。なぜならそれら2つを合わせて研究しない限りこの期間の実態を当時の目線で見ることができないからである。これまでの航空運輸産業に関する多くの研究は航空運輸産業が断絶する前とそれによる空白期間が終わった後に限定されてしまうという限界を有していた。

占領政策と航空運輸産業との関連に焦点をあてた研究によってこの空白を埋めることができれば、従来の研究の限界を超えることできる、それがこの研究の目的である。



GENERAL HEADQUARTERS  
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

AG 360 (13 Nov 45)AS-a 13 November 1945  
(PO 01 - 301)

MEMORANDUM FOR: IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENT.  
THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo.  
SUBJECT : Commercial and Civil Aviation.

1. You will abolish by 31 December 1945 all governmental and semi-governmental bodies concerned with commercial or other civil aviation in any of its aspects except those activities specifically authorized for operation under the direction of the Supreme Commander.
2. You will take necessary measures by 31 December 1945 to effect the dissolution of all companies, partnerships, or associations of any kind which have been engaged in any way with relation to commercial air transport or other civilian air operations, or in pilot or other training related to aircraft design, construction, maintenance or operation.
3. You will submit to this headquarters not later than 15 December 1945 a register of officers, principal operating officials, professional engineering and research personnel, pilots and instructors of the organizations affected by the above dissolution.
4. On and after 31 December 1945 you will not permit any governmental agency or individual, or any business concern, association, individual Japanese citizen or group of citizens, to purchase, own, possess, or operate any aircraft, aircraft assembly, engine, or research, experimental, maintenance or production facility related to aircraft or aeronautical science, including working models.
5. You will not permit the teaching of, or research or experiments in, aeronautical science, aerodynamics, or other subjects related to aircraft or balloons.
6. Acknowledgment of receipt of this memorandum is directed.

FOR THE SUPREME COMMANDER:

*Toshihisa Kuriyama*  
L. H. HALL,  
Colonel, USAF,  
Chief Liaison Officer.

1945年11月13日

GHQ 発行対日指令第 301 号 民間航空保持禁止令  
出所 : 国立国会図書館

## 美学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

占領政策、アメリカ本国とGHQ、そしてGHQと日本企業という観点から分析をおこなうことで、これまでの占領史研究にて得ることができていなかった或いは見過ごされていた側面を占領政策の中に見出し、また現在、日本を代表する産業に育ちつつある航空運輸産業の経済史的研究にも寄与できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】・戦後の占領政策と企業の存続をめぐる ～航空産業における企業の自律的判断

# 航空産業史からみた公共政策



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授  
栗山 俊久 Kuriyama Toshihisa

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

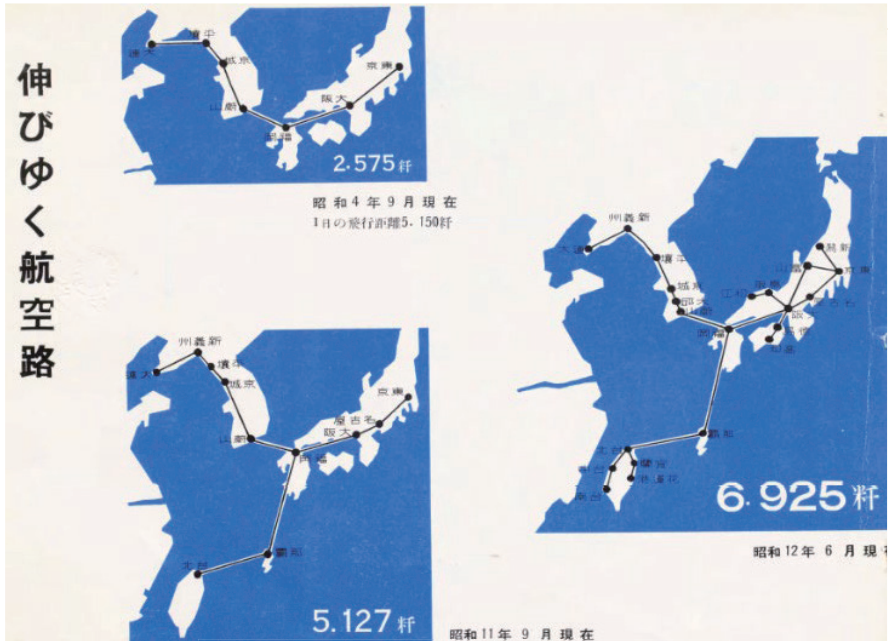
キーワード : 航空産業・公共政策・交通政策



## 研究の概要

SDGs 目標 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう

現在、国産旅客機の国内生産はなくその姿をみることはできないが、戦前・戦中を振り返ると、日本の航空機製造産業は世界屈指であり、世に知られた隼、零戦などの陸軍機、海軍機などと同様に、日本には国産旅客機も存在していた。そして、それらの国産旅客機を中心に航空運輸事業をしていた民間航空会社があった。これが戦後 GHQ の占領政策の中で産業の空白期間が生まれ、現在の日本の航空会社は全て戦後の設立である。そこで戦前の航空運輸産業がどのように経営され、それが国策と絡みながら公共政策の中でどのように展開したかを把握することで、航空輸送産業を通じた日本の産業史、経営史研究を深めることが本研究の目的である。



日本航空輸送編(1938)『10年史』日本航空輸送株式会社

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本の航空運輸産業を代表する航空会社2社の2025年3月期売上は、日本航空1.8兆円、全日空2.3兆円、いずれも日経平均株価採用銘柄であり東証プライム市場に上場する航空会社である。両社は戦後に設立されており、戦前から続く創業100年を超えるいわゆる老舗企業ではないが、実は日本には航空運輸産業が戦前から存在していた。本研究で扱う戦前の航空会社の経営と国策との関係分析によって、現在の航空運輸産業につながる公共交通の役割、公共政策の変遷についての解明に寄与することができる。

# 日本の CFO（最高財務責任者）による企業価値向上への貢献



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

小林 俊之 Kobayashi Toshiyuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：CFO・コーポレートファイナンス・企業価値



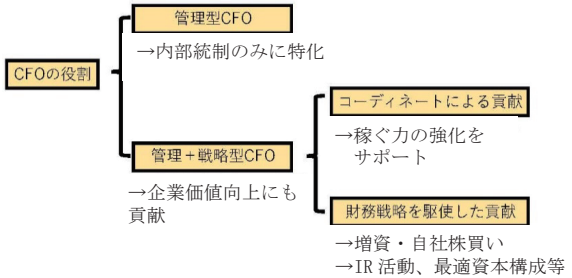
## 研究の概要

日本企業は「資本コストを意識した経営」、「株価を意識した経営」に徐々にシフトしている。企業が株価を引き上げるためには企業価値の向上が欠かせないが、企業価値向上を財務面からサポートする参謀役として「CFO（Chief Financial Officer、最高財務責任者）」の役割が重要である。米国ではエンロン事件や M&A の活発化で CFO が既に重要な役割を担っているが、日本企業の CFO はどのような状況にあるか。日本企業の CFO は企業価値向上に十分に貢献しているといえるだろうか。

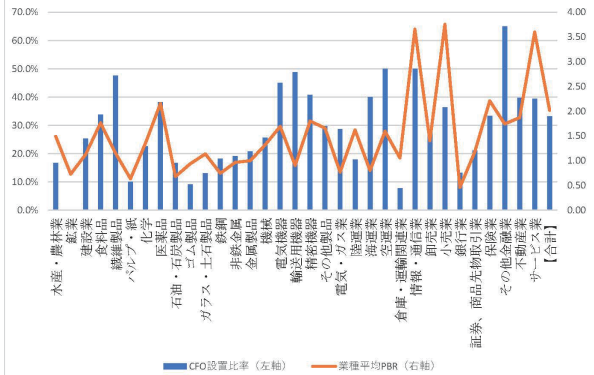
本研究はこのような問題意識に基づき、東京証券取引所プライム市場に上場している企業 1658 社すべて（2023 年 10 月末時点）について、CFO 設置の有無、CFO の肩書、CFO の在籍期間、CFO 経験者数等を抽出し、企業価値（ここでは「PBR（株価純資産倍率）」を企業価値の代理変数とした）との相関を分析した。CFO 設置企業はプライム市場上場企業の 3 分の 1 程度に過ぎないが、CFO 設置企業は CFO 未設置企業よりも平均 PBR は 1 倍ポイント高く、CFO が確かに企業価値向上に貢献していることが確認できる。

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も  
SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

### < CFO の役割に関する分類 >



業種別 CFO 設置比率と平均 PBR



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

企業が本格的に企業価値経営に舵を切っていくうえで、CFO の役割が欠かせない。しかし、日本企業では CFO の認知度が低く、人材プールも十分とは言えない。この研究は企業の企業価値経営の転換を図るための組織的課題を明らかにし、CFO 研究に興味を示す外部研究機関や証券系研究機関との共同研究が期待できる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【研究報告】・CFO（最高財務責任者）は企業価値向上に貢献しているか

【単著】「実践！コーポレートファイナンス—強い CFO と財務部が企業価値を高める」

(ISBN : 978-4-502-39841-4)

・2024 年 10 月 23 日日本経済新聞「CFO の時代／社長の参謀、現場奔走」（本研究内容の一部引用）

# 地球温暖化にともなう急激な山岳雪氷環境の変化の把握



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

小森 次郎 Komori Jiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 氷河崩壊・氷河湖・ヒマラヤ・山地防災・気候変動



## 研究の概要

SDGs 目標 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに  
SDGs 目標 13 : 気候変動に具体的な対策を

大規模な氷河崩壊は 2021 年のインド・ウッタラカンドの例のように大きな被害をもたらすが発生頻度が低く研究例は少ない。本研究はその氷河崩壊を対象としてネパール・ヒマラヤのアンナプルナ山塊のカプチェ氷河(図1)において以下を進めるものである。

- ① 世界の山岳氷河における氷河崩壊のインベントリ作成と分類のための発生事例の調査
- ② 氷河崩壊で涵養されているカプチェ氷河と直下のカプチェ氷河湖の現地調査・観測
- ③ カプチェ氷河湖周辺とフグ地区の持続可能な観光資源化にむけた課題抽出と改善提案
- ④ 現地発オンラインによる氷河崩壊を含めた気候変動教育の教材の開発と実践

カプチェ氷河へは氷河崩壊が頻繁に到達しており(図2)、末端部の標高は 2500m で日本からは最短 3 日の位置にあることから助成期間中に綿密かつ繰り返しの現地調査が可能である。2014 年と 2023 年~2025 年の訪問で住民や大学・博物館関係者との協力関係が構築されている。



図1 カプチェ氷河(写真奥中央)と氷河湖

この氷河は主に 12 月~4 月の雪崩で涵養されるため、他の時季は灰色の氷河となる。夏季涵養型氷河の多いヒマラヤでは異例。氷河湖の下流側は観光地になっている。黄色枠は図2の拡大範囲。2023 年 3 月撮影。

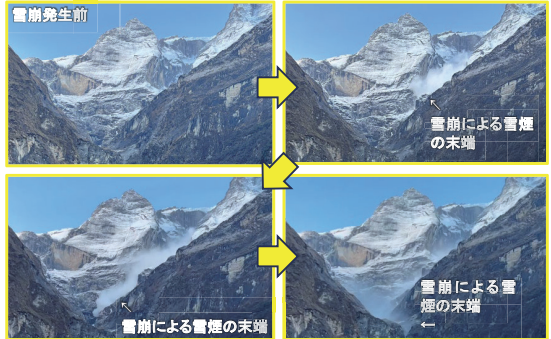


図2 小規模な氷河崩壊で発生した雪崩の連続写真(発生源は写真右奥の標高 5500m 付近)。2024 年 3 月撮影。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

カプチェ氷河とカプチェ氷河湖は低標高域に存在するため、観光客の高山病の危険性が低く、周辺都市からのアプローチも極めて良い。2015 年以降に始まった観光地化は急激である。しかし氷河湖周辺の宿泊施設の立地選定には斜面防災や雪氷防災の観点はなく、しかも下水・ゴミ処理や登山道の開削の面では環境に配慮した持続可能な利用もされていないことが現地調査で確認された。本研究タイトルは、現地調査と観測に基づきこの氷河・氷河湖周辺の安全かつ持続可能な観光資源化の検証と改善の提案をおこなう。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください)

- ・「ネパール・ヒマラヤ中部マディ川源流の氷河崩壊に伴う再生氷河の形成」
- ・「山岳氷河の氷河崩壊に伴う谷底環境の変化と災害 -ヒマラヤ山脈 2003, 04, 21 年の事例を中心に-」
- ・「Glacial Lake Outburst Events in the Bhutan Himalayas」



# 児童虐待に関わる専門職の人材育成について



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 教授

齋藤 知子 Saito Tomoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：児童虐待・ソーシャルワーク・人材育成・司法福祉

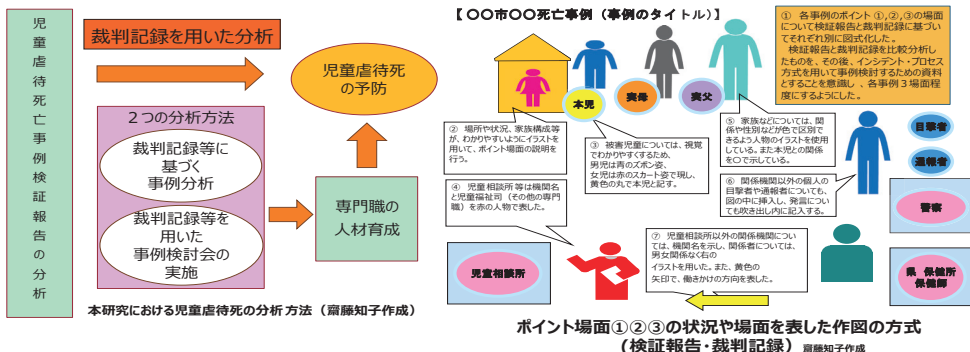


## 研究の概要

本研究は、大きく2つの方法と目的がある。①行政機関が実施し報告している「児童虐待死亡事例検証報告」を参考にして、当該事例についての裁判記録等を閲覧し、事例研究をおこなうための資料を作成する。裁判記録を用いることで、親の供述や証人尋問から加害親の状況が明らかになる。②作成した資料を用いて、児童虐待に関わる児童相談所、児童家庭支援センター、市町村担当者などの専門職が、子どもの虐待を早期に発見し、適切に対応出来る人材となるよう育成するための、研修プログラムの開発をおこなう。個人が特定されないように配慮したものを用いるが、実際の事例に近い場合、リアリティがあり実践に生かしやすい。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう



② いつ、どこで、だれが、その家族にかかわり、どうしていたら子どもを助けられたか、親の立場から家族を知るために裁判記録を活用する。

④ 家族の状況や関係機関との関わりなどを、いくつかのポイントとなる場面を切り取り、図で示すことで研修の教材として使いやすくなる。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

研修プログラムで使用する教材は、裁判記録を事例研究に適用できるようにするためのフォーマットや表現方法を開拓し、従来の検証報告と比較を中核に据え、独自の分析を示したものである。裁判記録等を用いて事例研究をおこなうことで、検証記録だけでは到達し得なかったソーシャルワークの観点を示唆し、今後の児童虐待死防止に有効な介入方法等を考察することから、児童虐待に関わる専門職への有効な研修として、各自治体や関係機関で活用して欲しい。

## 知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

### 【科研費】

- ・(基盤研究C 23530751)「児童虐待死亡事例について司法記録等の分析から効果的な介入のポイントを検証する」
- ・(基盤研究C 17K04704)「児童虐待対応専門職育成のための教育プログラムの開発」
- ・(基盤研究C 23K02692)「児童虐待専門職のオンラインを用いた育成プログラムの開発」

# 国内スキー産業における技術革新と発展の歴史



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授  
鈴木 克実 Suzuki Katsumi



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: スキー産業・企業経営・技術経営・経営戦略・産業文化史・地域振興

## 研究の概要

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 目標 12: つくる責任 つかう責任

【黎明期】1910年、杉村虎一公使から日本に2組のスキーと指導書が送られ、これを受けて軍が道具の研究と複製に着手した。翌年、オーストリアのレルヒ少佐が新潟・高田でスキー技術指導を開始し、これが国内スキー普及の契機となる。黎明期には、横浜の家具職人が見本を基にスキー板を製作したり、鍛冶屋が締め具を作ったりするなど、国産化への試みが始まっている。

【普及期】スキー板の工業的製造は、1912年に小賀坂濱太郎氏によって始まったと言われている。1948年には民間初のスキーリフトが草津温泉に誕生、新スキーブランドも生まれた。1970年頃には、カザマ、西沢、小賀坂、ヤマハの4社が国内生産の約6割を占めるまでに成長した。1958年にはアルペンスキーに関するJIS規格が制定され、産業としての基盤が整えられた。

【変革期】1980年代後半～1990年代、スキー人口が1,800万人に達するなど、ブームが到来。短いカービングスキーが誕生し、ターンがしやすくなったことで人気が加速した。しかし、1990年代に入ると、輸入スキーの増加や低価格化、国内景気の低迷により、長野や新潟に本拠を置く国内メーカー数社が倒産・事業撤退を余儀なくされ、国内生産は縮小していった。

【現代】近年、軽量かつ高強度な複合素材の導入により、スキー板の軽量化、耐久性、反発性能が向上している。設計面ではカービングスキーや、ロッカー構造とキャンパー構造の組み合わせにより、多様な雪質に対応できるようになった。また、外国人客の増加や夏でも滑ることのできる人工スキー施設の拡大も市場を牽引しているほか、大型の「通年型スキードーム」建設の計画も浮上するなど、国内スキー産業は新たな局面を迎えている。加えて、スキー用品製造会社も、スキー板やスキー手袋など数社が新しく誕生している。

本研究では、国内スキー産業の歴史を振り返りつつ、これら新興企業と老舗企業との比較をおこない、その商品差別化と技術進化など経営戦略や技術経営の違いを明らかにするとともに、これからの企業経営の在り方を探る。一方で気候変動の影響による雪不足や、少子化、製品高額化、車離れ等に起因するスキー人気低迷の問題と、地域経済や日本社会全体への影響などについても幅広く検討する。



国内スキー用品製造会社の調査研究資料

### 【研究の方法】

スキー板、エッジ材、ストック、靴、ウェア、手袋、ゴーグルなど国内の各メーカーへのインタビュー調査。国内スキー場運営会社、スキー学校、各種スキー関連団体等への聞き取り、小・中学校やスキー競技選手、関係者へのアンケート調査など。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり、産業界へのアピールポイントなど】

SIAとSAJの両団体の会員で、アルペンのSIAスクール所属インストラクターであり全日本マスターズスキー選手権大会出場中の現役プレイヤーでもあります。厳しい経営環境の続く国内スキー産業において、成長の芽を探し出したいと考えています。また業界がどのように進展し日本社会にどのような変化や影響を及ぼすかを、本研究により解明していきたいと考えます。約37年間、テレビ局・ラジオ局でイベント等商品PRにも従事しました。これらの経験や研究を有効活用したいと願っています。

【研究に対するニーズ】

スキーマーカーやスキー場など、国内すべてのスキー関連産業の発展やPR活動に役立てることが期待できます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【所属学会】

日本スキー学会、経営戦略学会、情報通信学会、映像情報メディア学会、日本メディア学会、放送批評懇談会

# 子どもの権利擁護とソーシャルワーク



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 教授

田澤 茂之 Tazawa Shigeyuki



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 権利擁護・ソーシャルワーク・子ども家庭福祉政策・  
子どもに対する暴力の防止と予防

red Nobel Auditorium

## 研究の概要

SDGs 目標 16: 平和と公正をすべての人に

子どものすこやかな成長を如何に保障するかは、子ども一人ひとりの幸せにとっても、また私たちが暮らす社会の安定や発展にとっても欠くことができない事柄である。しかし、現実には、将来に対して不安を抱える子ども・若者が多くおり、若者の自殺は高止まりの状況にある。また、子ども虐待やヤングケアラーの問題、障害のある子どもの権利未保障の課題など、人権保障上の問題はなお多く存在している。

研究では、子どもの権利擁護と、子どもの権利を基盤とするソーシャルワーク実践をテーマとして、人権保障上の課題に関する実態の把握、子ども家庭福祉に関する政策や制度の在り方、困難にある子どもの保護や社会的養育の推進、子どもにやさしい地域社会の形成、並びに相談援助の実践などを対象にしている。

近年の取り組みでは、子どもの権利擁護を軸に、特に子どもに対する暴力のない社会の実現を研究のテーマとしており、暴力の実態把握、暴力の防止および予防のための施策提言、暴力を予防する教育プログラムの開発、並びに子どものすこやかな成長を支える個人および社会の在り方に関する啓発に力も入れている。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、子ども一人ひとりのすこやかな成長を支え、社会へ貢献できる自立した人間の形成につながるものである。また、研究が対象とする人や社会は、地域や環境によって影響を受けることから、人権という社会規範の形成を追求する一方で、異なる環境へのアプローチや対応を必要とする実践的な取り組みである。

地域および子ども家庭福祉分野における施策の検討や評価、実践に活かすことが期待できる。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「育児の孤立化防止に資する ICT（情報通信技術）を用いた子育て支援の可能性と効果検証」
- ・「民法改正問題-親等の懲戒権規定の見直しをめぐって」
- ・「子ども家庭福祉を担う支援者への支援について-保育者を対象とする体罰および子どもの権利に関する現状アセスメントからの提言」



【中野キャンパス】人文社会学部 観光経営学科 教授

田中 剛 Tanaka Takeshi

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 観光旅行動機・海外旅行者・準拠集団・SNS・顕示的消費



## 研究の概要

SDGs 目標 3: すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

2000年代後半にかけて発生した、若者の「海外旅行離れ現象」とは異なり、2016年以降のコロナ発生以前では、若者の出国率が伸びている現象の背景には、当時と異なる SNS 普及により、海外旅行が準拠集団影響を強く作用する商品カテゴリーに変化し、準拠集団影響での「共感型顕示的消費」が発生していることが考えられる。既存研究では、海外旅行経験者へのインターネット調査結果の分析により、今までと異なる新しい観光旅行動機としての「共感型顕示」の因子が発生していることが明らかになった。従来の緊張解消、文化見聞、現地交流、自己拡大、自然体感、意外性の因子に加えて、「共感型顕示」の新因子が発見された。従来の因子に加えて、SNS 普及後の消費行動に見られる特徴が、海外旅行購買行動の新しい観光旅行動機においても「共感型顕示」として存在していることが明らかになった。また、共感型顕示という新因子は、中年層、高年層と比較し、若年層に強く発生していることが判明している。

今後、コロナ発生後における海外旅行の観光旅行動機につき、継続して研究するものである。

### 【参考文献】

- ・ Bearden, O. W. & Etzel, M. J. (1982) "Reference Group Influence on Product and Brand Purchase Decisions", Journal of Consumer Research, Vol. 9, No. 2, pp. 183-194.
- ・ 来住元朗 (1995) 『小売戦略環境としての消費者行動論』中央経済

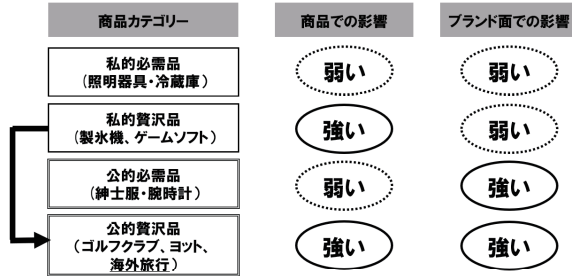


図1 SNS時代の準拠集団の消費者行動に対する影響

出所: Bearden & Etzel(1982) p185, 来住(1995) p65をもとに筆者作成

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

SNS 普及により、高額商品である海外旅行が、従来の私的贅沢品から公的贅沢品へと準拠集団影響を強く作用する商品カテゴリーに変化し、準拠集団影響での「共感型顕示的消費」が発生しており、その旅行購買行動が、コロナ後も発生しているか、更には、新因子である「共感型顕示」に加えて、コロナ発生後に新たな別因子が発生しているのかを継続研究することで、消費者ニーズを捉えた観光旅行商品の造成や地域の魅力発信に役立てることができると考える。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・ 「SNS 普及による準拠集団影響での海外旅行購買に関する考察～若者を中心とした「共感型顕示的消費」としての海外旅行～」
- ・ 「SNS 普及による『共感型顕示型消費』としての海外旅行購買に関する考察」



【池袋キャンパス】共創学部 デジタル共創学科 准教授  
**内藤 旭恵 Naito Akie**



URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：デジタルアーカイブ・情報処理・経営情報・文化情報保存・近代建築・近代産業遺産・  
歴史的建造物・商品開発・製品開発・ブランディング・マーケティング・タウンプロモーション

## 研究の概要

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう  
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

現在、「歴史的建造物のデジタルアーカイブに関する研究」と「近代産業遺産のデジタルアーカイブに関する研究」、「製品イノベーションに関する研究」、「地域ブランディング・地域プロモーションに関する研究」などをおこなっております。

主な研究は、近代建築や歴史遺産などを、情報技術やデジタル技術、映像情報メディアなどを用いて後世に継承していこうとするものです。また、製品開発や商品開発などのイノベーションを紐解く研究と、地域をブランディングしたりプロモーションしたりする商品開発の研究もおこなっています。

いずれの研究も、地域に秘められた情報を、様々な方法で見える化するという共通項を持っておこなっています。



大正屋呉服店 CG 画像

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

様々な情報を後世に継承する研究と、地域をPRするための商品開発に関する研究をおこなっています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「歴史的建造物保存における CG を利用したディテール情報再現の実証的研究」
- ・「歴史的建造物の高度な CG 再現におけるディテール情報と素材情報の有効性」
- ・「戦後 80 年における戦争遺構の保存の現状とそのデジタル化に関する研究」

# 「エンパワーメント」と就業との関係の要因分析



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科  
グローバルコミュニケーションコース 教授  
**新村 恵美 Niimura Megumi**



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: エンパワーメント・女性労働・開発とジェンダー・ジェンダー規範

## 研究の概要

SDGs 目標 5: ジェンダー平等を実現しよう  
SDGs 目標 8: 働きがいも 経済成長も

ジェンダー平等と、その達成プロセスとなる女性の「エンパワーメント」は遅々として進んでいない。国連のMDGsやSDGsをはじめ、長年、国際的な最重要課題の1つとして位置づけられているにもかかわらず、である。

女性の「エンパワーメント」は、世帯内・社会での意思決定への参加や、ジェンダー不平等への気づき等で測定が可能とされる。これまでの研究で、インドの有配偶女性を対象として、エンパワーメントが進まない背景に、意識／無意識に女性のエンパワーメントを阻む「ジェンダー規範」の存在があること、そしてそれが広く受容されている可能性を検討してきた。

今後の研究では、ジェンダー規範がどのようなもので、いかなる要因と関係しているのか、「ジェンダー不平等への気づき」はいかにして得られるのか、を見出し、女性のエンパワーメントを通じたジェンダー平等達成への示唆を得ることを目的とする。

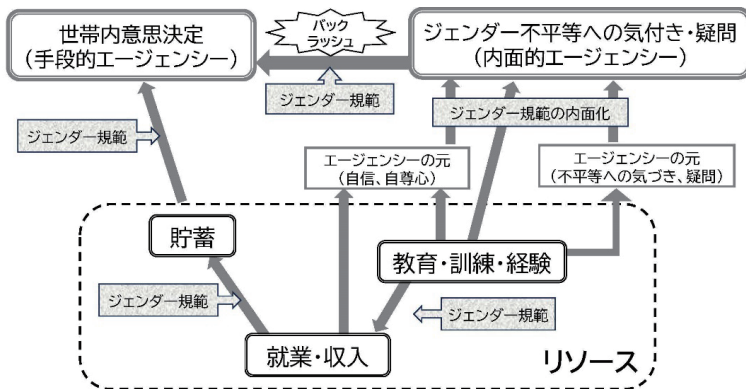


図 エンパワーメントのプロセス  
どのようにエージェンシーを獲得するのか、何が阻害するのか

出所) データ分析結果より筆者作成。

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本でも国際社会でも喫緊の課題である「女性のエンパワーメント」を達成するために阻害要因となっている「ジェンダー規範」の固定化・再生産の要因を特定し、エンパワーメント達成に役立つ示唆を得る。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

### 【論文】

- ・「なぜ経済的リソースは「世帯内意思決定」に活かされないのか—インド都市の有配偶就業女性のエンパワーメント」
- ・「インドの有配偶女性の就業選択—本人・家族に着目した都市・農村 2 時点間の分解分析」
- ・「女性のエンパワーメント測定の理論的枠組みと指標—人口保健調査 (DHS) の関連ミクロ指標の検討」

## 日本のコーポレートガバナンス改革の企業不正発覚促進効果の検証



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科 経営コース 教授

橋本 武敏 Hashimoto Taketoshi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 企業不正・コーポレートガバナンス改革・社外取締役



### 研究の概要

SDGs 目標 8 : 働きがいも 経済成長も

企業で発生する不正には、専ら従業員・使用人によるものと、経営者が関与して発生するものがある。内部監査等の企業の内部統制システムは、従業員・使用人による不正の防止・発見には一定の効果が期待できるものの、組織が経営者の支配下にある場合が多いため、経営者が関与する不正には現実問題としてあまり効果が期待できない。経営者の不正に対しては、コーポレートガバナンスの枠組みによる監督（すなわち、取締役相互の監督や監査役の監査）が重要になると考えられる。ただこの面でも、監査役については、取締役による不正の防止・発見の面で十分な機能を発揮してこなかったとの批判が多く聞かれる。本研究は、近年のコーポレートガバナンス改革の中で増員されてきている社外取締役に、不正防止・発見の面での監督機能がどの程度期待できるかを検証した。

企業不正は、発覚しない限り観測されないため、不正の「発生」の有無を分析対象にしようとする、未発覚の不正が分析対象から漏れるサンプルセレクション・バイアスの問題に直面する。本研究のオリジナリティは、この問題に対応するため、不正の「発生」ではなく「発覚」に着目した分析をおこなう点にある。すなわち、不正事件毎に、当該不正の発生から発覚までの潜在期間を計測してデータベース化し、これと取締役会に占める社外取締役の比率等のコーポレートガバナンスに関連する指標との関係を統計的に分析することで、社外取締役の増員等のコーポレートガバナンス改革の効果を検証した。その結果、2014年から2017年のデータに基づき実施した研究では、社外取締役比率の高い企業ほど不正の潜在期間が有意に短い（発覚しやすい）ことを報告した。ただこの時期は、コーポレートガバナンス改革が端緒についたばかりの時期で、社外取締役の増員も始まったばかりであったため、他社に先駆けてこうした対応をおこなうような、所謂「意識の高い企業」に限られる現象が観測されただけではないかとの批判があった。このため現在、その後の2017年から2025年にかけてのデータに基づき、同様に社外取締役の増員が不正発覚を促進する効果が観測されるかなどを検証しようとしている。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

近年進められているコーポレートガバナンス改革には、社外取締役の増員等、企業の負担を伴う形で対応を求めるものがあるが、その多くが「こうであるべき」といった理念的な理由に基づいているように思われる。この研究が、社外取締役増員が不正発覚を促進する効果がある等の事実を明らかにすることが出来れば、Evidenceに基づく形で、企業に社外取締役の増員を求めることができるようになる。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

#### 【論文】

「Personal Networks, Board Structures and Corporate Fraud in Japan」

#### 【学会発表】

「コーポレートガバナンスと不正発生の抑止や早期発見との関係」

#### 【科研費】

研究活動スタート支援 「日本のコーポレートガバナンス改革の企業不正発覚促進効果の検証」

## 障害者の学習権保障



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 講師

村山 佳代 Murayama Kayo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：合理的配慮・障害者権利条約・インクルーシブ教育・障害児・障害者・学習権・いじめ・学校事故・障害者差別解消法・ADA・CRPD

### 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

障害者差別解消法・障害者雇用促進法が規定する合理的配慮の権利性の立証と、障害児の学習権保障について、アメリカ法との比較を基に研究している。2021年、障害者差別解消法の改正により、行政機関（公立学校を含む）だけでなく、民間事業主（私学の教育機関も含む）による障害者への合理的配慮の提供が努力義務から法的義務となった。しかし、同法は民間事業主が合理的配慮を怠った場合の罰則規定を設けず、行政に指導・勧告・助言の行政指導権限を与えるだけとしている。裁判所もまた、個々の障害児の合理的配慮の請求権を否定している（名古屋地裁令和2年8月19日判時2478号24頁；名古屋高判令和3年9年3日D1-Law.com判例体系）。その結果、障害者は、民間事業主の合理的配慮の提供義務違反について裁判で争う法的根拠がなく、権利性が弱められている。また、合理的配慮なきインクルーシブ教育の推進や、弱者性の重複により、障害児へのいじめ訴訟も多発している。障害児の成長発達への追求は、「教育のありかた」「能力主義」そのものを問う普遍的な課題である。

上記の専門性を通じた社会貢献を重視している「障がい児の権利を国連に訴える会」の共同代表として、特別支援学校教員、弁護士等と連携し、国際連合に働きかける活動もおこなっている。学術的な知見を実社会に反映し、全ての者が民主社会に参加できるような公正で持続可能な社会の実現に取り組んでいる。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ・第三者委員会、調査委員会、学校支援チーム等において、障害者・障害児童生徒・学生に関する事項について「法的に何が問題となるのか」「どの点が争点化しやすいのか」を明確に示すことができる。
- ・雇用・教育現場における障害者に関連する紛争（いじめ、就労環境整備など）、合理的配慮をめぐる訴訟・紛争リスクを事前に把握・低減するための法的整理を提供できる。
- ・ガイドライン、手引、研修資料作成において、抽象論ではなく判例に基づく説得力ある根拠を提示できる。
- ・教職員研修、管理職研修等において、実際の紛争・裁判を素材とした高い実務性を持つ研修コンテンツの提供が可能である。
- ・インクルーシブ教育、合理的配慮を扱う教材・プログラム開発において、「やりすぎ／やらなさすぎ」の線引きを法的に説明できる専門性を有している。
- ・障害児者の教育・雇用現場の法的ニーズを的確に把握しており、机上の法解釈にとどまらない実務適合性が強みである。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

- 【科研費】若手研究「合理的配慮の請求権と能力主義」
- 【論文】・「学問の自由と障害者の高等教育を受ける権利」  
・「教育における合理的配慮の権利性と判断基準」

## 障害者就労支援の課題共有のための就労移行支援事業の役割の検討



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 福祉コース 教授

森川 洋 Morikawa Hiroshi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：働く・就労移行支援・課題の共有化・職業的アセスメント・ヘルスプロモーション



### 研究の概要

SDGs 目標 8：働きがいも 経済成長も  
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

就労移行支援事業所（以下、事業所）利用者の課題を明確にすることは、一般就労への移行や職場定着に結びつくことが期待される。この課題を事業所内のみならず関係者・機関の間で共有することが、効果的な支援に結びつくとされているが、そのための指針は明らかでない。そこで本研究では、利用者の課題を共有するための要因を分析し、事業所の役割とガイドラインの開発を目指す。

これまで先行研究を通して、障害のある人の職場定着を高めていくためには、就労移行支援事業所と企業等との連携が欠かせないことが指摘されている。本研究では、就労移行支援事業所における企業等との連携の取り組みが、職場定着に及ぼす影響の方向性を、因果推論の視点を取り入れて探索的に評価したところ、次のことが示された。

企業等との連携の中でも

- ・企業という現場を媒介とした本人から就労状況の継続的把握
- ・これらをもとに就労移行支援事業所における支援内容の改善の検討

が挙げられ、就労移行支援事業所による循環的な実践が、職場定着と関連することが示唆された。

いわば企業等との連携は、企業との接点の多さではなく、就労後の利用者の経験を支援に還元させる、就労移行支援事業所の学習構造の構築であると考えられる。

現時点では、調査研究が横断デザインのため、観察された関連が因果関係を反映しているか判断できないことから、さらなる検証が必要である。また、就労移行支援事業所の地域特性も考慮しながら、検証する必要がある。これらを踏まえて、今後、企業等以外との連携関係にも着目し、就労移行支援事業所における利用者の課題の共有化のプロセスを明らかにし、当該事業の役割を検討していきたい。

### 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

事業所が利用者の課題を通して、就労移行や職場定着に向け、関係者・機関へいかに働きかけていくかというところに視点を置く。この視点を踏まえ事業所の役割の検討とガイドラインの開発により、就労移行支援の質の担保、さらに障害福祉分野を超えた対象（例えば、教育、労働、保健・医療、民間企業等）への就労支援への知見の提供の可能性を探っていきたい。

現在、A県内における就労移行支援事業所の開設に関わり、当該事業所の実践家、連携機関の関係者と議論を重ね、またB県C市自立支援協議会委員などを務め、実践活動に携わりながら、実践と研究との融合を図っている。

### 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- 【科研費】・基盤研究(C)「障害者就労支援の課題共有のための役割の検討とガイドラインの開発」(23K01941)
- ・基盤研究(C)「障害がある人の支援課題の共有化と包括的支援モデルの構築」(19K02166)

【論文】「就労移行支援における課題の『共有化』に関する概念分析」

# 無形固定資産の高精度評価に向けた人工知能技術の応用



【池袋キャンパス】 共創学部 デジタル共創学科 教授

吉岡 剛志 Yoshioka Tsuyoshi



URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード: 無形資産評価・企業価値・管理会計・合成データ・機械学習・説明可能 AI

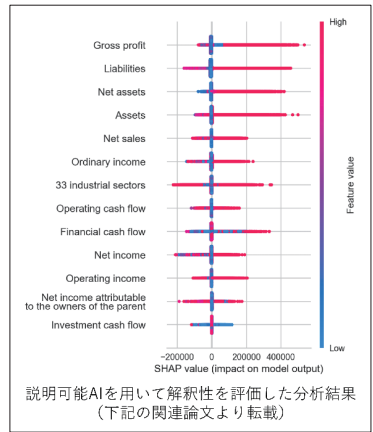
## 研究の概要

## SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

【研究の背景】近年、企業価値は設備などの有形資産よりも、研究開発力・人的資本・ブランド・顧客基盤といった無形資産への依存が高まっています。しかし無形資産は財務諸表に「見える形の資産」として明確に計上されにくく、投資判断や M&A、IR で「なぜその評価になるのか」を示しにくいという課題があります。そこで、無形資産の実態を示す非財務 KPI や管理会計情報 が説明力向上に有効ですが、検証可能性・説明可能性を備えた形で整備するのは容易ではありません。

【研究の革新】本研究では、最先端の AI 技術を活用して、無形資産評価の枠組みを構築し、価値の推定に加えて根拠まで示すことで意思決定に使える形で提示します。公開財務情報に加えて、入手可能な範囲で非財務 KPI・管理会計情報を統合し、評価の説明力を高めます。データ不足や秘匿性といった制約には、実データの特徴を保った合成データ等を用いて検証可能性を確保します。さらに説明可能 AI を用いて、影響要因・感度・シナリオ変化を可視化し、「なぜその評価になるのか」を第三者にも説明できる形で提示します。

【研究の未来展望】投資判断、M&A の検討、融資審査、IR 資料の説明補強などへの応用を想定しています。成果は、業種別の参照指標と評価ガイドライン（基準・手順）として整備します。さらに、匿名化データを用いた PoC（概念実証：小規模での検証）を通じて、レポート様式・説明項目・検証手順まで含めて実務に接続可能な形に落とし込みます。これにより、透明性と説明責任を備えた企業価値評価の枠組みの確立を目指します。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】投資・資本政策・M&A・融資・IRの現場で、無形資産に関わる価値を「根拠付き」で示すことを支援します。評価指標に加え、重要な要因（寄与要因）や影響の大きさ（感度）、条件を変えた場合の変化（シナリオ分析）を整理して提示することで、関係者間の合意形成と説明責任の向上に寄与します。

【アピールポイント】評価の根拠を説明可能な形で示す枠組みとして、指標・モデル・検証手順を整備します。意思決定の透明性を高めるだけでなく、研究開発・人材投資など将来価値に関わる施策の比較検討にも活用でき、自治体・支援機関では地域企業の強み可視化や重点支援設計への応用が期待できます。

【協力可能事項/協力希望事項】企業・自治体等との共同研究として、PoC（概念実証：小規模での検証）の設計、データ整理・分析設計（KPI 定義、評価観点の整理）、評価モデルの構築・検証、説明可能 AI による根拠の可視化までを一体的に実施できます。成果は、評価手順と成果物（指標・分析結果）として提示します。共同研究にあたり、匿名化した非財務 KPI・管理会計データの提供、実証フィールドの確保、評価結果に対する実務側フィードバックを希望します。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「Using Machine Learning to Identify Industries with a Relatively High Probability of Having Unrecorded Intangible Fixed Assets」

・「Valuation of Intangible Fixed Assets Using Generative Artificial Intelligence and Machine Learning」

【科研費】（基盤研究 (C) 21K01819) 「多変量解析を用いた無形資産価格を見積もるソフトウェアの開発



## 50音順索引

教員名 ..... カテゴリー..... ページ数

あ	青木 一真	生物学・バイオテクノロジー	48	
	赤木 祐介	薬学	33	
	秋山 晴代	医学	1	
	浅見 優哉	教育学	163	
	阿部 廉	社会科学・環境学	197	
		社会科学・環境学	198	
		社会科学・環境学	199	
		社会科学・環境学	200	
	雨宮 貴洋	医学	2	
	安西 信雄	医学	3	
い	飯田 修平	医療・リハビリテーション	60	
	池宗 佐知子	健康・スポーツ科学	100	
	伊佐間 和郎	薬学	26	
	石川 尋代	理工・情報・通信・メディア	155	
	和泉 孝志	医学	4	
	泉 美帆子	医療・リハビリテーション	61	
	磯田 勝広	薬学	27	
	磯部 大	社会科学・環境学	201	
	伊東 育己	薬学	28	
	伊藤 博一	健康・スポーツ科学	101	
	伊藤 雅浩	理工・情報・通信・メディア	156	
		理工・情報・通信・メディア	157	
		社会科学・環境学	202	
	看護学	53		
	薬学	33		
	健康・スポーツ科学	102		
	健康・スポーツ科学	103		
う	植田 真理子	教育学	164	
	植田 恵	医療・リハビリテーション	62	
	植村 真司	社会科学・環境学	203	
	牛込 彰彦	教育学	165	
	え	江口 聡	心理学	130
江面 陽一		医学	5	
榎並 隆博		教育学	166	
遠藤 和紀		理工・情報・通信・メディア	158	
お		大内 佳奈江	健康・スポーツ科学	104
		大久保 智紗	心理学	131
	大圖 貴三	健康・スポーツ科学	105	

	大塚 淳子	社会科学・環境学	204
	大西 敦	生物学・バイオテクノロジー	49
	大野 まき	薬学	29
	大森 繁	医学	6
	岡田 亜紀子	医療・リハビリテーション	63
	岡部 幸徳	社会科学・環境学	205
	小川 裕子	薬学	30
	斧 康雄	医学	7
		医学	8
	小野澤 大輔	医療・リハビリテーション	64
	小原 道子	薬学	31
		薬学	32
か	掛川 晃	医学	9
	片桐 亮	健康・スポーツ科学	106
	勝嶋 雅之	医療・リハビリテーション	65
		健康・スポーツ科学	107
	加藤 勝行	医療・リハビリテーション	66
	加藤 浩人	健康・スポーツ科学	108
	狩野 朋子	社会科学・環境学	206
		社会科学・環境学	207
	河合 桃代	看護学	54
		看護学	55
	川越 孝洋	教育学	167
	川島 尊之	心理学	132
		心理学	133
き	菊池 和美	医療・リハビリテーション	67
		健康・スポーツ科学	109
	橘田 進	教育学	168
	金 憲誠	生物学・バイオテクノロジー	50
く	國重 智宏	社会科学・環境学	208
	久野 晶子	心理学	134
	栗坂 知里	医学	10
	栗山 俊久	社会科学・環境学	209
		社会科学・環境学	210
	黒田 生子	教育学	169
こ	黄 美蘭	人文科学	190
	郡 吉範	教育学	170
	後藤 哲史	医学	11
	後藤 芳邦	医学	12
	小林 俊之	社会科学・環境学	211
	小松 俊哉	薬学	33
	小峰 昇一	医療・リハビリテーション	68

	小森 次郎	社会科学・環境学	212
	近藤 渚	食品・生活科学	147
さ	齊藤 一実	医療・リハビリテーション	69
	齊藤 訓英	健康・スポーツ科学	110
	齋藤 知子	社会科学・環境学	213
		社会科学・環境学	214
	阪井 康友	医療・リハビリテーション	70
	榎田 真一	医学	13
		医学	14
	鷺山 啓輔	人文科学	191
		人文科学	192
	佐々木 重昭	医療・リハビリテーション	71
	佐瀬 一生	教育学	171
		教育学	172
		教育学	173
	佐藤 亜紀子	医療・リハビリテーション	72
	佐藤 かほり	教育学	174
	佐藤 皓亮	医療・リハビリテーション	73
	佐藤 正司	健康・スポーツ科学	111
		健康・スポーツ科学	112
	佐藤 裕二	医療・リハビリテーション	74
	左振 恵子	教育学	175
し	重森 知奈	医療・リハビリテーション	75
	柴山 信二郎	人文科学	193
	島津 直美	心理学	135
	清水 貴司	健康・スポーツ科学	113
	下山 京子	看護学	56
	庄司 一也	教育学	176
	荘島 幸子	心理学	136
	新保 江美	教育学	177
す	管 心	医学	15
	杉浦 貴代子	心理学	137
	鈴木 昭浩	理工・情報・通信・メディア	159
	鈴木 明美	心理学	138
	鈴木 克実	理工・情報・通信・メディア	160
		社会科学・環境学	215
	鈴木 邦明	教育学	178
	鈴木 達彦	薬学	34
せ	関 一彦	医療・リハビリテーション	76
	瀬戸山 聡子	心理学	139
		心理学	140
そ	園部 豊	健康・スポーツ科学	114

た	平 裕一郎	薬学	35
	喬 炎	医学	16
	高橋 寛子	食品・生活科学	148
	高松 智	薬学	36
	武田 真由子	医療・リハビリテーション	77
	田澤 茂之	社会科学・環境学	216
	建部 卓也	薬学	37
	田中 剛	社会科学・環境学	217
	田中 直樹	健康・スポーツ科学	115
	田辺 幸子	看護学	57
	田邊 弘祐	健康・スポーツ科学	116
	玉井 清志	医療・リハビリテーション	78
	玉井 秀明	医療・リハビリテーション	79
		健康・スポーツ科学	117
ち	知脇 希	健康・スポーツ科学	118
つ	津賀 裕喜	健康・スポーツ科学	119
	土永 葉子	心理学	141
	恒松 美香子	医療・リハビリテーション	80
	鶴田 敦司	教育学	179
		教育学	180
て	手島 陽子	食品・生活科学	149
	寺岡 聡志	教育学	181
		教育学	182
	照屋 健作	看護学	58
と	東郷 好美	医学	17
		医学	18
	徳田 良英	医療・リハビリテーション	81
		医療・リハビリテーション	82
	戸田 雄大	薬学	38
	富田 晴生	教育学	183
な	内藤 旭恵	社会科学・環境学	218
	仲 貴子	健康・スポーツ科学	120
	永井 知代子	医学	19
	永川 茂	医学	20
		医学	21
	中谷 良人	薬学	39
	中埜 貴文	薬学	40
	中村 秀明	医学	22
	中村 玲子	心理学	142
	中本 久之	医療・リハビリテーション	83
	名取 威徳	薬学	41
に	新井田 宇謙	人文科学	194

	新村 恵美	社会科学・環境学	2 1 9
	西山 朋	健康・スポーツ科学	1 2 1
ね	根本 悟子	医療・リハビリテーション	8 4
の	野上 順子	健康・スポーツ科学	1 2 2
	野口 律奈	食品・生活科学	1 5 0
	野原 健吾	食品・生活科学	1 5 1
	野原 信	医療・リハビリテーション	8 5
は	端田 寛子	食品・生活科学	1 5 2
	橋本 武敏	社会科学・環境学	2 2 0
	長谷川 和哉	生物学・バイオテクノロジー	5 1
		健康・スポーツ科学	1 2 3
	馬場 宏輝	健康・スポーツ科学	1 2 4
	馬場 洋介	心理学	1 4 3
	濱田 和真	薬学	4 2
	原口 晋一	医療・リハビリテーション	8 6
	原口 力也	医療・リハビリテーション	8 7
	原田 長	健康・スポーツ科学	1 2 5
	原田 円	医療・リハビリテーション	8 8
	原田 美那	薬学	4 3
ひ	久島 達也	医療・リハビリテーション	8 9
ふ	福島 亮治	医学	2 3
	藤本 哲也	生物学・バイオテクノロジー	5 2
ま	前田 竜郎	食品・生活科学	1 5 3
	真瀬垣 啓	健康・スポーツ科学	1 2 6
	松浦 正一	心理学	1 4 4
	松田 聖子	教育学	1 8 4
		教育学	1 8 5
	松村 紀明	人文科学	1 9 5
	間部 豊	人文科学	1 9 6
	丸山 奈保	薬学	4 4
み	皆川 陽一	医療・リハビリテーション	9 0
	宮崎 彰吾	医療・リハビリテーション	9 1
	宮崎 学	医療・リハビリテーション	9 2
		健康・スポーツ科学	1 2 7
	宮本 浩樹	医療・リハビリテーション	9 3
		医療・リハビリテーション	9 4
む	牟田 真理子	食品・生活科学	1 5 4
	村山 佳代	社会科学・環境学	2 2 1
	村山 大樹	教育学	1 8 6
も	百瀬 良	心理学	1 4 5
	森川 洋	社会科学・環境学	2 2 2
	森川 由基	医学	2 4

や	安田 秀喜	医療・リハビリテーション	95
	谷田 征子	心理学	146
	矢作 信行	教育学	187
	山元 健太	薬学	45
	山本 伸一郎	医学	25
	山本 暢	理工・情報・通信・メディア	161
		理工・情報・通信・メディア	162
	山本 佳久	薬学	46
	鎗田 英樹	医療・リハビリテーション	96
	ゆ	湯浅 有希子	医療・リハビリテーション
元 笑予		教育学	188
よ	吉岡 剛志	健康・スポーツ科学	128
		社会科学・環境学	223
	吉澤 千登勢	看護学	59
	吉野 智佳子	医療・リハビリテーション	98
	吉藤 玲子	教育学	189
	吉本 真純	健康・スポーツ科学	129
わ	脇 英彰	医療・リハビリテーション	99
	渡邊 伸一	薬学	47

---

帝京平成の「知」2026  
帝京平成大学  
総務課 産学連携推進係

〒170-8445 東京都豊島区東池袋 2-51-4 (池袋キャンパス)

---

2026年4月発行



**Teikyo Heisei University**